

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7154587号
(P7154587)

(45)発行日 令和4年10月18日(2022.10.18)

(24)登録日 令和4年10月7日(2022.10.7)

(51)国際特許分類

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I

A 6 3 F

7/02

3 0 4 D

請求項の数 1 (全170頁)

(21)出願番号 特願2019-8095(P2019-8095)
 (22)出願日 平成31年1月21日(2019.1.21)
 (65)公開番号 特開2020-116007(P2020-116007
 A)
 (43)公開日 令和2年8月6日(2020.8.6)
 審査請求日 令和3年8月20日(2021.8.20)

(73)特許権者 598098526
 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
 東京都江東区有明三丁目7番26号 有
 明フロンティアビルA棟
 (74)代理人 100140866
 弁理士 佐藤 武史
 矢長 雄次
 東京都江東区有明3丁目7番26号
 (72)発明者 審査官 大山 栄成

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】**【請求項1】**

可動体と、前記可動体を駆動するための駆動手段と、を備え、
 前記可動体は、
前記駆動手段の駆動力により所定の移動方向に沿って第1の位置から第2の位置を経て第3の位置へと移動可能であり、
前記所定の移動方向に沿う移動に伴って動作する複数の動作部を有し、
前記複数の動作部は、第1の動作部と、前記第1の動作部とは異なる第2の動作部と、を含み、
前記複数の動作部のうち少なくとも前記第1の動作部及び前記第2の動作部は、前記可動体の移動に伴って動作し、
前記第2の動作部は、
前記可動体の前記第1の位置から前記第2の位置までの移動に伴って、前記所定の移動方向及び前記第1の動作部の移動方向とは異なる第1の方向に動作するための第1の動作機構と、
前記可動体の前記第2の位置から前記第3の位置までの移動に伴って、前記所定の移動方向及び前記第1の方向とは異なる第2の方向に動作するための第2の動作機構と、を含み、
前記第1の動作部は、
前記可動体の前記第2の位置から前記第3の位置までの移動に伴って、前記所定の移動方向及び前記第1の方向とは異なる第3の方向に動作するための第3の動作機構と、を含み、

動作機構を含むことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の遊技機には、可動体を動作させるための駆動手段として、ラック及び回転体を備え、この回転体に設けられたピンを作動アームの連結部に当接させることで回転体の動きを阻止し、ひいては可動体の動作をロックさせるように構成されたものが提案されている（例えば、特許文献1参照）。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2001-340557号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記従来の遊技機では、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けると
いう難点があった。

20

【0005】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣
を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

本発明は、

可動体と、前記可動体を駆動するための駆動手段と、を備え、

前記可動体は、

前記駆動手段の駆動力により所定の移動方向に沿って第1の位置から第2の位置を経て第3の位置へと移動可能であり、

30

前記所定の移動方向に沿う移動に伴って動作する複数の動作部を有し、

前記複数の動作部は、第1の動作部と、前記第1の動作部とは異なる第2の動作部と、を含み、

前記複数の動作部のうち少なくとも前記第1の動作部及び前記第2の動作部は、前記可動体の移動に伴って動作し、

前記第2の動作部は、

前記可動体の前記第1の位置から前記第2の位置までの移動に伴って、前記所定の移動方向及び前記第1の動作部の移動方向とは異なる第1の方向に動作するための第1の動作機構と、

前記可動体の前記第2の位置から前記第3の位置までの移動に伴って、前記所定の移動方向及び前記第1の方向とは異なる第2の方向に動作するための第2の動作機構と、を含み、
前記第1の動作部は、

40

前記可動体の前記第2の位置から前記第3の位置までの移動に伴って、前記所定の移動方向及び前記第1の方向とは異なる第3の方向に動作するための第3の動作機構を含むことを特徴とする遊技機。

【0007】

本発明に係る遊技機は、

可動体(例えば、可動体4620A)と、前記可動体を駆動するための駆動手段(モータ4611)と、前記駆動手段の駆動力を前記可動体に伝達する伝達機構(例えば、駆動伝

50

達機構 4 6 1 0 A) と、を備え、

前記可動体は、第 1 の位置（例えば、待機位置）から第 2 の位置（例えば、出現位置）へと移動可能であり、

前記伝達機構は、前記駆動手段の駆動力により回転可能な歯車（例えば、ピニオン 4 6 1 3 a ）を有する回転体（例えば、回転体 4 6 1 3 ）と、前記歯車と噛合可能なラック（例えば、ラック 4 6 1 4 a ）を有するラック部材（例えば、ラック部材 4 6 1 4 ）と、を有し、

前記可動体は、前記ラック部材が一体的に設けられ、前記歯車と前記ラックとが噛合した状態において、前記第 1 の位置から前記第 2 の位置に至るまでの移動経路上にある第 3 の位置（例えば、待機位置直前の位置）から前記第 2 の位置へと移動可能であり、

前記ラック部材は、前記ラックの一端側に凹部（例えば、凹部 4 6 1 4 b a ）及び窪み部（例えば、窪み部 4 6 1 4 c a ）を有し、

前記回転体は、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記凹部に入り込むことで前記可動体を前記第 3 の位置から前記第 1 の位置へと押し出し可能な押出片（例えば、押出片 4 6 1 3 b ）と、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記窪み部に摺接することで前記可動体を前記第 1 の位置に留止可能なロック片（例えば、ロック片 4 6 1 3 c ）と、を有し、

前記可動体が前記第 1 の位置にあるとき、前記歯車と前記ラックとが噛合しない状態で前記回転体が回転するのに応じて、前記ロック片が前記窪み部に摺接しつつも前記押出片が前記凹部に入り込まない状態から、前記押出片が前記凹部に入り込んで前記ロック片が前記窪み部に摺接しない状態になると、前記可動体が前記第 1 の位置から前記第 3 の位置へと押し出されることを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

このような構成によれば、ラック部材の窪み部に回転体のロック片が摺接した状態で可動体が第 1 の位置において留止状態にある場合は、回転体の押出片もラック部材の凹部に入り込まずにラック部材を留止させた状態となり、その留止状態を無理に解除しようとしても、窪み部に対してロック片が摺接するだけで回転体やラック部材に無理な力が作用しないので、可動体を動作させるための回転体やラック部材に支障をきたすことがないようになることができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 0 9 】

本発明によれば、役物の演出効果として面白味や興味を高めることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 0 】

【図 1】本発明の第 1 実施形態に係る遊技機を正面側から見た概略斜視図である。

【図 2】本発明の第 1 実施形態に係る遊技機の概略正面図である。

【図 3】本発明の第 1 実施形態における皿ユニットを切り離した状態を示す分解斜視図である。

【図 4】本発明の第 1 実施形態におけるトップ飾りを切り離した状態を示す分解斜視図である。

【図 5】本発明の第 1 実施形態における右側装飾部材及び左側装飾部材を切り離した状態を示す分解斜視図である。

【図 6】皿ユニットの右斜め方向から示す概略斜視図である。

【図 7】皿ユニットの左斜め方向から示す概略斜視図である。

【図 8】皿ユニットの概略正面図である。

【図 9】皿ユニットの右側方を示す概略側面図である。

【図 10】皿ユニットの左側方を示す概略側面図である。

【図 11】皿ユニットの下斜め方向から示す概略斜視図である。

【図 12】皿ユニットの分解斜視図である。

【図 13】皿ユニットの一部部品を取り外した状態を示す概略斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 1 4】皿ユニットの一部部品を取り外した状態を示す概略正面図である。

【図 1 5】皿ユニットにおけるスピーカ周辺の構成を説明するための分解斜視図である。

【図 1 6】皿ユニットにおけるスピーカ周辺の送風機構を説明するための分解斜視図である。

【図 1 7】送風機構の動作を説明するための分解斜視図である。

【図 1 8】送風機構の動作を説明するための内部平面図である。

【図 1 9】送風機構の動作を説明するための分解斜視図である。

【図 2 0】送風機構の動作を説明するための内部平面図である。

【図 2 1】本発明の第 1 実施形態に係る遊技機の制御回路を示すブロック図である。

【図 2 2】本発明の第 1 実施形態に係る遊技機の各種テーブルを説明するための図である。 10

【図 2 3】右側装飾部材の分解斜視図である。

【図 2 4】右側装飾部材における内側導光板を示す概略平面図である。

【図 2 5】右側装飾部材における内側導光板の入射後端面を示す一部切り欠き斜視図である。

【図 2 6】右側装飾部材における内側導光板の入射後端面を示す一部切り欠き背面図である。

【図 2 7】右側装飾部材における内側導光板の出射前端面を示す一部切り欠き斜視図である。

【図 2 8】右側装飾部材における内側導光板の出射前端面を示す一部切り欠き正面図である。 20

【図 2 9】トップ飾りにおける中央飾り部材の分解斜視図である。

【図 3 0】トップ飾りにおける中央飾り部材の分解斜視図である。

【図 3 1】トップ飾りにおける中央飾り部材の内部構造を示す概略正面図である。

【図 3 2】トップ飾りにおける中央飾り部材の内部構造を示す分解斜視図である。

【図 3 3】トップ飾りにおける中央飾り部材の分解上面図である。

【図 3 4】トップ飾りにおける右側飾り部材の分解斜視図である。

【図 3 5】トップ飾りにおける右側飾り部材の一部部品を示す概略正面図である。

【図 3 6】トップ飾りにおける右側飾り部材の一部部品を示す概略上面図である。

【図 3 7】トップ飾りにおける右側飾り部材の一部部品の右側方を示す概略上面図である。

【図 3 8】トップ飾りにおける右側飾り部材の一部部品の左側方を示す概略上面図である。 30

【図 3 9】トップ飾りにおける右側飾り部材の一部部品を示す概略背面図である。

【図 4 0】送風機構の変形例を示す概略斜視図である。

【図 4 1】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機の外観斜視図である。

【図 4 2】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機の分解斜視図である。

【図 4 3】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における本体枠の分解斜視図である。

【図 4 4】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における取付枠の分解斜視図である。

【図 4 5】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における遊技盤の上面図である。

【図 4 6】本発明の第 2 実施形態の変形例に係る遊技機における遊技盤の上面図である。

【図 4 7】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における取付ベースの斜視図である。

【図 4 8】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における取付ベースの正面図である。 40

【図 4 9】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における本体枠の断面図である。

【図 5 0】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機におけるプロジェクタユニットから出射された投影光の光軸を説明する図である。

【図 5 1】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機におけるカバー部材の背面側から覗た斜視図である。

【図 5 2】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機におけるカバー部材の前面側から覗た斜視図である。

【図 5 3】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における遊技盤中継基板と、取付ベースの基板用孔及びカバー部材の開口部との位置関係を説明する図である。

【図 5 4】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機の上面図である。 50

【図 5 5】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における本体枠の分解斜視図である。

【図 5 6】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における第 1 誘導樋及び第 2 誘導樋の分解斜視図である。

【図 5 7】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における第 1 誘導樋及び第 2 誘導樋の分解斜視図である。

【図 5 8】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における払出装置を示す全体斜視図である。

【図 5 9】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における払出装置に含まれる球通路ユニットを示す斜視図である。

【図 6 0】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球通路ユニットを示す分解斜視図である。 10

【図 6 1】図 6 0 とは異なる向きで球通路ユニットを示す分解斜視図である。

【図 6 2】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球通路ユニットの第 1 誘導路を示す平面図である。

【図 6 3】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球通路ユニットの第 2 誘導路を示す平面図である。

【図 6 4】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における遊技盤のアウト口を示す斜視図である。

【図 6 5】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における遊技盤を取り外した状態でアウト口の背後に位置する球検知ユニットを示す斜視図である。

【図 6 6】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球検知ユニットの全体を示す斜視図である。 20

【図 6 7】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球検知ユニットを示す分解斜視図である。

【図 6 8】図 6 7 とは異なる向きで球検知ユニットを示す分解斜視図である。

【図 6 9】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球検知ユニットを構成する右側構成部材の内部側面図である。

【図 7 0】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球検知ユニットを構成する左側構成部材の内部側面図である。

【図 7 1】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球検知ユニットを構成する突片部材の上面図である。 30

【図 7 2】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における皿ユニットが設けられたガラスドアを示す全体斜視図である。

【図 7 3】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機におけるガラスドアの正面を示す全体正面図である。

【図 7 4】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における皿ユニットの全体を示す拡大斜視図である。

【図 7 5】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における皿ユニットの分解斜視図である。

【図 7 6】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における皿ユニットの上面図である。

【図 7 7】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における皿ユニットの受け皿カバー部材を取り外した状態の上面図である。 40

【図 7 8】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における本体部、球抜き通路部材及び蓋開閉部を背面側から見た斜視図である。

【図 7 9】図 7 8 に示す図の分解図である。

【図 8 0】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球抜き通路部材の斜視図である。

【図 8 1】図 8 0 中の A A' 断面図である。

【図 8 2】図 8 0 中の B B' 断面図である。

【図 8 3】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機における球抜き通路部材の分解斜視図である。

【図 8 4】本発明の第 2 実施形態に係る遊技機の回路構成を示すブロック図である。

【図 8 5】本発明の第 3 実施形態に係る遊技機の基板ユニットの斜視図である。 50

- 【図 8 6】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットの斜視図である。
- 【図 8 7】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットの正面図である。
- 【図 8 8】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースの斜視図である。
- 【図 8 9】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースの斜視図である。
- 【図 9 0】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースの分解斜視図である。
- 【図 9 1】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースの分解斜視図である。
- 【図 9 2】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースの正面図である。
- 【図 9 3】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースの背面図である。
- 【図 9 4】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースにおける上側部材の側面図である。
10
- 【図 9 5】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースにおける上側部材の側面図である。
- 【図 9 6】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースにおける上側部材の一部拡大側面図である。
- 【図 9 7】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースにおける下側部材の内部正面図である。
- 【図 9 8】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースにおける上側部材及び下側部材の組付け前の状態を示す斜視図である。
- 【図 9 9】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ケースにおける上側部材及び下側部材の組付け後の状態を示す斜視図である。
20
- 【図 1 0 0】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットにおける基板ケースの回転状態を示す斜視図である。
- 【図 1 0 1】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットにおける基板ケースの回転状態を示す斜視図である。
- 【図 1 0 2】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に対する基板ケースの取付状態を示す斜視図である。
30
- 【図 1 0 3】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に対する基板ケースの取付状態を示す斜視図である。
- 【図 1 0 4】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に対する基板ケースの取付状態を示す斜視図である。
- 【図 1 0 5】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に対する基板ケースの取付前の状態を示す分解斜視図である。
30
- 【図 1 0 6】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に対する基板ケースの取付前の状態を示す分解斜視図である。
- 【図 1 0 7】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に対する基板ケースの取付前の状態を示す分解斜視図である。
- 【図 1 0 8】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットにおける基板ケースの回転状態を示す斜視図である。
40
- 【図 1 0 9】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットのベース部材に取り付けられる封止部材を示す分解斜視図である。
- 【図 1 1 0】本発明の第3実施形態に係る遊技機の基板ユニットにおける基板ケースの回転状態を示す上面図である。
- 【図 1 1 1】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアを示す斜視図である。
- 【図 1 1 2】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアを示す側面図である。
- 【図 1 1 3】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアを示す分解斜視図である。
- 【図 1 1 4】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアにおける透明板ユニットを示す分解斜視図である。
50
- 【図 1 1 5】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアにおける透明板ユニットを示す分解斜視図である。
- 【図 1 1 6】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアにおける透明板ユニットを示す分解斜視図である。

す正面図である。

【図 117】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアにおける透明板ユニットを示す背面図である。

【図 118】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアにおける透明板ユニットを示す側面図である。

【図 119】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアの組み付け状態を示す分解斜視図である。

【図 120】本発明の第3実施形態に係る遊技機の前面ドアの組み付け状態を示す分解斜視図である。

【図 121】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルを示す斜視図である。 10

【図 122】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルを示す分解斜視図である。

【図 123】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルを示す分解斜視図である。

【図 124】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルを示す分解側面図である。

【図 125】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルにおけるハンドルグリップを示す正面図である。

【図 126】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルにおけるハンドルグリップを示す背面図である。

【図 127】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルにおけるベース部材を示す正面図である。

【図 128】本発明の第3実施形態に係る遊技機の発射ハンドルにおけるベース部材を示す背面図である。 20

【図 129】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構を示す斜視図である。

【図 130】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構を示す分解斜視図である。

【図 131】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構の内部を示す内部平面図である。

【図 132】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構の動作を説明するための内部平面図である。

【図 133】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構の動作を説明するための左側面図である。

【図 134】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構の動作を説明するための内部平面図である。 30

【図 135】本発明の第3実施形態に係る遊技機の送風機構の動作を説明するための左側面図である。

【図 136】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す斜視図である。

【図 137】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す斜視図である。

【図 138】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す正面図である。

【図 139】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す分解斜視図である。

【図 140】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す分解斜視図である。

【図 141】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットを示す斜視図である。 40

【図 142】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットを示す正面図である。

【図 143】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットを示す背面図である。

【図 144】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットを示す側面図である。

【図 145】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの一部を示す上面図である。 50

【図146】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図147】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図148】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図149】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図150】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

10

【図151】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図152】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図153】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための側面図である。

【図154】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図155】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

20

【図156】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図157】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための側面図である。

【図158】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための上面図である。

【図159】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図160】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第1演出ユニットにおける下可動体、左可動体、及び右可動体を示す斜視図である。

30

【図161】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第1演出ユニットにおける下可動体、左可動体、及び右可動体を示す分解斜視図である。

【図162】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第1演出ユニットにおける右可動体を示す分解斜視図である。

【図163】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第1演出ユニットにおける下可動体及び右可動体の一部を示す斜視図である。

【図164】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第1演出ユニットにおける下可動体、左可動体、及び右可動体を示す一部切り欠き側面図である。

【図165】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットを示す斜視図である。

40

【図166】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットを示す正面図である。

【図167】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットを示す上面図である。

【図168】本発明の第4実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットを示す背面図である。

【図169】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第2演出ユニットにおける上下ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図170】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第2演出ユニットにおける上下ユニットの動作を説明するための正面図である。

50

【図171】本発明の第4実施形態に係る遊技機の第2演出ユニットにおける上下ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図172】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤を示す正面図である。

【図173】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤の要部を示す分解斜視図である。

【図174】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤の要部を示す分解斜視図である。

【図175】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤における球通路カバーを示す斜視図である。

【図176】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤における球通路カバーを示す背面図である。

【図177】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤における開閉ユニットを示す斜視図である。 10

【図178】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤における開閉ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図179】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤における開閉ユニットの動作を説明するための一部切り欠き斜視図である。

【図180】本発明の第4実施形態に係る遊技機の遊技盤における開閉ユニットの動作を説明するための一部切り欠き上面図である。

【図181】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す一部分解斜視図である。

【図182】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す斜視図である。 20

【図183】本発明の第5実施形態に係る遊技機の遊技盤を示す正面図である。

【図184】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットを示す分解斜視図である。

【図185】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図186】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図187】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図188】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。 30

【図189】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図190】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図191】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図192】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図193】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの動作を説明するための背面図である。 40

【図194】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットを示す斜視図である。

【図195】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構を示す斜視図である。

【図196】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構を示す分解斜視図である。

【図197】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための正面図である。

【図198】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユ 50

ニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための分解正面図である。

【図 199】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための背面図である。

【図 200】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための正面図である。

【図 201】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための分解正面図である。

【図 202】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための背面図である。

【図 203】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための正面図である。

【図 204】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための分解正面図である。

【図 205】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットのスライド駆動機構の動作を説明するための背面図である。

【図 206】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットを示す分解斜視図である。

【図 207】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットの発光態様を説明するための分解正面図である。

【図 208】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットの左可動ユニットの発光態様を説明するための分解正面図である。

【図 209】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第1演出ユニットのベース部材の配線接続部を拡大して示す一部拡大斜視図である。

【図 210】配線接続部のコネクタカバーを示す斜視図である。

【図 211】配線接続部のコネクタカバーを示す背面図である。

【図 212】ベース部材の配線接続部にコネクタカバーを取り付ける状態を説明するための一部切欠側面図である。

【図 213】ベース部材の配線接続部にコネクタカバーを取り付ける状態を説明するための一部切欠側面図である。

【図 214】ベース部材の配線接続部にコネクタカバーを取り付けた状態を説明するための一部切欠側面図である。

【図 215】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける本体ケースを示す斜視図である。

【図 216】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける本体ケースを示す正面図である。

【図 217】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける本体ケースを示す背面図である。

【図 218】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける本体ケースの配線収容部を拡大して示す一部拡大斜視図である。

【図 219】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける導光板ユニットを示す斜視図である。

【図 220】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける導光板ユニットを示す正面図である。

【図 221】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける導光板ユニットの一部を拡大して示す一部拡大正面図である。

【図 222】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける導光板ユニットの変形例を示す正面図である。

【図 223】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図 224】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユ

10

20

30

40

50

ニットの動作を説明するための正面図である。

【図 225】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図 226】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図 227】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図 228】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図 229】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための背面図である。 10

【図 230】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第3演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図 231】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。

【図 232】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図 233】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図 234】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットの動作を説明するための斜視図である。 20

【図 235】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットの動作を説明するための正面図である。

【図 236】本発明の第5実施形態に係る遊技機の本体サブユニットにおける第2演出ユニットの動作を説明するための背面図である。

【図 237】本発明の第5実施形態に係る遊技機の遊技盤におけるステージの一部を拡大して示す一部拡大正面図である。

【図 238】本発明の第5実施形態に係る遊技機の遊技盤におけるステージの一部を拡大して示す一部拡大斜視図である。

【図 239】本発明の第5実施形態に係る遊技機の遊技盤における大入賞口ユニットを示す斜視図である。 30

【図 240】大入賞口ユニットの開閉部材を示す一部切欠斜視図である。

【図 241】大入賞口ユニットの開閉部材を示す一部切欠側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明の一実施形態に係る遊技機について、添付図面を参照しつつ説明する。なお、本発明に係る遊技機としては、封入式のパチンコ遊技機を含めパチンコ遊技機全般及びパチスロ遊技機全般を対象とするが、本実施形態ではそれぞれ図に示す形態のパチンコ遊技機を想定する。まず、本発明の第1実施形態に係る遊技機について以下に説明する。

【0012】 40

「第1実施形態」

<遊技機の特徴的構成>

図1～図5に示すように、本実施形態に係るパチンコ遊技機は、表枠3に特徴的な構成要素を備えている。表枠3の構成要素としては、表枠ベース板を構成する右側ベース板3a a、左側ベース板3a b及び全体ベース板3a cのほか、透明板ユニット7、皿ユニット8、トップ飾り14、右側装飾部材15、左側装飾部材16がある。皿ユニット8は、全体ベース板3a cの下部に取り付けられる。トップ飾り14は、右側ベース板3a a及び左側ベース板3a bの上部に取り付けられる。右側装飾部材15は、右側ベース板3a aの下部に取り付けられ、左側装飾部材16は、左側ベース板3a bの下部に取り付けられる。以下に主たる特徴的な構成要素について図面を参照して説明する。 50

【0013】

<皿ユニット8について>

図6～図14に示すように、皿ユニット8は、上皿上部カバー8a、下皿カバー8b、アンダーカバー8c、支持部材8d、第1操作ユニット9A、第2操作ユニット9B、スピーカユニット10、送風機構110、発光ユニット12、上皿17、下皿18等を有する。上皿17は、支持部材8dの上部左寄りの位置に設けられ、第1操作ユニット9Aは、上皿17の右隣りとなる支持部材8dの上部中央の位置に設けられ、第2操作ユニット9Bは、第1操作ユニット9Aの右隣りとなる支持部材8dの上部右寄りの位置に設けられる。下皿18は、上皿17の下方となる支持部材8dの下部左寄りの位置に設けられ、スピーカユニット10は、下皿18の右隣りとなる支持部材8dの下部中央の位置に設けられ、送風機構110は、スピーカユニット10の右隣りとなる支持部材8dの下部右寄りの位置に設けられ、発光ユニット12は、送風機構110の右隣りで発射装置26の左隣りとなる支持部材8dの下部右寄りの位置に設けられる。第1操作ユニット9A、第2操作ユニット9B、スピーカユニット10、送風機構110、発光ユニット12、上皿17、及び下皿18は、第1操作ユニット9A及び第2操作ユニット9Bの後述する操作部材（操作ボタン）や上皿17及び下皿18の上面を露出させるように上皿上部カバー8a、下皿カバー8b、アンダーカバー8cにより覆われる。上皿上部カバー8a、下皿カバー8bの一部、アンダーカバー8cは、着脱自在となっている。

10

【0014】

[上皿17及び下皿18]

上皿17は、遊技球を貯留可能な上皿本体17p等のほか、上皿本体17pに遊技球を払い出すための払出口17oを有する。下皿18は、遊技球を貯留可能な下皿本体18p等のほか、下皿本体18pに遊技球を排出するための排出口18oや、下皿本体18pの下方外部に遊技球を落下させるための球抜き部181を有する。

20

【0015】

[第1操作ユニット9A]

第1操作ユニット9Aは、遊技者が操作可能な操作部材（操作ボタン）2000のほか、押下検出センサ2035（図示略）や電飾基板2183（図示略）等を有する。第1操作ユニット9Aの操作部材2000は、上皿上部カバー8aの中央に設けられた開口から露出し、操作部材2000の押圧操作面が円形状に形成されている。この操作部材2000は、後述する演出抽選テーブル（図22参照）から明らかなように、比較的使用頻度が高い操作演出用のボタンとして設けられている。押下検出センサ2035及び電飾基板2183は、専用の図示しないハーネス等の配線を介して後述するサブ制御基板33（図21参照）に接続されている。これにより、操作部材2000の押下操作に際しては、押下検出センサ2035による操作信号がサブ制御基板33に供給される。

30

【0016】

[第2操作ユニット9B]

第2操作ユニット9Bは、球貸ボタン23や返却ボタン24とともに、遊技者が操作演出に際して操作するための押圧ボタン3000や遊技者が選択操作するための十字ボタン3100を共通基板3200に実装して構成されたものである。球貸ボタン23、返却ボタン24、押圧ボタン3000、及び十字ボタン3100は、それぞれに対応して共通基板3200に設けられた押下検出センサにより変位動作が検出される。共通基板3200は、図示しないハーネス等の配線を介して後述するサブ制御基板33やカードユニット装置CU（図21参照）に接続されている。これにより、球貸ボタン23や返却ボタン24の押下操作に際しては、共通基板3200から押下検出センサによる球貸操作信号や返却操作信号がカードユニット装置CUに供給される一方、押圧ボタン3000や十字ボタン3100の押下操作に際しては、共通基板3200から押下検出センサによる演出操作信号や選択操作信号がサブ制御基板33に供給される。このような第2操作ユニット9Bの押圧ボタン3000は、上皿上部カバー8aの右寄りの位置に設けられた開口から露出し、押圧ボタン3000の押圧操作面が四角形状に形成されている。この押圧ボタン3000

40

50

0は、後述する演出抽選テーブル（図22参照）から明らかなように、比較的使用頻度が低い操作演出用のボタンとして設けられている。ここで、十字ボタン3100と押圧ボタン3000とは、共に直線状の辺を備えた略四角形状で構成され、直線状の辺が互いに対向して配置されている。

【0017】

【スピーカユニット10】

スピーカユニット10は、低音域の音を増幅するバスレフ型のものであり、スピーカ10c及びエンクロージャ10eを有する。スピーカ10cは、エンクロージャ10eの前面に設けられており、下皿カバー8bの前面中央部に設けられたスピーカカバー10kによってスピーカ10cの前部が覆われる。スピーカ10cの前部で発生した音は、スピーカカバー10kを通って遊技者に直接伝わる一方、スピーカ10cの後部で発生した音は、エンクロージャ10eの内部に一旦籠る。

10

【0018】

エンクロージャ10eは、スピーカ10cの後部から発生した音をその前部から発生した音と干渉させないように封じ込めるものであり、比較的大きな容積をもつように形成されている。図14に示すように、エンクロージャ10eの左上部10eaは、下皿18の右側上方まで迫り出すように形成されている。また、エンクロージャ10eの左上部10eaは、上皿本体17pの底部と接触するように配置される。さらに、エンクロージャ10eの左下部10ebは、下皿本体18pの右端部と接触するように配置される。

20

【0019】

図16に示すように、エンクロージャ10eの右下端部には、内部に設けられた導管（図示略）へと通じる開口10ecが設けられている。このような導管及び開口10ecは、いわゆるヘルムホルツ共鳴の原理により、スピーカ10cの後部からエンクロージャ10eの内部に発せられた音を共振・増強しつつ外部へと伝播する。開口10ecから外部へと伝播する音は、スピーカ10cの前部から発せられた音と重なることにより、豊かで力強い低音として感じられる。また、スピーカ10cから音が発生する際には、その音の発生に連動して開口10ecから外部へと空気が流出する。スピーカ10cから音が発生していない状態では、開口10ecから外部へと空気が流出しない。

【0020】

このようなスピーカユニット10によれば、エンクロージャ10eの左上部10eaが部分的に膨出した形状であるので、例えば直方体状のエンクロージャよりも容積を十分確保することができ、スピーカ10cから十分な音圧で迫力のある低音を発生させることができる。

30

【0021】

また、スピーカ10cから音を発生させる際には、それと同時にエンクロージャ10eの開口10ecから外部へと十分な風圧で風を送出することができる。

【0022】

さらに、スピーカ10cで音を発生させる際には、エンクロージャ10e全体が音圧に応じて振動するが、エンクロージャ10eの左上部10ea及び左下部10ebが上皿本体17p及び下皿本体18pの一部と接触しているので、その振動が上皿本体17pや下皿本体18p全体にも伝わる。これにより、上皿本体17pや下皿本体18pに多くの遊技球が貯留されている場合にあっても、払出口170や排出口180から出てくる遊技球の球詰まりを振動によって効果的に防ぐことができる。

40

【0023】

【送風機構110】

送風機構110は、エンクロージャ10eの開口10ecから送出される風の方向を切り替えるものであり、エンクロージャ10eの右側面に隣接して配置される。図17及び図19に示すように、送風機構110は、左右に2分割可能なカバー部材110A, 110B、ソレノイド111、スライド部材112、リンク部材113、バネ114、開閉部材115、及び開閉検知センサ116を有する。ソレノイド111、スライド部材112

50

、リンク部材 113、バネ 114、開閉部材 115、及び開閉検知センサ 116 は、カバー部材 110A, 110B の内部に収容される。

【0024】

図 19 及び図 20 に示すように、カバー部材 110A には、エンクロージャ 10e の開口 10ec からまっすぐ向かう方面を開閉部材 115 が閉鎖・開放可能な空間部 110a が設けられている。空間部 110a の下方は、開閉部材 115 の閉鎖・開放に関係なく常に開放されており、アンダーカバー 8c に設けられた通気口 8ca が位置する（図 16 参照）。図 17 及び図 19 に示すように、カバー部材 110B には、空間部 110a と対向する位置に開口部 110b が設けられている。開口部 110b の右側には、下皿カバー 8b の一部として着脱自在の右下側面カバー 8ba に設けられた送風口 80 が位置する（図 12、図 15、図 16 参照）。これにより、開閉部材 115 が空間部 110a を閉鎖した状態の場合、開口 10ec から送出された風は、開閉部材 115 に当って遮られ、開口部 110b を抜けることなく空間部 110a の下方へと導かれる。空間部 110a の下方へと導かれた風は、アンダーカバー 8c の通気口 8ca を通って外部へと送出される。一方、開閉部材 115 が空間部 110a を開放した状態の場合、開口 10ec から送出された風は、開閉部材 115 に遮られることなく概ねまっすぐ流れ、空間部 110a 及び開口部 110b を抜けた後、右下側面カバー 8ba の送風口 80 を通って外部へと送出される。送風口 80 と概ねまっすぐ対向する位置には、発射装置 26 の発射ハンドル 26b が配置されており、送風口 80 から出た風は、発射ハンドル 26b を把持する遊技者の手に当たる。すなわち、開口 10ec から空間部 110a 及び開口部 110b 並びに送風口 80 を経て発射ハンドル 26b へと風が流れる流路は、概ねまっすぐ形成されるので、発射ハンドル 26b を握る遊技者の手まで風圧をできる限り弱めることなく風を到達させることができ、遊技者に対して確実に風を感じさせることができる。また、開閉部材 115 の閉鎖・開放状態のいずれにしても、開口 10ec から風と共に送出される音は、送風口 80 あるいは通気口 8ca のいずれかを通って外部に放出されるので、ヘルムホルツ共鳴による音響効果を低減させることなく重低音を十分体感させることができる。

【0025】

図 17 ~ 図 20 に示すように、ソレノイド 111 は、オン・オフ動作に連動して突出・退避可能なプランジャ 111a を有する。プランジャ 111a の先端部は、スライド部材 112 と連結されている。スライド部材 112 は、水平方向に沿って移動可能にカバー部材 110A に支持されている。スライド部材 112 には、垂直方向に沿って長く伸びるように長孔 112a が形成されている。この長孔 112a には、リンク部材 113 の連結部 113a が移動自在に係止される。リンク部材 113 の基端部 113b は、回転可能にカバー部材 110A に支持され、リンク部材 113 の先端部寄りの部位には、バネ 114 の一端が係止される。バネ 114 の他端は、カバー部材 110A の適部に係止されている。リンク部材 113 の先端部には、長孔 113c が形成されている。この長孔 113c には、開閉部材 115 に設けられた連結ピン 115a が移動自在に係止される。開閉部材 115 は、空間部 110a に留まる閉鎖位置と空間部 110a からずれた開放位置との間を移動可能にカバー部材 110A に案内されている。開閉検知センサ 116 は、例えばタッチセンサあるいは近接センサにより構成され、開閉部材 115 が開放位置にあるとき、リンク部材 113 の一部が当接あるいは近接することにより、空間部 110a が開放状態にあることを検知する。開閉部材 115 が閉鎖位置にあるとき、リンク部材 113 が開閉検知センサ 116 から離間することにより、空間部 110a が閉鎖状態にあることを検知する。開閉検知センサ 116 は、サブ制御基板 33 と電気的に接続されている。

【0026】

図 17 及び図 18 に示すように、ソレノイド 111 がオフ状態でプランジャ 111a が突出位置にあるとき、スライド部材 112 が図中左寄りに位置し、リンク部材 113 の先端部側がバネ 114 によって引っ張られる結果、その先端部の長孔 113c に連結ピン 115a を介して連結された開閉部材 115 は、空間部 110a の閉鎖位置に留まり、空間部 110a を閉鎖状態とする。このとき、リンク部材 113 は、開閉検知センサ 116 か

10

20

30

40

50

ら離間した位置にあるため、開閉検知センサ 116 からは、閉鎖状態を示す検知信号がサブ制御基板 33 に供給される。

【0027】

一方、図 19 及び図 20 に示すように、ソレノイド 111 がオン状態となると、プランジャ 111a が突出位置から退避位置へと移動する。プランジャ 111a が退避位置へと移動すると、スライド部材 112 が図中右側へと移動し、それに伴いリンク部材 113 の先端部側がバネ 114 の引っ張り力に抗して基端部 113b を軸に反時計回りの方向に回動する。その結果、リンク部材 113 の長孔 113c に連結ピン 115a を介して連結された開閉部材 115 は、空間部 110a から図中右側の退避した位置へと移動し、これにより空間部 110a が開放状態となる。このとき、リンク部材 113 は、開閉検知センサ 116 と当接あるいは近接するため、開閉検知センサ 116 からは、開放状態を示す検知信号がサブ制御基板 33 に供給される。10

【0028】

このような送風機構 110 によれば、開口 10ec から送风口 80 を経て発射ハンドル 26b へと至る風の流路が概ね直線状となり、この開口 10ec と送风口 80との間に位置する空間部 110a が閉鎖・開放状態に制御され、空間部 110a を閉鎖状態とした場合、開口 10ec からの風の流れを空間部 110a の下方に位置する通気口 8ca へと導くことができる一方、空間部 110a を開放状態とした場合、開口 10ec からの風の流れを空間部 110a から開口部 110b を通ってまっすぐ送风口 80 へと直線的に導くことができる。送风口 80 を出た風は、さらにまっすぐ直線的に発射ハンドル 26b の方へと流れ、発射ハンドル 26b を把持する遊技者の手に当たることとなる。これにより、重低音を聞く聴覚とともに皮膚感覚によって風を感じさせることができる。開口 10ec からの風が通気口 8ca へと導かれる場合、通気口 8ca 付近に遊技者の手が添えられることはないと想定されるため、例えば風を感じさせずに聴覚によって重低音のみを感じさせることができる。20

【0029】

〔発光ユニット 12〕

発光ユニット 12 は、発射ハンドル 26b を把持する遊技者の手に照射光を当てるものであり、発射ハンドル 26b の左斜め上方に配置される。発光ユニット 12 は、その詳細について図示説明を省略するが、発光手段としての複数の LED、複数の LED を搭載した発光基板、複数の LED からの光を所定方向に導くための導光板等を有して構成される。図 13 及び図 14 に示すように、発光ユニット 12 からの光が導かれる所定方向には、下皿カバー 8b の一部として着脱自在の右上側面カバー 8bb に設けられた照射窓 81 が設けられている。発光ユニット 12 からの光は、照射窓 81 を通って発射ハンドル 26b の方に照射され、発射ハンドル 26b を把持する遊技者の手にスポットライトとして映る。これにより、皮膚感覚に訴える風や聴覚に訴える重低音とは別に、照射光によっても視覚を刺激して感じさせることができる。30

【0030】

〔遊技機の電気的構成〕

次に、図 21 を用いて、本実施形態に係る遊技機の制御回路について説明する。なお、図 21 においては、「スイッチ」を「SW」と略記し、「ソレノイド」を「SOL」と略記する。40

【0031】

図 21 に示すように、遊技機は、遊技の制御を行う主制御手段としての主制御基板 28 と、遊技の進行に応じた演出の制御を行う副制御手段としてのサブ制御基板 33 とを有する。

【0032】

主制御基板 28 は、メイン CPU 280、読み出し専用メモリであるメイン ROM 281、読み書き可能メモリであるメイン RAM 282、初期リセット回路 283、I/O ポート 284、コマンド送信手段としてのコマンド出力ポート 285、リセット用クロック

10

20

30

40

50

パルス発生回路 286、及び遊技情報出力回路 287 を備えている。主制御基板 28 は、各種のデバイス（機器やスイッチ等）と接続されている。

【 0 0 3 3 】

メイン C P U 280 は、メイン R O M 281 及びメイン R A M 282 と接続されており、メイン R O M 281 に記憶されたプログラムにしたがって、各種の処理を実行する機能を有する。

【 0 0 3 4 】

主制御基板 28 には、遊技盤 1 における第 1 始動口（図示略）の後方に配置された第 1 始動口スイッチ 311 が接続されている。第 1 始動口スイッチ 311 によって遊技球が検出されると、当り抽選が行われる。

10

【 0 0 3 5 】

主制御基板 28 には、遊技盤 1 における第 2 始動口（図示略）の後方に配置された第 2 始動口スイッチ 312 が接続されている。第 2 始動口スイッチ 312 によって遊技球が検出されると、当り抽選が行われる。

【 0 0 3 6 】

これらの第 1 始動口スイッチ 311 及び第 2 始動口スイッチ 312 は、第 1 始動口及び第 2 始動口に遊技球が入球したことを検出した場合に入賞したとして、所定の検出信号を主制御基板 28 に供給する。

20

【 0 0 3 7 】

主制御基板 28 には、遊技盤 1 における通過ゲート（図示略）の後方に配置された通過ゲートスイッチ 314 が接続されている。通過ゲートスイッチ 314 によって遊技球が検出された場合、通過ゲートに遊技球が入賞したとして、普通図柄抽選が行われる。この普通図柄抽選の結果は、遊技盤 1 に設けられた普通図柄表示部 5A において表示される。なお、普通図柄表示部 5A において特定の図柄が停止表示された場合には、普通図柄抽選の結果が当選であることを遊技者に把握させる演出画像が液晶表示装置 4 の画面上に表示されるようにしてもよい。

【 0 0 3 8 】

通過ゲートスイッチ 314 は、通過ゲートを遊技球が通過したことを検出した場合に入賞したとして、所定の検出信号を主制御基板 28 に供給する。これにより、通過ゲートスイッチ 314 は、第 2 始動口を開放する契機を与える。

30

【 0 0 3 9 】

主制御基板 28 には、遊技盤 1 に設けられた一般入賞口（図示略）の後方に配置された一般入賞口スイッチ 310 が接続されている。一般入賞口スイッチ 310 によって遊技球が検出されると、払出装置 35 により予め設定されている数の賞球が行われる。

【 0 0 4 0 】

主制御基板 28 には、遊技盤 1 における第 1 大入賞口（図示略）の奥方に配置された第 1 大入賞口カウントスイッチ 315 が接続されている。第 1 大入賞口カウントスイッチ 315 は、第 1 大入賞口への遊技球の入賞数をカウントするためのものである。第 1 大入賞口カウントスイッチ 315 により遊技球の入賞が検出されると、払出装置 35 は、予め設定されている数の遊技球を賞球として払出口 170 又は排出口 180 を通じて上皿 17 又は下皿 18 に払い出しを行う。

40

【 0 0 4 1 】

主制御基板 28 には、遊技盤 1 における第 2 大入賞口（図示略）の奥方に配置された第 2 大入賞口カウントスイッチ 316 が接続されている。第 2 大入賞口カウントスイッチ 316 は、第 2 大入賞口への遊技球の入賞数をカウントするためのものである。第 2 大入賞口カウントスイッチ 316 により遊技球の入賞が検出されると、払出装置 35 は、予め設定されている数の遊技球を賞球として払出口 170 又は排出口 180 を介して上皿 17 又は下皿 18 に払い出しを行う。

【 0 0 4 2 】

これらの第 1 大入賞口カウントスイッチ 315 及び第 2 大入賞口カウントスイッチ 316

50

6は、第1大入賞口及び第2大入賞口を遊技球が通過した場合に、所定の検出信号を主制御基板28に供給する。

【0043】

主制御基板28には、第2大入賞口の内部にある特定領域及び非特定領域(図示略)に配置された特定領域スイッチ317A及び非特定領域スイッチ317Bが接続されている。特定領域スイッチ317Aは、大当たり遊技状態において特定領域を遊技球が通過したことを探出した場合にV入賞として、所定の検出信号を主制御基板28に供給する。非特定領域スイッチ317Bは、大当たり遊技状態において非特定領域を遊技球が通過したことを探出した場合に非V入賞として、所定の検出信号を主制御基板28に供給する。

【0044】

主制御基板28は、第1大入賞口を開閉する第1大入賞口シャッタ(図示略)を駆動する第1大入賞口ソレノイド315Aと、第2大入賞口を開閉する第2大入賞口シャッタ(図示略)を駆動する第2大入賞口ソレノイド316Aとを排他的に制御する。これにより、第1大入賞口シャッタは、第1大入賞口への遊技球の入賞が容易な開放状態(第1態様)と、遊技球の入賞が不可能又は困難な閉鎖状態(第2態様)とに変動するように駆動され、第1大入賞口が少なくとも閉鎖状態とされる状況において、第2大入賞口シャッタは、第2大入賞口への遊技球の入賞が可能な開放状態と、遊技球の入賞が不可能又は困難な閉鎖状態とに変動するように駆動される。このような第1大入賞口シャッタ及び第2大入賞口シャッタによる第1大入賞口及び第2大入賞口の開放駆動は、遊技盤1に設けられた第1特別図柄表示部5C又は第2特別図柄表示部5Dにおいて特別図柄が特定の停止表示態様となって、大当たり遊技状態に移行された場合に行われる。

10

【0045】

主制御基板28は、第2始動口に設けられた羽根部材(図示略)を開閉する羽根部材ソレノイド313を制御する。これにより、普通図柄表示部5Aにおいて所定の発光態様で普通図柄が停止表示されたときに、羽根部材が所定の時間、所定の回数だけ開放状態となり、第2始動口に遊技球を入りやすくなる。

【0046】

例えば、本実施形態の普通図柄ゲームにおいて、時短遊技状態ではない遊技状態(非確変・非時短遊技状態)における普通図柄の当たり確率は、1/256であり、羽根部材が開放されることはない。一方、高確率状態(時短遊技状態)における普通図柄の当たり確率は、例えば255/256であり、これに当選した場合に、羽根部材が例えば1.3秒間、3回開放される。また、普通図柄ゲームにおいて当たり図柄となる普通図柄の数は1個であり、第2始動口の開放時に上限となる入賞カウント数は10カウント(10個)である。

30

【0047】

主制御基板28は、第2大入賞口内の特定領域の変位部材(図示略)を開閉するように動作させる変位部材ソレノイド318を制御する。これにより、大当たり遊技状態のラウンドゲームを実行中にある場合に、変位部材が所定の時間、所定の回数だけ開放状態となり、特定領域に対して遊技球が通過しやすくなる。一方、大当たり遊技状態であっても変位部材が閉鎖状態となる場合は、特定領域を遊技球が通過不可能又は困難となり、非特定領域を遊技球が通過しやすくなる。

40

【0048】

第1特別図柄保留表示部5Eは、第1特別図柄表示部5C又は第2特別図柄表示部5Dが変動表示しているときに、第1始動口スイッチ311によって遊技球が検出された場合、第1特別図柄表示部5C又は第2特別図柄表示部5Dにおいて変動表示中の第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されるまで、第1始動口への遊技球の入賞に基づく第1特別図柄の変動表示の実行(開始)が保留される数、すなわち第1特別図柄に係る保留数を表示する。変動表示していた第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示された場合には、第1特別図柄に係る保留数として保留されていた第1特別図柄の変動表示が開始される。

【0049】

第2特別図柄保留表示部5Fは、第1特別図柄表示部5C又は第2特別図柄表示部5D

50

が変動表示しているときに、第2始動口スイッチ312によって遊技球が検出された場合、第1特別図柄表示部5C又は第2特別図柄表示部5Dにおいて変動表示中の第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されるまで、第2始動口への遊技球の入賞に基づく第2特別図柄の変動表示の実行(開始)が保留される数、すなわち第2特別図柄に係る保留数を表示する。変動表示していた第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示された場合には、第2特別図柄に係る保留数として保留されていた第2特別図柄の変動表示が開始される。

【0050】

ここで、本実施形態のパチンコ遊技機において、第1特別図柄及び第2特別図柄の変動表示の優先順位は、第2特別図柄の方が第1特別図柄よりも優先するように設定されているが、第1始動口及び第2始動口への入賞順にしたがって、対応する第1特別図柄及び第2特別図柄を入賞順通りに変動表示させるようにしてもよい。

10

【0051】

また、特別図柄の変動表示の実行が保留される保留数には、上限数が設定されており、本実施形態において、メインCPU280は、第1始動口及び第2始動口に遊技球が入賞して第1始動口スイッチ311及び第2始動口スイッチ312によって遊技球が検出されたときの第1特別図柄及び第2特別図柄の変動表示の保留数を、それぞれ最大で4個(すなわち、4検出回数)まで記憶させており、5個目以降は保留数として記憶させないようになっている。この際、特別図柄の変動表示の終了により保留数が減った時には、再び保留数が4個を上限として加算される。

【0052】

第1特別図柄表示部5Cにおける第1特別図柄ゲームの保留数が例えば4個まで保留される場合、変動中の第1特別図柄表示部5Cに対応する特別図柄ゲームの情報は、メインRAM282の第1特別図柄始動記憶領域(0)に始動記憶として記憶され、以降、保留数が4個分の特別図柄ゲームの情報は、メインRAM282の第1特別図柄始動記憶領域(1)～(4)に始動記憶として順次記憶される。

20

【0053】

第2特別図柄表示部5Dにおける第2特別図柄ゲームについても同様に、第2特別図柄ゲームの保留数が例えば4個まで保留される場合、変動中の第2特別図柄表示部5Dに対応する第2特別図柄ゲームの情報は、メインRAM282の第2特別図柄始動記憶領域(0)に始動記憶として記憶され、以降、保留数が4個分の第2特別図柄ゲームの情報は、メインRAM282の第2特別図柄始動記憶領域(1)～(4)に始動記憶として順次記憶される。

30

【0054】

したがって、第1始動口及び第2始動口への入賞に伴う特別図柄ゲームに係る遊技球の保留数は、合計で最大8個となり、第1特別図柄保留表示部5E及び第2特別図柄保留表示部5Fによる保留表示数もそれぞれ4個となる。

【0055】

第1大入賞口シャッタによる第1大入賞口の開放状態は、第1大入賞口カウントスイッチ315によるカウント値(遊技球の入賞数)が所定数(例えば、入賞数10個)となるか、あるいは予め規定された後述の開放時間を経過するといったいずれか一方の条件を満たすまで維持される。遊技球の入賞数が所定数となった場合、又は第1大入賞口シャッタの開放時間が経過した場合は、第1大入賞口シャッタが第1大入賞口を閉鎖するように駆動される。

40

【0056】

第2大入賞口シャッタによる第2大入賞口の開放状態も同様に、第2大入賞口カウントスイッチ316によるカウント値(遊技球の入賞数)が所定数(例えば、入賞数10個)となるか、あるいは予め規定された後述の開放時間を経過するといったいずれか一方の条件を満たすまで維持される。遊技球の入賞数が所定数となった場合、又は第2大入賞口シャッタの開放時間が経過した場合は、第2大入賞口シャッタが第2大入賞口を閉鎖するように駆動される。

50

【 0 0 5 7 】

大当たり遊技状態では、予め設定された大入賞口開閉パターン（当たり開閉パターン）に基づき、第1大入賞口及び第2大入賞口の開放状態と閉鎖状態とが繰り返される。大当たり遊技状態において、第1大入賞口及び第2大入賞口のそれぞれが大入賞口開閉パターン（当たり開閉パターン）に基づいて所定回数にわたり開放状態及び閉鎖状態となる遊技は、「ラウンドゲーム（ラウンド遊技）」という。ラウンドゲーム（ラウンド遊技）は、単にラウンドという場合もある。1回のラウンドゲームにより第1大入賞口又は第2大入賞口が閉鎖状態とされてから、次回のラウンドゲームとして第1大入賞口又は第2大入賞口が開放状態となるまでの状態については、「ラウンド間ゲーム」又は「ラウンド間インターバル」あるいは単に「インターバル」ともいう。1回のラウンドゲームにおいては、第1大入賞口及び第2大入賞口のそれぞれが複数回にわたり開放状態及び閉鎖状態となる場合がある。また、1回のラウンドゲームでは、第1大入賞口及び第2大入賞口の開閉状態が排他的に制御される。すなわち、1回のラウンドゲームにおいては、一方の大入賞口が所定回数繰り返し開放状態となる間、他方の大入賞口が継続して閉鎖状態とされる。

10

【 0 0 5 8 】

なお、本実施形態の遊技機には、大当たり遊技状態とは異なる性質の遊技状態として、いわゆる小当たり遊技状態が設けられている。小当たり遊技状態は、大当たり遊技状態とは異なりラウンドゲームという概念によって規定されず、本実施形態の小当たり遊技状態では、第2大入賞口が所定回数繰り返し開放状態とされるように規定されている。もちろん、小当たり遊技状態においては、任意あるいは特定の大入賞口を1回あるいは複数回にわたり繰り返し開放状態となるように制御してもよい。この小当たり遊技状態とは、特別図柄抽選による小当たりの当選を契機に移行する遊技状態である。小当たり遊技状態に移行する前とその終了後においては、基本的に遊技状態が変化しない。例えば、非確変遊技状態において小当たり当選となって小当たり遊技状態に移行した場合、この小当たり遊技状態の終了後の遊技状態は、小当たり遊技状態に移行する前の非確変遊技状態のままであり、確変遊技状態に移行することはない。同様に、確変遊技状態において小当たり当選となって小当たり遊技状態に移行した場合、この小当たり遊技状態の終了後の遊技状態は、確変遊技状態のゲーム数が残存する限り、小当たり遊技状態に移行する前の確変遊技状態のままであり、非確変遊技状態に移行することもない。

20

【 0 0 5 9 】

30

ラウンドゲームは、1ラウンド、2ラウンドのようにラウンド数（回数）として計数される。1回のラウンドゲームにおいて、第1大入賞口又は第2大入賞口が所定回数開放状態となる前に、1ラウンドあたりの上限入賞数に到達した場合は、第1大入賞口及び第2大入賞口が閉鎖状態となり、残りの開放回数分について第1大入賞口及び第2大入賞口が開放状態とされることなく、当該ラウンドゲームが終了させられる。

【 0 0 6 0 】

また、大当たり遊技状態において第2大入賞口が開放状態となる特定のラウンドゲームでは、予め設定された作動パターン（変位部材作動パターン）に基づき、変位部材が制御される。これにより、特定領域は、大当たり遊技状態の特定のラウンドゲームにおいて、開放状態及び閉鎖状態となる。すなわち、特定のラウンドゲームにおいては、特定領域を遊技球が通過してV入賞となる可能がある一方、特定のラウンドゲーム以外のラウンドゲームでは、仮に第2大入賞口に遊技球が入賞したとしても、特定領域を遊技球が通過不可能又は困難な状態となる。すなわち、大当たり遊技状態の種類には、特定のラウンドゲームを含む大当たり遊技状態と、特定のラウンドゲームを含まない大当たり遊技状態とがある。

40

【 0 0 6 1 】

液晶表示装置4の画面上には、第1特別図柄表示部5C及び第2特別図柄表示部5Dにおいて表示される特別図柄と関連する演出画像が表示される。例えば、第1特別図柄表示部5C及び第2特別図柄表示部5Dで表示される特別図柄の変動表示中において、特定の場合を除いて、液晶表示装置4の画面上には、数字からなる図柄（装飾図柄）、例えば、「0」、「1」、「2」・・・「7」のような数字が3列変動表示される。

50

【 0 0 6 2 】

一方、第1特別図柄表示部5C及び第2特別図柄表示部5Dにおいて変動表示されていた特別図柄が停止表示されると、液晶表示装置4の画面上においても装飾図柄が停止表示される。

【 0 0 6 3 】

また、第1特別図柄表示部5C及び第2特別図柄表示部5Dにおいて、変動、停止された特別図柄が特定の停止表示態様である場合には、「大当たり」であることを遊技者に把握させる演出画像が液晶表示装置4の画面上に表示される。

【 0 0 6 4 】

具体的には、第1特別図柄表示部5C及び第2特別図柄表示部5Dのいずれか一方において特別図柄が、例えば「大当たり」に対応する特定の表示態様で停止表示された場合には、液晶表示装置4の画面上に表示される演出用の装飾図柄の組み合わせが特定の表示態様（例えば、複数の図柄列のそれぞれに同一の図柄がすべて揃った状態で停止表示される態様）となり、さらに、大当たり用の演出画像が液晶表示装置4の画面上に表示される。

10

【 0 0 6 5 】

このような主制御基板28のメインCPU280は、遊技領域1pにおける所定の領域（第1始動口、第2始動口）を遊技球が通過した場合に、遊技者に有利な特別遊技（大当たり遊技状態）を実行するか否かを抽選可能な抽選手段を実現している。

【 0 0 6 6 】

メインROM281は、大当たり抽選や図柄抽選等といった各種の処理をメインCPU280に実行させるためのプログラムや、各種テーブルを記憶している。

20

【 0 0 6 7 】

例えば、図22に示すように、メインROM281に記憶されたテーブルとしては、大当たり抽選テーブルや図柄抽選テーブルがある。大当たり抽選テーブルは、大当たり抽選を乱数抽選により行う際に用いられ、例えば乱数範囲0～255のうち、0～254の乱数値が抽出されるとハズレで、255の乱数値が抽出されると大当たりの当選となる旨を規定している。図柄抽選テーブルは、大当たり当選の際、第1特別図柄（特図1）及び第2特別図柄（特図2）を乱数抽選により決定付けるために用いられる。このような図柄抽選テーブルは、例えば、第1特別図柄（特図1）に関し、乱数範囲0～99のうち、0～35の乱数値が抽出されると4R通常大当たりに対応する4R通常図柄を決定し、36～65の乱数値が抽出されると16R通常大当たりに対応する16R通常図柄を決定し、66～85の乱数値が抽出されると4R確変大当たりに対応する4R確変図柄を決定し、86～99の乱数値が抽出されると16R確変大当たりに対応する16R確変図柄を決定する旨を規定している。また、図柄抽選テーブルは、例えば、第2特別図柄（特図1）に関し、乱数範囲0～99のうち、0～33の乱数値が抽出されると4R確変大当たりに対応する4R確変図柄を決定し、34～99の乱数値が抽出されると16R確変大当たりに対応する16R確変図柄を決定する旨を規定している。

30

【 0 0 6 8 】

メインRAM282は、メインCPU280の一時記憶領域として、種々のデータ（フラグ、カウンタ、タイマ、及び変数の値等）を記憶する機能を有する。メインCPU280の一時記憶領域としては、メインRAM282に代えて、他の読み書き可能な記憶媒体を用いることもできる。

40

【 0 0 6 9 】

初期リセット回路283は、電源投入時においてリセット信号を生成するものであり、メインCPU280に接続されている。

【 0 0 7 0 】

I/Oポート284は、各種のデバイスからの入力信号をメインCPU280に、メインCPU280からの出力信号を各種のデバイスに送信するものである。

【 0 0 7 1 】

コマンド出力ポート285は、メインCPU280からの各種コマンドをサブ制御基板

50

33に送信するものである。

【0072】

リセット用クロックパルス発生回路286は、タイマ割込処理を実行するためのクロックパルスを所定の周期(たとえば2msec)毎に発生するものである。

【0073】

遊技情報出力回路287は、外部接続されたホールコンピュータHPや外部情報表示装置EDに各種の情報を出力するためのものである。

【0074】

主制御基板28に接続される各種のデバイスには、第1大入賞口ソレノイド315A、第2大入賞口ソレノイド316A、羽根部材ソレノイド313、変位部材ソレノイド318、及び外部端子板320が含まれる。10

【0075】

外部端子板320は、略して外端板と称され、ホール係員を呼び出す機能や大当たり回数を表示するといった機能を有する外部情報表示装置ED、あるいはホールに設置された複数の遊技機を管理するホールコンピュータHP等の外部機器との間でデータ通信するためのものである。

【0076】

主制御基板28に接続される各種のスイッチには、一般入賞口スイッチ310、第1始動口スイッチ311、第2始動口スイッチ312、通過ゲートスイッチ314、第1大入賞口カウントスイッチ315、第2大入賞口カウントスイッチ316、特定領域スイッチ317A、非特定領域スイッチ317B、及びバックアップクリアスイッチ319が含まれる。20

【0077】

バックアップクリアスイッチ319は、電断時等における主制御基板28及び後述する払出・発射制御基板34のバックアップデータを、ホール管理者の操作に応じてクリアするものである。

【0078】

また、主制御基板28には、払出・発射制御基板34を介して、発射装置26、払出装置35、及びカードユニット装置CUが接続されている。

【0079】

主制御基板28は、払出・発射制御基板34に賞球制御コマンドを送信する。払出・発射制御基板34は、主として発射装置26及び払出装置35を制御するものであり、発射装置26、払出装置35、及びカードユニット装置CUが接続されている。30

【0080】

カードユニット装置CUは、遊技者の操作に応じて遊技球の貸し出しを要求する信号を出力する第2操作ユニット9Bと接続されており、この第2操作ユニット9Bとの間で信号を送受信可能である。

【0081】

払出・発射制御基板34は、主制御基板28から供給される賞球制御コマンドと、カードユニット装置CUから供給される貸し球制御信号とを受け取り、払出装置35に対して所定の信号を送信することにより、払出装置35に遊技球を払い出させる。払出装置35は、例えば、第1始動口又は第2始動口への入賞1個あたり賞球数として3個の遊技球を払い出し、一般入賞口や第1大入賞口又は第2大入賞口への入賞1個あたり賞球数として10個の遊技球を払い出す。40

【0082】

払出・発射制御基板34は、発射装置26の発射ハンドル26bが遊技者によって把持され、かつ、時計回りの方向へ回動操作された場合に、その回動量に応じて発射ソレノイド(図示略)に電力を供給し、遊技球を遊技領域1pに向けて発射させる制御を行う。

【0083】

サブ制御基板33は、主制御基板28に接続されており、主制御基板28から各種のコ50

マンドが供給されるように構成されている。

【0084】

サブ制御基板33は、主制御基板28から供給される各種のコマンドに応じて、各種の制御、主として演出動作に係る制御を行うものであり、サブC P U 3 3 0、プログラムR O M 3 3 1、ワークR A M 3 3 2、コマンド入力ポート333、リアルタイムクロック(以下、「R T C : R e a l - T i m e C l o c k」という)334、表示制御回路335、音響制御回路336、発光制御回路337、及び演出装置制御回路338を有する。表示制御回路335には、液晶表示装置4が接続されている。音響制御回路336には、スピーカ10a, 10b, 10cが接続されている。発光制御回路337には、ランプや各種のL E D(図21においては、まとめてランプ・L E D 2 6 0と表記)が接続されている。演出装置制御回路338は、各種の可動演出役物や可動部材の可動機構(図21においては、まとめて可動演出装置270と表記)が接続されている。

【0085】

また、サブ制御基板33は、第1操作ユニット9Aと接続され、当該第1操作ユニット9Aに設けられたセンサ類(図示略)からの信号が入力可能とされる。例えば、操作部材(操作ボタン)2000が押下された状態を押下検出センサが検出すると、この押下検出センサからサブ制御基板33に操作部材2000の操作に応じた操作信号が入力される。サブ制御基板33はまた、第2操作ユニット9Bと接続され、当該第2操作ユニット9Bに設けられたセンサ類(図示略)からの信号が入力可能とされる。例えば、押圧ボタン3000が押下された状態を押下検出センサが検出すると、この押下検出センサからサブ制御基板33に押圧ボタン3000の操作に応じた操作信号が入力される。

【0086】

サブC P U 3 3 0は、プログラムR O M 3 3 1に記憶されたプログラムにしたがって、各種の処理、主として演出動作に係る処理を実行するものである。液晶表示装置4は、表示手段として機能する。特に、サブC P U 3 3 0は、主制御基板28から供給される各種のコマンドにしたがって、サブ制御基板33全体の制御を行う。

【0087】

プログラムR O M 3 3 1は、サブC P U 3 3 0が主として各種演出を制御するためのプログラムや各種のテーブルを記憶している。

【0088】

例えば、図22に示すように、プログラムR O M 3 3 1に記憶されたテーブルとしては、演出抽選テーブルがある。演出抽選テーブルは、例えば、スピーカユニット10及び送風機構110を用いた送風に係る演出(送風演出)、発光ユニット12を用いた光照射に係る演出(光照射演出)、操作部材2000あるいは押圧ボタン3000を用いた操作演出(第1操作演出、第2操作演出)といった各種演出の実行有無を決定するための演出抽選を乱数抽選により行う際に用いられる。なお、送風演出が実行される際は、それ同時にスピーカ10cを用いて低音を発生させる音響演出も実行される。第1操作演出は、第1操作ユニット9Aの操作部材2000を用いた演出であり、第2操作演出は、第2操作ユニット9Bの押圧ボタン3000を用いた演出である。

【0089】

具体的に、演出抽選テーブルは、大当たり抽選によるハズレ、4R通常大当たりの当選、16R通常大当たりの当選、4R確変大当たりの当選、16R確変大当たりの当選といった場合に、送風演出、光照射演出、操作演出の各演出を実行させるか否かを乱数抽選(乱数範囲0~99による抽選)により決定するための抽籤値を規定している。

【0090】

このような演出抽選テーブルによれば、送風演出については、大当たり抽選結果がハズレの場合、必ず0~99の乱数値が抽出されることで「演出なし」が決定され、4R通常大当たりの場合、0~30の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、31~99の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、16R通常大当たりの場合、0~95の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、96~99の乱数値が抽出され

10

20

30

40

50

ると「演出あり」が決定され、4 R 確変大当りの場合、0 ~ 5 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、5 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 確変大当りの場合、0 ~ 5 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、5 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定される。

【0 0 9 1】

光照射演出については、大当り抽選結果がハズレの場合、0 ~ 9 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、4 R 通常大当りの場合、0 ~ 9 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 通常大当りの場合、必ず0 ~ 9 9 の乱数値が抽出されることで「演出あり」が決定され、4 R 確変大当りの場合、0 ~ 9 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 確変大当りの場合、必ず0 ~ 9 9 の乱数値が抽出されることで「演出あり」が決定される。

10

【0 0 9 2】

第1操作演出については、大当り抽選結果がハズレの場合、0 ~ 9 5 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 6 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、4 R 通常大当りの場合、0 ~ 5 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、5 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 通常大当りの場合、0 ~ 5 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、5 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、4 R 確変大当りの場合、0 ~ 8 5 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、8 6 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 確変大当りの場合、0 ~ 9 5 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 6 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定される。

20

【0 0 9 3】

第2操作演出については、大当り抽選結果がハズレの場合、必ず0 ~ 9 9 の乱数値が抽出されることで「演出なし」が決定され、4 R 通常大当りの場合、0 ~ 9 7 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 8 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 通常大当りの場合、必ず0 ~ 9 9 の乱数値が抽出されることで「演出なし」が決定され、4 R 確変大当りの場合、0 ~ 9 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、9 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定され、1 6 R 確変大当りの場合、0 ~ 6 0 の乱数値が抽出されると「演出なし」が決定される一方、6 1 ~ 9 9 の乱数値が抽出されると「演出あり」が決定される。

30

【0 0 9 4】

このような演出抽選テーブルによれば、送風演出、光照射演出、第1操作演出、第2操作演出といった演出が同時に発生する組み合わせパターンが、ハズレあるいは大当りの種類に応じて確率的に異なる。すなわち、発生する演出の組み合わせパターンに応じてハズレや大当りの種類について見当をつけやすくすることができる。

【0 0 9 5】

また、操作演出についての規定内容からも明らかのように、第2操作ユニット9 B の押圧ボタン3 0 0 0 を用いた第2操作演出よりも、第1操作ユニット9 A の操作部材2 0 0 0 を用いた第1操作演出の方が出現頻度が高くなっている。すなわち、第1操作演出において用いられる操作部材2 0 0 0 よりも第2操作演出において用いられる押圧ボタン3 0 0 0 の方が使用頻度が低いので、押圧ボタン3 0 0 0 の近隣に配置される操作演出とは関係ない十字ボタン3 1 0 0 といったボタンの誤操作を未然に防ぐとともに、使用頻度の高い操作部材2 0 0 0 を独立した操作ユニットに備えることで配線や基板を簡易に専用設計することができる。

40

【0 0 9 6】

ワークRAM3 3 2は、サブCPU3 3 0の一時記憶領域として種々のデータ（フラグ、カウンタ、タイマ、及び変数の値等）を記憶するものである。

50

【 0 0 9 7 】

コマンド入力ポート 333 は、主制御基板 28 のメイン C P U 280 から送信された各種コマンドを受信し、サブ C P U 330 へと伝えるものである。

【 0 0 9 8 】

R T C 334 は、現在の日付を示す日付信号や現在の時刻を示す時刻信号をサブ C P U 330 に入力する。R T C 334 は、通常、遊技機本体に電源が供給されているときには遊技機本体からの電源によって動作し、遊技機本体の電源が切られているときには、電源基板（図示略）に搭載されたバックアップ電源から供給される電源によって動作する。これにより、R T C 334 は、遊技機本体の電源が切られている場合であっても現在の日時を計時することができる。なお、R T C は、サブ制御基板上に設けた電池によって動作するようにしてもよい。また、R T C に代わるものとしては、バックアップ R A M としての機能を有するワーク R A M に設けたカウンタを、所定時間ごと（例えば 2 m s 毎）にカウントアップすることによって時間を計時する手段として用いてもよい。

10

【 0 0 9 9 】

表示制御回路 335 は、サブ C P U 330 から供給されるデータに応じて、液晶表示装置 4 における表示制御を行うためのものであり、例えば画像データプロセッサ（V D P）と、各種の画像データを生成するためのデータが記憶されている画像データ R O M と、画像データを一時記憶するフレームバッファと、画像データを画像信号として変換する D / A コンバータとから構成されている。なお、表示制御回路 335 の構成は、あくまでも一例であり、これに限定されるものではない。

20

【 0 1 0 0 】

表示制御回路 335 は、サブ C P U 330 から供給される画像表示命令に応じて、液晶表示装置 4 の画面上に表示させるための画像データを一時的にフレームバッファに格納する。画像データとしては、例えば装飾図柄画像データ、背景画像データ、各種演出用画像データ、各種不正報知画像データ等が含まれる。

20

【 0 1 0 1 】

また、表示制御回路 335 は、所定のタイミングで、フレームバッファに格納された画像データを D / A コンバータ（図示略）に供給する。D / A コンバータは、画像データを画像信号として変換し、所定のタイミングで、この画像信号を液晶表示装置 4 に供給する。液晶表示装置 4 の画面上には、D / A コンバータからの画像信号に基づいて画像が表示される。

30

【 0 1 0 2 】

音響制御回路 336 は、スピーカ 10a, 10b, 10c から発生させる音楽や音声などのサウンドに関する制御を行うためのものであり、サウンド出力に関する制御を行う音源 I C 、各種のサウンドデータを記憶するサウンドデータ R O M 、サウンド信号を增幅するための増幅器（A M P）を含んでいる。なお、音響制御回路 336 の構成も、あくまでも一例であり、これに限定されるものではない。

【 0 1 0 3 】

音源 I C は、スピーカ 10a, 10b, 10c から発生させるサウンドの制御を行うものであり、サブ C P U 330 から供給されるサウンド発生命令に応じて、サウンドデータ R O M に記憶されている複数のサウンドデータから一つのサウンドデータを選択することができる。

40

【 0 1 0 4 】

また、音源 I C は、選択されたサウンドデータをサウンドデータ R O M から読み出し、サウンドデータを所定のサウンド信号に変換し、そのサウンド信号を増幅器に供給する。なお、この増幅器は、サウンド信号を増幅させ、スピーカ 10a, 10b, 10c から音を発生させる。

【 0 1 0 5 】

発光制御回路 337 は、装飾ランプ等を含むランプ・L E D 260 の制御を行うためのものであり、発光制御信号を供給するためのドライブ回路、複数種類のランプ装飾パター

50

ンが記憶されている装飾データROM等から構成されている。なお、発光制御回路337の構成も、あくまでも一例であり、これに限定されるものではない。

【0106】

演出装置制御回路338は、例えば、大当たり遊技状態において可動演出役物等を作動させる等の演出動作を制御する。

【0107】

<右側装飾部材15及び左側装飾部材16について>

右側装飾部材15及び左側装飾部材16は、互いに概ね左右対称の形状に形成されており、共に同様の部材を備えて構成される。以下の説明においては、便宜上、右側装飾部材15について説明する。

10

【0108】

右側装飾部材15及び左側装飾部材16は、所定の遊技条件が成立した場合に光の演出を行うものである。図23～図28に示すように、右側装飾部材15は、支持部材150、発光基板(図示略)、外側導光部材151、内側導光部材152、及び装飾カバー153を有する。支持部材150、発光基板、外側導光部材151、及び内側導光部材152は、装飾カバー153により覆われる。装飾カバー153の主な前面部は、半透明あるいは透明で光透過性を有する。

【0109】

支持部材150及び発光基板は、右側ベース板3aaに取り付けられる。支持部材150の裏面側には、発光基板が配置される。支持部材150には、複数のスリット150aが形成されており、これら複数のスリット150aに臨むように発光基板に設けられた複数のLED(図示略)が位置する。支持部材150の前部には、複数のスリット150aに沿うように外側導光部材151及び内側導光部材152が取り付けられる。LEDは、光量の確保とコスト面とを考慮し、所定の間隔(例えば、20mmから30mmの間隔)で配置されている。

20

【0110】

外側導光部材151及び内側導光部材152は、各々板状部材で構成され、外側導光部材151よりも内側導光部材152が大きくなるように形成されている。外側導光部材151及び内側導光部材152は、互いに左右に所定間隔離れるように位置する。これら外側導光部材151及び内側導光部材152は、大きさや配置が異なる以外は同様の構成からなるため、以下の説明においては、便宜上、内側導光部材152について説明する。

30

【0111】

図24～図28に示すように、内側導光部材152は、光入射面となる入射後端面152aと、光出射面となる出射前端面152bとを有する。入射後端面152aは、支持部材150の複数のスリット150aに臨むように配置される。これにより、複数のLEDは、入射後端面152aの長手方向に沿って並ぶように位置する。出射前端面152bは、装飾カバー153の内面に沿うように配置され、全体的に湾曲状に形成されている。

【0112】

図25及び図26に示すように、入射後端面152aは、長手方向に沿って凹凸をなすように鋸歯状のレンズカットが形成されている。これにより、スリット150aを通って入射後端面152aに入射したLEDからの光は、内側導光部材152の内部を概ね長手方向に拡散しながら進む。出射前端面152bは、いわゆるダイヤカット状のレンズカットが形成されている。これにより、入射後端面152aから内側導光部材152の内部へと進行してきた光は、ある程度広がりをもって前方へと照射される。なお、内側導光部材152の出射前端面152bは、外側導光部材151の出射前端面よりも遊技者が位置する手前側に配置されている。

40

【0113】

このような右側装飾部材15によれば、その内部を行進する光を側方に漏らすことなく出射前端面152bから効率よく拡散することができ、視覚を効果的に刺激するように光の演出を実行することができる。左側装飾部材16も、右側装飾部材15と同様の構成さ

50

れていることから、右側装飾部材 15 による光の演出と同時に、あるいは右側装飾部材 15 による光の演出とは異なるタイミングで視覚を効果的に刺激するように光の演出を実行することができる。

【0114】

<トップ飾り 14 について>

図 4 に示すように、トップ飾り 14 は、中央装飾ユニット 14 a、右側装飾ユニット 14 b、左側装飾ユニット 14 c を有する。右側装飾ユニット 14 b 及び左側装飾ユニット 14 c は、互いに概ね左右対称の形状に形成されており、共に同様の部材を備えて構成される。以下の説明においては、便宜上、中央装飾ユニット 14 a 及び右側装飾ユニット 14 b について説明する。

10

【0115】

[中央装飾ユニット 14 a]

中央装飾ユニット 14 a は、例えば大当たり開始時に発光することによって光の演出を行う正面視逆三角形状のものである。図 29 ~ 図 33 に示すように、中央装飾ユニット 14 a は、本体カバー 140、前面カバー 141、上部カバー 142、支持部材 143、発光基板 144、遮光部材 145、複数の導光部材 146 a ~ 146 c を有する。支持部材 143、発光基板 144、遮光部材 145、及び複数の導光部材 146 a ~ 146 c は、本体カバー 140、前面カバー 141、及び上部カバー 142 により覆われる。前面カバー 141 の前面部 141 a は、半透明あるいは透明で光透過性を有する。この前面部 141 a は、下部より上部に至るほど前方に位置するようなせり出す面であって、鉛直方向に対して傾斜した透光面をなすように配置される。

20

【0116】

本体カバー 140 の内側には、支持部材 143 が取り付けられる。支持部材 143 の前部には、発光基板 144 が取り付けられるとともに、発光基板 144 の前方に位置するように遮光部材 145 が取り付けられる。遮光部材 145 の下部には、複数の導光部材 146 a ~ 146 c が互いに所定間隔離れて取り付けられる。

【0117】

発光基板 144 の前面下部には、複数の導光部材 146 a ~ 146 c に対応する複数の LED 144 a が設けられており、発光基板 144 の前面上部には、後述する遮光部材 145 の上部に設けられた複数の開口 145 c に対応する複数の LED 144 b が設けられている。

30

【0118】

遮光部材 145 には、その上部と下部とを仕切るように隔壁 145 a が形成されている。遮光部材 145 の下部には、複数の導光部材 146 a ~ 146 c に対応するように複数のスリット 145 b a, 145 b b, 145 b c が形成されている。遮光部材 145 の上部には、後述する発光基板 144 の LED 144 b が露出するように複数の開口 145 c が形成されている。遮光部材 145 の隔壁 145 a の上面は、LED 144 b からの光を前方に向けて反射しやすい表面加工が施され、開口 145 c の周縁部も、LED 144 b からの光を前方に向けて反射しやすいように凹面状に形成されている。

40

【0119】

複数の導光部材 146 a ~ 146 c は、各々板状部材で構成され、正面視略 U 字状あるいは略 V 字状に形成されている。複数の導光部材 146 a ~ 146 c は、下方より上方に位置するものほど小さくなるように形成されており、導光部材 146 a よりも導光部材 146 b の方が小さく、導光部材 146 b よりも導光部材 146 c の方が小さくなっている。複数の導光部材 146 a ~ 146 c は、互いに所定間隔離れるように位置する。

【0120】

図 33 に示すように、複数の導光部材 146 a ~ 146 c は、光入射面となる入射後端面 146 a a, 146 b a, 146 c a と、光出射面となる出射前端面 146 a b, 146 b b, 146 c b を有する。入射後端面 146 a a, 146 b a, 146 c a は、遮光部材 145 のスリット 145 b a, 145 b b, 145 b c に臨むように配置される。

50

出射前端面 146ab, 146bb, 146cb は、鉛直方向に対して傾斜した前面カバー 141 の前面部 141a に沿うように配置される。

【0121】

入射後端面 146aa, 146ba, 146ca は、先述した右側装飾部材 15 の内側導光部材 152 の入射後端面 152a と同様に、長手方向に沿って凹凸をなすように鋸歯状に形成されている。これにより、入射後端面 146aa, 146ba, 146ca に入射した LED 144a からの光は、導光部材 146a ~ 146c の内部を概ね長手方向に拡散しながら進む。出射前端面 146ab, 146bb, 146cb は、先述した右側装飾部材 15 の内側導光部材 152 の出射前端面 15b と同様に、いわゆるダイヤカット状に形成されている。これにより、入射後端面 146aa, 146ba, 146ca から導光部材 146a ~ 146c の内部へと進行してきた光は、ある程度広がりをもって前方へと照射される。

【0122】

このような中央装飾ユニット 14a によれば、複数の導光部材 146a ~ 146c の出射前端面 146ab, 146bb, 146cb から照射された光は、前面カバー 141 の前面部 141a を通って外方に導かれるが、出射前端面 146ab, 146bb, 146cb が前面部 141a に対して比較的近くに位置し、この出射前端面 146ab, 146bb, 146cb に沿って光強度が比較的強い細長い領域が形成されるので、前面カバー 141 の下部の領域においては、出射前端面 146ab, 146bb, 146cb からの光が複数のライン状に見える。一方、前面カバー 141 の上部の領域においては、複数の LED 144b からの光が遮光部材 145 の開口 145c の周縁部等によって乱反射しつつ前面カバー 141 の前面部 141a を通って外方に放射されるが、導光部材 146a ~ 146c の出射前端面 146ab, 146bb, 146cb よりも前面部 141a に対して遠い奥方から反射光として前面部 141a へと導かれるので、前面カバー 141 の上部の領域においては、平均的に光が広がった広配光として見える。すなわち、遊技者の目線となる前面カバー 141 の斜め下方からは、上方からの万遍なくぼんやりとした光の中に下方においてライン状の光が立体的に浮かび上がるよう見える。

【0123】

[右側装飾ユニット 14b]

右側装飾ユニット 14b は、例えば大当たり開始時に音の発生や発光により演出を行うものである。図 34 ~ 図 39 に示すように、右側装飾ユニット 14b は、スピーカユニット 10A、本体支持部材 147A、本体カバー 147B、前面カバー 147C、発光基板 148、導光部材 149 を有する。スピーカユニット 10A 及び発光基板 148 は、本体支持部材 147A の後部に取り付けられ、発光基板 148 は、スピーカユニット 10A の前部に取り付けられる。導光部材 149 は、本体支持部材 147A の前側内部に取り付けられ、前面カバー 147C によって覆われる。前面カバー 147C の前面 147Ca は、網目状に形成されており、隙間からスピーカ 10b の振動面や導光部材 149 が視認可能とされる。

【0124】

スピーカユニット 10A は、スピーカ 10b の振動面（出音部）を前方に向けて露出させる開口（図示略）を有し、この開口の周縁部に沿うように発光基板 148 が取り付けられる。発光基板 148 には、スピーカ 10b の周縁に沿って環状に並ぶように複数の LED 148a が設けられている。

【0125】

本体支持部材 147A には、スピーカ 10b の振動面及び発光基板 148 の複数の LED 148a を露出させて周縁に導光部材 149 を取り付け可能な開口部 147Aa が形成されている。

【0126】

導光部材 149 は、スピーカ 10b の振動面で発生した音を前方に導くための筒部 149a、筒部 149a の周縁後側にあって光入射面となる入射後端面 149b、筒部 149

10

20

30

40

50

a の周縁前側にあって光出射面となる出射前端面 149c、出射前端面 149c の周縁から前方へと広がりつつ延出する突出部 149d を有する。

【0127】

筒部 149a の後部には、スピーカ 10b の振動面が配置され、振動面で発生した音は、筒部 149a を通って前方へと導かれる。入射後端面 1449b は、発光基板 148 の LED 148a と対向するように配置される。入射後端面 149b は、先述した右側装飾部材 15 の内側導光部材 152 の入射後端面 152a と同様に、周方向に沿って凹凸をなすように鋸歯状に形成されている。これにより、入射後端面 149b に入射した LED 148a からの光は、筒部 149a を概ね周方向に拡散しながら進む。

【0128】

出射前端面 149c は、前面カバー 147C の前面 147Ca から所定距離後方に離れて位置する。この出射前端面 149c も、入射後端面 149b と同様に、周方向に沿って凹凸をなすように鋸歯状に形成されている。これにより、入射後端面 149b から筒部 149a へと進行してきた光は、正面から見て主として周方向に広がりつつリング状に見えるように前方へと照射される。

10

【0129】

突出部 149d は、左右両側の一部が部分的に前方へと延出するように形成されており、その先端が前面カバー 147C の前面 147Ca の裏側に当接するように配置される。なお、突出部 149d は、前面 147Ca の裏側に接触させることなく近接するように配置してもよい。また、突出部 149d に代えて出射前端面 149c を前面 147Ca の裏側に当接するように配置したり、あるいは近接するように配置してもよい。

20

【0130】

このような右側装飾ユニット 14b によれば、スピーカ 10b から発生する音に合わせてスピーカ 10b の周りがリング状に光って見える演出を行うことができる。また、前面カバー 147C の前面 147Ca は、網目状に形成されているため、それだけでは外部からの衝撃や押圧によって破損しやすいが、導光部材 149 の突出部 149d が当接することで補強支持された状態にあるため、外部からの衝撃や押圧による破損を効果的に防ぐことができる。すなわち、網目状（格子状）の前面カバー 147C は、導光部材 149 に沿ってスピーカ 10b からの音が前面カバー 147C の裏面まで導かれるので、美観を損ねることなくスピーカ 10b からの音を支障なく外方に伝えることができる。また、導光部材 149 が前面カバー 147C の支持部材としての機能を果たすため、前面カバー 147C の剛性を高めることができる。

30

【0131】

以上説明した第 1 実施形態に係る遊技機によれば、以下のような作用効果を得ることができる。

【0132】

スピーカユニット 10 やその周辺の構成によれば、スピーカ 10c から音が出力されるのに伴いエンクロージャ 10e の開口 10ec から空気流が流出する。このとき、送風機構 110 の開閉部材 115 が空間部 110a を開放した状態にあると、開口 10ec からの空気流が送風口 80 へとまっすぐ向かう方向に導かれ、送風口 80 から発射ハンドル 26b の方へと十分な風圧をもって風が流れる。その結果、遊技者は、発射ハンドル 26b を把持する手に風を感じるとともに、スピーカ 10c からの音も送風口 80 から風と共に出力される音とのヘルムホルツ共鳴によって重低音に感じることができる。

40

【0133】

その一方、送風機構 110 の開閉部材 115 が空間部 110a を閉鎖した状態にあり、開口 10ec からの空気流が空間部 110a の下方へと略直角に曲がって流れるような方向に導かれると、アンダーカバー 8c の通気口 8ca から風が排出されることとなり、発射ハンドル 26b へと風が導かれなくなる。これにより、遊技者は、発射ハンドル 26b を把持する手に風を感じることなく、スピーカ 10c からの音のみを通気口 8ca から風と共に出力される音とのヘルムホルツ共鳴によって重低音に感じることができる。

50

【 0 1 3 4 】

すなわち、スピーカユニット 10 の開口 10 e c から流れる風の方向を送風機構 110 により切り替えるだけで低音と風を感じさせたり、あるいは低音のみを感じさせることができるので、スピーカユニット 10 の小型化及び簡素化を図りつつ音と風による演出を臨機応変に行うことができる。

【 0 1 3 5 】

また、スピーカユニット 10 の開口 10 e c から出る風の方向を送風機構 110 により切り替えるだけで音と風を感じさせたり、あるいは音のみを感じさせることができ、着脱自在の右下側面カバー 8 b a やアンダーカバー 8 c に送風口 8 0 や通気口 8 c a を形成し、これらとスピーカユニット 10との間に送風機構 110 配置するように各々個別に設計すればよいので、スピーカユニット 10 及びその周辺の構成について、製造コストや設計自由度、メンテナンス性に優れたものとすることができる。10

【 0 1 3 6 】

また、バスレフ型でエンクロージャ 10 e の容積が比較的大きいスピーカユニット 10 でも、上皿 17 や下皿 18 に貯留された遊技球を取り扱う遊技者の手の支障とならないスペースに配置することができるので、スピーカユニット 10 の配置スペースを確保しつつスピーカ装置を効率よくレイアウトすることができる。

【 0 1 3 7 】

また、エンクロージャ 10 e の左上部 10 e a が上皿本体 17 p の底部に当接するとともに左下部 10 e b 下皿本体 18 p に当接するので、上皿 17 p を支持するとともに、スピーカ 10 c の作動に応じてエンクロージャ 10 e からの振動が上皿 17 や下皿 18 に伝えられ、この振動により上皿 17 や下皿 18 における遊技球の詰まりを効果的に解消することができる。20

【 0 1 3 8 】

また、押圧ボタン 3000 を用いた第 2 操作演出よりも操作部材 2000 を用いた第 1 操作演出の方が発生頻度が高くなるように設定されており、すなわち、使用頻度が高い操作部材 2000 が操作ユニット 9 A に単独で設けられる一方、使用頻度が低い押圧ボタン 3000 が球貸ボタン 23 や返却ボタン 24 と兼用の共通基板 3200 に設けられるので、使用頻度に応じて使いやすい位置に操作部材 2000 及び押圧ボタン 3000 を各々配置して各基板への配線を簡素化することができ、ひいては製造コスト及び配置スペースの節減化を図ることができる。30

【 0 1 3 9 】

また、使用頻度が高い操作部材 2000 が円形状として覚えられる一方、使用頻度が低い押圧ボタン 3000 が円形状とは異なる四角形状として覚えやすくなるので、使用頻度に応じて操作部材 2000 及び押圧ボタン 3000 を区別しやすい外形形状として設けることができ、ひいては複数の操作手段を使いやすくすることができる。また、四角形状の押圧ボタン 3000 と十字状の十字ボタン 3100 については、互いに直線部分となる一部の端部が対向するように隣接して配置されるので、狭いスペースにあってもこれらの複数のボタンを配置することができる。

【 0 1 4 0 】

また、16 R 通常大当たりあるいは 16 R 確変大当たりといった遊技者にとって有利な遊技状態に移行する条件を満たす場合には、必ず光照射演出が実行され、それと同時に送風演出が実行される場合があるので、遊技者は、発射ハンドル 26 b を把持する手に視覚及び触覚のいずれかによって光照射演出あるいは送風演出が実行されていることを感知することができ、そのような演出を見逃すことなく有利な遊技状態に移行することを察知することができる。また、送風演出が実行される際は、スピーカ 10 c からの重低音による音響演出も同時に実行されることとなり、重低音による振動も感じさせることができる。40

【 0 1 4 1 】

また、例えば右側装飾部材 15において、外側導光部材 151 及び内側導光部材 152 の入射後端面 152 a では、鋸歯状のレンズカットにより LED が並ぶ長手方向へと光を

10

20

30

40

50

拡散しながら入射することにより、導光体内を光が効率よく進行する一方、外側導光部材 151 及び内側導光部材 152 の出射前端面 152b では、入射後端面 152a から導光体内へと導かれた光をダイヤカット状のレンズカットにより外方へと効率よく散乱させることができるので、色ムラを解消して光を効率よく照射することができる。

【0142】

また、例えば右側装飾ユニット 14bにおいて、前面カバー 147c の網目状の前面 147ca の裏面に当接するように導光部材 149 の突出部 149d が配置され、出射前端面 149c が前面 147ca から所定間隔離れつつ、スピーカ 10b の振動面を遮らないようにその周縁に沿って環状に配置されるので、入射後端面 149b 側に位置する LED 148a を前面カバー 147c の正面から見えなくすることができ、美観を損ねることなくスピーカ 10b からの音を支障なく外方に放出することができる。

10

【0143】

また、例えば中央装飾ユニット 14aにおいて、複数の導光部材 146a～146c の出射前端面 146ab, 146bb, 146cb は、LED 144b が露出する遮光部材 145 の開口 145c の周縁部よりも発光基板 144 から遠い距離にあり、前面カバー 141 の前面部 141a 付近に配置されるので、開口 145c の周縁部で乱反射して前方へと導かれる LED 144b の光と、導光部材 146a～146c の体内を通って出射前端面 146ab, 146bb, 146cb から照射される LED 144a の光とは、平均的に拡散したような光とライン状の光となり、これらの光の視認性に明瞭な差を生じせしめることができ、ひいては斬新な光の演出を実現することができる。

20

【0144】

なお、送風機構 110 の変形例としては、図 40 に示すようなものを適用してもよい。図 40 に示す送風機構 110 では、空間部 110a の下方及び開口部 110b を排他的に開閉可能な回動自在のシャッタ部材 117 が設けられる。図 40(a) に示すように、シャッタ部材 117 は、図外の開口 10ec からの風の流れを開口部 110b へと導く場合は、水平姿勢をなすように位置する。このとき、空間部 110a の下方へと完全に風が導かれなくなる。一方、図 40(b) に示すように、シャッタ部材 117 は、図外の開口 10ec からの風の流れを空間部 110a の下方へと導く場合は、図 40(a) に示す水平姿勢から回動して起立姿勢をなすように位置する。このとき、空間部 110a の側方へとまっすぐ進もうとする風の流れが阻害され、空間部 110a の下方へと略直角に曲がるように風が導かれる。このような送風機構 110 によれば、図外の送風口 80 へと風を導く際には、空間部 110a の下方へと風を漏らさずに充分な風圧をもって送風口 80 へと風を導くことができる。

30

【0145】

「第 2 実施形態」

図 41～図 84 は、第 2 実施形態に係るパチンコ遊技機 Y を説明する図である。

【0146】

第 2 実施形態に係るパチンコ遊技機 Y は、表枠 3 (図 1 参照) とは異なる構成の本体枠を有し、上下方向に配列された 2 台のプロジェクタユニットを備える。なお、第 2 実施形態に係るパチンコ遊技機 Y は、矛盾の無い限り、第 1 実施形態のパチンコ遊技機の構成を備え、同様の作用効果を得ることができる。

40

【0147】

図 41 は、パチンコ遊技機 Y の外観斜視図、図 42 は、パチンコ遊技機 Y の分解斜視図である。パチンコ遊技機 Y は、本体枠 (外枠) 2 と、本体枠 2 に回動自在に軸支された本体ユニット 400 と、本体ユニット 400 の前面側に取り付けられた遊技盤 1A と、遊技盤 1A の前面側において本体ユニット 400 に取り付けられたガラスドア 5 と、を備える。

【0148】

「本体及びガラスドア」

外枠としての本体枠 2 は、第 2 実施形態と同様の構成であり、本体ユニット 400 を、一方の側縁近傍において、上下方向に延びる回転軸としての本体枠ヒンジ 2b を中心に回

50

動可能に軸支する。ガラスドア 5 は、第 2 実施形態のガラスドア 3 0 と同様の構成であり、下部に、後述する皿ユニット 9 0 0 が設けられている。

【 0 1 4 9 】

[本体枠]

図 4 3 は、本体ユニット 4 0 0 の分解斜視図である。本体ユニット 4 0 0 は、前面側に配置される取付枠 4 1 0 と、取付枠 4 1 0 の背面側に取り付けられ、遊技機構成部品を収容可能であるカバー部材 4 3 0 と、取付枠 4 1 0 とカバー部材 4 3 0 との間に設けられる取付ベース 4 2 0 と、を備える。

【 0 1 5 0 】

[取付枠]

図 4 4 は、取付枠 4 1 0 の分解斜視図である。取付枠 4 1 0 は、1 対の縦枠 4 1 1 と、1 対の横枠 4 1 2 と、を有し、略長方形形状の外観を形成する。取付枠 4 1 0 は、貯留タンク 4 1 5 を有し、後述するプロジェクタユニット b による照射光が投影されるスクリーン部 b 4 及び遊技盤 1 A、発射装置 2 6 等が取り付けられている。また、取付枠 4 1 0 は、背面側において、遊技盤 1 A のアウトロ 5 5 (図 4 2 参照) に対応する位置に、後述する球検知ユニット 8 0 0 (図 4 3 参照) が設けられている。また、1 対の縦枠 4 1 1 は、背面側にそれぞれ取付ベース 4 2 0 及びカバー部材 4 3 0 を別々に固定可能な固定部 4 1 1 a (図 4 3 参照) を有する。

【 0 1 5 1 】

1 対の縦枠 4 1 1 の内側面には、遊技盤 1 A を着脱自在に固定する遊技盤可動止め具 4 1 3 が、それぞれ取り付けられている。遊技盤可動止め具 4 1 3 は、縦枠 4 1 1 に沿って、上下方向の任意の位置で固定されている。遊技盤可動止め具 4 1 3 は、遊技盤 1 A の側縁を、着脱自在に挟持する。このような遊技盤可動止め具 4 1 3 により、例えば、遊技盤 1 A の下辺を、取付枠 4 1 0 の下部に配置されている溝等の係止部に係止させ、上辺の両端近傍を、遊技盤可動止め具 4 1 3 により挟持することで、遊技盤 1 A を、取付枠 4 1 0 に固定することが可能となる。

【 0 1 5 2 】

また、1 対の縦枠 4 1 1 の内側面には、スクリーン部 b 4 を着脱自在に固定するスクリーン止め具 4 1 4 が、それぞれ取り付けられている。スクリーン止め具 4 1 4 は、縦枠 4 1 1 に沿って、上下方向の任意の位置で固定されている。取付枠 4 1 0 の背面には、遊技盤可動止め具 4 1 3 及びスクリーン止め具 4 1 4 を覆うようにカバー部材 4 3 0 が取り付けられている。なお、遊技盤可動止め具 4 1 3 やスクリーン止め具 4 1 4 は、縦枠 4 1 1 上を移動可能なように構成し、任意の位置で固定できるように構成してもよい。縦枠 4 1 1 に、遊技盤 1 A 等の遊技部材や、スクリーン部 b 4 等の演出装置を、固定する治具を、上下方向に移動可能に取り付けることで、遊技部材や演出装置の大きさや種類に応じて、治具種類や位置を変更することが可能となるので、遊技機の多様なレイアウトが可能となる。

【 0 1 5 3 】

[遊技盤]

図 4 5 は、遊技盤 1 A の上面図である。遊技盤 1 A は、一般的な遊技盤 1 と同様の構成を備え、更に、以下の構成を有する。遊技盤 1 A は、遊技領域 1 p を備え、遊技盤 1 A の裏面側 (背面側) に設けられた第 1 大入賞口ソレノイド 5 3 b 等と、第 1 大入賞口ソレノイド 5 3 b 等の配線部が接続される遊技盤中継基板 1 0 1 と、を有する。また、遊技盤 1 A は、透過性を有する素材で形成され、背面側にスクリーンシートが貼付され、後述するプロジェクタユニット b から照射された投影光が投影されるスクリーンとしても機能する。

【 0 1 5 4 】

遊技盤中継基板 1 0 1 は、裏面側 (背面側) において、遊技盤 1 A の遊技領域 1 p が形成された面に対して、略直角に背面側に延びる垂直ベース 1 0 1 A に取り付けられることで、遊技盤 1 A に対し、略直角に立設する。遊技盤中継基板 1 0 1 は、他の基板に電気的に接続するためのコネクタが接続されるコネクタ接続部 1 0 1 a が設けられている。

10

20

30

40

50

【 0 1 5 5 】

また、遊技盤中継基板 101 は、後述する後述するカバー部材 430 の開口部 432e を介して、カバー部材 430 の外部からコネクタ接続部 101a に対する接続操作が可能な位置まで延設され、かつ、少なくとも遊技盤中継基板 101 の外側部分がカバー部材 430 で覆われている状態で、コネクタ接続部 101a は、配線差込口 101b が、後述するカバー部材 430 の開口部 432e の方向に向くように配置されている。コネクタ接続部 101a は、遊技盤コネクタ接続部の一例として機能し、後述する中継基板 100 (図 51 参照) の特定部品コネクタ接続部の一例である中継基板コネクタ接続部 100a (図 51 参照) と配線部材 (ケーブル) により接続される。

【 0 1 5 6 】

図 46 は、遊技盤 1A の変形例の上面図である。図 46 では、遊技盤 1A の垂直ベース 101A が設けられた部分を拡大して示している。変形例の遊技盤中継基板 101 は、遊技盤 1A に対し、略直角に立設した状態から、遊技盤 1A と平行な状態となるように折り畳み可能である。詳細には、変形例の垂直ベース 101A は、遊技盤 1A に対し、略直角に立設したベース部材 101Aa と、遊技盤 1A の遊技領域 1p と並行して延びる回転軸となるヒンジ 101B により回動自在に、ベース部材 101Aa に連結され、遊技盤中継基板 101 が取り付けられた回動部材 101Ab と、を備える。また、変形例の垂直ベース 101A は、ベース部材 101Aa と回動部材 101Abとの接合面において、ベース部材 101Aa と回動部材 101Abとのいずれか一方に、突起 101a が形成され、他方に、突起 101a が挿入可能なボス穴 101b が形成されている。回動部材 101Ab が遊技盤 1A に対し、略直角に立設され、突起 101a がボス穴 101b に挿入されることで、遊技盤中継基板 101 が、遊技盤 1A に対し、略直角に立設した状態で固定される。また、この状態から回動部材 101Ab が、ヒンジ 101B を中心に回動されることで、突起 101a がボス穴 101b から引き抜かれ、遊技盤中継基板 101 が、遊技盤 1A と平行な状態となるように折り畳まれる。

【 0 1 5 7 】

[取付ベース]

図 47 は取付ベース 420 の斜視図、図 48 は取付ベース 420 の正面図、図 49 は本体ユニット 400 の断面図である。取付ベース 420 は、遊技に関連する制御を実行可能な遊技装置としてのプロジェクタユニット b 及びミラー部材 b3 が取り付けられる。取付ベース 420 は、プロジェクタユニット b が取り付けられる遊技装置取付部 421 と、遊技装置取付部 421 の下に形成され、プロジェクタユニット b から照射された投影光が通過可能な投影光用孔 422 と、投影光用孔 422 の下に配置され、ミラー部材 b3 が取り付けられるミラー部材ベース 423 と、遊技盤 1A の遊技盤中継基板 101 (図 46 参照) が挿通する基板用孔 424 と、を有する。取付ベース 420 は、遊技装置取付部 421 、投影光用孔 422 及びミラー部材ベース 423 から成る構成を 2 つ有し、これらの構成が上下方向に配列されている。このような上の構成は、プロジェクタユニット b から照射された投影光を、スクリーン部 b4 の背面に投影する。また、下の構成は、プロジェクタユニット b から照射された投影光を、遊技盤 1A の背面に投影する。基板用孔 424 は、遊技盤 1A が取り付けられた取付枠 410 に、取付ベース 420 を取り付けた状態において、遊技盤中継基板 101 の背面側に配置され、遊技盤中継基板 101 (図 46 参照) が挿通する孔である。

【 0 1 5 8 】

遊技装置取付部 421 は、背面側から前面側に向かって下り傾斜した板状体であり、背面側に、プロジェクタユニット b が、前面側斜め下方に向けて投影光を照射するように取り付けられる。投影光用孔 422 は、プロジェクタユニット b から照射された投影光を遮らない範囲で形成された孔である。ミラー部材ベース 423 は、背面側から前面側に向かって下り傾斜した板状体である。また、ミラー部材ベース 423 は、プロジェクタユニット b から照射された投影光を反射するのに必要な範囲で形成されている。具体的には、ミラー部材ベース 423 は、背面側から前面側に向かって下り傾斜しているため、上方に取

10

20

30

40

50

り付けられたプロジェクタユニット b からの距離が、背面側から前面側に行くほど遠くなる。このため、プロジェクタユニット b から照射された投影光を反射するのに必要な範囲の幅は、前面側より背面側の方が狭くなる。すなわち、ミラー部材ベース 4 2 3 におけるプロジェクタユニット b から照射された投影光を反射するのに必要な範囲は、上面視で、背面側の辺の幅が、前面側の辺の幅より狭い台形形状となる。このため、ミラー部材ベース 4 2 3 は、図 4 8 に示すように、上面視で、背面側の辺の幅が、前面側の辺の幅より狭い台形形状に形成されている。

【 0 1 5 9 】

また、このミラー部材ベース 4 2 3 の上面に取り付けられたミラー部材 b 3 も、上面視で、背面側の辺の幅が、前面側の辺の幅より狭い台形形状に形成されている。また、ミラー部材ベース 4 2 3 は背面側から前面側に向かって下り傾斜しているので、図 4 8 に示すように、ミラー部材ベース 4 2 3 及びミラー部材 b 3 は、正面視で、上方の辺の幅が、下方の辺の幅より狭い台形形状に形成されている。また、ミラー部材 b 3 は、ミラー部材ベース 4 2 3 に、台形形状の 4 隅近傍にそれぞれ設けられた調整部材 4 2 3 a により取り付けられている。調整部材 4 2 3 a は、例えば、ミラー部材ベース 4 2 3 とミラー部材 b 3 とを締結する締結部材と、ミラー部材ベース 4 2 3 とミラー部材 b 3 との間に配置された弾性部材とにより構成され、締結部材を緩めることでミラー部材ベース 4 2 3 とミラー部材 b 3 とが離間し、締結部材を締めることでミラー部材ベース 4 2 3 とミラー部材 b 3 とが近接する。このような調整部材 4 2 3 a により、ミラミラー部材 b 3 のミラー部材ベース 4 2 3 に対する取り付け角度を調整することで、プロジェクタユニット b から照射された投影光の、スクリーン部 b 4 又は遊技盤 1 A に投影される位置や角度を調整することができる。

【 0 1 6 0 】

このような遊技装置取付部 4 2 1 にプロジェクタユニット b を取り付けることで、後述するプロジェクタ装置本体 b 2 からの投影光を出射する投射レンズ b 2 a が設けられたプロジェクタカバー b 1 の一方の端部側をパチンコ遊技機 Y (図 4 2 参照) の前面側に、一方の端部側の反対の端部を背面側に配置し、かつ一方の端部側を反対の端部側より低くなるように設けることが可能となる。そして、プロジェクタユニット b は、カバー部材 4 3 0 に覆われる。これにより、投射レンズ b 2 a から出射される投影光を遮らない位置であつて、カバー部材 4 3 0 とプロジェクタカバー b 1 の下部とカバー部材 4 3 0 との間に所定の空間 4 0 5 が形成され、この所定の空間 4 0 5 に、後述するカバー部材 4 3 0 の凹部 4 3 1 a を配置し、この凹部 4 3 1 a に主制御基板 7 0 A を収容することが可能となる。

【 0 1 6 1 】

なお、取付ベース 4 2 0 には、プロジェクタユニット b に限らず、液晶表示装置等のその他の遊技装置を取付可能な形状に形成してもよい。すなわち、取付ベース 4 2 0 は、取付枠 4 1 0 とカバー部材 4 3 0 との間に形成された空間内に収容可能な範囲で、遊技装置の種類に応じて、形状を変更可能である。

【 0 1 6 2 】

[プロジェクタユニット]

図 4 9 に示すように、プロジェクタユニット b は、投影光を生成可能な投影画像生成装置としてのプロジェクタ装置本体 b 2 と、プロジェクタ装置本体 b 2 を収容可能な収容ケースとしてのプロジェクタカバー b 1 と、プロジェクタ装置本体 b 2 からの投影光を出射する照射部としての投射レンズ b 2 a と、を含む。プロジェクタ装置本体 b 2 は、副制御回路 2 0 0 (図 8 4 参照) に接続され、副制御回路 2 0 0 により、プロジェクタ制御回路 9 0 (図 8 4 参照) が制御され、光学機構 (図示略) による投射光を、投射レンズ b 2 a により拡大して出射し、この照射光をミラー部材 b 3 に反射させ、遊技盤 1 A やスクリーン部 b 4 の背面に向けて照射光を投影することにより、視覚的な演出として映像を表示する。このようなスクリーン部 b 4 は、プロジェクタユニット b から照射される投影光を反射可能な反射部の一例として機能する。また、スクリーン部 b 4 は、ミラー部材 b 3 により反射される投影光により所定の画像を映し出すスクリーン部の一例として機能する。ま

10

20

30

40

50

た、上述した空間 405 に対応する位置において、カバー部材 430 の一部が凹形状に形成されており、凹部内に主基板 70A を収容可能となっている。

【0163】

図 50 は、プロジェクタユニット b から出射された投影光の光軸を説明する図である。これらの照射光は、図 50 に示すように、上部に設けられたプロジェクタユニット b の投射レンズ b2a からの投影光 L1 が、点線で示すような投影範囲を形成しつつ、下方に向かって出射され、上部のミラー部材 b3 により、前面側斜め上方に向かって反射してスクリーン部 b4 の背面側に投影される。本実施形態の投射レンズ b2a は、レンズ部材で構成され、またレンズ部材の上半分側（前面側）は遮光された状態となっており、レンズ部材の下半分側（背面側）から出射される投影光でもって投影画像を生成している。よって、投射レンズ b2a から出射される投影光はレンズ部材の下半分側から広がるように形成される。同様に、下部に設けられたプロジェクタユニット b の投射レンズ b2a からの投影光 L2 が、点線で示すような投影範囲を形成しつつ、下方に向かって出射され、下部のミラー部材 b3 により、前面側斜め上方に向かって反射して、遊技盤 1A の背面側に投影される。

このように、プロジェクタユニット b またはミラー部材 b3 を一定の設置角度にて配置し、それらの背後に生じるスペースにプロジェクタユニット b や基盤ケースなどを収容することで複数の遊技装置を配しつつも他の遊技機構成部品を効率よく配置でき、省スペース化を実現できる。

【0164】

[カバー部材]

図 51 はカバー部材 430 の背面側から観た斜視図、図 52 はカバー部材 430 の前面側から観た斜視図である。図 51 に示すように、カバー部材 430 は、背面部 431 及び互いに対向する 2 つの側面 432 から形成され、取付ベース 420（図 49 参照）との間に形成される空間の内部に、遊技機構成部品の少なくとも一部を収容可能である。また、カバー部材 430 は、最も背面側に設けられることにより、遊技盤の背面側に設けられ、電気部品を覆うカバー部材の一例として機能する。

【0165】

図 51 に示すように、背面部 431 の幅は、取付ベース 420 の幅よりも狭く形成されている。背面部 431 は、主制御基板 70A を収容可能な凹部 431a と、凹部 431a を覆う蓋部 431b と、プロジェクタユニット b（図 49 参照）の廃熱口に対応する位置に形成された開口部 431c と、払出制御基板 123A を収容可能な払出制御基板収容部 431d と、を有する。また、図 52 に示すように、背面部 431 には、後述する第 2 誘導樋 434 の受入部 434a（図 56 参照）が配置される第 2 誘導樋用開口 432f が形成されている。図 49 に示すように、凹部 431a 及び払出制御基板収容部 431d は、カバー部材 430 の表面からパチンコ遊技機 Y 内部側に突出するように形成され、主制御基板 70A や払出制御基板 123A をカバー部材 430 の表面よりパチンコ遊技機 Y 背面側に突出しないように収容可能である。凹部 431a は、カバー部材 430 が取付ベース 420（図 49 参照）の背面側に取り付けられた状態で、プロジェクタカバー b1 の下部に形成される所定の空間 405 に配置され、主制御基板 70A が収容され、蓋部 431b で覆われる。主制御基板 70A は、例えば、中継基板 100（図 51 参照）と配線部材（ケーブル）により接続される一般部品コネクタ接続部の一例である主制御基板コネクタ接続部 70Aa を備える。主制御基板コネクタ接続部 70Aa は、主制御基板 70A の側縁近傍に設けられ、凹部 431a に蓋部 431b を取り付けた状態でも、蓋部 431b に覆われず、露出しており、配線部材（ケーブル）の着脱が可能に構成されている。これにより、背面部 431 の表面が略面一の状態となる。このように、カバー部材 430 は、背面部 431 及び少なくとも 2 つの側面部 432 から形成される空間の内部に、第 1 の遊技機構成部品の一例である主制御基板 70A を収容可能である。また、開口部 431c は、2 つのプロジェクタユニット b の廃熱口に対応する位置にそれぞれ形成されている。払出制御基板収容部 431d は、取付ベース 420 の背面側に取り付けられた状態で、下のミラ

10

20

30

40

50

一部材ベース 4 2 3 の下部に形成された空間に配置される。また、凹部 4 3 1 a は、カバー部材 4 3 0 において、後述する球通路ユニット 7 3 0 (図 5 8 参照) の配置位置より中央寄りに配置されている。

【 0 1 6 6 】

図 5 1 に示すように、互いに対向する側面 4 3 2 は、互いの幅が、前面側から背面側にいくにつれて狭くなっている。側面 4 3 2 は、背面部 4 3 1 と隣接しない端部側に取付ベース 4 2 0 に装着可能な取付部 4 3 3 を備えるとともに、少なくとも 1 つの側面 4 3 2 が、取付部 4 3 3 が設けられた端部から背面部 4 3 1 と隣接する端部へ傾斜するように形成されている。傾斜した側面 4 3 2 には、特定収容部である側面第 1 凹部 4 3 2 a と、側面第 1 凹部 4 3 2 a を覆う側面第 1 蓋部 4 3 2 b と、一般収容部である側面第 2 凹部 4 3 2 c と、側面第 2 凹部 4 3 2 c を覆う側面第 2 蓋部 4 3 2 d と、側面第 1 凹部 4 3 2 a に形成された開口部 4 3 2 e と、を有する。また、凹部 4 3 1 a 及び側面第 2 凹部 4 3 2 c は、少なくとも 2 つ以上の収容部より構成される一般収容部の一例であり、特定収容部の一例である側面第 1 凹部 4 3 2 a に隣接している。

【 0 1 6 7 】

側面第 1 凹部 4 3 2 a は、カバー部材 4 3 0 の外側面に設けられ、背面部 4 3 1 の凹部 4 3 1 a や払出制御基板収容部 4 3 1 d と隣接する位置に形成され、特定の遊技機構成部品又は第 2 の遊技機構成部品としての中継基板 1 0 0 を収容可能である。側面第 2 凹部 4 3 2 c は、カバー部材 4 3 0 の外側面に設けられ、側面第 1 凹部 4 3 2 a に隣接する位置に形成され、その他の複数種類の遊技機構成部品としての副制御基板 8 0 A (サブ制御基板 3 3 に相当) を収容可能である。側面第 1 凹部 4 3 2 a 及び側面第 2 凹部 4 3 2 c は、カバー部材 4 3 0 の表面からパチンコ遊技機 Y 内部側に突出するように形成され、中継基板 1 0 0 や副制御基板 8 0 A をカバー部材 4 3 0 の表面よりパチンコ遊技機 Y 背面側に突出しないように収容可能である。中継基板 1 0 0 は、例えば、主制御基板 7 0 A (主制御基板 2 8 に相当)、副制御基板 8 0 A、遊技盤中継基板 1 0 1 (図 4 5 参照) 等と配線部材 (ケーブル) により接続される特定部品コネクタ接続部の一例である中継基板コネクタ接続部 1 0 0 a を備える。副制御基板 8 0 A は、例えば、中継基板 1 0 0 等と配線部材 (ケーブル) により接続される一般部品コネクタ接続部の一例である副制御基板コネクタ接続部 8 0 A a を備える。すなわち、中継基板コネクタ接続部 1 0 0 a と、主制御基板コネクタ接続部 7 0 A a や副制御基板コネクタ接続部 8 0 A a とは配線部材 (ケーブル) により接続される。開口部 4 3 2 e は、背面部 4 3 1 及び 2 つの側面部 4 3 2 から形成される空間の内部に収容された遊技盤 1 A の遊技盤中継基板 1 0 1 (図 4 5 参照) からの配線をカバー部材 4 3 0 の外側に設けられた中継基板 1 0 0 と接続可能のように設けられ、カバー部材 4 3 0 が取付枠 4 1 0 に取り付けられた状態で、遊技盤 1 A の背面側から立設する遊技盤中継基板 1 0 1 に対応する位置に形成されている。このような開口部 4 3 2 e が形成された側面第 1 凹部 4 3 2 a は、側面部の外側面に設けられ、開口部を介して配線と接続される特定の遊技機構成部品を収容可能な特定収容部の一例として機能する。また、側面第 2 凹部 4 3 2 c は、カバー部材の外側の傾斜した側面部に、カバー部材の表面から遊技機内部側に突出するように形成され、第 1 の遊技機構成部品とは異なる第 2 の遊技機構成部品を収容可能な収容部の一例である。これにより、開口部 4 3 2 e から、遊技盤中継基板 1 0 1 のコネクタ接続部 1 0 1 a に接続したコネクタを介して、遊技盤中継基板 1 0 1 と、例えば、側面第 1 凹部 4 3 2 a に隣接する凹部 4 3 1 a に収容された主制御基板 7 0 A と、を電気的に接続することが可能となる。このように、中継基板 1 0 0 が収容可能な側面第 1 凹部 4 3 2 a は、その他の基板が収容可能な凹部の中心に配置されている。

【 0 1 6 8 】

図 5 3 は、遊技盤中継基板 1 0 1 と、取付ベース 4 2 0 の基板用孔 4 2 4 及びカバー部材 4 3 0 の開口部 4 3 2 e との位置関係を説明する図である。図 5 3 は、遊技盤中継基板 1 0 1 が取り付けられている部分の拡大斜視図であり、(a) は取付枠 4 1 0 の背面側に取付ベース 4 2 0 が取り付けられた状態を示し、(b) は更に取付ベース 4 2 0 の背面側にカバー部材 4 3 0 が取り付けられた状態を示している。図 5 3 (a) に示すように、遊

10

20

30

40

50

技盤 1 A (図 4 3 参照) が取り付けられた取付枠 4 1 0 に、取付ベース 4 2 0 を取り付けた状態では、遊技盤中継基板 1 0 1 のコネクタ接続部 1 0 1 a が、取付ベース 4 2 0 基板用孔 4 2 4 から背面側に突出している。そして、図 5 3 (b) に示すように、図 5 3 (a) に示す状態から、更に取付ベース 4 2 0 の背面側にカバー部材 4 3 0 を取り付けることで、遊技盤中継基板 1 0 1 の側面がカバー部材 4 3 0 に覆われる。この状態において、コネクタ接続部 1 0 1 a の配線差込口 1 0 1 b は、カバー部材 4 3 0 の開口部 4 3 2 e の方向に向いている。なお、図 5 3 では、遊技盤中継基板 1 0 1 の全体をカバー部材 4 3 0 及び側面第 2 蓋部 4 3 2 d によって覆っているが、遊技盤中継基板 1 0 1 の一部分のみを覆うようにしてもよい。また、遊技盤中継基板 1 0 1 の外側面や内側面等 1 つの面のみを覆うようにしてもよい。いずれにせよ、遊技盤中継基板 1 0 1 に加わる外力の少なくとも一部を防ぐことができれば本発明の効果を奏すことができる。なお、その場合、コネクタ接続部 1 0 1 a をカバー部材 4 3 0 に覆われていない部分に設けることが望ましい (例えば、遊技盤中継基板 1 0 1 の外側面をカバー部材 4 3 0 で覆うのであれば、遊技盤中継基板 1 0 1 の内側面にコネクタ接続部 1 0 1 a を設ける等) 。

【 0 1 6 9 】

また、図 5 3 (a) に示すように、取付ベース 4 2 0 は、ビス等で構成される固定部材 4 2 5 により、取付枠 4 1 0 の背面の固定部 4 1 1 a にビス止めさる。その後、図 5 3 (b) に示すように、カバー部材 4 3 0 は、取付ベース 4 2 0 の背面側に配置され、取付部 4 3 3 で固定部材 4 2 5 を覆い、取付ベース 4 2 0 を貫通するビス等で構成される固定部材 4 3 5 により、取付枠 4 1 0 の背面の固定部 4 1 1 a にビス止めさる。よって、カバー部材 4 3 0 のビス止めを外した後でないと取付ベース 4 2 0 のビス止めを外すことができない。

【 0 1 7 0 】

図 5 4 は、パチンコ遊技機 Y の上面図である。図 5 4 は、本体枠 2 から本体ユニット 4 0 0 を開いた状態 (本体枠 2 の内側に本体ユニット 4 0 0 が配置された状態から、本体枠 ヒンジ 2 b を中心に 90 度回動させた状態) を示している。カバー部材 4 3 0 は、本体枠 ヒンジ 2 b に軸支された方と反対側の側面 4 3 2 が、回転軸としての本体枠ヒンジ 2 b を中心とし、本体枠 2 の内側側縁を通る仮想円 V C の内側に形成され、少なくとも一部が仮想円に沿った形状に形成されている。

【 0 1 7 1 】

[構の接続部分]

図 5 5 は、本体ユニット 4 0 0 の分解斜視図、図 5 6 及び図 5 7 は、第 1 誘導構 4 1 6 及び第 2 誘導構 4 3 4 の分解斜視図である。図 5 6 及び図 5 7 は、図 5 5 に示す第 1 誘導構 4 1 6 及び第 2 誘導構 4 3 4 のみを示した図である。図 5 6 は、取付枠 4 1 0 から視た図であり、図 5 7 は、カバー部材 4 3 0 から視た図である。図 5 5 に示すように、取付枠 4 1 0 には、図示しない貯留ユニットから供給された遊技球を貯留可能な貯留タンク 4 1 5 と、貯留タンク 4 1 5 から遊技球を下流に導く第 1 誘導構 4 1 6 と、を有する。カバー部材 4 3 0 は、遊技球を払出可能な払出装置 7 0 0 と、払出装置 7 0 0 に遊技球を導く第 2 誘導構 4 3 4 と、を有する。

【 0 1 7 2 】

第 1 誘導構 4 1 6 と第 2 誘導構 4 3 4 は、取付枠 4 1 0 にカバー部材 4 3 0 を装着した際に、一方の開口部に他方の開口部が挿入するよう接続されることで遊技球が流下可能な状態となる。第 1 誘導構 4 1 6 及び第 2 誘導構 4 3 4 のいずれか一方 (図 5 6 及び図 5 7 に示す例では第 2 誘導構 4 3 4) には、他方 (図 5 6 及び図 5 7 に示す例では第 1 誘導構 4 1 6) の開口部の開口面積より広い開口面積にて形成された受入部 4 3 4 a が設けられている。受入部 4 3 4 a は、受入部 4 3 4 a に挿入される開口部を接続位置まで案内する接続位置案内手段としてのリブ 4 3 4 b を有する。リブ 4 3 4 b は、開口を中心とする放射方向に延び、受入部 4 3 4 a の外縁から内縁に向かって、側縁が下り傾斜している板状体であり、開口を囲むように、複数配置されている。第 1 誘導構 4 1 6 及び第 2 誘導構 4 3 4 のいずれか他方 (図 5 6 及び図 5 7 に示す例では第 1 誘導構 4 1 6) には、開口の

外縁に設けられ、リブ 434b により囲まれた部分の形状と略同一形状の外形で形成され、接続位置において、リブ 434b と係合する係合手段としての係合部 416a を有する。

【0173】

また、図 43 に示すように、取付枠 410 は、皿ユニット 900 の払出口 901 (図 41 参照) に遊技球を導く第 3 誘導樋 418 を有する。また、カバー部材 430 は、後述する払出装置 700 から遊技球を下流に導く第 4 誘導樋としての第 4 誘導樋 (図 59 参照) を有する。

【0174】

第 3 誘導樋 418 と第 1 誘導路 730C 及び第 2 誘導路 730D (図 60 参照) は、取付枠 410 にカバー部材 430 を装着した際に、一方の開口部に他方の開口部が挿入するよう接続されることで遊技球が流下可能な状態となる。第 3 誘導樋 418 と、第 1 誘導路 730C 及び第 2 誘導路 730Dとのいずれか一方 (図 43 に示す例では第 3 誘導樋 418) には、受入部 418a が設けられている。受入部 418a は、受入部 434a と同様に、複数のリブを有する。第 1 誘導路 730C 及び第 2 誘導路 730D の排出口 730B (図 59 参照) は、第 1 誘導樋 416 と同様に、受入部 418a の複数のリブと係合する係合部を有する。

10

【0175】

【払出装置】

図 58 は、払出装置 700 を示す全体斜視図、図 59 は、払出装置 700 に含まれる球通路ユニット 730 を示す斜視図である。払出装置 700 は、球供給路 710、球送出機構 720、及び球通路ユニット 730 を有して構成される。球供給路 710 は、上部に設けられた貯留タンク 415 (図 55 参照) から球送出機構 720 へと遊技球を導く配管部品である。球送出機構 720 は、入賞に応じた賞球数を計数しながら当該賞球数分の遊技球を繰り出すものである。球通路ユニット 730 は、カバー部材 430 (図 55 参照) の背面側の端部に配置され、球送出機構 720 から繰り出された遊技球を後述する皿ユニット 900 の払出口 901 へ導くためのものである。

20

【0176】

球供給路 710 は、貯留タンク 415 (図 55 参照) から、互いに接続された第 1 誘導樋 416 及び第 2 誘導樋 434 (図 57 参照) を介して、球送出機構 720 へと遊技球を 1 つずつ自然に流下させることが可能に鉛直状に設けられている。球供給路 710 の下端出口 (図示略) は、球送出機構 720 の上部入口 (図示略) に連接される。

30

【0177】

球送出機構 720 は、球供給路 710 から流下してきた遊技球を上部入口 (図示略) から内部に導きつつ下部出口 (図示略) から 1 つずつ繰り出し可能に構成されている。球送出機構 720 は、遊技球を 1 ずつ繰り出し可能な内部機構やこれを動作させるためのソレノイド、繰り出した遊技球を計数するためのカウントセンサ (図示略) を有する。球送出機構 720 は、入賞がないとき、遊技球を繰り出さないように内部機構及びソレノイドを非作動状態とする一方、入賞があると、当該入賞に応じた賞球数の遊技球を繰り出すまで内部機構及びソレノイドを作動状態としつつ遊技球をカウントセンサにより計数し、賞球数分の遊技球を繰り出すと、再び内部機構及びソレノイドを非作動状態とする。これにより、球送出機構 720 は、入賞時に賞球数分の遊技球を 1 つずつ繰り出すことができる。球送出機構 720 の下部出口は、球通路ユニット 730 の上部に設けられた導入口 730A に連接され、球送出機構 720 から繰り出された遊技球が 1 つずつ球通路ユニット 730 の導入口 730A へと流下する。なお、球送出機構 720 から繰り出された遊技球は、基本的に導入口 730A へと導かれるが、導入口 730A に隣接する後述の球抜き口 730a へと導かれる場合がある。

40

【0178】

球通路ユニット 730 は、球送出機構 720 から繰り出された多数の遊技球を数珠状に並べて通過させることができ可能な誘導路を有し、この誘導路を通じて後述する皿ユニット 900 の払出口 901 へと遊技球を導くように構成されている。図 60 は、球通路ユニット

50

730を示す分解斜視図、図61は、図60とは異なる向きで球通路ユニット730を示す分解斜視図である。球通路ユニット730は、通路隔壁部材731、満タン検知レバー732、満タン検知センサ733、第1カバー部材734、第2カバー部材735、及び球抜き部材736を有して構成される。球通路ユニット730の誘導路としては、パチンコ遊技機Yの正面側からみて通路隔壁部材731の左側部と第1カバー部材734との間に第1誘導路730Cが形成され、パチンコ遊技機Yの正面側からみて通路隔壁部材731の右側部と第2カバー部材735との間に第2誘導路730Dが形成される。第1誘導路730C及び第2誘導路730Dは、それぞれ多数の遊技球を並べることが可能な十分な経路長を有する。

【0179】

10

通路隔壁部材731の左側部には、第1誘導路730Cの路側壁が前後に蛇行しつつ上部の導入口730Aから下部の排出口730Bへと延びるように形成されている。この通路隔壁部材731の左側部に形成された路側壁は、第1誘導路730Cの右半分を溝状に形成している（図61参照）。通路隔壁部材731の右側部には、第2誘導路730Dの路側壁が上部の導入口730Aから下部の排出口730Bへと延びるように形成されている。この通路隔壁部材731の右側部に形成された路側壁は、第2誘導路730Dの左半分を溝状に形成している（図60参照）。このような第2誘導路730Dは、第1誘導路730Cと隔壁を挟んで隣接している。すなわち、第1誘導路730Cと第2誘導路730Dとは、互いに並んで同方向に遊技球を導くように並設されている。

【0180】

20

一方、通路隔壁部材731の左側部に対向する第1カバー部材734の対向面にも、第1誘導路730Cの路側壁が前後に蛇行しつつ導入口730Aから排出口730Bへと延びるように形成されている。これら通路隔壁部材731の左側部と第1カバー部材734の対向面にある路側壁どうしが合わさることにより第1誘導路730Cが形成されるとともに、導入口730A及び排出口730Bが形成される。また、通路隔壁部材731の右側部に対向する第2カバー部材735の対向面にも、第2誘導路730Dの路側壁が排出口730Bへと延びるように形成されている。これら通路隔壁部材731の右側部と第2カバー部材735の対向面にある路側壁どうしが合わさることにより第2誘導路730Dが形成される。第1誘導路730Cは、横方向に比較的大きな第1の幅でもって形成される一方、第2誘導路730Dは、第1誘導路730Cの横幅（第1の幅）よりも横方向に小さい第2の幅でもって形成され、排出口730Bより上流側において第1誘導路730Cと合流するようになっている。また、排出口730Bは、横方向に第1誘導路730Cの横幅（第1の幅）と同じ第1の幅でもって形成される。なお、導入口730Aは、第1誘導路730Cのみに導通しており、基本的に球送出機構720から繰り出された遊技球は、導入口730Aへと入るようになっている。ただし、導入口730Aに隣接する部位には、通路隔壁部材731の右側部と第2カバー部材735とが合わされることによって球抜き部材736へと通じる球抜き口730aが形成される。これにより、第1誘導路730Cが詰まって導入口730Aに入りきれない遊技球は、球抜き口730aへと導かれる。第2誘導路730Dの下端部は、排出口730Bの近傍で第1誘導路730Cと合流するように形成されている。これにより、排出口730B付近における遊技球の詰まりが解消されると、第1誘導路730Cと第2誘導路730Dとに貯まった遊技球がまとまって一気に排出口730Bから排出される。

30

【0181】

40

図62は、球通路ユニット730の第1誘導路730Cを示す平面図、図63は、球通路ユニット730の第2誘導路730Dを示す平面図である。通路隔壁部材731の上部には、その右側部から左側部へと遊技球を案内するための貫通口731Aが形成されている。通路隔壁部材731の右側部において第1誘導路730Cの上部途中には、貫通口731Aへと遊技球を案内可能な分岐路730Eが形成されている。貫通口731Aの反対側は、第2誘導路730Dの上端部に連通している。これにより、第1誘導路730Cの遊技球が上部まで詰まって下方へと流れないと、導入口730Aから第1誘導

50

路 7 3 0 C の上部へと流下してきた遊技球がこの第 1 誘導路 7 3 0 C を迂回して分岐路 7 3 0 E へと導かれ、さらに分岐路 7 3 0 E へと導かれてきた遊技球は、貫通口 7 3 1 A を通って第 2 誘導路 7 3 0 D の上端部へと導かれ、第 1 誘導路 7 3 0 C のみならず第 2 誘導路 7 3 0 D までもが遊技球で満タン状態となるまで球通路ユニット 7 3 0 の内部に賞球として払い出される遊技球が一時的に貯留される。

【 0 1 8 2 】

また、通路隔壁部材 7 3 1 の右側部においては、第 2 誘導路 7 3 0 D の途中部分に先端部が突き出た姿勢で揺動可能な満タン検知レバー 7 3 2 と、満タン検知レバー 7 3 2 の先端部が突き出た姿勢から奥方に変位した状態を検知する満タン検知センサ 7 3 3 とが、設けられている。満タン検知レバー 7 3 2 は、第 2 誘導路 7 3 0 D の略鉛直部分に設けられており、この部分まで詰まって流下できない遊技球に圧接されると、奥方に変位した状態となる。満タン検知センサ 7 3 3 は、奥方に変位した満タン検知レバー 7 3 2 が所定時間にわたり接した状態になると、第 2 誘導路 7 3 0 D に遊技球が詰まって満タンになった状態と検知し、それに応じた信号を派出・発射制御回路 1 2 3 (図 8 4 参照) に出力する。これにより、第 1 誘導路 7 3 0 C における遊技球の流下が停滞しても第 2 誘導路 7 3 0 D が満タン状態となるまで球送出機構 7 2 0 の遊技球繰り出し動作を継続させることができる。

10

【 0 1 8 3 】

さらに、パチンコ遊技機 Y の正面側からみて第 2 カバー部材 7 3 5 の右側部には、球抜き部材 7 3 6 が付設される。球抜き部材 7 3 6 は、球抜き口 7 3 0 a から導かれてきた遊技球を下端口 7 3 6 A から排出する。球抜き部材 7 3 6 の下端口 7 3 6 A から排出された遊技球は、図外の球抜き管路へと導かれ、最終的にはパチンコ遊技機 Y の外部に置かれたドル箱に放出される。

20

【 0 1 8 4 】

〔 球検知ユニット 〕

図 6 4 は、遊技盤 1 A のアウトロ 5 5 を示す斜視図、図 6 5 は、遊技盤 1 A を取り外した状態でアウトロ 5 5 の背後に位置する球検知ユニット 8 0 0 を示す斜視図である。図 6 4 に示すように、遊技盤 1 A の遊技領域 1 p における中央下部には、入賞せずに流下してきた遊技球を背後に導くためのアウトロ 5 5 が設けられている。図 6 5 に示すように、アウトロ 5 5 の背後には、アウトロ 5 5 から導かれてきた複数の遊技球を受けるとともに、アウトロ 5 5 と対向する箇所に遊技球を集めてさらに背後へと遊技球を導くための開口 8 0 1 A を有するアウト球受け部材 8 0 1 が設けられている。球検知ユニット 8 0 0 は、取付枠 4 1 0 において、アウト球受け部材 8 0 1 の開口 8 0 1 A の直後に設けられている。

30

【 0 1 8 5 】

図 6 6 は、球検知ユニット 8 0 0 の全体を示す斜視図、図 6 7 は、球検知ユニット 8 0 0 を示す分解斜視図、図 6 8 は、図 6 7 とは異なる向きで球検知ユニット 8 0 0 を示す分解斜視図である。球検知ユニット 8 0 0 は、左側構成部材 8 1 0 、右側構成部材 8 2 0 、突片部材 8 3 0 、第 1 検知センサ 8 4 0 、第 2 検知センサ 8 5 0 を有して構成される。球検知ユニット 8 0 0 は、流入口としてのアウトロ 5 5 を通過して排出される遊技球をアウト球として検知するためのものである。左側構成部材 8 1 0 には、第 1 検知センサ 8 4 0 が設けられ、右側構成部材 8 2 0 には、第 2 検知センサ 8 5 0 が設けられており、これらの第 1 検知センサ 8 4 0 及び第 2 検知センサ 8 5 0 と一体に突片部材 8 3 0 を中央に挟み込んだ状態で左側構成部材 8 1 0 と右側構成部材 8 2 0 とが接合される。第 1 検知センサ 8 4 0 及び第 2 検知センサ 8 5 0 は、複数の遊技球が流入可能な流入口と、流入口より下流において、流入した遊技球を検知可能な複数の検知手段の一例として機能する。

40

【 0 1 8 6 】

図 6 9 は、球検知ユニット 8 0 0 を構成する左側構成部材 8 1 0 の内部側面図、図 7 0 は、球検知ユニット 8 0 0 を構成する右側構成部材 8 2 0 の内部側面図、図 7 1 は、球検知ユニット 8 0 0 を構成する突片部材 8 3 0 の上面図である。左側構成部材 8 1 0 及び右側構成部材 8 2 0 は、概ね左右対称形に形成されており、それぞれ前面開口部 8 1 0 A ,

50

820A、導入空間部810B, 820B、センサ配置部810C, 820C、遊動空間部810D, 820Dを有する。

【0187】

前面開口部810A, 820Aは、互いに一体となってアウト球受け部材801の開口801Aの直ぐ背後に位置し、開口801Aを通過した遊技球を受け入れる受入口（流入口）を形成する。前面開口部810A, 820Aは、それぞれ1個の遊技球が余裕をもって通過可能な開口面積を有する。これにより、一体となった受入口には、少なくとも2個の遊技球が同時に進入することができる。

【0188】

導入空間部810B, 820Bは、基本的にそれぞれ前面開口部810A, 820Aからセンサ配置部810C, 820Cへと遊技球を導く通路であり、それぞれ1個の遊技球が余裕をもって通過可能である。導入空間部810B, 820Bの底面810Ba, 820Baは、水平面より若干傾斜しており、奥側に進むほど下降するように形成されている。

10

【0189】

センサ配置部810C, 820Cは、それぞれ第1検知センサ840、第2検知センサ850が配置される箇所である。センサ配置部810C, 820Cには、導入空間部810B, 820Bの底面810Ba, 820Baよりも第1検知センサ840、第2検知センサ850それぞれの前端が若干低位となるように配置される。第1検知センサ840、第2検知センサ850は、それぞれ前端から後端にいくほど上位となるように傾斜姿勢で配置される。第1検知センサ840、第2検知センサ850には、1個の遊技球が通過可能な通過孔が設けられており、この通過孔を遊技球が通過するとアウト球として検知され、下方に排出された後に収集される。これにより、導入空間部810B, 820Bからセンサ配置部810C, 820Cへと導かれてきた遊技球は、第1検知センサ840、第2検知センサ850の通過孔へと導かれやすくなっている。

20

【0190】

遊動空間部810D, 820Dは、アウト口55より下流において、センサ配置部810C, 820Cより奥側上方に設けられ、センサ配置部810C, 820Cよりも狭小な空間を形成している。遊動空間部810D, 820Dは、互いに一体となった状態で概ね1個の遊技球が十分遊動し得るだけの広さを有する。遊動空間部810D, 820Dの底面810Da, 820Daは、水平面より若干傾斜しており、奥側に進むにつれて上昇（隆起）するように形成されている。底面810Da, 820Daの前端は、第1検知センサ840、第2検知センサ850の後端よりも上位に位置するように形成されている。これにより、第1検知センサ840、第2検知センサ850を越えて奥方の遊動空間部810D, 820Dへと1個の遊技球が導かれることがあり、この遊動空間部810D, 820Dへと導かれた遊技球にあっても、第1検知センサ840、第2検知センサ850へと転落しやすくなっている。なお、遊動空間部810D, 820Dは、互いに一体となった状態で2個以上の遊技球が遊動し得るだけの広さを有する部分としてもよい。

30

【0191】

突片部材830は、センサ配置部810C, 820C（第1検知センサ840、第2検知センサ850）のほか、導入空間部810B, 820Bや遊動空間部810D, 820Dを分け隔てるよう設けられる。図69及び図70に示すように、突片部材830は、流入した遊技球の少なくとも一部が乗り上げ可能のように流入口となる前面開口部810A, 820Aの底部から奥方へと延設するように配置され、前面開口部810A, 820Aの底部から遊動空間部810D, 820Dへと進むにつれて上昇（隆起）した傾斜状の上端830Aを有する。この上端830Aは、導入空間部810B, 820Bや遊動空間部810D, 820Dを完全に仕切ることなく、これらの底面810Ba, 820Ba, 810Da, 820Daよりも若干上方に突出している。また、図71に示すように、突片部材830の上端830Aは、遊技球進入方向に沿って左右に波打つように形成されているとともに、流入した遊技球が乗り上げても滑りやすいように峰状に形成されている。これにより、センサ配置部810C, 820Cの遊技球は、突片部材830の上端830

40

50

Aを左右方向に越えて第1検知センサ840及び第2検知センサ850のいずれかに落下しやすい。また、センサ配置部810C, 820Cより奥方の遊動空間部810D, 820Dへと進んだ遊技球は、突片部材830の上端830Aに不安定に接した状態となり、第1検知センサ840及び第2検知センサ850のいずれかの方へと振り落とされる。

【0192】

[皿ユニット]

図72は、皿ユニット900が設けられたガラスドア5を示す全体斜視図、図73は、ガラスドア5の正面を示す全体正面図である。ガラスドア5の正面に向かって左下部には、皿ユニット900が設けられる。なお、本実施形態の遊技機においては、一つの皿ユニット900しか存在しないが、例えば上皿ユニットと下皿ユニットとを設け、いずれか一方を本実施形態の皿ユニット900として適用してもよい。皿ユニット900は、入賞に応じて払い出される遊技球を貯留し、貯留した遊技球を発射装置26へと順次誘導するとともに、遊技者の球抜き操作に応じて下方に配置したいわゆるドル箱(図示略)へと遊技球を排出可能とするものである。皿ユニット900の後方には、遊技球を払い出す払出口901が設けられ、この払出口901から複数の遊技球が皿ユニット900へと払い出される。払出口901の背後には、発射装置26からの遊技球を受けつつ払出口901へと送り出すための球送出受け部材902が設けられる(図74参照)。

10

【0193】

図74は、皿ユニット900の全体を示す拡大斜視図、図75は、皿ユニット900の分解斜視図、図76は、皿ユニット900の上面図、図77は、皿ユニット900の受け皿カバー部材930を取り外した状態の上面図である。皿ユニット900は、装飾カバー910、本体部920、受け皿カバー部材930、球抜き通路部材940、蓋開閉部950などを有して構成される。装飾カバー910は、本体部920の下部に配置される球抜き通路部材940などを覆うように皿ユニット900の前面及び側面に取り付けられる。図75に示すように、本体部920には、パチンコ遊技機Y内部の発射装置26へと複数の遊技球を順序よく列状に整列させる整列部920Aと、遊技者による蓋開閉部950の操作により、球抜き通路部材940へと遊技球を導くための第1開閉蓋920B及び第2開閉蓋953Bが設けられる。受け皿カバー部材930は、本体部920の上部に配置されるものであり、払出口901から払い出された遊技球を最初に受けて貯留するとともに、貯留した遊技球を下方の整列部920Aへと導くものである。受け皿カバー部材930には、本体部920の整列部920Aを上方から覆うカバー部930Aと、カバー部930Aの外側壁930Aaとの間に遊技球が通過し得る間隔をあけて周壁を形成する外周部930Bと、この外側壁930Aaと外周部930Bとの間に形成され、下方の整列部920Aへと遊技球を導く整流部930Cと、払出口901から払い出された複数の遊技球を滑り落とすことが可能なスロープ部930Dと、スロープ部930Dから滑り落ちてきた複数の遊技球を貯留しつつ整流部930Cへと流動させることができ貯留部930Eと、貯留部930Eの底面にあって第1開閉蓋920Bの上方に設けられる第1開口部930Fとが設けられる。なお、図74においては、払出口901の図示を省略している。図75においては、装飾カバー910の図示を省略している。

20

【0194】

本体部920の整列部920Aは、皿ユニット900の後端側において払出口901(球送出受け部材902)が配置される側とは反対側の右寄りの箇所において左右にまっすぐ延びるように設けられる。整列部920Aは、複数の遊技球が一列に並んで流動するように、右側から左側へと下降傾斜しつつガイド片920Aaにより直線的な溝状に形成されている。すなわち、整列部920Aにおいて遊技球が整列する方向の上流側(整列方向上流側)は、払出口901から離間した整列部920Aの右端部に相当し、この整列部920Aの右端部にカバー部930Aの整流部930Cから遊技球が流下してくる。整列部920Aの整列下流側となる左端部には、内部の発射装置26へと遊技球を導くための導入口920Abが設けられ、整列部920Aの底面にあって第2開閉蓋953Bの上方に設けられる第2開口部930Gが設けられる。整列部920Aに並んだ遊技球は、1つず

30

40

50

つ導入口 9 2 0 A b へと直線的に導かれる。このような整列部 9 2 0 A は、右端部が一部露出しつつその余の部分が受け皿カバー部材 9 3 0 のカバー部 9 3 0 A によって覆われる。また、本体部 9 2 0 において受け皿カバー部材 9 3 0 が配置される部分は、概ね受け皿カバー部材 9 3 0 の外周部 9 3 0 B や整流部 9 3 0 C、スロープ部 9 3 0 D や貯留部 9 3 0 E、第 1 開口部 9 3 0 F と整合する形状に形成されている。また、整列部 9 2 0 A の整流部 9 3 0 C 側には、カバー部 9 3 0 A が装着されなかった場合でも整列部 9 2 0 A に整列している遊技球に流下してくる遊技球が乗り上げないような壁部 9 2 0 A c が設けられている。遊技者による第 1 蓋開閉部 9 5 0 A の操作により、本体部 9 2 0 の第 1 開閉蓋 9 2 0 B が開放されると、受け皿カバー部材 9 3 0 の貯留部 9 3 0 E にある遊技球が第 1 開口部 9 3 0 F を通じて下方へと排出される。排出された遊技球は、球抜き通路部材 9 4 0 を通じてドル箱の直上に位置する落下口 9 4 0 A へと導かれ、落下口 9 4 0 A からドル箱へと遊技球が排出される。一方、第 1 開閉蓋 9 2 0 B が閉鎖状態にある場合、貯留部 9 3 0 E の遊技球が第 1 開口部 9 3 0 F から落下せずにそのままとどまり、整流部 9 3 0 C へと導かれる。また、遊技者による第 2 蓋開閉部 9 5 0 B の操作により、本体部 9 2 0 の第 2 開閉蓋 9 5 3 B が開放されると、整列部 9 2 0 A に並んだ遊技球が第 2 開口部 9 3 0 G を通じて下方へと排出される。排出された遊技球は、球抜き通路部材 9 4 0 を通じてドル箱の直上に位置する落下口 9 4 0 A へと導かれ、落下口 9 4 0 A からドル箱へと遊技球が排出される。一方、第 2 開閉蓋 9 5 3 B が閉鎖状態にある場合、整列部 9 2 0 A に並んだ遊技球が第 2 開口部 9 3 0 G から落下せずに導入口 9 2 0 A b から内部の発射装置 2 6 へと導かれる。

10

【 0 1 9 5 】

受け皿カバー部材 9 3 0 のカバー部 9 3 0 A は、皿ユニット 9 0 0 の後端側において払出口 9 0 1 (球送出受け部材 9 0 2) が配置される側とは反対側の右寄りの箇所に位置する。カバー部 9 3 0 A の外側壁 9 3 0 A a は、湾曲状に形成されており、整列部 9 2 0 A の右端部と対応する部位に開口 9 3 0 A b が形成されている。また、外周部 9 3 0 B は、外側壁 9 3 0 A a との間に整流部 9 3 0 C を形成するように、外側壁 9 3 0 A a に概ね沿うような湾曲状に形成されている。これにより、整流部 9 3 0 C は、貯留部 9 3 0 E の遊技球を開口 9 3 0 A b へと湾曲状に曲げつつ導くような通路として形成される。また、貯留部 9 3 0 E の外壁部 9 3 0 E a と整流部 9 3 0 C の外周部 9 3 0 B は、払出口 9 0 1 から放出された遊技球が接触しつつ転動して整流部 9 3 0 C まで辿り着けるように連続した一つの面を形成している。これにより、貯留部 9 3 0 E に遊技球が貯留されていない状態では、放出された遊技球が外壁部 9 3 0 E a まで転動し、連続面 (外壁部 9 3 0 E a 、外周部 9 3 0 B) にて方向を変えられつつ整流部 9 3 0 C へと導かれる。ここで、遊技球を貯留部 9 3 0 E の外部に排出可能な第 1 開口部 9 3 0 F 及び遊技球を貯留可能な閉鎖状態と遊技球を外部へと排出可能な開放状態とに切替可能な第 1 開閉蓋 9 2 0 B は、遊技球が連続面 (外壁部 9 3 0 E a 、外周部 9 3 0 B) に接触しつつ転動可能のように、貯留部 9 3 0 E の内部側 (遊技盤 1 A 側) に連続面から所定の間隔をあけて設けられている。この所定の間隔としては、少なくとも遊技球の直径以上の距離となることが望ましい。これは、払出口 9 0 1 から放出された遊技球が全て第 1 開口部 9 3 0 F から外部へと排出されてしまうことを防止するためであり、例えば、貯留している遊技球が少ない場合、払出口 9 0 1 から放出された遊技球は、連続面 (外壁部 9 3 0 E a 、外周部 9 3 0 B) に接触しながら転動し、第 1 開口部 9 3 0 F に至ることなく第 1 開口部 9 3 0 F から落下せずに整流部 9 3 0 C へと導かれるので、仮に第 1 開閉蓋 9 2 0 B が開放状態であっても、遊技球が第 1 開口部 9 3 0 F からほとんど落下してしまって発射装置 2 6 へと供給される遊技球が途切れてしまうようなことがない。

20

【 0 1 9 6 】

整流部 9 3 0 C は、貯留部 9 3 0 E から開口 9 3 0 A b の方へと若干下降傾斜するように形成されている。また、整流部 9 3 0 C は、外側壁 9 3 0 A a と外周部 9 3 0 B とにより開口 9 3 0 A b の方へと進むに従って徐々に幅狭くなるように形成されている。これにより、貯留部 9 3 0 E において乱雑に山積した遊技球は、整流部 9 3 0 C によって徐々に

30

40

50

曲がった列をなして開口 930Abへと流れるようになる。また、払出口 901から勢いよく払い出されることにより、スロープ部 930D 及び貯留部 930E を越えて整流部 930C にまで達する遊技球があっても、遊技球は、湾曲した外周部 930B の内面に当たることで推進力が弱められつつ整流部 930C を経て開口 930Abへと導かれる。

【0197】

図 78 は、本体部 920、球抜き通路部材 940 及び蓋開閉部 950 を背面側から視た斜視図、図 79 は、図 78 に示す図の分解図である。本体部 920 の下には、蓋開閉部 950 が設けられ、蓋開閉部 950 の下には、球抜き通路部材 940 が設けられている。

【0198】

図 80 は、球抜き通路部材 940 の斜視図、図 81 は、図 80 中の AA' 断面図、図 82 は、図 80 中の BB' 断面図である。図 80 に示すように、球抜き通路部材 940 は、上面視で略 L 字形状に形成され、前面側から見て左右方向に延び、中空形状に形成され、内部を遊技球が流下する第 1 通路 941 と、第 1 通路 941 の下流側端部に接続され、第 1 通路 941 と直交する方向（前面背面方向）に延び、中空形状に形成され、内部を遊技球が流下し、下流側端部において下方が開放した落下口 940A が形成された第 2 通路 942 と、を備える。第 1 通路 941 及び第 2 通路 942 は、上流側から下流側に向かって、底面が下り傾斜して配置されることで、内部を遊技球が上流から下流に向かって流下する。

【0199】

第 1 通路 941 は、球抜き通路部材 940 内に遊技球を導くための第 1 受け口 941a 及び第 2 受け口 941b を備える。第 1 受け口 941a は、上流側端部において、本体部 920 の第 1 開口部 930F（図 79 参照）及び第 1 蓋開閉部 950A の第 1 開閉蓋 953A（図 79 参照）の下に形成され、上方が開放されている。第 1 受け口 941a は、第 1 通路 941 の側面から突出し、湾曲して上方が開放されている。これにより、第 1 開口部 930F から落下した遊技球をスムーズに第 1 通路 941 の内部に導くことができる。第 2 受け口 941b は、上流側端部と下流側端部との間ににおいて、本体部 920 の第 2 開口部 930G（図 79 参照）及び第 2 蓋開閉部 950B の第 2 開閉蓋 953B（図 79 参照）の下に形成され、上方が開放されている。第 2 受け口 941b は、第 1 通路 941 の側面から突出し、湾曲して上方が開放されている。これにより、第 2 開口部 930G から落下した遊技球をスムーズに第 1 通路 941 の内部に導くことができる。

【0200】

また、図 81 に示すように、第 1 通路 941 は、上流下流方向に延びる 2 つの側面の少なくとも一方の側面が、底面に向かって下り傾斜する傾斜壁 941c を形成している。また、傾斜壁 941c は、図 82 に示すように、中間から下流側端部に向かって、他方の側面側にせり出している。すなわち、傾斜壁 941c は、底面に向かって下り傾斜しつつ、他方の側面側にせり出している。これにより、第 1 通路 941 内部の幅は、中間から下流側端部に向かって、また、底面に向かって、徐々に狭くなっている（例えば、遊技球 2 個分の幅から遊技球 1 個分の幅になっている）。これにより、例えば、第 1 通路 941 内に多量の遊技球が流入しても、遊技球を 1 列に整流して、第 2 通路 942 に流下させることが可能となる。また、第 1 通路 941 は、上流下流方向に延びる側面において、第 1 受け口 941a（図 80 参照）と対面する部分に、第 1 受け口 941a が設けられた側の側面側から他方の側面側に斜めに延びるガイド壁 941d が形成されている。これにより、第 1 受け口 941a から流入した遊技球をスムーズに第 1 通路 941 の内部に導くことができる。

【0201】

第 2 通路 942 は、第 1 通路 941 の接続部分において、外側のコーナーを形成するコーナー壁 942a を備える。コーナー壁 942a は、第 1 通路 941 の下流側端部から第 2 通路 942 の上流側端部に連なる部分であり、遊技球が流下する方向に膨出した湾曲形状に形成されている。

【0202】

図 83 は、球抜き通路部材 940 の分解斜視図である。球抜き通路部材 940 は、第 1

10

20

30

40

50

部材 940a と、第 2 部材 940b と、が互いに組み合わされることで、内部を遊技球が流下可能な中空形状に形成される。第 1 部材 940a は、第 1 通路 941 の天面、底面及び一方の側面と、第 2 通路 942 の天面及び 2 つの側面を構成する。第 2 部材 940b は、第 1 通路 941 の他方の側面と、第 2 通路 942 のコーナー壁 942a 及び底面を構成する。第 1 部材 940a には、第 2 通路 942 の 2 つの側面を構成する部分の下端に、それぞれ下端から斜め上方に向かって欠き込まれた欠き込み 940a' が形成されている。第 2 部材 940b には、第 2 通路 942 の底面を構成する部分の 2 つの側縁に、それぞれ斜め上方に向かって突出する突起 940b' が形成されている。欠き込み 940a' と突起 940b' は、第 1 部材 940a 及び第 2 部材 940b が互いに組み合わされるときに、互いに係合され、図 82 に示す状態となる。よって、第 1 部材 940a 及び第 2 部材 940b をネジ止めしなくとも、2 つの部材を組み合わせた状態に維持できる。

【0203】

図 79 に示すように、蓋開閉部 950 は、本体部 920 の第 1 開口部 930F を開閉するための第 1 蓋開閉部 950A と、本体部 920 の第 2 開口部 930G を開閉するための第 2 蓋開閉部 950B と、を備える。第 1 蓋開閉部 950A は、本体部 920 の下に配置された基端から前面側に延び、先端が本体部 920 より前面方向に突出し、遊技者が操作可能な第 1 把持部 951A と、第 1 把持部 951A の基端側をスライド自在に保持する第 1 蓋開閉部本体 952A と、第 1 把持部 951A に固定され、第 1 蓋開閉部本体 952A にスライド自在に取り付けられ、第 1 開口部 930F を塞ぐ閉状態と、第 1 開口部 930F を開放する開状態とに変位可能な第 1 開閉蓋 953A と、を備える。これにより、遊技者は、第 1 把持部 951A をスライド移動させることで、第 1 開閉蓋 953A を開状態と閉状態との間で変位させ、第 1 開口部 930F を開閉させることができる。第 2 蓋開閉部 950B は、本体部 920 の下に配置された基端から前面側に延び、先端が本体部 920 より前面方向に突出し、遊技者が操作可能な第 2 把持部 951B と、第 2 把持部 951B の基端側をスライド自在に保持する第 2 蓋開閉部本体 952B と、第 2 蓋開閉部本体 952B にスライド自在に取り付けられ、第 2 開口部 930G を塞ぐ閉状態と、第 2 開口部 930G を開放する開状態とに変位可能な第 2 開閉蓋 953B と、第 2 把持部 951B と第 2 開閉蓋 953B とに連結され、第 2 把持部 951B のスライド移動により、第 2 開閉蓋 953B を開状態と閉状態との間で変位させるリンク部 954 と、を備える。これにより、遊技者は、第 2 把持部 951B をスライド移動させることで、第 2 開閉蓋 953B を開状態と閉状態との間で変位させ、第 2 開口部 930G を開閉させることができる。

【0204】

[第 2 実施形態に係る遊技機の電気的構成]

図 84 は、本発明の第 2 実施形態に係る遊技機の回路構成を示すブロック図である。第 2 実施形態に係るパチンコ遊技機 Y の電気的構成は、主制御回路 70 に第 1 検知センサ 840 及び第 2 検知センサ 850 が接続されている点と、払出・発射制御回路 123 に満タン検知センサ 733 が接続されている点と、副制御回路 200 に 2 つのプロジェクタ装置本体 b2 が接続されている点と、第 2 実施形態のパチンコ遊技機 1 と異なる。

【0205】

第 1 検知センサ 840 及び第 2 検知センサ 850 は、アウトロ 55 (図 64 参照) を通過した遊技球をそれぞれアウト球として検知し、所定の出力信号を主制御回路 70 に出力する。満タン検知センサ 733 は、奥方に変位した満タン検知レバー 732 (図 63 参照) が所定時間にわたり接した状態になると、第 2 誘導路 730D (図 63 参照) に遊技球が詰まって満タンになった状態と検知し、所定の出力信号を払出・発射制御回路 123 に出力する。払出・発射制御回路 123 は、この所定の出力信号を受信した場合、賞球ケースユニット 170 による遊技球の払い出しを一旦停止する。また、満タン検知センサ 733 は、満タン検知レバー 732 が前面側に変位し、満タン検知センサ 733 から離れた状態になると、第 2 誘導路 730D に遊技球が詰まっている状態と検知し、所定の出力信号を払出・発射制御回路 123 に出力する。払出・発射制御回路 123 は、この所定の出力信号を受信した場合、一旦停止していた賞球ケースユニット 170 による遊技球の払

10

20

30

40

50

い出しを再開する。

【 0 2 0 6 】

副制御回路 200 は、第 1 実施形態のパチンコ遊技機と同様に、他の遊技装置等の演出動作に応じて、プロジェクタ制御回路 90 を制御し、2 つのプロジェクタ装置本体 b2 をそれぞれ又は連動させて、照射光を投影させ、遊技盤 1A やスクリーン部 b4 の背面に向けて照射光を投影することにより、視覚的な演出として映像を表示する。

【 0 2 0 7 】

また、主制御回路 70 に接続されている各種センサ、各種装置、他の回路等の遊技機構成部品は、カバー部材 430 (図 51 参照) に収容されている中継基板 100 (図 51 参照) や、遊技盤 1A (図 45 参照) の遊技盤中継基板 101 (図 45 参照) を介して、主制御回路 70 に接続されている。

10

【 0 2 0 8 】

上記実施形態でのパチンコ遊技機では、貯留皿に貯留されている遊技球を遊技盤に発射し、入賞が発生した場合に払出装置から遊技球を貯留皿に払い出す構成であったが、これに限定されるものではない。

【 0 2 0 9 】

例えば、遊技者によって遊技に必要な遊技球やメダルなどの遊技媒体が投入され、それに基づいて遊技が行われ、例えばパチスロ機やカジノマシンなど、その遊技の結果に基づいて特典が付与される形態全てについて、本発明を適用することができる。すなわち、物理的な遊技者の動作によって遊技媒体を使用し、遊技結果に応じて遊技媒体が払い出される形態のみならず、主制御回路 (主制御基板) 自体が、遊技者が保有する遊技媒体を電磁的に管理し、遊技媒体を遊技者が触れることなく遊技が可能とするものであってもよい。また、遊技者が保有する遊技媒体を電磁的に管理するのは、主制御回路 (主制御基板) に装着され (接続され) 、遊技媒体を管理する遊技媒体管理装置であってもよい。またその場合、遊技盤に発射される遊技球は遊技者が触れる事のない封入式遊技機であることが望ましい。

20

【 0 2 1 0 】

遊技媒体管理装置は、ROM 及び RWM (あるいは、RAM) を有して、遊技機に設けられる装置であって、図示しない外部の遊技媒体取扱装置と所定のインターフェイスを介して双方向通信可能に接続されるものであり、遊技媒体の貸出動作や遊技媒体の払出動作によって生じる遊技の用に供する遊技媒体を電磁的に記録する動作を行い得るものとすればよい。また、遊技媒体管理装置は、これら実際の遊技媒体数の管理のみならず、例えば、その遊技媒体数の管理結果に基づいて、パチンコ機 1 又は 1A の前面に、保有する遊技媒体数を表示する保有遊技媒体数表示装置 (不図示) を設けることとし、この保有遊技媒体数表示装置に表示される遊技媒体数を管理するものであってもよい。すなわち、遊技媒体管理装置は、遊技者が遊技の用に供することができる遊技媒体の総数を電磁的方法により記録し、表示することができるものとすればよい。

30

【 0 2 1 1 】

また、この場合、遊技媒体管理装置は、遊技者が、記録された遊技媒体数を示す信号を、外部の遊技媒体取扱装置に対して自由に送信させることできる性能を有し、また、遊技者が直接操作する場合のほか、記録された遊技媒体数を減ずることができない性能を有し、また、外部の遊技媒体取扱装置との間に外部接続端子板 (不図示) が設けられる場合には、その外部接続端子板を介してでなければ、遊技者が、記録された遊技媒体数を示す信号を送信できない性能を有することが望ましい。

40

【 0 2 1 2 】

遊技機には上記の他、遊技者が操作可能な貸出操作手段、返却 (精算) 操作手段、外部接続端子板が設けられ、遊技媒体取扱装置には紙幣等の有価価値の投入口、記録媒体 (例えば、IC カード) の挿入口、携帯端末から電子マネー等の入金を行うための非接触通信アンテナ等、その他貸出操作手段、返却操作手段等の各種操作手段、遊技媒体取扱装置側外部接続端子板が設けられるようにしてもよい (いずれも不図示) 。

50

【 0 2 1 3 】

その際の遊技の流れとしては、例えば、遊技者が遊技媒体取扱装置に対しいずれかの方法で有価価値を入金し、上記いずれかの貸出操作手段の操作に基づいて所定数の有価価値を減算し、遊技媒体取扱装置から遊技媒体管理装置に対し減算した有価価値に対応する遊技媒体を増加させる。そして遊技者は遊技を行い、さらに遊技媒体が必要な場合には上記操作を繰り返し行う。その後、遊技の結果、所定数の遊技媒体を獲得し、遊技を終了する際には、いずれかの返却操作手段を操作することにより、遊技媒体管理装置から遊技媒体取扱装置に対し遊技媒体数を送信し、遊技媒体取扱装置はその遊技媒体数を記録した記録媒体を排出する。遊技媒体管理装置は遊技媒体数を送信したときに自身が記憶する遊技媒体数をクリアする。遊技者は排出された記録媒体を景品交換するために景品カウンター等に持っていくか、又は他の台で記録された遊技媒体に基づいて遊技を行うために遊技台を移動する。

【 0 2 1 4 】

このように、上述した遊技媒体管理装置を設けることにより、遊技媒体が物理的に遊技に供される場合と比べて、遊技機内部の払出装置等を減らすことができ、遊技機の原価及び製造コストを削減できるのみならず、遊技者が直接遊技媒体に接触しないようにすることもでき、遊技環境が改善し、騒音も減らすことができるとともに、装置を減らしたことにより遊技機の消費電力を減らすことにもなる。また、遊技媒体や遊技媒体の投入口や払出口を介した不正行為を防止することができる。すなわち、遊技機をとりまく種々の環境を改善することができる遊技機を提供することが可能となる。

【 0 2 1 5 】

第2実施形態に係るパチンコ遊技機Yによれば、以下の作用効果を奏する。パチンコ遊技機Yによれば、プロジェクタユニットbを、前面側から背面側方向の投射レンズb2aから出射される投影光を遮らない位置において、傾斜させた状態で配置できるので、プロジェクタユニットbの前面側から背面側方向の設置スペースを抑えることができる。さらに、このように配置したプロジェクタユニットbの下部とカバー部材との間に形成された所定の空間405に、主制御基板70Aを収容できるので、所定の空間405を利用せずに、別の場所の主制御基板70Aを設けた場合に比べ、省スペース化が可能となる。したがって、裏機構を省スペース化することが可能な遊技機を提供できる。

【 0 2 1 6 】

また、プロジェクタユニットbを、投射レンズb2aを設けた一方の端部側をパチンコ遊技機Yの前面側に配置し、反対の端部を背面側に配置し、一方の端部側を反対の端部側より低くなるように設けたことで、プロジェクタユニットbからの廃熱を、パチンコ遊技機Yの裏機構内にこもらせることなく、斜め上方に逃がすことが可能となり、この廃熱が他の精密部品に悪影響を及ぼすことを防止可能となる。

【 0 2 1 7 】

これにより、カバー部材430の凹部431aに、主制御基板70Aを収容できるので、主制御基板70Aをプロジェクタユニットbの下部の所定の空間405に納めつつ、プロジェクタユニットbの廃熱から主制御基板70Aを保護し、この廃熱による主制御基板70Aへの悪影響を防止することができる。また、主制御基板70Aを、外側に配置されているカバー部材430に収容することで、構成部品のメンテナンスが容易になる。

【 0 2 1 8 】

また、取付枠410とカバー部材430との間に設けられた取付ベース420に、プロジェクタユニットb及びミラー部材b3を取り付けることができる、取付枠410の前方から飛び出すようにミラー部材b3を設ける必要がないので、パチンコ遊技機Yの美観を損ねることなく、照射光を適切に、スクリーンに投影することができる遊技機を提供できる。

【 0 2 1 9 】

また、取付ベース420の幅を、前面側から背面側にいくにつれて狭くし、カバー部材430の背面部431に主基板70Aを収容可能とし、カバー部材430の側面432に

10

20

30

40

50

、主基板 70A とは異なる中継基板 100 を収容可能としたので、遊技機内部の限られたスペースを有効に利用することが可能となる。また、カバー部材 430 が、カバー部材 430 の表面からパチンコ遊技機 Y 内部側に突出するように形成され、主制御基板 70A をカバー部材 430 の表面よりパチンコ遊技機 Y 背面側に突出しないように収容可能な凹部 431a を備えた。これにより、主制御基板 70A を、凹部 431a に収容することで、取付ベース 420 とカバー部材 430 の表面との間において、パチンコ遊技機 Y 背面側に突出しないように設けることができる、遊技機内部の限られたスペースを有効に利用することが可能となる。

【0220】

また、前面側に配置される取付枠 410 に取り付けられた可動止め具により、遊技盤 1A を着脱自在に固定し、取付枠 410 の背面側に取付ベース 420 及びカバー部材 430 を取り付けたので、カバー部材 430 を外さないと、取付枠 410 に設けられた遊技盤可動止め具 413 へのアクセスを困難とすることで、不正行為を防止することができる。また、遊技盤 1A の背面側に設ける各種部品を、遊技盤 1A の背面側に設けられた取付ベース 420 やカバー部材 430 に、取り付けることができる、例えば、各種部品を変えずに、遊技盤 1A だけ変更することも可能となり遊技機の設計が容易になる。また、遊技機の組み立てる際には、遊技盤 1A に関連する遊技盤可動止め具 413 を取付枠 410 の側面に、主制御基板 70A が収容されているカバー部材 430 を取付枠 410 の背面に取り付けるようにして、遊技盤 1A に関わる部材、主制御基板 70A 等の裏機構に関わる部材、というように、部材の大きなカタゴリ毎に取り付ける面を異なるように構成した。したがって、遊技機の設計変更や組み立て作業を容易にし、また組み立て作業における作業水を低減することができる遊技機を提供できる。

10

20

【0221】

また、取付枠 410 のどの面に、どの部材を取り付けるかを分けることで、取付枠 410 に取り付ける部材の配置関係（内周か背面か）にしたがって組み立てることで、組み立て作業における誤作業を防止できる。

【0222】

また、取付枠 410 と、主制御基板 70A を収容可能なカバー部材 430 との間に取付ベース 420 を設け、この取付ベース 420 にプロジェクタユニット b が取り付け、カバー部材に遊技装置を制御可能な制御基板を取り付け、取付枠 410 に、取付ベース 420 及びカバー部材 430 を別々に固定可能な固定部 411a を備えることで、遊技装置の種類に応じて、取付ベース 420 の形状を変更可能とすることができる。よって、裏機構を覆う部材を、カバー部材 430 と取付ベース 420 との 2 つの部材で構成することで、共通した部材であるカバー部材 430 を使用しつつ、取付ベース 420 をパチンコ遊技機 Y の演出特性に合わせた遊技装置の種類に応じた形状に変更することで、柔軟な機種開発を行うことが可能となる。したがって、裏機構を覆う部材の汎用性を向上可能な遊技機を提供できる。

30

【0223】

また、カバー部材 430 を外さないと、遊技装置が取り付けられた取付ベース 420 を操作できないので、いたずら等で外部から遊技装置を取り外されることを防止できる。

40

【0224】

また、カバー部材 430 を取付枠 410 に取り付けることで、遊技機全体の剛性を向上することが可能となる。また、裏機構を覆う部材を、カバー部材 430 と取付ベース 420 との二重構造とすることで、さらに、遊技機全体の剛性を向上することが可能となる。

【0225】

パチンコ遊技機 Y によれば、カバー部材 430 の側面部 432 の少なくとも 1 つを傾斜させたので、奥行き寸法が同じ場合に、側面部 432 を傾斜させない場合に比べ、副制御基板 80A 等の遊技機構成部品の設置可能面積が大きくなるので、より多様な遊技機構成部品を取り付けることが可能となる。また、背部 431 及び少なくとも 2 つの側面部 432 から形成される空間の内部に収容される主制御基板 70A とは別に、この傾斜した側

50

面部432に、副制御基板80Aを収容可能としたので、副制御基板80Aを背面部431に集約した場合に比べ、副制御基板80Aがパチンコ遊技機Yの背面部431に突出するのを抑えることが可能となる。したがって、奥行き寸法を抑えることが可能な遊技機を提供できる。

【0226】

また、カバー部材430の背面部431に凹部431aを設けることで、カバー部材430の背面部431の折曲がり強度を高めることが可能となる。したがって、遊技機の背面側を覆うカバー部材の強度を向上可能な遊技機を提供できる。

【0227】

また、例えば、主制御基板70Aが背面部431から突出していた場合、パチンコ遊技機Yの移動時等において、この突出した部分に外力が加わり、破損する可能性が高くなる。本発明によれば、凹部431aに主制御基板70Aを収容し、背面部431の表面を略面一の状態とすることで、遊技機の移動時等において、遊技機構成部品に外力が加わり破損する可能性を低減できる。

10

【0228】

また、カバー部材430の側面部432の少なくとも1つを傾斜させたので、奥行き寸法が同じ場合に、側面部432を傾斜させない場合に比べ、副制御基板80A等の遊技機構成部品の設置可能面積が大きくなるので、より多様な遊技機構成部品を取り付けることが可能となる。また、本体枠2に軸支された側と反対側の側面部432の少なくとも一部を、本体ユニット400の本体枠ヒンジ2bを中心とし、本体ユニット400の内側側縁を通る仮想円VCの内側に形成したので、本体枠2の内側を回動可能な範囲で、カバー部材430内部の空間をより広くし、より多くの遊技機構成部品を配置することが可能となる。したがって、奥行き寸法を抑えることが可能な遊技機を提供できる。

20

【0229】

また、カバー部材430の側面部432の少なくとも一部を仮想円VCに沿った形状に形成したので、本体枠2の内側を回動可能な範囲で、カバー部材430内部の空間を更に広くし、更に多くの遊技機構成部品を配置することが可能となる。

【0230】

また、カバー部材430の側面部432の少なくとも1つを傾斜させたので、奥行き寸法が同じ場合に、側面部432を傾斜させない場合に比べ、副制御基板80A等の遊技機構成部品の設置可能面積が大きくなるので、より多様な遊技機構成部品を取り付けることが可能となる。また、カバー部材430において、開口部432eを、背面部431及び少なくとも2つの側面部432から形成される空間の内部に収容された遊技盤1Aの遊技盤中継基板101からの配線をカバー部材430の外側に設けられた中継基板100と接続可能なように設け、側面第1凹部432aに開口部432eを介して配線と接続される中継基板100を収容可能とし、この側面第1凹部432aに、主制御基板70Aや副制御基板80Aをそれぞれ収容可能な凹部431aや側面第2凹部432cを隣接させた。これにより、より多彩な主制御基板70Aを取り付けることが可能であっても、多様な遊技機構成部品を集約して配置可能となり、これらを接続するケーブルを短くすることが可能となる。よって、多様な遊技機構成部品の確認作業やケーブル等の取り回しが容易になる。したがって、遊技機の組み立て作業やメンテナンスを簡素にすることが可能な遊技機を提供できる。

30

【0231】

パチンコ遊技機Yによれば、仮に貯留皿の払出口が塞がれることなどにより、払出装置700の内部において球送出機構720から排出口730Bへと通じる第1誘導路730Cで賞球となる遊技球の流れが停滞して詰まりが生じても、この第1誘導路730Cの上部途中から分岐した分岐路730E及び貫通口731Aを通じて球送出機構720からの遊技球が第2誘導路730Dへと迂回して導かれ、第2誘導路730Dが遊技球で満タン状態となっても、払出口(排出口730B)付近の閉塞状態が解消されると、第1誘導路730C及び第2誘導路730Dにおいて満タン状態となつた多数の遊技球を直ちにまと

40

50

めて排出口 730B から排出することができる。すなわち、払出装置 700 の内部における遊技球の球詰まりを第 2 誘導路 730D が満タン状態となるまで可及的に遅らせて防ぐことができる。

【 0232 】

また、払出装置 700 の内部に第 1 誘導路 730C 及び第 2 誘導路 730D が設けられるので、遊技者の手に誘導路内の遊技球が直接触れられるおそれもなく、外的な要因によって遊技球の球詰まりが発生してしまうことを防ぐことができる。

【 0233 】

また、カバー部材 430 において、球通路ユニット 730 と基板の収容部を一体的なユニットとして形成でき、また、カバー部材 430 の中央よりに制御基板を配置することで、配線回しに柔軟性を持たせることが可能となり、また、制御基板に不正が行われているかも確認しやすくなる。

10

【 0234 】

また、第 2 誘導路 730D が満タン状態となって満タン検知レバー 732 及び満タン検知センサ 733 により遊技球の停滞が検知されるまでは、球送出機構 720 により入賞に応じた賞球としての遊技球を継続して繰り出すことができる。したがって、満タン状態となっても払い出し動作をすぐに中断させずに継続することができ、払出装置 700 の内部により多くの遊技球を貯留することができる。また、第 1 誘導路 730C と第 2 誘導路 730D との横方向の幅を変えることで、第 1 誘導部と第 2 誘導部とにおける遊技球の貯留量や流量を変えることが可能となり、より適切な払い出し動作を行えるように調整することが可能となる。

20

【 0235 】

また、第 2 誘導路 730D は、第 1 誘導路 730C に平面的に重なるように併設されることにより、別途設けられる第 2 誘導路 730D の占有スペースを大きく拡張せずとも有効にスペースを確保して利用することができる。これにより、球通路ユニット 730 と共に払出装置 700 全体の小型化に貢献することができる。

【 0236 】

また、第 2 誘導路 730D に満タン状態となって貯留された遊技球も排出口 730B へと合流するように導くことができる。これにより、第 1 誘導路 730C の遊技球もまとめて多数の遊技球を 1 箇所の排出口 730B から排出することができ、払出装置 700 の内部における遊技球の球詰まりを可及的かつ速やかに解消することができる。

30

【 0237 】

パチンコ遊技機 Y によれば、突片部材 830 が第 1 検知センサ 840, 第 2 検知センサ 850 を分け隔てつつも奥方の遊動空間部 810D, 820D まで遊技球の進入を可能としており、遊動空間部 810D, 820D の遊技球を突片部材 830 の上端 830A に接しながら底面 810Da, 820Da に沿って第 1 検知センサ 840 及び第 2 検知センサ 850 のいずれか一方に振り落とすことができるので、球検知ユニット 800 の内部において遊技球どうして球噛みを生じることがなく、ひいてはアウトロ 55 付近における遊技球の球詰まりを効果的に防ぐことができる。

【 0238 】

また、突片部材 830 は、遊技球が進入する方向に沿って手前から奥方へと遊技球を左右に振り分けるように導くことができるので、遊技球どうして球噛みを生じるおそれもなく、第 1 検知センサ 840 及び第 2 検知センサ 850 のいずれかへとスムーズに遊技球を導くことができる。

40

【 0239 】

また、突片部材 830 の上端 830A は、奥側にいくほど上昇（隆起）するように形成されているので、遊動空間部 810D, 820D への遊技球の進入を許容しつつも可及的に第 1 検知センサ 840 及び第 2 検知センサ 850 のいずれかへと徐々に遊技球を落下させやすくすることができるとともに、上端 830A の前側部分では、遊技球の進行方向を規制せずに第 1 検知センサ 840 及び第 2 検知センサ 850 のいずれにも誘導することができる。

50

できる。

【0240】

また、突片部材830は、第1検知センサ840及び第2検知センサ850を分け隔てつつも完全にこれらを仕切ることなく、上端830Aが峰状になっているので、進入した遊技球を引っ掛かりなく第1検知センサ840及び第2検知センサ850のいずれかへとスムーズに誘導することができる。

【0241】

パチンコ遊技機Yによれば、遊技盤中継基板101を、遊技盤1Aに対し略直角に立設させたので、遊技盤1Aに面で取り付けた場合に比べ、遊技盤1Aの裏面側における遊技盤中継基板101の設置スペースを抑えことが可能となる。また、カバー部材430により第1大入賞口ソレノイド53bを覆うことで、第1大入賞口ソレノイド53bと遊技盤中継基板101との接続部分を保護することが可能となる。したがって、遊技盤の裏面側における基板の設置スペースを抑えつつ、基板を外部の衝撃から保護することが可能な遊技機を提供できる。

10

【0242】

また、カバー部材430に、遊技盤中継基板101に対応する位置に開口を設け、遊技盤中継基板101を、この開口を介してカバー部材430の外部からコネクタ接続部101aに対する接続操作が可能な位置まで延設し、かつ、少なくとも遊技盤中継基板101の外側部分をカバー部材で覆った。このため、遊技盤中継基板101を外部の衝撃から保護しつつ、遊技盤中継基板101に接続されたコネクタをカバー部材430の外に引き出したり、カバー部材430を取り付けた状態で、遊技盤中継基板101にコネクタを着脱することができるため、遊技機の組み立てや、メンテナンスの作業性を向上することが可能となる。

20

【0243】

また、遊技盤中継基板101を、遊技盤1Aに対し略直角に立設させたので、遊技盤1Aに面で取り付けた場合に比べ、遊技盤1Aの裏面側における遊技盤中継基板101の設置スペースを抑えことが可能となる。また、遊技盤中継基板101を遊技盤1Aと平行な状態となるように折り畳み可能とすることで、必要に応じて（例えば、遊技盤中継基板101を取り付けた遊技盤1Aを搬送したり、重ねて保管したりする場合等）、遊技盤中継基板101を折り畳めるので、遊技盤1Aから垂直に突出させたままの状態にしておく場合に比べ、遊技盤中継基板101に外力がかかる可能性が低くなり、遊技盤中継基板101が破損してしまうリスクを低減できる。したがって、遊技盤の裏面側における基板の設置スペースを抑えつつ、基板が損傷するリスクを低減することが可能な遊技機を提供できる。

30

【0244】

また、カバー部材430に、遊技盤中継基板101に対応する位置に開口部432eを設け、遊技盤中継基板101が、この開口部432eを介してカバー部材430の外部からコネクタ接続部101aに対する接続操作が可能な位置まで延設し、かつ、少なくとも遊技盤中継基板101の外側部分をカバー部材430で覆った状態でコネクタ接続部101aの配線差込口101bが開口部432eの方向に向くように配置した。このため、遊技盤中継基板101を外部の衝撃から保護しつつ、遊技盤中継基板101に接続されたコネクタをカバー部材430の外に引き出したり、カバー部材430を取り付けた状態で、遊技盤中継基板101にコネクタを着脱することができるため、遊技機の組み立てや、メンテナンスの作業性を向上することが可能となる。

40

【0245】

また、カバー部材430の側面部432の少なくとも1つを傾斜させたので、奥行き寸法が同じ場合に、側面部432を傾斜させない場合に比べ、副制御基板80A等の遊技機構成部品の設置可能面積が大きくなるので、より多様な遊技機構成部品を取り付けることが可能となる。また、この傾斜した側面部432に、遊技機構成部品を収容可能としたので、遊技機構成部品を背面部431に集約した場合に比べ、遊技機構成部品が遊技機の背

50

面部431に突出するのを抑えることが可能となる。また、傾斜した側面部432において、遊技盤中継基板101に対応する位置に開口部432eを設けることで、遊技盤1Aの裏面側における遊技盤中継基板101の設置スペースを抑えつつ、カバー部材430の側面部432における遊技機構成部品の設置可能面積をより大きくすることが可能となる。

【0246】

また、遊技盤中継基板101を、遊技盤1Aに対し略直角に立設させたので、遊技盤1Aに面で取り付けた場合に比べ、遊技盤1Aの裏面側における遊技盤中継基板101の設置スペースを抑えることが可能となる。また、カバー部材430により第1大入賞口ソレノイド53bを覆うことで、第1大入賞口ソレノイド53bと遊技盤中継基板101との接続部分を保護することが可能となる。したがって、遊技盤の裏面側における基板の設置スペースを抑えつつ、基板を外部の衝撃から保護することが可能な遊技機を提供できる。

10

【0247】

また、中継基板100を収容可能な側面第1凹部432aに、主制御基板70A、副制御基板80Aをそれぞれ収容可能な側面第2凹部432c、凹部431aを隣接して配置し、かつ側面第1凹部432aには遊技盤1Aからの配線と接続可能な開口部432eを設けたので、遊技盤1Aに設けられた部品と側面第2凹部432cや凹部431aに収容された主制御基板70Aや副制御基板80Aのそれぞれとの配線長さを短くすることができる。よって、多様な遊技機構成部品の確認作業やケーブル等の取り回しが容易になる。

【0248】

パチンコ遊技機Yによれば、パチンコ遊技機Yの組み立て作業において、取付枠410にカバー部材430を取り付ける場合、大まかな位置を合わせて重ねることで、取付枠410の第1誘導樋416及びカバー部材430の第2誘導樋434のいずれか他方の開口部が、一方の開口部の受入部434aのリブ434bに導かれ、一方の開口部に他方の開口部が挿入するよう接続されことで遊技球が流下可能な状態となる。このように、取付枠410の第1誘導樋416及びカバー部材430の第2誘導樋434のいずれか一方の開口部と他方の開口部を、厳密に位置合わせしなくとも、大まかな位置を合わせ、重ねるだけで、一方の開口部に他方の開口部が挿入するよう接続され、遊技球が流下可能な状態となるので、組み立ての作業効率を向上可能となる。したがって、組み立ての作業効率を向上可能な遊技機を提供できる。

20

【0249】

また、パチンコ遊技機Yの組み立て作業において、取付枠410にカバー部材430を取り付ける場合、大まかな位置を合わせて重ねることで、取付枠410の第1誘導樋416及びカバー部材430の第2誘導樋434のいずれか他方の開口部が、一方の開口部の受入部434aのリブ434bに導かれ、他方の開口部が一方の開口部に挿入するよう接続されことで遊技球が流下可能な状態となる。また、取付枠410の第3誘導樋418及びカバー部材430の第4誘導樋のいずれか一方の開口部が、一方の開口部の受入部434aのリブ434bに導かれ、他方の開口部が一方の開口部に挿入するよう接続されことで遊技球が流下可能な状態となる。このように、取付枠410の第1誘導樋416及びカバー部材430の第2誘導樋434のいずれか一方の開口部と他方の開口部や、取付枠410の第3誘導樋418及びカバー部材430の第4誘導樋のいずれか一方の開口部と他方の開口部を、厳密に位置合わせしなくとも、大まかな位置を合わせ、重ねるだけで、一方の開口部に他方の開口部が挿入するよう接続され、遊技球が流下可能な状態となるので、組み立ての作業効率を向上可能となる。さらに、第1誘導樋416及び第2誘導樋434と、第3誘導樋418及び第4誘導樋と、の2ヶ所の連結部分で、取付枠410にカバー部材430を取り付ける際の位置決めが可能となるので、大まかな位置を合わせて、より正確な位置決めが可能となる。したがって、組み立ての作業効率を向上可能な遊技機を提供できる。

30

【0250】

また、パチンコ遊技機Yの組み立て作業において、取付枠410にカバー部材430を取り付ける場合、大まかな位置を合わせて重ねることで、取付枠410の第1誘導樋416

40

50

6 及びカバー部材 4 3 0 の第 2 誘導樋 4 3 4 のいずれか他方の開口部が、一方の開口部の受入部のリブ 4 3 4 b に導かれ、他方の開口部が一方の開口部に挿入するように接続されることで遊技球が流下可能な状態となる。また、取付枠 4 1 0 の第 3 誘導樋 4 1 8 及びカバー部材 4 3 0 の第 4 誘導樋のいずれか一方の開口部が、一方の開口部の受入部のリブ 4 3 4 b に導かれ、他方の開口部が一方の開口部に挿入するように接続されることで遊技球が流下可能な状態となる。このように、取付枠 4 1 0 の第 1 誘導樋 4 1 6 及びカバー部材 4 3 0 の第 2 誘導樋 4 3 4 のいずれか一方の開口部と他方の開口部や、取付枠 4 1 0 の第 3 誘導樋 4 1 8 及びカバー部材 4 3 0 の第 4 誘導樋のいずれか一方の開口部と他方の開口部を、厳密に位置合わせしなくとも、大まかな位置を合わせ、重ねるだけで、一方の開口部に他方の開口部が挿入するように接続され、遊技球が流下可能な状態となるので、組み立ての作業効率を向上可能となる。さらに、第 1 誘導樋 4 1 6 及び第 2 誘導樋 4 3 4 と、第 3 誘導樋 4 1 8 及び第 4 誘導樋と、の 2 ヶ所の連結部分で、取付枠 4 1 0 にカバー部材 4 3 0 を取り付ける際の位置決めが可能となるので、大まかな位置を合わせて、より正確な位置決めが可能となる。したがって、組み立ての作業効率を向上可能な遊技機を提供できる。

【 0 2 5 1 】

また、パチンコ遊技機 Y の組み立て作業において、取付枠 4 1 0 にカバー部材 4 3 0 を取り付ける場合、大まかな位置を合わせて重ねる。このとき、互いの開口部の位置が多少ずれても、カバー部材 4 3 0 を押し込むことで、他方の開口部は、一方の開口部のリブ 4 3 4 b の傾斜に導かれ、リブ 4 3 4 b の外縁から内縁側に移動し、内縁に囲まれた部分に嵌まり、一方の開口部に他方の開口部が挿入するように接続され、遊技球が流下可能な状態となる。このように、取付枠 4 1 0 の第 1 誘導樋 4 1 6 及びカバー部材 4 3 0 の第 2 誘導樋 4 3 4 のいずれか一方の開口部と他方の開口部を、厳密に位置合わせしなくとも、大まかな位置を合わせ、重ねるだけで、一方の開口部に他方の開口部が挿入するように接続され、遊技球が流下可能な状態となるので、組み立ての作業効率を向上可能となる。したがって、組み立ての作業効率を向上可能な遊技機を提供できる。

【 0 2 5 2 】

また、パチンコ遊技機 Y の組み立て作業において、取付枠 4 1 0 にカバー部材 4 3 0 を取り付ける場合、大まかな位置を合わせて重ねることで、取付枠 4 1 0 の第 1 誘導樋 4 1 6 及びカバー部材 4 3 0 の第 2 誘導樋 4 3 4 のいずれか他方の開口部の係合部 4 1 6 a が、一方の開口部の受入部 4 3 4 a のリブ 4 3 4 b に導かれ、接続位置において、リブ 4 3 4 b により囲まれた部分に嵌まり、一方の開口部に他方の開口部が挿入するように接続されることで遊技球が流下可能な状態となる。このように、取付枠 4 1 0 の第 1 誘導樋 4 1 6 及びカバー部材 4 3 0 の第 2 誘導樋 4 3 4 のいずれか一方の開口部と他方の開口部を、厳密に位置合わせしなくとも、大まかな位置を合わせ、重ねるだけで、一方の開口部に他方の開口部が挿入するように接続され、遊技球が流下可能な状態となるので、組み立ての作業効率を向上可能となる。したがって、組み立ての作業効率を向上可能な遊技機を提供できる。

【 0 2 5 3 】

また、他方の開口部を、一方の開口部のリブ 4 3 4 b で案内する場合、他方の開口部の開口の外縁が、リブ 4 3 4 b に当接するが、このとき、開口の外縁に力が加わり、開口を変形させてしまい、接続後に、遊技球の流下に支障をきたすことがある。本発明によれば、他方の開口部の開口の外縁に係合部 4 1 6 a を設けることで、係合部 4 1 6 a をリブ 4 3 4 b に当接させ、開口の外縁に加わる力を低減し、接続後に、遊技球の流下に支障をきたすことを防止可能となる。

【 0 2 5 4 】

パチンコ遊技機 Y によれば、払出口 9 0 1 から放出された遊技球は、外壁部 9 3 0 E a に接触しつつこれに沿って転動し、さらに連続する湾曲状の外周部 9 3 0 B に沿って転動しながら整列部 9 2 0 A の整列方向上流側へと導かれ、整列部 9 2 0 A においては、複数の遊技球が直線的な列をなすように整列して導入口 9 2 0 A b まで誘導される。その際、

10

20

30

40

50

第1開口部930Fに設けられた第1開閉蓋953Aが開放状態にあっても、払出口901から放出された遊技球が第1開口部930Fに落下することなく外壁部930Eaから外周部930Bに沿って転動しつつ整流部930Cから整列部920Aへと導かれる。したがって、整流部930Cによって払出口901から整列部920Aに至るまでの経路長を比較的長く確保しつつも、第1開口部930Fから落下しないように、貯留部930Eの外壁部930Eaや整列部920Aの外周部930Bが第1開口部930Fから所定の間隔をあけて形成されるとともに、その外周部930Bが湾曲状に形成されているので、整流部930Cから整列部920Aへと円滑に落下・排出させることなく遊技球を導くことができる。

【0255】

また、払出口901から放出された遊技球は、直接整列部920Aに達することなく整流部930Cへと迂回するように導かれ、その後、この整流部930Cから整列部920Aへと導かれ、整列部においてまっすぐ整列した状態で導入口920Abへと導かれる。これによても、整流部930Cから整列部920Aへと円滑に球詰まりさせることなく遊技球を導くことができる。

【0256】

また、整流部930Cと整列部920Aとは、カバー部930Aの外側と内側とに形成されるので、これによても、払出口901から整列部920Aに至るまでの経路長を比較的長く確保し、皿ユニット900全体の幅寸法や設置スペースを抑えることができる。

【0257】

また、整列部920Aに整列している遊技球に、更に放出された遊技球が乗り上げ、整列が乱れ球詰まりが発生したり、遊技球が皿ユニット900から飛び出したりすることを防止できる。

【0258】

また、湾曲状の整流部930Cを形成することによっても、払出口901から整列部920Aに至るまでの経路長を比較的長く確保することができるので、皿ユニット900全体の幅寸法や設置スペースを抑えることができ、整流部930Cから整列部920Aへと円滑に遊技球を導くことができる。

なお、本実施形態においては、受け皿カバー部材930自体のカバー部930Aの外側壁930Aaと外周部930Bとの間に整列部930Cが形成されるが、単に整列部を覆うだけのカバー部材を設け、このカバー部材の外側と皿ユニット本体部の湾曲した内周部との間に整列部のほか、スロープ部や貯留部を設けるようにしてもよい。

【0259】

「第3実施形態」

次に、第3実施形態に係るパチンコ遊技機について図面を参照して説明する。なお、先述した第1～第2実施形態に係るものと同一又は類似の構成要素については、同一符号を付してその説明を省略する。図85～図135は、第3実施形態に係るパチンコ遊技機を説明するための図である。

【0260】

第3実施形態に係るパチンコ遊技機は、主として、主制御基板28を収容する基板ケース2800の組付け構造、当該基板ケース2800の基板ユニット34における取付構造、前面ドア(表枠)3の形状・構造、発射ハンドル26bの内部構造、送風機構110の可動構造に特徴を有する。これらの特徴的な構造について図面を参照して以下に順に説明する。

【0261】

[基板ケースの組付け構造]

図85及び図86は基板ユニット34の斜視図、図87は基板ユニット34の正面図、図88及び図89は基板ケース2800の斜視図、図90及び図91は基板ケース2800の分解斜視図、図92は基板ケース2800の正面図、図93は基板ケース2800の背面図、図94及び図95は基板ケース2800における上側部材2810の側面図、図

10

20

30

40

50

図 9 6 は上側部材 2 8 1 0 の一部拡大側面図、図 9 7 は基板ケース 2 8 0 0 における下側部材 2 8 2 0 の内部正面図、図 9 8 は上側部材 2 8 1 0 及び下側部材 2 8 2 0 の組付け前の状態を示す斜視図、図 9 9 は上側部材 2 8 1 0 及び下側部材 2 8 2 0 の組付け後の状態を示す斜視図である。

【 0 2 6 2 】

図 8 5 ~ 図 8 7 に示すように、主制御基板 2 8 を収容する基板ケース 2 8 0 0 は、サブ制御基板 3 3 を収容するサブ制御基板収容部材 3 3 a や中継基板 3 2 と共に基板ユニット 3 4 のベース部材 3 4 0 に取り付けられる。中継基板 3 2 は、ベース部材 3 4 0 の下側部分に取り付けられ、サブ制御基板収容部材 3 3 a は、中継基板 3 2 の左寄り上方に位置し、ベース部材 3 4 0 の左上側部分に取り付けられ、基板ケース 2 8 0 0 は、中継基板 3 2 の右寄り上方に位置し、サブ制御基板収容部材 3 3 a に近接しつつベース部材 3 4 0 の右上側部分に取り付けられる。

10

【 0 2 6 3 】

図 8 8 ~ 図 9 1 に示すように、基板ケース 2 8 0 0 は、主たる部材要素として、上側部材 2 8 1 0 、下側部材 2 8 2 0 、及びカバー部材 2 8 3 0 を有する。上側部材 2 8 1 0 、下側部材 2 8 2 0 、及びカバー部材 2 8 3 0 は、内部を視認可能な透明素材で形成される。図 9 1 に示すように、上側部材 2 8 1 0 の裏面には、ネジ 2 8 4 0 を介して主制御基板 2 8 が固定される。主制御基板 2 8 は、図示されないメイン C P U 2 8 0 等の電子部品が実装された主面を上側部材 2 8 1 0 の表面 2 8 1 0 a に向けた姿勢で固定される。主制御基板 2 8 が裏面に固定された上側部材 2 8 1 0 は、上下方向にスライドさせることで下側部材 2 8 2 0 に組み付けられ、さらに上側部材 2 8 1 0 と下側部材 2 8 2 0 とは、互いに封止されることで一体化される。図 9 0 及び図 9 1 に示すように、カバー部材 2 8 3 0 は、互いに封止された上側部材 2 8 1 0 及び下側部材 2 8 2 0 の上端部 2 8 1 1 , 2 8 2 1 を覆うように取り付けられる。

20

【 0 2 6 4 】

図 9 2 ~ 図 9 6 に示すように、上側部材 2 8 1 0 は、概ね上下方向を長手方向として蓋状に形成されており、上端部 2 8 1 1 、端子露出部 2 8 1 2 、封止部 2 8 1 3 、周縁部 2 8 1 4 を有する。

【 0 2 6 5 】

上端部 2 8 1 1 と下側部材 2 8 2 0 の上端部 2 8 2 1 には、封印シール 2 8 3 0 A が貼着され、その上からシールリストップ 2 8 3 0 B が嵌め合わされ、さらにその上からカバー部材 2 8 3 0 が被せられる(図 9 0 ~ 図 9 2 参照)。

30

【 0 2 6 6 】

端子露出部 2 8 1 2 は、主制御基板 2 8 に設けられた各種の接続端子 2 8 a ~ 2 8 c を露出させるための開口 2 8 1 2 a ~ 2 8 1 2 c を有する(図 9 2 参照)。主制御基板 2 8 の接続端子 2 8 a ~ 2 8 c は、端子露出部 2 8 1 2 の開口 2 8 1 2 a ~ 2 8 1 2 c から外方に露出され、図示しない外部の端子と接続される。

【 0 2 6 7 】

封止部 2 8 1 3 は、上側部材 2 8 1 0 の左端部に一体形成されている。封止部 2 8 1 3 は、下側部材 2 8 2 0 の封止固定部 2 8 2 3 とネジ 2 8 5 0 等を介して結合・封止される(図 9 0 及び図 9 1 参照)。図 9 2 及び図 9 3 に示すように、封止部 2 8 1 3 は、ネジ 2 8 5 0 に対応する 2 つのネジ孔 2 8 1 3 a を有し、複数のブリッジ 2 8 1 3 b を介して上側部材 2 8 1 0 の左端部に連接されている。このような封止部 2 8 1 3 は、一つのネジ孔 2 8 1 3 a にネジ 2 8 5 0 を介して下側部材 2 8 2 0 の封止固定部 2 8 2 3 に結合される。ネジ 2 8 5 0 が締結された封止部 2 8 1 3 には、封止蓋 2 8 5 3 が嵌め合わされる。その後、封止部 2 8 1 3 の結合を解除する際には、複数のブリッジ 2 8 1 3 b のうち、ネジ 2 8 5 0 が残存する方のブリッジ 2 8 1 3 b を切断して封止部 2 8 1 3 の半分を分離・破壊し(図 9 2 参照)、封止固定部 2 8 2 3 にネジ 2 8 5 0 を残存させた状態で結合が解除される。残存するネジ 2 8 5 0 は、封止固定部 2 8 2 3 に取り残される。さらにその後、封止部 2 8 1 3 は、半分破壊後に残った部分のネジ孔 2 8 1 3 a にネジ 2 8 5 0 を介して

40

50

再び封止固定部 2823 に固定することができる。すなわち、上側部材 2810 は、封止部 2813 を介して 2 回まで下側部材 2820 と結合・封止することができる。

【0268】

周縁部 2814 は、上側部材 2810 の周縁から後方に延出するように形成されている。図 93～図 95 に示すように、左右両側の周縁部 2814 には、複数の係合爪 2814A, 2814B が形成されている。複数の係合爪 2814A, 2814B のうち、封止部 2813 に最も近接する係合爪 2814B は、他の係合爪 2814A と一部異なる。以下においては、係合爪 2814B について説明するが、他の係合爪 2814A について係合爪 2814B と同様の部分については、特に断らない限りその説明を省略する。

【0269】

図 96 に示すように、係合爪 2814B は、L 字状に形成されており、基端部 2814Ba、屈曲部 2814Bb、先端部 2814Bc を有する。さらに、係合爪 2814B は、他の係合爪 2814A と異なる点として切り欠き部 2814Bd を有する。

【0270】

基端部 2814Ba は、周縁部 2814 から後方向に突出するように形成されている。屈曲部 2814Bb は、基端部 2814Ba から先端部 2814Bc へと直角に曲がってつながるように形成されている。先端部 2814Bc は、屈曲部 2814Bb から下方向に延びるように形成されている。特に係合爪 2814B においては、封止部 2813 の方へと延びるように形成されている。基端部 2814Ba から屈曲部 2814Bb までの部分は、相対的に太い幅である一方、屈曲部 2814Bb から先端部 2814Bc までの部分は、相対的に細い幅になっている。これにより、基端部 2814Ba は、比較的堅牢であり、先端部 2814Bc は、比較的脆弱である。切り欠き部 2814Bd は、屈曲部 2814Bb と先端部 2814Bcとの間の細い幅の部分、より具体的には先端部 2814Bc よりも屈曲部 2814Bb の内側に近い部分に形成されている。このような切り欠き部 2814Bd は、屈曲部 2814Bb から先端部 2814Bc までの細い幅の部分に前後方向の力が加わると、その細い部分が欠損しやすくなるように設けられている。

【0271】

図 97 に示すように、下側部材 2820 は、概ね上下方向を長手方向として上側部材 2810 と対応する形状に形成されており、上端部 2821、封止固定部 2823、周縁部 2824 を有するほか、後述する基板ユニット 34 のベース部材 340 に対して連結するための一対の軸部 2825 を有する。

【0272】

上端部 2821 は、上側部材 2810 の上端部 2811 と図示しないカシメピン等を用いて結合・封止される。結合・封止された上端部 2811, 2821 は、封印シール 2830A が貼着され、その上からシールトップ 2830B が嵌め合わされ、さらにその上からカバー部材 2830 が被せられる（図 90～図 92 参照）。

【0273】

封止固定部 2823 は、上側部材 2810 の封止部 2813 と対応するように下側部材 2820 の左端部に一体形成されている。封止固定部 2823 には、上側部材 2810 の封止部 2813 を結合・封止する際にネジ 2850 を固定するための封止カバー 2851 及び封止プレート 2852 が収容される（図 90 及び図 91 参照）。封止固定部 2823 は、封止部 2813 のネジ孔 2813a を通じて封止カバー 2851 及び封止プレート 2852 にネジ 2850 が締結されることにより、封止部 2813 が固定される。

【0274】

周縁部 2824 は、係合爪 2814A, 2814B と対応する複数の箇所に係合孔 2824A を有する。係合孔 2824A は、係合爪 2814A, 2814B の屈曲部 2814Bb から先端部 2814Bc までの部分を挿入可能に上下方向に沿った長孔状に形成されている。このような係合孔 2824A に対して係合爪 2814A, 2814B が当初挿入された状態では、図 98 に示すように、上側部材 2810 が下側部材 2820 に対して若干上方向にずれた姿勢で組み合う。その後、上側部材 2810 全体を下方向に沿ってスラ

10

20

30

40

50

イドさせることにより、係合孔 2824A に対して係合爪 2814A, 2814B が係合される。これにより、図 9 9 に示すように、上側部材 2810 は、係合爪 2814A, 2814B を介して下側部材 2820 に完全に組み付けられる。こうして組み付けられ、封止部 2813 及び封止固定部 2823 等で封止された上側部材 2810 及び下側部材 2820 は、封止部 2813 付近を前後方向に無理にこじ開けようすると、封止部 2813 に最も近い係合爪 2814B に対して前後方向に過度な力が作用することとなる。その結果、係合爪 2814B の切り欠き部 2814Bd が形成された付近が欠損しやすくなる。

【0275】

軸部 2825 は、基板ケース 2800 全体をベース部材 340 に対して回転可能に取り付けるための部分であり、下側部材 2820 の左端部に一体形成されている。軸部 2825 には、下方向に突出するように回転軸 2825A が形成されている。このような軸部 2825 を介して基板ケース 2800 がベース部材 340 に取り付けられるが、これについては後述する。

10

【0276】

このような基板ケース 2800 の組付け構造によれば、互いに組み付けられた上側部材 2810 及び下側部材 2820 に対し、係合爪 2814A, 2814B 及び係合孔 2824A をスライド係合させる際の上下方向に対して垂直な前後方向に外力を加えてこじ開けようとした場合には、係合爪 2814B の切り欠き部 2814Bd 付近が欠損しやすいので、不正な方法で基板ケース 2800 をこじ開けようとした場合にその痕跡として欠損した係合爪 2814B を確実に残すことができる。

20

【0277】

また、係合爪 2814B は、屈曲部 2814Bb から先端部 2814Bc へと延びる細い部分に大きなせん断力が作用し、その部分の切り欠き部 2814Bd 付近が欠損しやすくなるので、不正な方法で基板ケースをこじ開けようとした場合にその痕跡として欠損した係合爪 2814B を確実に残すことができる。

【0278】

また、封止部 2813 及び封止固定部 2823 付近を無理にこじ開けようとした場合は、その封止部 2813 に最も近い係合爪 2814B の細い部分に大きなせん断力が作用し、切り欠き部 2814Bd 付近が欠損しやすくなるので、不正な方法で基板ケースをこじ開けようとした場合にその痕跡として欠損した係合爪 2814B を確実に残すことができる。

30

【0279】

[基板ケースの基板ユニットにおける取付構造]

図 100 及び図 101 は、基板ユニット 34 における基板ケース 2800 の回転状態を示す斜視図、図 102 ~ 図 104 は、基板ユニット 34 のベース部材 340 に対する基板ケース 2800 の取付状態を示す斜視図、図 105 ~ 図 107 は、基板ユニット 34 のベース部材 340 に対する基板ケース 2800 の取付前の状態を示す分解斜視図、図 108 は、基板ユニット 34 における基板ケース 2800 の回転状態を示す斜視図、図 109 は、基板ユニット 34 のベース部材 340 に取り付けられる封止部材 3410 を示す分解斜視図、図 110 は、基板ユニット 34 における基板ケース 2800 の回転状態を示す上面図である。

40

【0280】

図 100 及び図 101 並びに図 108 に示すように、基板ケース 2800 は、基板ユニット 34 のベース部材 340 に対して回転可能に取り付けられる。具体的には、図 106 及び図 107 に示すように、ベース部材 340 においてサブ制御基板収容部材 33a の配置箇所に近接する右側の箇所には、封止部材 3410 を固定・封止可能な封止固定部 340A と、基板ケース 2800 の軸部 2825 を軸支可能な一対の軸受部 340B, 340C とが形成されている。上側の軸受部 340B は、封止固定部 340A の直下に設けられている。基板ケース 2800 は、軸部 2825 の回転軸 2825A を軸受部 340B, 340C に対して上方から挿入されることでベース部材 340 に組み付けられる。また、図

50

100及び図102に示すように、ベース部材340の右端部には、係合フック340aが設けられているとともに、基板ケース2800の右端部には、凹部2800aが設けられており、この凹部2800aに係合フック340aが係止されることで基板ケース2800がベース部材340に対して回転不能に配置される。さらに、軸部2825を介して基板ケース2800がベース部材340に組み付けられた後、封止部材3410が封止固定部340Aに固定される。この封止部材3410の下端部は、上側の軸受部340Bに挿入された軸部2825に近接あるいは当接する。これにより、封止部材3410は、軸受部340Bにおける軸部2825の上下方向の摺動を規制し、軸部2825を回転可能としつつも軸受部340Bから抜けないようにストップとしての役割を果たす。

【0281】

図109に示すように、封止部材3410は、ネジ3420に対応する2つのネジ孔3411を有する。2つのネジ孔3411の間には、封止部材3410を半壊しやすくするための縦溝3412が形成されている。一方、図107に示すように、封止固定部340Aには、封止部材3410を固定・封止する際にネジ3420を固定するための封止カバー3440及び封止プレート3450が収容される。封止固定部340Aには、封止部材3410のネジ孔3411を通じて封止カバー3440及び封止プレート3450にネジ3420が締結されることにより、封止部材3410が固定される。このような封止部材3410は、一つのネジ孔3411（具体的には上側のネジ孔3411）にネジ3420を介して封止固定部340Aに固定される。ネジ3420が締結された封止部材3410のネジ孔3411には、封止蓋3430が嵌め合わされる（図107参照）。その後、封止部材3410の固定を解除する際には、縦溝3412に沿って封止部材3410を切断して封止部材3410の上半分を分離・破壊し、封止固定部340Aにネジ3420を残存させた状態で固定が解除される。残存するネジ3420は、封止固定部340Aに取り残される。さらにその後、封止部材3410は、半分破壊後に残った下半分のネジ孔3411にネジ3420を介して再び封止固定部340Aに固定することができる。すなわち、封止部材3410は、2回まで封止固定部340Aに対して固定・封止することができる。また、封止部材3410は、上半分が破壊されても、その下半分の下端部に対して上側の軸受部340Bに挿入された軸部2825が近接あるいは当接するので、軸部2825の上下方向の摺動を規制することができ、軸部2825が軸受部340Bから抜けないようにストップとしての役割を果たすことができる。

【0282】

図104に示すように、基板ケース2800がベース部材340に取り付けられ、封止部材3410が封止固定部340Aに固定された状態においては、上側の軸部2825が封止部材3410と軸受部340Bとの間にあいて上下方向の移動が規制される。これにより、基板ケース2800は、基板ユニット34のベース部材340から取り外し不可とされる。一方、封止部材3410が封止固定部340Aに固定された状態を解除すれば、軸受部340Bから上方に軸部2825を抜き出し可能となり、基板ケース2800をベース部材340から取り外すことができる。

【0283】

また、図108及び図110に示すように、基板ケース2800の凹部2800aに対して係合フック340aの係合状態を解除すると、基板ケース2800は、軸部2825を回転中心としつつベース部材340に対して回転した姿勢をとることができる。これにより、基板ケース2800の表側だけでなく裏側からも内部に収容された主制御基板28の状態を目視で確認することができる。

【0284】

このとき、図110に示すように、基板ケース2800をある程度の角度（例えば30度あるいは45度）まで回転させると、基板ケース2800の左端部が封止部材3410に当接する。これにより、基板ケース2800は、その左側に近接するサブ制御基板収容部材33aと干渉せずに裏側から内部を視認可能な回転姿勢まで回転させることができる。

10

20

30

40

50

【 0 2 8 5 】

このような基板ケース 2800 の基板ユニット 34 における取付構造によれば、基板ユニット 34 のベース部材 340 に対して封止部材 3410 で基板ケース 2800 の上下方向への移動を規制することができる一方、基板ケース 2800 を回転可能としつつもその回転角度を規制することができるので、基板ケース 2800 をベース部材 340 から取り外すことなくある程度の回転角度まで回転させた姿勢とし、基板ケース 2800 の背面側からケース内の主制御基板 28 を容易に確認することができる。

【 0 2 8 6 】

また、基板ケース 2800 をサブ制御基板収容部材 33a の方へと回転させても、基板ケース 2800 の左端部が封止部材 3410 に当接するまでの回転角度、すなわちサブ制御基板収容部材 33a に当接しない回転角度まで基板ケース 2800 を回転させることができるので、基板ケース 2800 をサブ制御基板収容部材 33a とは別にベース部材 340 から取り外すことなくある程度の回転角度まで回転させた姿勢とし、基板ケース 2800 の背面側からケース内の主制御基板 28 を容易に確認することができる。10

【 0 2 8 7 】**[前面ドアの形状・構造]**

図 111 は、前面ドア 3 を示す斜視図、図 112 は、前面ドア 3 を示す側面図、図 113 は、前面ドア 3 を示す分解斜視図、図 114 及び図 115 は、前面ドア 3 における透明板ユニット 7' を示す分解斜視図、図 116 は、前面ドア 3 における透明板ユニット 7' を示す正面図、図 117 は、前面ドア 3 における透明板ユニット 7' を示す背面図、図 118 は、前面ドア 3 における透明板ユニット 7' を示す側面図、図 119 及び図 120 は、前面ドア 3 の組み付け状態を示す分解斜視図である。なお、本実施形態においては、先述した第 1 実施形態の表枠 3 に相当するものを前面ドア 3 と称する。20

【 0 2 8 8 】

図 111 ~ 図 113 に示すように、本実施形態の前面ドア 3 は、図 1 等に示す第 1 実施形態の表枠 3 と異なる構成要素として、透明板ユニット 7' を有する。右側ベース板 3aa 及び左側ベース板 3ab は、全体ベース板 3ac の前面に取り付けられる。全体ベース板 3ac には、開口部 3h が形成されており、透明板ユニット 7' は、主たる前面部分が開口部 3h から前方に張り出すように全体ベース板 3ac の背面に取り付けられる。

【 0 2 8 9 】

図 114 及び図 115 に示すように、透明板ユニット 7' は、背面側に位置する第 1 透明部材 7A、前面側に位置する第 2 透明部材 7B、及び装飾シート 7C を有する。第 1 透明部材 7A 及び第 2 透明部材 7B は、例えばアクリル樹脂といった透明性を有して成形容易な素材で形成される。装飾シート 7C は、透明あるいは半透明のシート素材で形成される。30

【 0 2 9 0 】

図 115 及び図 117 に示すように、第 1 透明部材 7A は、概ね平板状に形成されており、開口部 7Aa、一対の凹部 7Ab、一対の回転係止片 7Ac を有する。開口部 7Aa は、遊技盤 1 の転動領域（遊技領域 1p）以外となる中央領域（液晶表示装置 4 の表示領域 4d を含む領域）を前方に露出させるように形成されている。すなわち、第 1 透明部材 7A は、転動領域（遊技領域 1p）における遊技球の前方への移動を規制しつつ、転動する遊技球を前方から視認可能とする一方、例えば可動演出役物 1321 を開口部 7Aa より前方に移動可能としている（図 119 及び図 120 参照）。一対の凹部 7Ab は、第 1 透明部材 7A の下端部に設けられており、一対の回転係止片 7Ac は、第 1 透明部材 7A の上端部に設けられている。第 1 透明部材 7A は、凹部 7Ab に第 2 透明部材 7B の後述する係合爪 7Bd が掛けられた後、回転係止片 7Ac を回転させて第 2 透明部材 7B の上端部に係止させることにより第 2 透明部材 7B に組み付けられる。40

【 0 2 9 1 】

図 114 ~ 図 116 及び図 118 に示すように、第 2 透明部材 7B は、主たる部分が前方に膨出するように形成されており、前面部 7Ba、側面部 7Bb、周縁部 7Bc、一対の係合爪 7Bd、一対の凸部 7Be を有する。前面部 7Ba 及び側面部 7Bb は、第 2 透50

明部材 7 B の主たる部分として形成されている。

【 0 2 9 2 】

図 1 1 8 に示すように、前面部 7 B a は、下部から上部へといくにつれて次第に前方に突き出るように傾斜面状に形成されている。このような前面部 7 B a の奥方には、第 1 透明部材 7 A の開口部 7 A a が配置される(図 1 1 4、図 1 1 5、及び図 1 1 7 参照)。これにより、前面部 7 B a は、遊技盤 1 と対向するように配置される(図 1 1 9 参照)。図 1 1 8 ~ 図 1 2 0 に示すように、前面部 7 B a の上部は、その下部よりも遊技盤 1 との間に可動演出役物 1 3 2 1 が動作可能な十分なスペースを形成している。図 1 1 6 及び図 1 1 8 に示すように、側面部 7 B b は、前面部 7 B a の外周部から後方へと向かうにつれて若干外側に広がるように傾斜面状に形成されており、前面部 7 B a から周縁部 7 B c へと連続するように形成されている。側面部 7 B b は、前後方向に垂直な面内において弧を描くように前面部 7 B a の周囲に曲面状に形成されている。側面部 7 B b には、装飾シート 7 C が貼着される。図 1 1 4 及び図 1 1 5 に示すように、周縁部 7 B c は、その裏面に対して第 1 透明部材 7 A が当接させられる。図 1 1 6 及び図 1 1 7 に示すように、周縁部 7 B c の下端部には、後方に突出するように係合爪 7 B d が形成されているとともに、下方に突出するように凸部 7 B e が形成されている。第 2 透明部材 7 B は、第 1 透明部材 7 A の凹部 7 A b に係合爪 7 B d が掛けられ、その後、周縁部 7 B c の上端部に第 1 透明部材 7 A の回転係止片 7 A c が係止されることにより、第 1 透明部材 7 A と一体化される。図 1 1 3 に示すように、第 1 透明部材 7 A 及び第 2 透明部材 7 B が一体的に組み付けられた透明板ユニット 7' は、全体ベース板 3 a c の開口部 h から前面部 7 B a 及び側面部 7 B b が前方に突き出る姿勢で全体ベース板 3 a c の裏面に凸部 7 B e 等を介して組み付けられる。

【 0 2 9 3 】

遊技者は、透明板ユニット 7' の前面部 7 B a 及び開口部 7 A a を通して液晶表示装置 4 の表示領域 4 d や可動演出役物 1 3 2 1 を視認することができる。また、図 1 1 8 ~ 図 1 2 0 に示すように、可動演出役物 1 3 2 1 は、前後方向に大きく動作可能であり、可動演出役物 1 3 2 1 によるダイナミックな動きを遊技者に対して見せることができる。また、遊技者は、前面部 7 B a や側面部 7 B b から第 1 透明部材 7 A の開口部 7 A a の外縁部分を通して転動領域(遊技領域 1 p)にて転動する遊技球を視認することができる。なお、第 1 透明部材 7 A 及び第 2 透明部材 7 B は、一体成形してもよい。

【 0 2 9 4 】

このような透明板ユニット 7' を備えた前面ドア 3 によれば、第 2 透明部材 7 B の前面部 7 B a において前方にせり出した上部や前面部 7 B a と曲面状に連なって一体的に形成された側面部 7 B b が前面ドア 3 の飾り部分として構成され、これら前面部 7 B a や側面部 7 B b を通して境目なく電飾等が設けられた遊技盤 1 を視認することができるので、複数の部材を用いることなく前面ドア 3 を容易に組み付けることができるとともに、軽量化を図りつつ部品コストを抑えることができ、視覚的効果を高めることができる。

【 0 2 9 5 】

[発射ハンドルの内部構造]

図 1 2 1 は、発射ハンドル 2 6 b を示す斜視図、図 1 2 2 及び図 1 2 3 は、発射ハンドル 2 6 b を示す分解斜視図、図 1 2 4 は、発射ハンドル 2 6 b を示す分解側面図、図 1 2 5 は、発射ハンドル 2 6 b におけるハンドルグリップ 2 6 d を示す正面図、図 1 2 6 は、発射ハンドル 2 6 b におけるハンドルグリップ 2 6 d を示す背面図、図 1 2 7 は、発射ハンドル 2 6 b におけるベース部材 2 6 k を示す正面図、図 1 2 8 は、発射ハンドル 2 6 b におけるベース部材 2 6 k を示す背面図である。

【 0 2 9 6 】

図 1 2 2 ~ 図 1 2 4 に示すように、本実施形態の発射ハンドル 2 6 b は、図 1 等に示す第 1 実施形態の発射ハンドル 2 6 b と異なる構成要素として、ベース部材 2 6 k を有する。ベース部材 2 6 k は、非導電性の素材で形成されており、ハンドルキャップ 2 6 h 及びハンドルグリップ 2 6 d の背面側に位置し、収容ケース 2 6 c の内部に収容される。

10

20

30

40

50

【0297】

図122、図123、図125、及び図126に示すように、ハンドルグリップ26dは、2つの貫通部26daと、発射ボリューム26mから前方に突き出たハンドル軸26iを挿入・固定可能なボス部26dbとを有する。貫通部26daは、回転軸方向（前後方向）に貫通するとともに、円周方向（回転方向）に沿って半円弧状に形成されている。ハンドルグリップ26dの周縁部は、導電性を有する素材で形成され、遊技者の手がハンドルグリップ26dの周縁部に接触すると、タッチセンサ26pによって接触が検知される。タッチセンサ26pは、ハンドルグリップ26dの背面側に設けられている（図123及び図126参照）。

【0298】

図123に示すように、収容ケース26cには、複数のネジ孔26caが設けられている。ハンドルキャップ26hには、収容ケース26cのネジ孔26caと対応する箇所にボス部26haが設けられている。ベース部材26kには、収容ケース26cのネジ孔26ca及びハンドルキャップ26hのボス部26haと対応する箇所にネジ孔kbが設けられている。ハンドルキャップ26h及びベース部材26kは、ネジ孔26caに挿通されたネジ26cbがボス部26ha及びネジ孔kbに螺着されることで収容ケース26cに固定される。一方、ハンドルグリップ26dは、ボス部26ha及びネジ孔kbに螺着されたネジ26cbが貫通部26daを貫通しつつも回転方向に相対移動可能である。これにより、ハンドルグリップ26dは、ハンドル軸26iを回転中心として回転可能である。

10

【0299】

図122、図123、図127、及び図128に示すように、ベース部材26kは、周縁部から外方に露出するように発射停止ボタン26eが設けられ、前面側に凹部26kaを有するとともに、背面側に発射停止スイッチ26g及び発射ボリューム26mが設けられる。ハンドルグリップ26dの背面側に設けられたタッチセンサ26pは、凹部26kaの内部空間に位置し、この内部空間においてハンドルグリップ26dと一緒に回転可能である。発射停止ボタン26eは、押圧されると発射停止スイッチ26gによって押圧が検知される。発射ボリューム26mは、ハンドルグリップ26dの回動角度に応じて抵抗値を変化させ、その抵抗値に応じた電力を図示しない発射装置のソレノイドアクチュエータに供給する。このようなベース部材26kによれば、電子部品としての発射停止スイッチ26gや発射ボリューム26mがベース部材26kの背面側に設けられるので、ベース部材26kの前面側に配置される導電性のハンドルグリップ26dからの沿面距離が比較的大きく（図124に示す点線部参照）、ハンドルグリップ26d等との電気的絶縁が十分確保されることとなり、発射停止スイッチ26gや発射ボリューム26mの誤作動を効果的に防ぐことができる。また、ベース部材26kは、外装として傷や汚れがつきやすい収容ケース26cやハンドルキャップ26h、ハンドルグリップ26dとは異なり、収容ケース26cの内部に収容されるので、リサイクル品として有効に再利用することができる。

20

【0300】

このような発射ハンドル26bによれば、発射ハンドル26bをリサイクル品として再利用する際には、収容ケース26cやハンドルキャップ26h、ハンドルグリップ26dを取り替えるだけで発射停止スイッチ26gや発射ボリューム26mが設けられたベース部材26kをそのまま再利用することができるので、リサイクル品として再利用する際に電子部品の取り外しといった煩雑な作業を要することなく、リサイクル性を高めることができる。

30

【0301】

また、ベース部材26kの背面側に発射停止スイッチ26gや発射ボリューム26mが設けられているので、ベース部材26kの前面側に配置されたハンドルキャップ26hの導電性を有する周縁部までの沿面距離を大きく確保することができ、発射停止スイッチ26gや発射ボリューム26mの誤作動を有効に防ぐことができる。

40

50

【0302】

[送風機構の可動構造]

図129は、送風機構110を示す斜視図、図130は、送風機構110を示す分解斜視図、図131は、送風機構110の内部を示す内部平面図、図132は、送風機構110の動作を説明するための内部平面図、図133は、送風機構110の動作を説明するための左側面図、図134は、送風機構110の動作を説明するための内部平面図、図135は、送風機構110の動作を説明するための左側面図である。

【0303】

図130に示すように、本実施形態の送風機構110は、図17等に示す第1実施形態の送風機構110と異なる構成要素として、第1リンク部材120、第2リンク部材121、可変フラップ130を有する。また、カバー部材110A, 110Bには、風を導くための楕円状の開口部110c, 110bが形成されている。10

【0304】

図130及び図134に示すように、カバー部材110Aには、先述したエンクロージャ10eの開口10ec(図16参照)からまっすぐ向かう方面に開口部110cが形成されており、開口部110cの内側に空間部110aが設けられている。空間部110aにおいては、可変フラップ130が傾斜姿勢・水平姿勢に変動可能である。空間部110aの下方は、可変フラップ130の傾斜姿勢・水平姿勢に関係なく常に開放されており、先述した通気口8caが位置する(図16参照)。図130に示すように、カバー部材110Bには、カバー部材110Aの開口部110cから左右方向にまっすぐ向かう方面に開口部110bが形成されている。20

【0305】

図132及び図134に示すように、ソレノイド111は、オン・オフ動作に連動して退避・突出可能なプランジャ111aを有し、プランジャ111aの先端部は、第1リンク部材120の基端部120aと連結されている。第1リンク部材120は、中間部120bが回転可能にカバー部材110Aに軸支されている。第1リンク部材120の先端部120cは、第2リンク部材121の基端部121aに連結されている。第2リンク部材121は、長穴状の開口121bを有し、この開口121bにカバー部材110Aの裏面に突設されたピン110dが相対的に遊動可能となるように配置される。これにより、第2リンク部材121は、ピン110dを介して上下動可能に支持される。第2リンク部材121の先端部121cは、可変フラップ130の一端部を左右移動可能としつつこの一端部に連結されている。図132に示すように、ソレノイド111のプランジャ111aが下方に突き出た状態では、第1リンク部材120を介して第2リンク部材121が相対的に上位に位置し、これに伴い可変フラップ130が上端部を持ち上げられた姿勢(傾斜姿勢)となる。一方、図134に示すように、ソレノイド111のプランジャ111aが退避した状態になると、第1リンク部材120を介して第2リンク部材121が相対的に下位に位置し、これに伴い可変フラップ130が上端部を引き下げられた姿勢(水平姿勢)となる。30

【0306】

図130に示すように、可変フラップ130は、空間部110aにおいて下端部が回転軸131を介して回転可能に支持されており、通常時は上端部が下端部よりも開口部110cに近づくような傾斜姿勢に保たれる(図130において実線で示す姿勢)。一方、上述したようにソレノイド111のプランジャ111aが退避した状態になると、可変フラップ130は、空間部110aの下方を塞ぐような水平姿勢になる(図130において仮想線で示す姿勢)。図131に示すように、カバー部材110Bの内側部分において開口部110bの上縁付近には、弾力性を有する緩衝部材132が貼着されている。可変フラップ130が傾斜姿勢の状態では、風の流れが可変フラップ130を緩衝部材132の方方向へと押し出す力として作用し、可変フラップ130の上端部分が緩衝部材132に密接する。これにより、開口部110bと可変フラップ130との隙間から風が漏れることを効果的に防ぐことができる。開口部110bの右側には、先述した図13、図15、図40

16に示すような送風口80が位置する。

【0307】

可変フラップ130が傾斜姿勢の場合、開口10ec(図16参照)から送出された風は、可変フラップ130に当って遮られ、開口部110bを抜けることなく空間部110aの下方へと導かれる(図133参照)。空間部110aの下方へと導かれた風は、アンダーカバー8cの通気口8ca(図16参照)を通って外部へと送出される。一方、可変フラップ130が水平姿勢の場合、開口10ec(図16参照)から送出された風は、可変フラップ130に遮られることなく概ねまっすぐ流れ、空間部110aを通って開口部110bへとまっすぐ抜ける(図135参照)。開口部110bを抜けた風は、右下側面カバー8baの送風口80(図15、図16参照)を通って外部へと送出される。送風口80と概ねまっすぐ対向する位置には、発射装置26の発射ハンドル26bが配置されており、送風口80から出た風は、発射ハンドル26bを持する遊技者の手に当たる。このように、通常時は発射ハンドル26bの方へと風が漏れることなく下方へと導かれる一方、演出音等に応じて発射ハンドル26bの方へと風を導く際には、開口10ecから空間部110a及び開口部110c, 110b並びに送風口80へと至る風の流路が概ねまっすぐ形成されるので、発射ハンドル26bを握る遊技者の手まで風圧をできる限り弱めることなく風を到達させることができる。

10

【0308】

このような送風機構110によれば、スピーカ10cから音が出力されるのに伴いエンクロージャ10eの開口10ecから流出する空気流が、可変フラップ130の水平姿勢によって直線的に案内されると発射ハンドル26bの方へと導かれる一方、可変フラップ130の傾斜姿勢によって曲折して下方へと案内されると発射ハンドル26bの方へと導かれなくなるので、送風機構110の小型化を図りつつも発射ハンドル26bの方には抵抗なく十分な風量をもって空気流を導くことができ、スピーカユニット10の小型化及び簡素化を図ることができる。

20

【0309】

また、可変フラップ130が傾斜姿勢にあるときでも、可変フラップ130の上端部と相対する接触面との間から緩衝部材132によって空気流が漏れないようにすることができるの、発射ハンドル26bの方には抵抗なく十分な風量をもって空気流を導く一方、下方へと空気流を導く際には発射ハンドル26bの方に風が漏れないようにすることができる。

30

【0310】

「第4実施形態」

次に、第4実施形態に係るパチンコ遊技機について図面を参照して説明する。なお、先述した第1～第3実施形態に係るものと同一又は類似の構成要素については、同一符号を付してその説明を省略する。図136～図180は、第4実施形態に係るパチンコ遊技機を説明するための図である。なお、図136～図180においては、便宜上、適宜部品の図示を省略している。

【0311】

第4実施形態に係るパチンコ遊技機は、主として、本体サブユニット440における第1演出ユニット4000の動作及び構造、本体サブユニット440における第2演出ユニット5000の動作及び構造、遊技盤1の球通路構造に特徴を有する。これらの特徴的な構造について図面を参照して以下に順に説明する。

40

【0312】

[本体サブユニットの構造]

図136及び図137は、本体サブユニット440を示す斜視図、図138は、本体サブユニット440を示す正面図、図139及び図140は、本体サブユニット440を示す分解斜視図である。

【0313】

本実施形態の本体サブユニット440は、図示しない本体ユニット400の取付枠41

50

0（図43及び図44参照）に対して遊技盤1や液晶表示装置4等を一体的に装着するためのものである。図139及び図140に示すように、本体サブユニット440は、本体ケース441、遊技盤1、液晶表示装置4、第1演出ユニット4000、第2演出ユニット5000、及び装飾ユニット6000を有して構成される。

【0314】

本体ケース441は、液晶表示装置4の表示領域4dを前方に露出させる開口部442を有し、矩形箱状に形成されている。本体ケース441の背面には、液晶表示装置4が表示領域4dを開口部442に対向させるように取り付けられる。本体ケース441の前面奥側の左右側部から下部には、第1演出ユニット4000が配置される。本体ケース441の前方内部における左右側部から下部には、第1演出ユニット4000が配置される。本体ケース441の前方内部における上部には、第2演出ユニット5000が取り付けられる。本体ケース441の前方内部における下部には、第1演出ユニット4000よりも前方に位置するように装飾ユニット6000が取り付けられる。本体ケース441の前面には、遊技盤1が取り付けられる。遊技盤1には、液晶表示装置4の表示領域4dを前方に露出させるための開口領域1dが形成されており、この開口領域1dの外周に遊技球が転動可能な遊技領域1pが形成される。開口領域1dは、液晶表示装置4の表示領域4dを前方に臨ませるだけでなく、表示領域4dと重なって出現した状態の第1演出ユニット4000や第2演出ユニット5000を遊技者に対して視認可能とする。このような開口領域1dは、第1演出ユニット4000等の出現を見ることが可能な視野面となる。装飾ユニット6000は、遊技盤1の透明な下部分を通して遊技者に視認可能となるように配置される。第1演出ユニット4000及び第2演出ユニット5000については後述する。また、遊技盤1に設けられた球通路カバー7000等についても後述する。

10

20

30

40

【0315】

[第1演出ユニット]

図141は、第1演出ユニット4000を示す斜視図、図142は、第1演出ユニット4000を示す正面図、図143は、第1演出ユニット4000を示す背面図、図144は、第1演出ユニット4000を示す側面図、図145は、第1演出ユニット4000の一部を示す上面図、図146は、第1演出ユニット4000における下ユニット4100の動作を説明するための正面図、図147は、第1演出ユニット4000における下ユニット4100の動作を説明するための背面図、図148は、第1演出ユニット4000における左ユニット4200の動作を説明するための正面図、図149は、第1演出ユニット4000における左ユニット4200の動作を説明するための背面図、図150は、第1演出ユニット4000における左ユニット4200の動作を説明するための斜視図、図151は、第1演出ユニット4000における右ユニット4300の動作を説明するための正面図、図152は、第1演出ユニット4000における右ユニット4300の動作を説明するための背面図、図153は、第1演出ユニット4000における右ユニット4300の動作を説明するための側面図、図154は、第1演出ユニット4000における右ユニット4300の動作を説明するための斜視図、図155は、第1演出ユニット4000における直立ユニット4400の動作を説明するための正面図、図156は、第1演出ユニット4000における直立ユニット4400の動作を説明するための背面図、図157は、第1演出ユニット4000における直立ユニット4400の動作を説明するための側面図、図158は、第1演出ユニット4000における直立ユニット4400の動作を説明するための上面図、図159は、第1演出ユニット4000における直立ユニット4400の動作を説明するための斜視図である。

【0316】

図141～図145に示すように、第1演出ユニット4000は、下ユニット4100、左ユニット4200、右ユニット4300、及び直立ユニット4400を有して構成される。下ユニット4100は、第1演出ユニット4000の下方において上下方向に移動可能に設けられる。左ユニット4200は、第1演出ユニット4000の左側において開口領域1d（視野面）に垂直な水平軸周りに回転可能に設けられる。右ユニット4300

50

は、第1演出ユニット4000の右側において開口領域1dに垂直な水平軸周りに回転可能に設けられる。直立ユニット4400は、右ユニット4300よりも前方に配置され、開口領域1dに沿う鉛直軸周りに反転可能に設けられる。

【0317】

図142及び図143に示すように、下ユニット4100は、主として、下可動体4110、ベース部材4120、一対のリンク部材4130, 4140、ラック部材4150、複数の歯車4160～4162、及びモータ4170を有して構成される。左ユニット4200は、主として、左可動体4210、ベース部材4220、アーム部材4230、複数の歯車4240～4242、及びモータ4250を有して構成される。右ユニット4300は、主として、右可動体4310、ベース部材4320、アーム部材4330、複数の歯車4340～4343、及びモータ4350を有して構成される。図141～図145に示すように、直立ユニット4400は、主として、直立可動体4410、ベース部材4420、複数の歯車4430～4433、及びモータ4440を有して構成される。

10

【0318】

[下ユニット]

下ユニット4100において、下可動体4110は、遊技者から見えない開口領域1dより下方の退避位置から開口領域1dの下縁付近の出現位置へと上下方向にスライド移動可能な部材である。下可動体4110は、内部に発光手段を有しており、出現の際に発光する。下可動体4110の構造については後述する。図143及び図147に示すように、下可動体4110の裏面には、左右一対の支持部4111, 4112が設けられており、ベース部材4120に形成された上下縦長状の案内溝4121, 4122に支持部4111, 4112が摺動可能に支持されている。また、下可動体4110の下部は、リンク部材4130, 4140の先端部4132、4142に当接しており、リンク部材4130, 4140が所定方向に回転して先端部4132、4142が上方に移動すると、先端部4132、4142に持ち上げられるようにして下可動体4110が上方に移動して出現位置へと現れる。その逆に、リンク部材4130, 4140が所定方向とは逆方向に回転して先端部4132、4142が下方に移動すると、先端部4132、4142に持ち下げられるようにして下可動体4110が下方に移動して退避位置へと戻る。

20

【0319】

図143、図146、及び図147に示すように、下ユニット4100において、ベース部材4120には、上記した案内溝4121, 4122のほか、リンク部材4130, 4140の先端部4132、4142を摺動可能に案内するための円弧状の湾曲溝4123, 4124が形成されている。リンク部材4130, 4140の基端部には、ピニオン4131, 4141が設けられており、これらのピニオン4131, 4141が回転すると、リンク部材4130, 4140の先端部4132、4142が湾曲溝4123, 4124に沿って回転移動する。ベース部材4120の背後には、左右方向に移動可能にラック部材4150が配置されている。ラック部材4150には、上向きのラック4151と下向きのラック4152とが形成されている。上向きのラック4151は、左側のリンク部材4130のピニオン4131と噛合されており、下向きのラック4152は、右側のリンク部材4140のピニオン4141と噛合されている。

30

【0320】

図147を参照して説明すると、図中右側のピニオン4131が図中で反時計回りに回転すると、リンク部材4130の先端部4132が下方から上方へと湾曲溝4123に沿って回転移動する。その際、ピニオン4131と噛合された上向きのラック4151が図中右方向へと転移することとなり、ラック部材4150全体も図中右方向へと移動する。すると、図中左側に配置された下向きのラック4152も図中右方向へと転移する。その結果、下向きのラック4152と噛合されたピニオン4141が図中で時計回りに回転し、リンク部材4140の先端部4142が下方から上方へと湾曲溝4124に沿って回転移動する。図中右側のピニオン4131を図中で時計回りに回転させた場合は、上記とは逆の挙動となる。これにより、一方のピニオン4131を回転させるだけで左右一対のリ

40

50

ンク部材 4130, 4140 を連動させ、それらの先端部 4132, 4142 を同時に上下変位させることができ、ひいては下可動体 4110 を上下方向に容易にスライド移動させることができる。

【0321】

リンク部材 4130, 4140、ラック部材 4150、複数の歯車 4160～4162、及びモータ 4170 は、下可動体 4110 を上下移動させるための駆動手段としてベース部材 4120 に設けられている。リンク部材 4130 のピニオン 4131 は、複数の歯車 4160～4162 を介してモータ 4170 の駆動力が伝えられ、モータ 4170 の回転方向に応じて正逆両方向に回転可能である。

【0322】

[左ユニット]

左ユニット 4200において、左可動体 4210 は、遊技者から見えない開口領域 1d より左側の退避位置から開口領域 1d に出現した下可動体 4110 の上端部左側に接する開口領域 1d の左側の出現位置へと前後方向に沿う水平軸周りに回転可能な部材である。左可動体 4210 は、内部に発光手段を有しており、出現の際に発光する。左可動体 4210 の構造については、下可動体 4110 の構造と同様であるため省略する。図 147 及び図 149 に示すように、左可動体 4210 は、端部に支持部 4211 が設けられており、この支持部 4211 が同図において省略されたベース部材 4220 に回転可能に支持されている。支持部 4211 から離間した左可動体 4210 の端部には、アーム部材 4230 の一端が回動自在に連結されている。アーム部材 4230 の他端は、歯車 4242 の側部に回動自在に連結されている。

10

【0323】

図 149 を参照して説明すると、歯車 4242 が図中で反時計回りに回転すると、アーム部材 4230 が左可動体 4210 の端部に回転モーメントを付与する。これにより、左可動体 4210 は、支持部 4211 を中心に下方に向けて回転し、下可動体 4110 の上端部左側と合体するように出現位置へと現れる。その逆に、歯車 4242 が図中で時計回りに回転すると、アーム部材 4230 が左可動体 4210 の端部に逆方向の回転モーメントを付与する。これにより、左可動体 4210 は、支持部 4211 を中心に上方に向けて回転し、下可動体 4110 の左側上端部から離れるように退避位置へと戻る。

20

【0324】

アーム部材 4230、複数の歯車 4240～4242、及びモータ 4250 は、左可動体 4210 を回転移動させるための駆動手段としてベース部材 4220 に設けられている。アーム部材 4230 は、複数の歯車 4240～4242 を介してモータ 4250 の駆動力が伝えられ、モータ 4250 の回転方向に応じて正逆両方向に回転可能である。

30

【0325】

[右ユニット]

右ユニット 4300において、右可動体 4310 は、遊技者から見えない開口領域 1d より右側の退避位置から開口領域 1d に出現した下可動体 4110 の上端部右側に接する出現位置へと前後方向に沿う水平軸周りに回転可能な部材である。右可動体 4310 は、退避位置にある状態において、直立可動体 4410 の背後に位置する。右可動体 4310 は、内部に発光手段を備えておらず、出現の際には下可動体 4110 からの光を受けて自ら発光しているように見える。これについては、右可動体 4310 の構造とともに後述する。図 149 及び図 152 に示すように、右可動体 4310 は、図示省略するが、左可動体 4210 と同様に、端部に支持部が設けられており、この支持部が同図において省略されたベース部材 4320 に回転可能に支持されている。支持部から離間した右可動体 4310 の端部には、アーム部材 4330 の一端が回動自在に連結されている。アーム部材 4330 の他端は、歯車 4343 の側部に回動自在に連結されている。

40

【0326】

図 152 を参照して説明すると、歯車 4343 が図中で時計回りに回転すると、アーム部材 4330 が右可動体 4310 の端部に回転モーメントを付与する。これにより、右可

50

動体 4310 は、支持部を中心に下方に向けて回転し、下可動体 4110 の上端部右側と合体するように出現位置へと現れる。その逆に、歯車 4343 が図中で反時計回りに回転すると、アーム部材 4330 が右可動体 4310 の端部に逆方向の回転モーメントを付与する。これにより、右可動体 4310 は、支持部を中心に上方に向けて回転し、下可動体 4110 の右側上端部から離れるように退避位置へと戻る。

【0327】

アーム部材 4330、複数の歯車 4340～4343、及びモータ 4350 は、右可動体 4310 を回転移動させるための駆動手段としてベース部材 4320 に設けられている。アーム部材 4330 は、複数の歯車 4340～4343 を介してモータ 4350 の駆動力が伝えられ、モータ 4350 の回転方向に応じて正逆両方向に回転可能である。

10

【0328】

[直立ユニット]

直立ユニット 4400において、直立可動体 4410 は、開口領域 1d の右側に一部視認し得る状態に配置されている（図 138 参照）。直立可動体 4410 は、前面部 4410A と背面部 4410B を有し、これらのうち背面部 4410B が下可動体 4110、左可動体 4210、及び右可動体 4310 と統一したモチーフのデザインで装飾が施されている。直立可動体 4410 は、背面部 4410B が裏向き状態となる退避位置から開口領域 1d の右側に背面部 4410B の一部が見える出出現位置へと上下方向に沿う鉛直軸（回転軸 S）周りに回転可能な部材である。図 153 に示すように、直立可動体 4410 は、背面部 4410B が退避位置にある状態（裏向き状態）において、前面部 4410A が回転軸 S よりも前方に位置するように側面視略コ字状に形成されている。これにより、背面部 4410B が退避位置にある状態では、直立可動体 4410 の背後に大きな空間が形成され、この空間を退避スペースとして右可動体 4310 が退避される。図 157 に示すように、右可動体 4310 が出出現位置へと回転移動すると、右可動体 4310 の退避スペースを占有しつつ背面部 4410B が反転可能となる。すなわち、直立可動体 4410 の背面部 4410B が退避位置から反転して出出現位置にある状態（表向き状態）になる。直立可動体 4410 は、内部に発光手段を有しており、背面部 4410B が反転して表向き状態となった際に発光する。なお、直立ユニット 4400 の前方には、開口領域 1d に露出することなく直立可動体 4410 と重ならない位置において上下方向に延びるように球回収通路部材 9000 が設けられる。

20

【0329】

図 159 に示すように、直立可動体 4410 は、縦長フレーム状のベース部材 4420 に回転可能に支持されている。図 145 に示すように、直立可動体 4410 の上部には、歯車 4433 が設けられており、この歯車 4433 に連動して直立可動体 4410 が回転軸 S 周りに回転する。

30

【0330】

図 145、図 151～図 153、図 155～図 157 を参照して説明すると、図 151～図 153 に示すように、直立可動体 4410 の前面部 4410A が表向きの状態（背面部 4410B が裏向きの状態）において、歯車 4443 が図 145 で時計回りに回転すると、図 155～図 157 に示すように、直立可動体 4410 が 180 度反転して前面部 4410A が裏向きの状態となる。すなわち、背面部 4410B が表向きの状態となって出出現位置に現れる。その逆に、図 155～図 157 に示すように、直立可動体 4410 の前面部 4410A が裏向きの状態（背面部 4410B が表向きの状態）において、歯車 4443 が図 145 で反時計回りに回転すると、直立可動体 4410 が逆向きに反転し、図 151～図 153 に示すように、直立可動体 4410 の前面部 4410A が表向きの状態となり、背面部 4410B が裏向きの状態となって退避位置に戻る。

40

【0331】

複数の歯車 4440～4443、及びモータ 4440 は、直立可動体 4410 を回転軸 S 周りに反転させるための駆動手段としてベース部材 4420 に設けられている。直立可動体 4410 は、複数の歯車 4440～4443 を介してモータ 4450 の駆動力が伝え

50

られ、モータ 4450 の回転方向に応じて正逆両方向に 180 度反転可能である。

【0332】

[第1演出ユニットの動作]

次に、図146～図159を参照して第1演出ユニット4000の動作について説明する。

【0333】

まず、下可動体4110、左可動体4210、右可動体4310、及び直立可動体4410は、当初において退避位置にある状態とする。この状態から、図146～図147に示すように、下可動体4110が下方の退避位置から上方の出現位置へと移動する。すると、特に図示しないが、遊技盤1の開口領域1dの下縁に沿って下可動体4110が出現する。

10

【0334】

次に、下可動体4110が出現位置にある状態において、図148～図150に示すように、左可動体4210が左側の退避位置から下方の出現位置へと回転移動する。これにより、左可動体4210は、下可動体4110の上端部左側に合体した状態となる。

【0335】

次に、下可動体4110及び左可動体4210が出現位置にある状態において、図151～図154に示すように、右可動体4310が右側の退避位置から下方の出現位置へと回転移動する。これにより、右可動体4310は、下可動体4110の上端部左側から上端部中央にわたって合体した状態となる。

20

【0336】

次に、最終的には、下可動体4110、左可動体4210、及び右可動体4310が出現位置にある状態において、図155～図159に示すように、直立可動体4310の背面部4410Bが裏向きとなった退避位置から表向きの出現位置へと反転する。これにより、直立可動体4310の背面部4410Bは、下可動体4110、左可動体4210、及び右可動体4310と一緒にになって統一したモチーフの立体的な装飾が施された演出物の全体像が完全に出現した状態となる。

【0337】

このような第1演出ユニット4000によれば、上下移動する下可動体4110、水平軸周りに回転移動する左可動体4210及び右可動体4310、並びに鉛直軸周りに反転する直立可動体4410を各々異なる動作態様によって遊技盤1の開口領域1dに順次出現させ、最終的に演出物の全体像を遊技者に視認させることができるので、動作態様が多様となり、多彩な演出効果として合体時のダイナミックさを高め、ひいては面白味や興味を高めることができる。なお、下可動体4110、左可動体4210及び右可動体4310、並びに直立可動体4410の動作態様は、互いに異なっていればよく、上記した上下移動や水平軸周りの回転、鉛直軸周りの回転に限定されず、斜め方向や奥行き方向（前後方向）の動きでもよいことはいうまでもない。

30

【0338】

また、下可動体4110、左可動体4210、及び右可動体4310を遊技盤1の開口領域1dに出現させた後、部分的に前面部4410Aが見える直立可動体4410を反転させることで背面部4410Bを出現させることにより、連続的な異なる動作によって演出物の全体像を視認させることができるので、動作態様が多彩で連動性のある演出効果として面白味や興味を高めることができる。なお、上記実施形態では、上下移動する下可動体4110、水平軸周りに回転移動する左可動体4210及び右可動体4310、並びに鉛直軸周りに反転する直立可動体4410でもって1つの構成物を形成したが、上記実施形態よりも可動体の数を少なくしてもよいし、多くしてもよいことは言うまでもない。例えば、可動体の数を少なくして、上下移動する可動体と、水平軸周りに回転移動する可動体と、鉛直軸周りに反転する可動体の3つの可動体で1つの構成物を構成してもよい。

40

【0339】

[第1演出ユニットの導光構造]

50

図160は、下可動体4110、左可動体4210、及び右可動体4310を示す斜視図、図161は、下可動体4110、左可動体4210、及び右可動体4310を示す分解斜視図、図162は、右可動体4310を示す分解斜視図、図163は、下可動体4110及び右可動体4310の一部を示す斜視図、図164は、下可動体4110、左可動体4210、及び右可動体4310を示す一部切り欠き側面図である。なお、第1演出ユニット4000においては、下可動体4110と右可動体4310との導光構造に特徴を有するため、これらの導光構造を主として説明する。

【0340】

図161に示すように、下可動体4110は、ベース板4113、発光基板4114、中間フレーム部材4115、複数の導光部材4116、前面装飾部材4117、及び上縁レンズ部材4118を有して構成される。左可動体4210は、上部装飾部材4212、前面装飾部材4213、及び上縁レンズ部材4214を有して構成される。右可動体4310は、上部装飾部材4311、支持部材4312、上縁レンズ部材4313、及び上縁装飾部材4314を有して構成される。10

【0341】

下可動体4110において、ベース板4113の前面には、発光基板4114が取り付けられる。図164に示すように、発光基板4114の前面には、複数のLED4114Aが設けられており、LED4114Aの光が概ね前方に向けて照射される。発光基板4114の前面には、LED4114Aを前方に露出させるように中間フレーム部材4115が設けられる。中間フレーム部材4115の前面には、LED4114Aからの光を前方に導くように複数の導光部材4116が設けられる。導光部材4116は、LED4114Aからの光を前方だけでなく側方にも導く。また、中間フレーム部材4115の前面には、複数の導光部材4116を覆うように前面装飾部材4117が取り付けられる。前面装飾部材4117は、モチーフに応じたデザインで透光性を有する装飾レンズとして形成されている。図164に示すように、LED4114Aからの光は、導光部材4116を通って前面装飾部材4117へと導かれ、さらに前面装飾部材4117を透過して前方へと照射される。図163に示すように、前面装飾部材4117の上部中央には、右可動体4310が合体時に近接する後述の上縁レンズ部材4313を位置決めするための凹部4117Aが形成されている。また、中間フレーム部材4115の右上部分には、前面装飾部材4117の右上端部に近接するように上縁レンズ部材4118が取り付けられる。上縁レンズ部材4118は、モチーフに応じた横長波状のデザインで透光性を有する装飾レンズとして形成されている。特に図示しないが、LED4114Aからの光は、導光部材4116を通って上縁レンズ部材4118へと導かれ、さらに上縁レンズ部材4118を透過して前方へと照射される。なお、上縁レンズ部材4118は、後述する右可動体4310の上縁レンズ部材4313と同様の形状に形成されている。20

【0342】

左可動体4210は、特に細部について図示しないが、下可動体4110と同様に発光基板や導光部材を内蔵しており、発光基板のLEDからの光が導光部材を通って前面装飾部材4213や上縁レンズ部材4214へと導かれ、これら前面装飾部材4213及び上縁レンズ部材4214を透過して前方へと照射される。30

【0343】

右可動体4310は、下可動体4110や左可動体4210とは異なり、発光基板を備えておらず、下可動体4110のLED4114Aからの光を利用してあたかも自ら発光して見えるように構成されている。図161に示すように、右可動体4310において、上部装飾部材4311は、モチーフ（砲台及び甲板）に応じたデザインの装飾形状に形成されている。上部装飾部材4311の左前上端部には、支持部材4312が取り付けられる。支持部材4312の前面には、合体時に下可動体4110の上縁レンズ部材4118や左可動体4210の上縁レンズ部材4214と横方向に連続するように上縁レンズ部材4313が設けられている。上縁レンズ部材4313は、下可動体4110との合体時に凹部4117Aに対応する凸部（図示略）を有し、この凸部が凹部4117Aに嵌合する40

10

20

30

40

50

ことで下可動体 4110 の上端部中央に位置決めされる。上縁レンズ部材 4313 は、上縁レンズ部材 4118 等と統一したモチーフ（甲板の端部に設けられた手摺）に基づく横長波状のデザインで透光性を有する装飾レンズとして形成されている。図 164 に示すように、上縁レンズ部材 4313 は、下方から上方へと前方にせり出すように屈曲状に形成されている。このような上縁レンズ部材 4313 は、合体時に下可動体 4110 の LED 4114A からの光を凹部 4117A に対応する凸部を含む下端部から受け、その光を内部において屈折・反射させつつ上縁レンズ部材 4313 において前方に突出した部分（手摺部分）のみ前方へと光が照射するようになっている。ただし、下可動体 4110 が出現位置にあっても右可動体 4310 が退避位置にある状態では、下可動体 4110 の LED 4114A からの光が上縁レンズ部材 4313 に入射することはない。上縁レンズ部材 4313 の下部には、上縁装飾部材 4314 が取り付けられる。上縁装飾部材 4314 は、下可動体 4110 の前面装飾部材 4117 と統一したデザインの装飾形状に形成されている。

【0344】

このような右可動体 4310 によれば、発光基板を備えずに下可動体 4110 と合体するように出現させても、下可動体 4110 の LED 4114A からの光を受け、この光が上縁レンズ部材 4313 を通って前方に照射されるので、発光演出による演出効果を高めつつも部品のコストダウンを図ることができる。

【0345】

また、下可動体 4110 の LED 4114A からの光は、下可動体 4110 の上縁レンズ部材 4118 を通じて屈折・反射しつつ前方に照射されるだけでなく、右可動体 4310 の上縁レンズ部材 4313 によっても屈折・反射しつつ前方に照射されるので、同様の統一感のある発光演出を行い、そのような発光演出による発光効率を高めることができる。さらに、上縁レンズ部材 4313 は、合体時に下可動体 4110 の上縁レンズ部材 4118 や左可動体 4210 の上縁レンズ部材 4214 と横方向に連続するように設けられているので、それぞれの上縁レンズ部材の端部から入光してくる光によって光量が補填され、さらに鮮やかな発光を実現できる。

【0346】

なお、本実施形態においては、左可動体 4210 が下可動体 4110 と同様に発光基板を有して自ら発光するように構成されるが、左可動体 4210 を右可動体 4310 と同様に発光基板を備えないものとし、左可動体 4210 においても下可動体 4110 の LED 4114A からの光を受けて前方に導くように構成してもよい。

【0347】

【第2演出ユニット】

図 165 は、第2演出ユニット 5000 を示す斜視図、図 166 は、第2演出ユニット 5000 を示す正面図、図 167 は、第2演出ユニット 5000 を示す上面図、図 168 は、第2演出ユニット 5000 を示す背面図、図 169 は、第2演出ユニット 5000 における上下動ユニット 5200 の動作を説明するための斜視図、図 170 は、第2演出ユニット 5000 における上下動ユニット 5200 の動作を説明するための正面図、図 171 は、第2演出ユニット 5000 における上下動ユニット 5200 の動作を説明するための背面図である。

【0348】

図 165～図 168 に示すように、第2演出ユニット 5000 は、揺動ユニット 5100 及び上下動ユニット 5200 を有して構成される。揺動ユニット 5100 は、第2演出ユニット 5000 の上方の所定位置において左右方向の水平軸周りに揺動可能に設けられている。揺動ユニット 5100 は、開口領域 1d の上端側に視認し得る状態に配置されている（図 138 参照）。上下動ユニット 5200 は、第2演出ユニット 5000 の上方において揺動ユニット 5100 の背後となる遊技者から見えない退避位置から揺動ユニット 5100 の下方の出現位置へと移動可能に設けられる。本実施形態においては、上下動ユニット 5200 に主な特徴を有するため、以下においては、上下動ユニット 5200 につ

10

20

30

40

50

いて説明する。

【0349】

[上下動ユニットの構造・動作]

図166～図168、図170、及び図171に示すように、上下動ユニット5200は、前面装飾部材5210、背面部材5211、連結支持部材5220、ガイド部材5230、ばね部材5240、滑車部材5241、左右一対のアーム部材5250, 5251、歯車5260、モータ5270、摇動機構5280を有して構成される。なお、図166に示すように、ガイド部材5230、滑車部材5341、ばね部材5240の他端5240B等は、本体ケース441の内部面(図139参照)に固定されている。

【0350】

上下動ユニット5200において、前面装飾部材5210は、モチーフに応じたデザインで透光性を有する装飾レンズとして形成されており、背面部材5211に設けられた摇動機構5280を介して背面部材5211に支持されている(図168及び図171参照)。前面装飾部材5210の背面側には、図示しない発光基板や導光部材が設けられる。前面装飾部材5210及び背面部材5211は、互いに一体となって連結支持部材5220に支持されており、遊技者から見えない摇動ユニット5100の背後の退避位置から摇動ユニット5100より下方の出現位置へと上下方向に移動可能である。

10

【0351】

図168及び図171に示すように、連結支持部材5220は、背面部材5211を片持ち支持するように背面部材5211の片側部分(左側部分)に連結されている。連結支持部材5220の先端部5221は、摺動部分としてガイド部材5230に沿って上下方向に移動可能に支持されている。ガイド部材5230は、本体ケース441に固定されている。ばね部材5240は、その一端5240Aが連結支持部材5220の適部に係止されるとともに、他端5240Bが本体ケース441の適部に係止される。ばね部材5240は、連結支持部材5220が下方から上方へと移動する際に弹性収縮力によって移動を補助する役割を果たす。ばね部材5240は、その中間部分の側部が本体ケース441に固定された滑車部材5241に当接することで略直角に曲げられており、一端5240Aから滑車部材5241に接するまでの部分がガイド部材5230によって移動案内される方向、すなわち概ね上下方向に沿うように配置される一方、滑車部材5241から他端5240Aまでの部分が概ね左右方向に沿うように配置される。これにより、ばね部材5240は、弹性限界が比較的大きくて長いものが用いられる。その結果、連結支持部材5220とともに前面装飾部材5210及び背面部材5211は、上下方向に移動するストロークが相当大きくなっている。

20

【0352】

図171に示すように、左右一対のアーム部材5250, 5251は、それらの先端部が背面部材5211に設けられた案内溝5211A, 5211Bに摺動可能に連結されている。アーム部材5250, 5251の基端部は、前後方向に沿う水平軸周りに回転可能に支持されている。一方のアーム部材5250の基端部は、図示しないリンク部材を介して歯車5260と連結されており、この歯車5260に連動してアーム部材5250が回転することにより背面部材5211と一体となって前面装飾部材5210が上下方向に移動する。アーム部材5250は、歯車5260を介してモータ5270の駆動力が伝えられ、モータ5270の回転方向に応じて正逆両方向に回転可能である。歯車5260やモータ5270は、ベース部材に取り付けられている。

30

【0353】

具体的には、図168に示すように、前面装飾部材5210及び背面部材5211が摇動ユニット5100背後の退避位置にある状態において、歯車5260が図168で反時計回りに回転すると、図171に示すように、アーム部材5250, 5251が下方向に回転し、前面装飾部材5210及び背面部材5211が連結支持部材5220を介してガイド部材5230に案内されつつ下方の出現位置へと移動する。その際、ばね部材5240は、連結支持部材5220に対して下方に変位するほど上向きの弹性収縮力を強める。

40

50

ただし、前面装飾部材 5210 及び背面部材 5211 が所定の出現位置にあって連結支持部材 5220 が最下位に位置しても、ばね部材 5240 のみの弾性収縮力によってはこれらを引き上げるほどの力が発生せず、あくまでも上方に移動する際の補助的な弾性収縮力が作用するにすぎない。そのため、図 171 に示す状態から図 168 に示す状態へとアーム部材 5250, 5251 を介して前面装飾部材 5210 及び背面部材 5211 が上方へと移動させられる際には、これらを上方へと引き戻そうとする適度な弾性収縮力がばね部材 5240 によって補助的に付与される。このようなばね部材 5240 は、左右方向に沿う部分がガイド部材 5230 から離れて邪魔にならない上下動ユニット 5200 の上方の空きスペースに配置される。

【0354】

このような上下動ユニット 5200 によれば、ばね部材 5240 の一端 5240A から滑車部材 5241 までの部分については、前面装飾部材 5210 及び背面部材 5211 を上下移動させる上下方向に伸長するように配置される一方、ばね部材 5240 の他端 5240B から滑車部材 5241 までの部分については、上下移動の方向とは異なる左右方向に伸長するように配置することができる。これにより、上下移動を補助するためのばね部材 5240 の長さに応じて上下動ユニット 5200 の移動ストロークをより大きくすることができます。

【0355】

また、上下動ユニット 5200 において、構成部品等に邪魔されない空きスペースにはばね部材 5240 を曲げた姿勢で配置することができるので、比較的長いばね部材 5240 でも支障なく上下動ユニット 5200 に配置することができる。

【0356】

なお、本実施形態において、ばね部材 5240 は、滑車部材 5241 によって概ね上下方向に沿う部分と左右方向に沿う部分とに屈曲変形する姿勢で配置されるが、配置スペースによっては、滑車部材 5241 を介してばね部材 5240 を例えば上下方向から前後方向に屈曲変形する姿勢で配置するようにしてもよい。また、上記したばね部材 5240 以外にも、ゴム等の弾性部材を用いてもよく、伸縮して付勢力が生じる部材であれば本発明に適用できることはいうまでもない。

【0357】

【遊技盤】

図 172 は、遊技盤 1 を示す正面図、図 173 及び図 174 は、遊技盤 1 の要部を示す分解斜視図、図 174 は、遊技盤 1 の要部を示す分解斜視図、図 175 は、遊技盤 1 における球通路カバー 7000 を示す斜視図、図 176 は、遊技盤 1 における球通路カバー 7000 を示す背面図、図 177 は、遊技盤 1 における開閉ユニット 8000 を示す斜視図、図 178 は、遊技盤 1 における開閉ユニット 8000 の動作を説明するための斜視図、図 179 は、遊技盤 1 における開閉ユニット 8000 の動作を説明するための一部切り欠き斜視図、図 180 は、遊技盤 1 における開閉ユニット 8000 の動作を説明するための一部切り欠き上面図である。

【0358】

図 138 及び図 172 に示すように、遊技盤 1 は、球発射通路 40、ステージ 41、第 1 始動口 42、第 2 始動口 43、第 2 始動口 43 を開閉する開閉ユニット 8000、通過ゲート 44、第 1 大入賞口 45、第 1 大入賞口 45 を開閉する第 1 大入賞口シャッタ 45A、第 2 大入賞口 46、第 2 大入賞口 46 を開閉する大入賞口シャッタ 46A、複数の一般入賞口 47、アウト口 48、球通路カバー 7000（図 172 において図示略）等を備える。なお、本実施形態のパチンコ遊技機では、第 1 始動口 42、第 2 始動口 43、通過ゲート 44、第 1 大入賞口 45、第 2 大入賞口 46、及び一般入賞口 47 により遊技球が通過により入賞可能な入賞領域が形成される。図 172 は、球通路カバー 7000 を取り外した状態を示している。

【0359】

球発射通路 40 は、遊技盤 1 に向かって左側から概ね中央上部へと延びるように配設さ

10

20

30

40

50

れ、一対の外レールと内レールとによって形成される。外レールは、遊技領域 1 p 全体を囲むように配置されている。内レールは、外レールとともに遊技球を遊技盤 1 の上部に案内するためのものであり、遊技盤 1 の左側において外レールの内側に配設されている。

【 0 3 6 0 】

ステージ 4 1 は、遊技領域 1 p における遊技球の流化領域を振り分けるものであり、開口領域 1 d の下縁部に沿って配置されている。

【 0 3 6 1 】

図外の発射装置 2 6 によって発射された遊技球は、遊技盤 1 に打ち込まれた遊技釘（符号略）やステージ 4 1 等との衝突により、その進行方向を変えながら遊技盤 1 の下方に向かって流下する。この過程において、遊技球は、第 1 始動口 4 2 、第 2 始動口 4 3 、大入賞口 4 6 、一般入賞口 4 7 のいずれかに入賞することで回収され、また、入賞しなかった場合や、通過ゲート 4 4 を通過してその後入賞しなかった場合にアウト口 4 8 から排出されることで回収される。

10

【 0 3 6 2 】

第 1 始動口 4 2 及び第 2 始動口 4 3 は、遊技球が入賞（通過）することを条件に抽選の契機を与えるとともに、抽選の結果を図外の液晶表示装置 4 等に表示させる契機を与えるものである。

【 0 3 6 3 】

第 1 始動口 4 2 は、遊技盤 1 の中央で概ね下方位置に設けられている。第 1 始動口 4 2 に遊技球が入賞すると、予め設定されている数の遊技球が図外の上皿 1 7 又は下皿 1 8 に払い出される。第 1 始動口 4 2 への遊技球の入賞は、第 1 始動口スイッチ 3 1 1 （図 2 1 参照）により検出される。

20

【 0 3 6 4 】

第 2 始動口 4 3 は、遊技盤 1 の右側で第 1 始動口 4 2 より上方位置に設けられている。第 2 始動口 4 3 に遊技球が入賞すると、予め設定されている数の遊技球が図外の上皿 1 7 又は下皿 1 8 に払い出される。第 2 始動口 4 3 は、普通電動役物としての後述する開閉ユニット 8 0 0 0 の動作により開閉される。第 2 始動口 4 3 への遊技球の入賞は、第 2 始動口スイッチ 3 1 2 （図 2 1 、図 1 7 2 、図 1 7 3 参照）により検出される。

【 0 3 6 5 】

通過ゲート 4 4 は、第 2 始動口 4 3 を開放する契機を与えるものである。通過ゲート 4 4 への遊技球の入賞は、通過ゲートスイッチ 3 1 4 （図 2 1 、図 1 7 2 、図 1 7 3 参照）により検出される。なお、この通過ゲート 4 4 に遊技球が入賞しても、賞球は発生しない。

30

【 0 3 6 6 】

第 1 大入賞口 4 5 は、遊技者に有利な遊技状態である当り遊技状態（大当り遊技状態など）のときに開放されるものである。第 1 大入賞口 4 5 は、遊技領域 1 p の右側上部に設けられている。

【 0 3 6 7 】

第 1 大入賞口 4 5 には、これを開閉するための第 1 大入賞口シャッタ 4 5 A が設けられている。第 1 大入賞口シャッタ 4 5 A は、棒部材が前後方向に移動することで第 1 大入賞口 4 5 に遊技球を導く状態と、導かない状態とに切替可能となるように構成されている。このような第 1 大入賞口 4 5 は、遊技者に有利な遊技状態である大当り遊技状態のときに開放される。第 1 大入賞口シャッタ 4 5 A は、第 1 大入賞口ソレノイド 3 1 5 A （図 2 1 参照）により開閉可能に駆動される。第 1 大入賞口 4 5 への遊技球の入賞は、第 1 大入賞口カウントスイッチ 3 1 5 （図 2 1 参照）により検出される。

40

【 0 3 6 8 】

第 2 大入賞口 4 6 も、遊技者に有利な遊技状態である当り遊技状態（大当り遊技状態など）のときに開放されるものである。第 2 大入賞口 4 6 は、遊技領域 1 p の右側下部にあって、第 1 始動口 4 2 の右側上方で第 2 始動口 4 3 の概ね左側下方に設けられている。

【 0 3 6 9 】

第 2 大入賞口 4 6 は、複数の遊技球が同時に入賞し得るように比較的の左右方向の寸法が

50

大きい開口からなる。第2大入賞口46は、第2大入賞口シャッタ46A及び後述する球通路カバー7000により形成される。第2大入賞口46は、遊技領域1pの右側下部に設けられている。第2大入賞口46は、第2大入賞口シャッタ46Aが開放状態にある時、遊技盤1の前面と球通路カバー7000との間に開放口として形成され、第2大入賞口シャッタ46Aが閉鎖状態にある時に閉鎖口となる。

【0370】

第2大入賞口シャッタ46Aは、第2大入賞口46を覆うように左右方向に沿う長手方向寸法が比較的大きい板状部材である。第2大入賞口シャッタ46Aの短手方向寸法は、遊技球の直径程度である。第2大入賞口シャッタ46Aは、遊技盤1の前後方向に突出・退避可能に設けられている。第2大入賞口シャッタ46Aは、遊技盤1の前方に突出した状態が第2大入賞口46を閉鎖する閉鎖状態となり、遊技盤1の後方へと退避した状態が第2大入賞口46を開放する開放状態となる。第2大入賞口シャッタ46Aの上面は、閉鎖状態において比較的緩やかな左下がり傾向の傾斜面になっている。第2大入賞口シャッタ46Aは、第2大入賞口ソレノイド316A(図21参照)により開閉可能に駆動される。第2大入賞口46への遊技球の入賞は、第2大入賞口カウントスイッチ316(図21、図172、図173参照)により検出される。

10

【0371】

一般入賞口47は、遊技盤1の適宜位置に一つ以上設けられている。この一般入賞口47に遊技球が入賞すると、抽選が行われないものの、所定数の賞球が払い出される。一般入賞口47への遊技球の入賞は、一般入賞口スイッチ310(図21参照)により検出される。

20

【0372】

[球通路カバー]

図173～図176に示すように、球通路カバー7000は、通過ゲート44の付近から第2始動口43を経て第2大入賞口46へと遊技球を導く球通路T1～T5を形成するものであり、遊技領域1pの前面に所定の間隔をあけて対向するように取り付けられる。球通路カバー7000の前面は、透明な素材で形成されており、球通路T1～T5を通る遊技球を前方から視認可能となっている。球通路カバー7000の裏面には、複数のリブ7100, 7110, 7120, 7130, 7140、複数の凸部7200、第1減速部7300、及び第2減速部7310が形成されている。

30

【0373】

図175及び図176に示すように、球通路カバー7000において、球通路T1は、通過ゲート44を通過した遊技球あるいは通過ゲート44から逸れた遊技球を下方へと落下するよう導く縦長状の通路(縦通路)であり、遊技盤1の前面や開口領域1dの周縁壁とリブ7100により形成される。球通路T1の下方には、リブ7110が形成されている。球通路T1を通って落下してきた遊技球は、リブ7110において略水平状に形成された当接部7110Aに突き当たる。当接部7110Aの左側は、その先の第2始動口43へと遊技球を放出するように開放状の放出部7110Bが形成されている。また、当接部7110Aには、球通路T1を通って落下してきた遊技球を遊技領域1pの後面に向けて一旦跳ね返らせるように、遊技領域1pの後面に向けて傾斜した姿勢の第1減速部7300が形成され、跳ね返った遊技球は、遊技盤1の壁部によって転動を阻止され、転動速度が大幅に減速される。球通路T1を通って落下してきた遊技球は、第1減速部7300に当たることにより、直ぐに放出部7110Bの方へと跳ね返ることなく放出部7110Bへと向かう転動速度が低下させられる。これにより、球通路T1を経て放出部7110Bから放出された遊技球は、比較的緩慢な転動速度でゆっくりと第2始動口43へと向かう。なお、第1減速部7300は、当たった遊技球が遊技領域1pの前面に跳ね返るよう形成してもよい。要するに、放出部7110B以外の方向に壁部が存在し、第1減速部7300に当たった遊技球がその壁部に転動を阻止されることで遊技球の転動速度が減速されればよい。

40

【0374】

50

次に、球通路カバー 7000において、球通路 T2 は、後述する開閉ユニット 8000 が第2始動口 43 を閉状態としている場合に、放出部 7110B から放出された遊技球を第2始動口 43 の上から開閉ユニット 8000 の内部を通過させつつさらに左側へと導く若干左下がりの通路であり、主として開閉ユニット 8000 により形成される。この球通路 T2 については、開閉ユニット 8000 の説明とあわせて後述する。

【0375】

次に、球通路カバー 7000において、球通路 T3 は、球通路 T2 を通過してきた遊技球をさらにその左側で落下させる通路であり、遊技盤 1 の前面とリブ 7120, 7130 により形成される。リブ 7120 は、第2始動口 43 の左側に近接している。リブ 7130 は、リブ 7120 より下方に形成されており、リブ 7120 と高低差のある段差部 7130A を有する。段差部 7130A のさらに左側には、第2大入賞口 46 が位置する。球通路 T3 を経て落下した遊技球は、リブ 7130 の段差部 7130A に突き当たる。この段差部 7130A においても、球通路 T3 を経て落下してきた遊技球を遊技領域 1p の前面に向けて一旦跳ね返らせるように、遊技領域 1p の前面に向けて傾斜した姿勢の第2減速部 7310 が形成されている。球通路 T3 を経て落下してきた遊技球は、第2減速部 7310 に当たることにより、直ぐに第2大入賞口 46 の方へと跳ね返すことなく第2大入賞口 46 へと向かう転動速度が低下させられる。これにより、球通路 T3 を経て第2大入賞口 46 へと向かう遊技球についても、比較的遅い転動速度で転動させることができる。また、球通路 T3 に沿う球通路カバー 7000 の裏面部分には、凸部 7200 が形成されている。球通路 T3 を通過する際の遊技球は、凸部 7200 に当たることによって転動速度が低下させられる。したがって、第2大入賞口 46 へと向かう遊技球は、比較的遅い転動速度で第2大入賞口 46 へと誘導される。

10

20

30

【0376】

次に、球通路カバー 7000において、球通路 T4 は、第2大入賞口 46 を図外の第2大入賞口シャッタ 46A により閉状態としている場合に、その第2大入賞口シャッタ 46A の上面に沿って遊技球をさらに左側へと導く若干左下がりの通路であり、第2大入賞口シャッタ 46A と球通路カバー 7000 の裏面により形成される。球通路 T4 に沿う球通路カバー 7000 の裏面部分にも、凸部 7200 が形成されている。これにより、球通路 T4 を通過する際の遊技球は、凸部 7200 に当たることによって転動速度が低下させられる。その結果、複数の遊技球が停滞しながら第2大入賞口シャッタ 46A 上を転動することとなり、その際に第2大入賞口シャッタ 46A が開状態となると、一度に複数の遊技球が第2大入賞口 46 から同時に落下することで多くの入賞球数が期待される。

【0377】

次に、球通路 T5 は、球通路 T4 を通過してきた遊技球をさらにその左側で落下させる通路であり、遊技盤 1 の前面とリブ 7140 により形成される。リブ 7140 は、第2大入賞口 46 の左側に近接している。球通路 T5 を経て落下した遊技球は、主として図外のアウト口 48 へと導かれる。

【0378】

[開閉ユニット]

図 177 ~ 図 180 に示すように、開閉ユニット 8000 は、基本的な構成部品として、本体部材 8100、後カバー部材 8200、羽根部材 8300、及び羽根部材ソレノイド 313 (図示略) を有して構成される。

40

【0379】

本体部材 8100 及び後カバー部材 8200 の内部には、球通路 T2 が U 字状に形成される (図 179、図 180 参照)。本体部材 8100 の前面右側には、放出部 7110B (図 175、図 176 参照) から転動してきた遊技球を内部に誘導するための入口部 8110 が形成されているとともに、本体部材 8100 の前面左側には、内部において転動する遊技球を外部に誘導するための出口部 8120 が形成されている。本体部材 8100 の内部には、入口部 8110 及び出口部 8120 を仕切って U 字状の球通路 T2 を形成するための仕切り部 8130 が形成されている。

50

【 0 3 8 0 】

後カバー部材 8200 は、本体部材 8100 の後部に取り付けられ、本体部材 8100 の仕切り部 8130 との間に遊技球が通過可能な内部空間を形成している。後カバー部材 8200 の内壁には、U 字状の球通路 T2 に沿って転動する遊技球をスムーズに曲げるための凹湾曲部 8210, 8211 が設けられている。

【 0 3 8 1 】

羽根部材 8300 は、第 2 始動口 43 から本体部材 8100 及び後カバー部材 8200 の内部にわたって球通路 T2 の底面を形成する可動部品である。羽根部材 8300 は、図示しない羽根部材ソレノイド 313 (図 21 参照) によって遊技盤 1 の前後方向に突出・退避するように駆動させられる。羽根部材 8300 は、前方に突出した状態において、第 2 始動口 43 を閉状態とする一方、後方に退避した状態において、第 2 始動口 43 を開状態とする。羽根部材 8300 は、第 2 始動口 43 を閉状態とする前側部分が右側から左側へと低位となるように段差状に形成されている。これにより、羽根部材 8300 が第 2 始動口 43 を閉状態とした場合には、後カバー部材 8200 の内部に遊技球をスムーズに流入させるための誘導湾曲部 7115 によって入口部 8110 から本体部材 8100 及び後カバー部材 8200 の内部に入ることで球通路 T2 に沿って導かれる。羽根部材 8300 が第 2 始動口 43 を閉状態あるいは開状態のいずれの場合にあっても、羽根部材 8300 の後側部分 8320 は、本体部材 8100 及び後カバー部材 8200 の内部において球通路 T2 の底面を形成している。この後側部分 8320 において、入口部 8110 の後方に続く部分から出口部 8120 の後方へと続く部分にかけては、球通路 T2 の進行方向に沿って低位となる傾斜状の連続面となっている。これにより、羽根部材 8300 が第 2 始動口 43 を閉状態としている場合には、入口部 8110 から出口部 8120 へと球通路 T2 に沿って複数の遊技球が比較的緩やかな速度でスムーズに導かれる。また、羽根部材 8300 が第 2 始動口 43 を開状態とした場合には、羽根部材 8300 の後側部分 8320 上に滞留している複数の遊技球が出口部 8120 からスムーズに排出され、第 2 始動口 43 の下方へと落下して入賞することとなる。第 2 始動口 43 への遊技球の入賞は、第 2 始動口スイッチ 312 (図 21, 図 172, 図 173 参照) により検出される。

【 0 3 8 2 】

図 175 及び図 176 に示すように、球通路 T2 に進入する直前の遊技球は、球通路 T1 を経て落下した後、第 1 減速部 7300 に当たることで直ぐに第 2 始動口 43 の方へと跳ね返ることなく、第 2 始動口 43 へと向かう転動速度が低下させられる。これにより、球通路 T2 に進入する直前で第 2 始動口 43 へと向かう遊技球は、比較的遅い転動速度で転動させることができる。その結果、複数の遊技球が球通路 T2 に沿って停滞しながら羽根部材 8300 上を転動することとなり、その際に羽根部材 8300 が開状態となると、一度に複数の遊技球が第 2 始動口 43 から同時に落下することで多くの入賞球数が期待される。

【 0 3 8 3 】

このような遊技盤 1 によれば、縦通路となる球通路 T1 に沿って落下してきた遊技球が当接部 7110A に突き当たって放出部 7110B から左方向に放出される際に、第 1 減速部 7300 によって遊技球の進行速度が減速されつつ当該遊技球が左方向に位置する第 1 始動口 43 及び羽根部材 8300 へと案内され。さらに、第 1 始動口 43 及び羽根部材 8300 を経て段差部 7130A へと落下してきた遊技球は、第 2 減速部 7310 によって進行速度が減速されつつ第 2 大入賞口 46 及び第 2 大入賞口シャッタ 46A へと案内される。これにより、遊技球の跳ね返りを抑えてスムーズに遊技球を放出部 7110B から第 1 始動口 43 及び羽根部材 8300 を経て第 2 大入賞口 46 及び第 2 大入賞口シャッタ 46A へと導くことができ、連続する複数の入賞領域に対しても複数の遊技球を十分減速させて連続的に導くことができ、また、羽根部材 8300 や第 2 大入賞口シャッタ 46A の傾斜を緩くしても球通路 T1 から球通路 T5 までの通路全体の落下距離を十分に維持することができ、ひいては放出部 7110B 付近や第 2 始動口 43 及び第 2 大入賞口 46 の羽根部材 8300 上や及び第 2 大入賞口シャッタ 46A 上における遊技球の球噛みや球詰

10

20

30

40

50

まりを防ぎつつ多くの入賞球数を期待させることができる。

【0384】

「第5実施形態」

次に、第5実施形態に係るパチンコ遊技機について図面を参照して説明する。なお、先述した第1～第4実施形態に係るものと同一又は類似の構成要素については、同一符号を付してその説明を省略する。図181～図241は、第5実施形態に係るパチンコ遊技機を説明するための図である。

【0385】

第5実施形態に係るパチンコ遊技機は、主として、本体サブユニット440における第1演出ユニット4000の動作及び構造並びに発光態様、第1演出ユニット4000のベース部材4500の配線接続構造、本体ケース441の配線収容構造、透明板ユニット7'における導光板ユニット700'の構造及び発光動作に特徴を有する。これらの特徴的な構成について図面を参照して以下に順に説明する。10

【0386】

[本体サブユニットの構成]

図181は、透明板ユニット7'を分解して本体サブユニット440を示す斜視図、図182は、透明板ユニット7'を略して本体サブユニット440を示す斜視図、図183は、遊技盤1を示す正面図、図184は、本体サブユニット440を示す分解斜視図である。

【0387】

図181及び図184に示すように、本実施形態の本体サブユニット440は、透明板ユニット7'、本体ケース441、遊技盤1、液晶表示装置4、ロゴ装飾部材1000、上部装飾パネル1100、下部装飾部材1200、第1演出ユニット4000、第2演出ユニット5000、及び第3演出ユニット5000'を有して構成される。20

【0388】

透明板ユニット7'は、遊技盤1の前面全体を覆うように配置される。透明板ユニット7'は、図114～図117に示すものと概ね同様の構成を備えるほか、開口部7Aaに対応するように設けられた導光板ユニット700'（図181において図示略、図219、図220等参照）を備える。本体ケース441の内部奥方の上部には、第1演出ユニット4000が配置される。本体ケース441の内部奥方の下部には、第3演出ユニット5000'が配置される。本体ケース441の内部において第1演出ユニット4000の前方上部には、第2演出ユニット5000が配置される。本体ケース441の内部において第1演出ユニット4000の前方下部には、下部装飾部材1200が配置される。本体ケース441の内部において遊技盤1と第2演出ユニット5000との間には、上部装飾パネル1100が配置される。遊技盤1の開口領域1dの上部において上部装飾パネル1100の前方には、ロゴ装飾部材1000が配置される。上部装飾パネル1100及び下部装飾部材1200は、透過性素材で形成された遊技盤1を通して前方から視認可能である。一方、第1演出ユニット4000、第2演出ユニット5000、及び第3演出ユニット5000'は、夫々待機状態にある場合、上部装飾パネル1100及び下部装飾部材1200の背後に位置し、遊技盤1を通して前方から視認することができない。第1演出ユニット4000、第2演出ユニット5000、及び第3演出ユニット5000'は、各々出現状態になると、液晶表示装置4の表示領域4dの前方にあって開口領域1dに出現した状態となり、遊技盤1の前方から視認可能となる。第1演出ユニット4000、第2演出ユニット5000、第3演出ユニット5000'、本体ケース441、及び導光板ユニット700'については後述する。また、遊技盤1に設けられたステージ41及び大入賞口ユニット450等についても後述する。30

【0389】

[第1演出ユニット]

次に、第1演出ユニット4000の構成について、図185～図205を参照して説明する。図185～図193は、第1演出ユニット4000を示す図である。図194～図205は、左可動ユニット4600Aの駆動伝達機構4610Aを示す図である。なお、40

図185～図187は、第1演出ユニット4000の可動体が待機位置にある状態を示し、図188～図190は、第1演出ユニット4000の可動体が中間位置にある状態を示し、図191～図193は、第1演出ユニット4000の可動体が出現位置にある状態を示している。また、図194～図205は、基本的に駆動伝達機構4610Aが待機位置にある状態を示しているが、図200～図205は、待機位置から中間位置へと移動する直前の状態を示している。

【0390】

図185～図193に示すように、第1演出ユニット4000は、主なアセンブリパートとして、ベース部材4500、左可動ユニット4600A、及び右可動ユニット4600Bを有して構成される。左可動ユニット4600A及び右可動ユニット4600Bは、互いに左右対称な動作を行うものであり、それぞれの可動体4620A、4620Bがベース部材4500の左右両端の待機位置から中央の出現位置へと移動し、その後、再び出現位置から待機位置へと移動可能である。なお、左可動ユニット4600A及び右可動ユニット4600Bは、互いに左右対称の動作を行うもので左右反対の動きを実現する以外は同様の構成であるため、以下の説明においては、左可動ユニット4600A及び右可動ユニット4600Bに対応する構成パートを末尾の符号「A」及び「B」で分け、特に断らない限り左可動ユニット4600Aの構成について説明する。右可動ユニット4600Bの構成要素の一部については、図中において適宜符号を省略する。

10

【0391】

ベース部材4500は、左可動ユニット4600A及び右可動ユニット4600Bを保持し、可動体4620A、4620Bを左右方向に沿って往復移動可能に支持するものである。ベース部材4500の上部には、左可動ユニット4600A及び右可動ユニット4600Bの可動体4620A、4620Bを懸架しつつ左右方向に案内するためのガイドロッド4510A、4510Bが設けられている。ベース部材4500の上部には、可動体4620A、4620Bの左右方向の移動に伴って上下方向の動作を発生させるためのカム溝4511A、4511Bが設けられている。図187等に示すように、カム溝4511A、4511Bは、概ね左右方向に延伸し、左右両端から中央へと進むに従って次第に低位となるように形成されている。ベース部材4500の下部には、可動体4620A、4620Bのそれぞれ下端部を支持しつつ左右方向に案内するためのガイドレール4520A、4520Bが設けられている。図191～図193によく示すように、ベース部材4500の内側下部には、可動体4620A、4620Bが中央から左右両端へと進むと可動体4620A、4620Bの一部に突き当たる突出部4530A、4530Bが設けられている。ベース部材4500の下部中央には、左可動ユニット4600A及び右可動ユニット4600Bの電子部品等と外部との電気的な接続を図るための配線接続部4540が設けられている。配線接続部4540は、遊技機の組み立て時に保護カバー4541で閉鎖される。配線接続部4540の構成については後述する。

20

30

【0392】

左可動ユニット4600Aは、駆動伝達機構4610A及び可動体4620Aを有して構成される。駆動伝達機構4610Aは、主として可動体4620Aを主として左右方向に移動させる駆動力を発生・伝達するためのものであり、ベース部材4500の上部に設けられる。可動体4620Aは、駆動伝達機構4610Aの駆動力によりベース部材4500の左側で主として左右方向に移動するものである。また、可動体4620Aは、移動位置に応じて動作態様・発光態様が変化するものである。可動体4620Aの動作態様・発光態様については後述する。

40

【0393】

次に、駆動伝達機構4610Aについて、図194～図205を参照して説明する。図194によく示すように、駆動伝達機構4610Aは、駆動手段としてのモータ4611、駆動ギヤ4612、回転体4613、及びラック部材4614を有して構成される。

【0394】

モータ4611は、可動体4620Aを移動させる駆動力を発生するものであり、正逆

50

両方向に回転制御される。駆動ギヤ 4612 は、モータ 4611 の駆動軸に回転可能に固定されている。

【0395】

図 196 に示すように、回転体 4613 は、ピニオン 4613a、押出片 4613b、ロック片 4613c を一体化して構成される。ピニオン 4613a は、駆動ギヤ 4612 に常時噛み合わされ、駆動ギヤ 4612 の回転に伴って回転する。押出片 4613b は、ピニオン 4613a の一側面側にロック片 4613c を介して固定され、ピニオン 4613a と一体になって回転する。図 197 等に示すように、押出片 4613b は、全体的な外径がピニオン 4613a の外径よりも小さい一方、ピニオン 4613a の外径よりも部分的に大きく外方に突き出た突出部 4613ba を有する。ロック片 4613c は、ピニオン 4613a の一側面に一体形成され、ピニオン 4613a と一緒に回転する。図 198 に示すように、ロック片 4613c は、正面視小判形状に形成されており、押出片 4613b の外径より若干小さい外径を有する一对の湾曲部 4613ca と、これらの湾曲部 4613ca よりも小径となり、湾曲部 4613ca に直線状に連なる一对の直線部 4613cb を有する。

10

【0396】

図 194 に示すように、ラック部材 4614 は、その左端部が可動体 4620A (ベース部材 4630) の上部に固定されており、可動体 4620A と一緒に回転して左右方向に移動する。図 196 に示すように、ラック部材 4614 は、ラック 4614a、案内部 4614b、及び壁部 4614c を有して構成される。

20

【0397】

ラック 4614a は、左右方向に沿って歯を形成したものであり、回転体 4613 のピニオン 4613a と噛み合わされる。ただし、可動体 4620A が基本的に待機位置にある場合、ラック 4614a は、ピニオン 4613a と噛み合わない状態となる。このような駆動伝達機構 4610A の動作については後述する。

【0398】

案内部 4614b は、壁部 4614c に対してラック 4614a の反対側に形成されたものであり、主としてラック 4614a よりも低い平坦面をなすようにラック 4614a に平行して形成される。図 197 に示すように、案内部 4614b の右端部には、回転体 4613 の押出片 4613b の突出部 4613ba が入り込んで側壁部分に当接するよう凹部 4614ba が形成されている。凹部 4614ba を含めて案内部 4614b の底面は、押出片 4613b の突出部 4613ba が回転しつつも接触しない程度に形成されている。可動体 4620A が基本的に待機位置にある場合、案内部 4614b の凹部 4614ba には、押出片 4613b の突出部 4613ba が入り込んだ状態となる。このような駆動伝達機構 4610A の動作については後述する。

30

【0399】

壁部 4614c は、ラック 4614a と案内部 4614b とを仕切るように形成されたものであり、主としてラック 4614a よりも高い平坦面をなすようにラック 4614a に平行して形成される。図 194 及び図 198 に示すように、壁部 4614c の右端部には、回転体 4613 のロック片 4613c の湾曲部 4613ca が摺接するように窪み部 4614ca が形成されている。窪み部 4614ca の内面は、ロック片 4613c の湾曲部 4613ca が摺動しながら概ね接触可能である一方、ロック片 4613c の直線部 4613cb が接触することなく回転可能となるように形成されている（図 201 及び図 204 参照）。可動体 4620A が基本的に待機位置にある場合、壁部 4614c の窪み部 4614ca には、その内面にちょうど添う姿勢でロック片 4613c の湾曲部 4613ca が接触した状態となる。このような駆動伝達機構 4610A の動作については後述する。

40

【0400】

図 192 及び図 193 によく示すように、可動体 4620A は、ベース部材 4630、上可動部 4640、中可動部 4650、下可動部 4660、連接部材 4670、及び搖動

50

部材4680を有して構成される。上可動部4640、中可動部4650、下可動部4660は、右可動ユニット4600Bの可動体4620Bと一緒にになって演出役物を構成するものである。

【0401】

図192及び図194等に示すように、ベース部材4630は、その上端部がラック部材4614と一緒にになってベース部材4500のガイドロッド4510Aに懸架されており、ガイドロッド4510Aに沿って左右方向に移動可能である。ベース部材4630の下端部は、ベース部材4500のガイドレール4520Aに案内された状態で左右方向に移動可能である。このようなベース部材4630は、基本的に上下動することなく左右方向に水平移動する。図193等に示すように、ベース部材4630には、連接部材4670を介して上可動部4640が揺動可能に支持されるとともに、揺動部材4680を介して中可動部4650及び下可動部4660が揺動可能に支持される。

10

【0402】

図190及び図193等に示すように、上可動部4640は、支点Xを軸として揺動可能にベース部材4630に支持されている。上可動部4640は、支点Xから所定距離の部位に案内ピン4640Aを有する。案内ピン4640Aは、ベース部材4630に形成された上下方向に対して傾斜状の第1案内溝4630A及び連接部材4670に形成されたくの字状の案内溝4670Aに挿通された状態で移動可能に係合されている。連接部材4670の上端部には、上側案内ピン4670Bが設けられており、この上側案内ピン4670Bがベース部材4500のカム溝4511Aに挿通された状態で移動可能に係合されている。連接部材4670は、上下方向に長手状の案内溝4670Cを有し、この案内溝4670Cにベース部材4630に設けられた一対の案内ピン4630Bが挿通された状態で係合されることにより、ベース部材4630に対して上下方向に移動可能に支持されている。連接部材4670の下端部は、バネ4671を介してベース部材4630に支持されており、このバネ4671の弾性力によって常に下向きに付勢されている。これにより、ベース部材4630の左右方向の移動に伴って連接部材4670が上下方向に変位し、連接部材4670の上下動に連動して第1案内溝4630Aを案内ピン4640Aが移動することにより、上可動部4640が支点X周りに揺動する。ベース部材4630の移動に連動する上可動部4640の揺動動作については後述する。

20

【0403】

図190及び図193等に示すように、中可動部4650は、支点Yを軸として揺動可能にベース部材4630に支持されている。中可動部4650は、支点Yから所定距離の部位に案内ピン4650Aを有する。案内ピン4650Aは、ベース部材4630に形成された第2案内溝4630Cに挿通された状態で揺動部材4680の一端部に連結されている。揺動部材4680は、支点Yを軸として回転可能にベース部材4630に支持されている。揺動部材4680の支点Yから他端部に至るまでの中间部には、案内溝4680Aが形成されており、この案内溝4680Aに対して連接部材4670に設けられた下側案内ピン4670Dが挿通された状態で移動可能に係合されている。これにより、揺動部材4680は、ベース部材4630の左右方向の移動に伴う連接部材4670の上下動に連動して第2案内溝4630Cを案内ピン4650Aが移動することにより支点Y周りに揺動し、それに連動して中可動部4650も支点Y周りに揺動する。ベース部材4630の移動に連動する中可動部4650の揺動動作については後述する。

30

【0404】

図190及び図193等に示すように、下可動部4660は、支点Zを軸として揺動可能にベース部材4630に支持されている。具体的に、下可動部4660は、支点Zとなる揺動部材4680の他端部に回転可能に軸支されている。支点Z（揺動部材4680の他端部）は、ベース部材4630に形成された弧状の第4案内溝4630Eに挿通された状態で移動可能に係合されている。下可動部4660は、支点Zから所定距離の部位に案内ピン4660Aを有する。案内ピン4660Aは、ベース部材4630に形成されたくの字状の第3案内溝4630Dに挿通された状態で移動可能に係合されている。図190

40

50

及び図193に示すように、案内ピン4660Aは、揺動部材4680の他端部（支点Z）が支点Y周りに揺動する際、第3案内溝4630Dの下側部分に沿うことで支点Zと同心円状に支点Y周りに移動する。一方、図187に示すように、可動体4620Aが待機位置へと移動していくと、下可動部4660の背面適部に突出部4530Aが突き当たる状態となり、その結果、案内ピン4660Aは、第3案内溝4630Dの上側部分に進入し、揺動部材4680の他端部（支点Z）周りに移動することとなる。すなわち、下可動部4660は、可動体4620A（ベース部材4630）の左右移動に伴う上可動部4640や中可動部4650の一定の支点X、Y周りの揺動動作とは異なり、揺動中心となる支点Y、Zが左右移動の途中で切り替えられることで逆方向に揺動するような挙動を示す。このようなベース部材4630の移動に連動する下可動部4660の揺動動作については後述する。

【0405】

[可動部の構成]

次に、特に上可動部4640に着目し、この上可動部4640の構成について、図206～図208を参照して説明する。図206～図208は、左可動ユニット4600Aの可動体4620Aを示している。なお、図206及び図207は、可動体4620Aが待機位置にある状態を示し、図208は、可動体4620Aが出現位置にある状態を示している。

【0406】

図206に示すように、上可動部4640は、前面装飾カバー4641、前面レンズ4642、赤色レンズ4643、白色レンズ4644、可動ベース部材4645、導光板4646、及び発光基板4647を有して構成される。

【0407】

前面装飾カバー4641は、可動ベース部材4645の前面全体を覆うように可動ベース部材4645に装着される。前面装飾カバー4641は、可動ベース部材4645と一緒にになって支点X周りに揺動する。

【0408】

前面レンズ4642は、例えば光を透過可能な半透明の黒色に着色された黒色レンズであり、前面装飾カバー4641の前面に装着される。前面レンズ4642は、前面装飾カバー4641と一緒にになって支点X周りに変位する。

【0409】

赤色レンズ4643は、例えば光を透過可能な赤色に着色されたレンズであり、前面レンズ4642の背後に對応するように可動ベース部材4645に取り付けられる。赤色レンズ4643は、前面レンズ4642との相対的な位置関係を一定に保ちつつ可動ベース部材4645と一緒にになって支点X周りに変位する。なお、特に図示しないが、赤色レンズ4643の中心部には、白色レンズ4644を装着するための貫通口が形成されている。

【0410】

白色レンズ4644は、例えば光を透過可能な白色に着色されたレンズであり、前面レンズ4642の背後に對応するように赤色レンズ4643の中心部に装着される。白色レンズ4644も、赤色レンズ4643と同様に、前面レンズ4642との相対的な位置関係を一定に保ちつつ可動ベース部材4645と一緒にになって支点X周りに変位する。

【0411】

可動ベース部材4645は、光を透過可能な部材であり、支点Xを軸として揺動可能にベース部材4630に支持され、支点Xから所定距離の部位に案内ピン4640Aを有する（図207、図208参照）。

【0412】

導光板4646は、発光基板4647からの光を前方へと導くものであり、可動ベース部材4645の背後に概ね對応するようにベース部材4630に固定される。導光板4646は、ベース部材4630に固定されているため、ベース部材4630の左右方向の移動によっても支点X周りに変位することはない。

【0413】

発光基板4647は、前面に複数のLED4647a, 4647b, 4647cを搭載した基板であり、導光板4646の背後に對応するようにベース部材4630に固定される。LED4647aは、前面装飾カバー4641において前面レンズ4642が設けられない領域全体を発光させるように導光板4646を通して光を照射する。LED4647bは、赤色レンズ4643に対応して例えば赤色光を照射するものであり、一例として本実施形態では4個設けられており、発光基板4647の前面に半円弧状に配列されている。以下の説明において、LED4647bは、特に「赤色LED4647b」という。LED4647cは、白色レンズ4644に対応して例えば白色光を照射するものであり、一例として本実施形態では1個設けられており、発光基板4647の前面において複数のLED4647bの中心に配置されている。以下の説明において、LED4647cは、特に「白色LED4647c」という。このような発光基板4647も、ベース部材4630に固定されているため、ベース部材4630の左右方向の移動によっても支点X周りに変位することはない。そのため、赤色レンズ4643及び白色レンズ4644の支点X周りの変位状態によっては、4個全ての赤色LED4647bが赤色レンズ4643に対応するように位置するとともに、1個の白色LED4647cが白色レンズ4644に対応するように位置する状態と(図208参照)、4個のうち1個の赤色LED4647bが白色レンズ4644に対応するように位置するとともに、1個の白色LED4647cと2個の赤色LED4647bとが赤色レンズ4643に対応するように位置する状態がある(図207参照)。赤色レンズ4643及び白色レンズ4644に対する赤色LED4647b及び白色LED4647cの対応位置関係に応じて前面レンズ4642の発光態様が変化する。このような上可動部4640の発光態様の変化については後述する。

10

20

【0414】

なお、中可動部4650及び下可動部4660については、特に詳細な図示説明を省略するが、互いに異なる色の光を発するLEDやレンズを備えておらず、それ以外においては上可動部4640と同様の構成要素を有して構成される。また、右可動ユニット4600Bも、上記した左可動ユニット4600Aと同様の構成要素を有するが、特に詳細な図示説明を省略する。

【0415】

[ベース部材の配線接続構造]

30

次に、ベース部材4500の配線接続構造について、図209～図214を参照して説明する。図209～図214は、ベース部材4500における配線接続部4540の構成を示している。

【0416】

図209に示すように、配線接続部4540は、保護カバー4541、ベース部4542、2つの接続端子部4543を備えた中継基板4544、及び接続端子部4543に付設された開閉蓋4545を有して構成される。

【0417】

図210及び図211に示すように、保護カバー4541は、配線接続部4540の前面とその周囲を覆うものである。保護カバー4541の上部には、いわゆるフレキシブルフラットケーブル(以下、「FFC」という)の先端を内部に案内するための開口部4541aが形成されている。保護カバー4541の背面には、中継基板4544の接続端子部4543に対応して位置するように凸部4541bが形成されている。このような保護カバー4541は、中継基板4544の前面を覆うように配線接続部4540のベース部4542に図示しないネジを介して取り付けられる。

40

【0418】

中継基板4544は、第1演出ユニット4000の電子部品等と外部との電気的な接続を中継するためのものであり、電子部品等に接続されたFFCを接続するための接続端子部4543を有する。中継基板4544は、配線接続部4540のベース部4542に固定される。

50

【0419】

接続端子部4543は、FFCの先端を電気的に接続する部分である。接続端子部4543の下端には、接続端子部4543にFFCの先端を挿入する際に起立した開状態となり、接続端子部4543にFFCの先端を接続する際に接続端子部4543との間にFFCを介在させた状態で閉状態となる開閉蓋4545が設けられている。このような接続端子部4543には、遊技機の組み立て時にFFCの先端が接続された後に開閉蓋4545が閉状態とされ、さらにそうした後に保護カバー4541がベース部4542に取り付けられる。

【0420】

図212に示すように、遊技機の組み立て時において、保護カバー4541がベース部4542に取り付けられる前には、接続端子部4543にFFCを接続する前の状態にあり、開閉蓋4545が起立した開状態とされる。

10

【0421】

例えば、図213に示すように、接続端子部4543にFFCを接続することなく保護カバー4541をベース部4542に取り付けようとした場合には、起立した開状態の開閉蓋4545の端部に保護カバー4541の凸部4541bが当接する。これにより、FFCの接続を忘れたまま保護カバー4541を取り付けることができないようになっている。これにより、FFCの接続を完了せずに遊技機の組み立てを完成してしまうといった事態を防ぐことができる。

【0422】

20

図214に示すように、接続端子部4543にFFCを接続した状態で保護カバー4541をベース部4542に取り付ける場合には、開閉蓋4545を閉状態としてこの開閉蓋4545と接続端子部4543との間にFFCの先端を挟んだ状態で確実に接続することができ、保護カバー4541の凸部4541bに対して開閉蓋4545の表面がほとんど接するか接しない状態で保護カバー4541をベース部4542に取り付けることができる。これにより、接続端子部4543に対してFFCを確実に接続した状態で保護カバー4541を取り付けることができ、FFCの接続を確実に完了した状態で遊技機の組み立てを完成することができる。

【0423】

30

[本体ケースの配線収容構造]

次に、本体ケース441の配線収容構造について、図215～図218を参照して説明する。図215～図218は、本体ケース441の配線収容部443の構成を示している。

【0424】

図218に示すように、配線収容部443は、複数の配線を束ねた配線束Sをその先端に設けられたコネクタCと共に配線収容部443の外部から内部へとまとめて引き込むための部分である。図215に示すように、配線収容部443は、一例として本体ケース441の背面部441Aの左側部分から左側部441Bにかけて設けられている。なお、左側部441Bは、前後方向に概ね垂直状の面をなす第1壁部441Baと、第1壁部441Baに連続して屈曲形成され、左右方向に概ね垂直状の面をなす第2壁部441Bbによって形成される。

40

【0425】

図216～図218に示すように、配線収容部443は、第1の開口領域443A及び第2の開口領域443Bを有して構成される。第1の開口領域443Aは、背面部441Aを貫通するように形成される。第2の開口領域443Bは、左側部441Bの第1壁部441Ba及び第2壁部441Bbを貫通し、第1の開口領域443Aに連続するように形成される。第2の開口領域443Bは、第1壁部441Baに形成された挿通部443Baと、第2壁部441Baに形成された連通部443Bbとを有する。

【0426】

第1の開口領域443Aは、第2の開口領域443Bの連通部443Bbを介して挿通部443Baへと連続するように形成されている。第1の開口領域443Aには、連通部

50

4 4 3 B bとの境目部分に凸部 4 4 3 A aが形成されている。また、第1の開口領域 4 4 3 A の内側には、第1の開口領域 4 4 3 A を囲うように前後方向に沿う配線収容壁 4 4 3 A bが形成されている。凸部 4 4 3 A aと配線収容壁 4 4 3 A bとの間には、配線束 Sを押し入れができる隙間 Gが形成される。このような第1の開口領域 4 4 3 A は、コネクタ Cを出し入れ不可能である一方、配線束 Sをまとめて収容することが可能な開口部分となる。

【 0 4 2 7 】

第2の開口領域 4 4 3 B の挿通部 4 4 3 B aは、コネクタ Cを出し入れ可能な程度の開口面積を有し、第1の開口領域 4 4 3 A よりも広く形成される。第2の開口領域 4 4 3 B の連通部 4 4 3 B bは、挿通部 4 4 3 B aから第1の開口領域 4 4 3 A へと連続するよう 10 に前後方向に細長いスリット状の開口部分として形成される。これにより、挿通部 4 4 3 B aには、本体ケース 4 4 1 の背後から前方へとコネクタ Cと共に配線束 Sを挿入することが可能であり、連通部 4 4 3 B bには、コネクタ Cに続く配線束 Sを内側へと押し入れることが可能となる。

【 0 4 2 8 】

配線収容部 4 4 3 において配線束 Sを本体ケース 4 4 1 の背後から前方へと引き回す際には、次のような手順で作業を行う。

【 0 4 2 9 】

図 2 1 8 の (1) に示すように、まず、配線束 Sの先端に一体となったコネクタ Cを挿通部 4 4 3 B aに差し込む。次に、(2) に示すように、コネクタ Cに続く配線束 Sをまとめて連通部 4 4 3 B bに押し込む。その後、(3) に示すように、連通部 4 4 3 B bに押し込んだ配線束 Sをさらに凸部 4 4 3 A aを越えて隙間 Gから挿通部 4 4 3 B aへと押しやる。これにより、挿通部 4 4 3 B aの内側においては、配線収容壁 4 4 3 A bによって配線束 Sがばらつくことなく纏まって収容・保持される。

【 0 4 3 0 】

[導光板ユニットの構成]

次に、導光板ユニット 7 0 0 ' の構成について、図 2 1 9 ~ 図 2 2 2 を参照して説明する。図 2 1 9 ~ 図 2 2 1 は、導光板ユニット 7 0 0 ' の構成を示している。図 2 2 2 は、導光板ユニット 7 0 0 ' の変形例を示している。

【 0 4 3 1 】

図 2 1 9 及び図 2 2 0 に示すように、導光板ユニット 7 0 0 ' は、透明パネル 7 4 0 、発光基板 7 5 0 、及び 2 つの傾斜レンズ 7 6 0 , 7 7 0 を有して構成される。

【 0 4 3 2 】

透明パネル 7 4 0 は、全体が光を透過可能な面をなし、図 2 2 0 に示すように、部分的な表面加工により上端部 7 4 0 A から導入された光を前方へと反射可能な発光領域 7 4 1 , 7 4 2 , 7 4 3 を有する。発光領域 7 4 1 は、透明パネル 7 4 0 の上端部 7 4 0 A に対して概ね垂直に導入された光を最も強く前方に向けて反射するように形成されている。一方、発光領域 7 4 2 , 7 4 3 は、透明パネル 7 4 0 の上端部 7 4 0 A に対して若干斜め方向に導入された光を最も強く前方に向けて反射するように形成されている。発光領域 7 4 2 と発光領域 7 4 3 とは、発光領域 7 4 1 の両側に配置され、互いに最も強く反射する光の導入方向が左右対称となるように形成されている。

【 0 4 3 3 】

発光基板 7 5 0 は、透明パネル 7 4 0 の上端部 7 4 0 A に配置され、その上端部 7 4 0 A から透明パネル 7 4 0 の内部へと光を入射させるように複数の LED 7 5 1 , 7 5 2 , 7 5 3 を有する。LED 7 5 1 は、透明パネル 7 4 0 の上端部 7 4 0 A に沿うように配置されており、上端部 7 4 0 A に対して概ね垂直に光を照射する。一方、LED 7 5 2 , 7 5 3 は、傾斜レンズ 7 6 0 , 7 7 0 を介して透明パネル 7 4 0 の上端部 7 4 0 A に対して若干斜め方向に光を照射するように配置されている。

【 0 4 3 4 】

傾斜レンズ 7 6 0 , 7 7 0 は、透明パネル 7 4 0 の上端部 7 4 0 A において、各々の光

軸が発光領域 742, 743 を通るように配置される。図 221 に示すように、傾斜レンズ 760 は、光入射面 760A が透明パネル 740 の上端部 740A に対して全体的に傾斜状であり、LED 752 に対応する部分が凸面状に形成される。傾斜レンズ 760 の光出射面 760B は、透明パネル 740 の上端部 740A に対して平行な平坦状に形成される。このような傾斜レンズ 760 は、LED 752 からの光を集光しつつ上端部 740A に対して斜め方向に光を出射する役割をはたす。傾斜レンズ 770 も同様である。このような導光板ユニット 700' の発光動作については後述する。

【0435】

[第2演出ユニットの構成・動作]

次に、第2演出ユニット 5000 の構成・動作について、図 231～図 236 を参照して説明する。図 231～図 236 は、第2演出ユニット 5000 の構成を示している。なお、図 231～図 233 は、第2演出ユニット 5000 の構成要素が待機位置にある状態を示し、図 234～図 236 は、第2演出ユニット 5000 の構成要素が出現位置にある状態を示している。

10

【0436】

図 231～図 236 に示すように、第2演出ユニット 5000 は、主なアセンブリパーティとして、ベース部材 5300、左右一対のガイド部 5310A, 5310B、中央前可動ユニット 5320、左可動ユニット 5330A、右可動ユニット 5330B、中央後可動ユニット 5340、及び左右一対の駆動機構 5350A, 5350B を有して構成される。中央前可動ユニット 5320 の左右両側には、左可動ユニット 5330A 及び右可動ユニット 5330B が位置するように一体化されており、中央前可動ユニット 5320 の背後には、中央後可動ユニット 5340 が配置される。中央前可動ユニット 5320、左可動ユニット 5330A、右可動ユニット 5330B、及び中央後可動ユニット 5340 は、上下方向に沿って待機位置から出現位置まで往復移動可能である。駆動機構 5350A, 5350B は、駆動手段としてのモータ 5351、駆動ギヤ 5352、従動ギヤ 5353、揺動アーム 5354 を有して構成される。なお、第2演出ユニット 5000 は、互いに左右対称の構成要素を有するが、主として上下方向の動きを実現するように構成されている。そのため、以下の説明においては、左側及び右側の構成パートを末尾の符号「A」及び「B」で分け、特に断らない限り左側の構成要素について説明する。右側の構成要素については、図中において適宜符号を省略する。

20

【0437】

ベース部材 5300 は、左可動ユニット 5330A 及び右可動ユニット 5330B を介して中央前可動ユニット 5320 を上下方向に沿って往復移動可能に支持するものである。

30

【0438】

ガイド部 5310A, 5310B は、ベース部材 5300 の左右両端部に設けられる。ガイド部 5310A, 5310B には、上下方向に沿ってバネ 5311 が巻回されたガイドロッド 5312 と、ガイドロッド 5312 の上下方向所定位置に固定されたストッパー 5313 とが設けられる。ガイドロッド 5312 には、バネ 5311 によって常に下向きの弾性力が付勢された状態で左可動ユニット 5330A 及び右可動ユニット 5330B の支持部が上下方向に移動可能に支持される。左可動ユニット 5330A 及び右可動ユニット 5330B が待機位置にあるとき、これらの支持部の下端がストッパー 5313 に当接しない一方、左可動ユニット 5330A 及び右可動ユニット 5330B が所定の出現位置に達すると、これらの支持部の下端がストッパー 5313 に当接することでそれよりも下方に移動不可能となる。

40

【0439】

中央前可動ユニット 5320 は、その左右両側に左可動ユニット 5330A 及び右可動ユニット 5330B が固定され、これらと一体になって上下方向に移動する。ただし、中央前可動ユニット 5320 と中央後可動ユニット 5340 とは、一体化されておらず、中央前可動ユニット 5320 は、所定の出現位置まで中央後可動ユニット 5340 に追従して移動する。中央後可動ユニット 5340 は、中央前可動ユニット 5320 が所定の出現

50

位置に達した後にあっても、その所定の出現位置を通り越してさらに下方の最下限の出現位置まで移動する。

【0440】

図233及び図236に示すように、左可動ユニット5330Aの背部には、上下方向に沿って延伸するようにカム溝5331が形成されている。カム溝5331には、中央後可動ユニット5340の背部に設けられた一対の案内ピン5341が挿通された状態で移動可能に係合されている。右可動ユニット5330Bも、左可動ユニット5330Aと同様の構成からなる。このような左可動ユニット5330A及び右可動ユニット5330Bは、中央後可動ユニット5340が待機位置から最下限の出現位置に達するまでの所定の中間位置まで移動するのに伴い、バネ5311の下向き弹性付勢力によって案内ピン5341がカム溝5331の上端に当接した状態のまま移動し、これらの支持部がストッパ5313に当接する所定の出現位置まで移動する。

【0441】

図233及び図236に示すように、中央後可動ユニット5340の背部には、左右方向に沿って延伸するようにカム溝5342が形成されている。カム溝5342には、揺動アーム5354の先端部が移動可能に係合されている。このような揺動アーム5354の先端部が回転するのに伴い、カム溝5342を従節として中央後可動ユニット5340が待機位置から最下限の出現位置まで移動する。このとき、揺動アーム5354の先端部がカム溝5342の中間に位置し、中央後可動ユニット5340が待機位置から最下限の出現位置までの間の中間位置に達すると、左可動ユニット5330A及び右可動ユニット5330Bは、ストッパ5313に当接することでそれより下方に移動することなく所定の出現位置に達した状態となる。さらにその後、揺動アーム5354の先端部がカム溝5342の中間から移動すると、左可動ユニット5330A及び右可動ユニット5330Bが所定の出現位置に留まった状態のまま、案内ピン5341がカム溝5331の下方へと移動することで中央後可動ユニット5340が中間位置から最下限の出現位置へと移動する。すなわち、中央後可動ユニット5340が待機位置から中間位置へと移動するまでは、中央前可動ユニット5320が中央後可動ユニット5340の前面全体を覆い隠す状態で所定の出現位置まで移動し、中央前可動ユニット5320が所定の出現位置に止まった状態の後、中央前可動ユニット5320の背後から中央後可動ユニット5340がさらに最下限の出現位置へと現れるように移動する。出現位置から待機位置へと戻る際は、上記した動作とは逆の手順で中央前可動ユニット5320及び中央後可動ユニット5340が移動する。

【0442】

モータ5351は、主として中央後可動ユニット5340を上下方向に移動させる駆動力を発生するものであり、正逆両方向に回転制御される。駆動ギヤ5352は、モータ5351の駆動軸に回転可能に固定されている。従動ギヤ5353は、駆動ギヤ5352に噛み合わされ、駆動ギヤ5352の回転に伴って回転する。このような従動ギヤ5353は、揺動アーム5354の基端部に固定されており、従動ギヤ5353の回転に伴って揺動アーム5354の先端部が回転する。

【0443】

このような第2演出ユニット5000によれば、中央前可動ユニット5320と中央後可動ユニット5340との差動動作を簡単な仕組みによって実現することができ、斬新な演出を行うことができる。

【0444】

[第3演出ユニットの構成・動作]

次に、第3演出ユニット5000'の構成・動作について、図223～図230を参照して説明する。図223～図230は、第3演出ユニット5000'の構成を示している。なお、図223～図226は、第3演出ユニット5000'の構成要素が待機位置にある状態を示し、図227～図230は、第3演出ユニット5000'の構成要素が出現位置にある状態を示している。

【 0 4 4 5 】

図 223～図 230 に示すように、第 3 演出ユニット 5000' は、主なアセンブリパーティとして、ベース部材 5500、左前可動ユニット 5510A、右前可動ユニット 5510B、左後可動ユニット 5520A、右後可動ユニット 5520B、及び左右一対の駆動機構 5530A, 5530B を有して構成される。左前可動ユニット 5510A 及び右前可動ユニット 5510B は、ベース部材 5500 の前面側に配置されており、左後可動ユニット 5520A 及び右後可動ユニット 5520B は、ベース部材 5500 の前面側にあって左前可動ユニット 5510A 及び右前可動ユニット 5510B の背後に配置される。左前可動ユニット 5510A 及び右前可動ユニット 5510B は、互いに左右に開いた待機位置の状態から、左後可動ユニット 5520A 及び右後可動ユニット 5520B と概ね一体になって起立した出現位置の状態まで変動可能である。駆動機構 5530A, 5530B は、駆動手段としてのモータ 5531、駆動ギヤ 5352、従動ギヤ 5353、従動カム 5534 を有して構成される。なお、第 3 演出ユニット 5000' は、互いに左右対称の構成要素を有するが、互いに左右に開いた待機状態から起立した出現状態へと揺動する動きを実現するように構成されている。そのため、以下の説明においては、左側及び右側の構成パーティを末尾の符号「A」及び「B」で分け、特に断らない限り左側の構成要素について説明する。右側の構成要素については、図中において適宜符号を省略する。

【 0 4 4 6 】

ベース部材 5500 は、回転軸 5501A, 5501B を介して左前可動ユニット 5510A 及び右前可動ユニット 5510B を揺動可能に支持している。また、ベース部材 5500 には、左前可動ユニット 5510A 及び右前可動ユニット 5510B が出現状態となる直前に後述する揺動レバー 5512 の基端部に当接可能な突設ピン 5500A, 5500B (図 223、図 225、図 229 参照) が設けられている。

【 0 4 4 7 】

図 225、図 226、図 229、及び図 230 に示すように、左前可動ユニット 5510A の基端部には、カム溝 5511 が形成されている。カム溝 5511 には、従動カム 5534 が挿通された状態で移動可能に係合されている。また、左前可動ユニット 5510A の背部には、突設ピン 5500A に当接可能な揺動レバー 5512 と、揺動レバー 5512 に連結されたリンク部材 5513 が支持されている。右前可動ユニット 5510B も、左前可動ユニット 5510A と同様の構成からなる。このような左前可動ユニット 5510A 及び右前可動ユニット 5510B は、従動カム 5534 の回転に伴い、回転軸 5501A, 5501B を中心として揺動する。そして待機位置から出現位置に達する直前には、揺動レバー 5512 の基端部に突設ピン 5500A, 5500B が当接することにより、揺動レバー 5512 及びリンク部材 5513 の相対的な姿勢が変化する。

【 0 4 4 8 】

図 225、図 226、図 229、及び図 230 に示すように、左後可動ユニット 5520A の基端部は、回転軸 5521 を介して回転可能に左前可動ユニット 5510A の背部に支持されている。回転軸 5521 には、図示しないトーションバネが巻回されており、このトーションバネの弾性力により左後可動ユニット 5520A が常に左側へと開く方向に付勢されている。一方、回転軸 5521 には、凸片 5522 が一体となって回転可能に設けられている (図 229、図 230 参照)。左後可動ユニット 5520A が左前可動ユニット 5510A と共に待機位置にある場合、この凸片 5522 は、揺動レバー 5512 及びリンク部材 5513 の連結部に当接する。これにより、凸片 5522 が当接する位置よりも左後可動ユニット 5520A が左側に揺動することなく、左前可動ユニット 5510A の背後に隠れた状態となる。その一方、左前可動ユニット 5510A が出現位置に達する直前になると、揺動レバー 5512 の基端部に突設ピン 5500A が当接し、揺動レバー 5512 及びリンク部材 5513 の連結部が凸片 5522 の変位に支障がない姿勢に変化する。これにより、凸片 5522 によるストッパーの機能が解除され、左後可動ユニット 5520A は、左前可動ユニット 5510A の出現位置よりもさらに左側へと揺動し、左前可動ユニット 5510A の背後から現れるように移動する。右後可動ユニット 55

10

20

30

40

50

20 Bも、左後可動ユニット5520 Aと同様の構成からなる。出現位置から待機位置へと戻る際は、上記した動作とは逆の手順で左前可動ユニット5510 A及び右前可動ユニット5510 B、並びに左後可動ユニット5520 A及び右後可動ユニット5520 Bが揺動する。

【0449】

モータ5531は、主として左前可動ユニット5510 Aを揺動させる駆動力を発生するものであり、正逆両方向に回転制御される。駆動ギヤ5532は、モータ5351の駆動軸に回転可能に固定されている。従動ギヤ5533は、駆動ギヤ5532に噛み合わされ、駆動ギヤ5532の回転に伴って回転する。従動カム5534は、従動ギヤ5533と一緒にになって回転し、カム溝5511に沿って移動する。

10

【0450】

このような第3演出ユニット5000'によれば、左前可動ユニット5510 A及び右前可動ユニット5510 Bと左後可動ユニット5520 A及び右後可動ユニット5520 Bとの差動動作を簡単な仕組みによって実現することができ、斬新な演出を行うことができる。

【0451】

[遊技盤のステージ]

次に、遊技盤1のステージ41について、図237及び図238を参照して説明する。図237及び図238は、ステージ41の構造を示している。

【0452】

第1始動口42の上方となるステージ41の中央部41Aには、周辺面よりも若干高く隆起した頂面41Aaが形成されており、さらにこの頂面41Aaから窪むように窪み部41Abが形成されている。窪み部41Abには、後方から前方へと延伸し、前端が凹状の開口をなすように凹溝41Acが形成されている。また、中央部41Aの左右両側におけるステージ41の前端部には、ステージ41上を転動する遊技球に当接可能で、ステージ41からの遊技球の落下を防ぐための壁部41Bが形成されている。

20

【0453】

窪み部41Abの上縁外径Wは、遊技球の直径よりも大きい寸法に形成されている。これにより、窪み部41Abには、ステージ41上を転動する遊技球が進入しやすい。また、凹溝41Acは、その幅寸法wが遊技球の直径よりも小さく、深さが遊技球の半径よりも小さくなるように形成されている。さらに、凹溝41Acは、後方から前方へと進むほど低位となるように前後方向にスロープ状に形成されている。これにより、窪み部41Abに進入してきた遊技球は、凹溝41Acの左右両側の上縁に当接しながら凹溝41Acに沿って前方へと転がり、中央部41Aの前端から下方へと落下しやすくなる。

30

【0454】

このようなステージ41によれば、ステージ41上へと導かれてきた遊技球が中央部41Aから凹溝41Acに沿ってまっすぐ落下しやすくなり、ひいては第1始動口42に対して遊技球が入賞し易くなるので、ステージ41上における遊技球の動きに注目度や関心を高め、遊技の興奮を高めることができる。

【0455】

[大入賞口ユニット]

次に、大入賞口ユニット450について、図239～図241を参照して説明する。図239は、大入賞口ユニット450の全体を示し、図240及び図241は、大入賞口ユニット450に含まれるシャッタ部材452を示している。

40

【0456】

図183に示すように、大入賞口ユニット450は、遊技盤1の第1大入賞口45を開閉するためのものであり、第1大入賞口45の背後において遊技盤1の背面に取り付けられる。図239に示すように、大入賞口ユニット450は、ユニット本体451及びシャッタ部材452を有して構成される。

【0457】

50

図239に示すように、ユニット本体451は、前面開口を開閉可能なシャッタ部材452を有し、シャッタ部材452を第1大入賞口45の後方から前方へと臨ませるように第1大入賞口45の背後に取り付けられる。ユニット本体451には、特に図示しないが、シャッタ部材452を開閉動作させるためのソレノイドや前面開口から内部へと進入した遊技球を検知するためのセンサが設けられる。ユニット本体451の内部に進入した遊技球は、図示しない球通路を通って回収される。なお、本実施形態の第1大入賞口45に対しては、基本的に右側から遊技球が転動してくる。

【0458】

シャッタ部材452は、ユニット本体451の前面開口に対して前後方向に回転することで第1大入賞口45を開閉するものであり、ユニット本体451の前面下部に回転可能に軸支されている。シャッタ部材452は、図示しないソレノイドによって開閉動作する。シャッタ部材452は、開状態の場合、ユニット本体451の前面開口から内部に複数の遊技球を案内可能であり、閉状態の場合、ユニット本体451の前面開口を閉じた状態で内部に遊技球を案内不可となる。

10

【0459】

図240及び図241に示すように、シャッタ部材452は、左右方向に沿って長手状の面をなす前面部452Aを有する。前面部452Aは、開状態の場合、遊技球が進入してくる右側において遊技球をユニット本体451の内部へと案内する右案内部452Aaと、右案内部452Aより左側において右案内部452Aaを通ってきた遊技球をユニット本体451の内部へと案内する左案内部452Abとを有する。右案内部452Aaは、全体の厚みが左案内部452Abの全体の厚みよりも薄くなるように形成されており、右端にいくほど薄くなるように形成されている。これにより、遊技球が進入してくるユニット本体451の前面開口の右半分領域と右案内部452Aaとの隙間が、その前面開口の左半分領域と左案内部452Abとの隙間よりも大きくなる。また、前面部452Aには、閉状態の場合、前面部452Aの外面に沿って転動する遊技球に当接可能な複数の凸部452Acが形成されている。シャッタ部材452が閉状態の場合、前面部452Aの凸部452Acに転動する遊技球が接触することにより、遊技球の転動速度が抑えられる。

20

【0460】

このようなシャッタ部材452を備えた大入賞口ユニット450によれば、シャッタ部材452が開状態から閉状態へと変動する直前に、その右側から進入してくる遊技球があつても、ユニット本体451の前面開口の右半分領域と右案内部452Aaとの隙間が左側よりも大きいので、そのような隙間に遊技球を球噛みさせることなくユニット本体451の内部へとスムーズに遊技球を導くことができる。

30

【0461】

[可動体の動作態様]

次に、第1演出ユニット4000の左側の可動体4620Aの動作態様について、図185～図193を参照して説明する。なお、右側の可動体4620Bの動作態様は、左側の可動体4620Aの動作態様と左右対称になるので、可動体4620Bの動作態様の説明については省略する。

40

【0462】

図185～図187に示すように、可動体4620Aが待機位置にある場合、上可動部4640、中可動部4650、及び下可動部4660は、各々に対応する支点X、Y、Zで揺動可能に支持された状態にある。図186に示すように、正面から見た場合、上可動部4640は、支点Xを中心として反時計方向の限度まで回り切った姿勢にあり、中可動部4650は、支点Yを中心として時計方向の限度まで回り切った姿勢にあり、下可動部4660は、支点Zを中心として反時計方向の限度まで回り切った姿勢にある。なお、下可動部4660は、背部の外縁部分に突出部4530Aが当接することで支点Z周りに回転した姿勢を保っている。

【0463】

次に、図188～図190に示すように、可動体4620Aが待機位置から中間位置ま

50

で移動した場合、連接部材 4670 が待機位置と同程度の高さ位置にあって上下方向にほとんど変位していないため、上可動部 4640 及び中可動部 4650 は、各々に対応する支点 X, Y を中心として待機位置と概ね同じ姿勢を保っている。一方、下可動部 4660 は、突出部 4530A に当接する状態が解除され、案内ピン 4660A が第3案内溝 4630D の上側部分から屈曲部分まで移動することにより、支点 Z 周りに揺動した姿勢に変化する。具体的には、図 189 に示すように、正面から見た場合、下可動部 4660 は、第3案内溝 4630D の上側部分に沿うように支点 Z を中心として時計方向に回転した姿勢となる。このとき、支点 Z (揺動部材 4680 の他端部) は、揺動部材 4680 が待機位置と同程度の姿勢に保たれているため、上下方向にほとんど高さ位置が変化していない。

【0464】

次に、図 191 ~ 図 193 に示すように、可動体 4620A が中間位置から出現位置まで移動した場合、連接部材 4670 が待機位置や中間位置よりも低位となり、それに応じて揺動部材 4680 が支点 Y 周りに揺動した姿勢になることから、上可動部 4640 及び中可動部 4650 は、各々に対応する支点 X, Y を中心として揺動した姿勢に変化する。また、下可動部 4660 は、支点 Z (揺動部材 4680 の他端部) の移動に追従するよう 10 に変動する。具体的には、図 192 に示すように、正面から見た場合、上可動部 4640 は、支点 X を中心として時計方向に回った姿勢に変化し、中可動部 4650 は、支点 Y を中心として反時計方向に回った姿勢に変化する。下可動部 4660 は、支点 Z に追従しつつ支点 Y を中心として反時計方向に回った姿勢に変化する。すなわち、下可動部 4660 は、待機位置から中間位置まで移動する際の回転中心 (支点 Z) 及び回転方向 (正面から見て時計回りの方向) が、中間位置から出現位置まで移動する際の回転中心 (支点 Y) 及び回転方向 (正面から見て反時計回りの方向) に変転するようになっている。

【0465】

なお、可動体 4620A が出現位置から中間位置を経て待機位置へと戻る際には、上述した流れとは逆の流れで上可動部 4640、中可動部 4650、及び下可動部 4660 の姿勢が変化することとなる。また、右側の可動体 4620B も同様の流れで姿勢が変化する。

【0466】

このような可動体 4620A, 4620B を備えた第1演出ユニット 4000 によれば、可動体 4620A, 4620B が待機位置から中間位置まで移動する際の姿勢変化や変化方向と、中間位置から出現位置まで移動する際の姿勢変化や変化方向とが異なるよう切り替えられるので、可動体 4620A, 4620B の多彩な動きを実現することができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。 20

【0467】

[可動体の発光態様]

次に、可動体 4620A の発光態様について、図 207 及び図 208 を参照して説明する。

【0468】

まず、図 207 に示すように、可動体 4620A が待機位置にある場合、赤色レンズ 4643 は、2 個の赤色 LED 4647b とその間に位置する 1 個の白色 LED 4647c とに対応するように位置する。また、白色レンズ 4644 は、1 個の赤色 LED 4647b のみに対応するように位置する。これにより、2 個の赤色 LED 4647b から発せられた赤色光と 1 個の白色 LED 4647c から発せられた白色光とが混合しつつ赤色レンズ 4643 を透過するとともに、1 個の赤色 LED 4647b から発せられた赤色光が白色レンズ 4644 を透過する。その結果、図示しない外側の前面レンズ 4642 を通して比較的低い明度や光量をもって赤色と白色とが混じった不鮮明なピンク色の発光態様が視認される。可動体 4620A が中間位置にある場合も、待機位置と同様に上可動部 4640 の姿勢に変化がないため、上述したものと同様の発光態様が視認される。 40

【0469】

一方、図 208 に示すように、可動体 4620A が出現位置まで移動した場合、赤色レ

10

20

30

40

50

ンズ4643は、4個全ての赤色LED4647bに対応するように位置する。また、白色レンズ4644は、1個の白色LED4647cのみに対応するように位置する。これにより、4個の赤色LED4647bから発せられた赤色光が同色の赤色レンズ4643を透過するとともに、1個の白色LED4647cから発せられた白色光も同色の白色レンズ4644を透過する。その結果、図示しない外側の前面レンズ4642を通して比較的高い明度や光量をもって赤色の中に白色がはっきりと鮮明に光って見えるような発光態様が視認される。

【0470】

このような可動体4620Aの発光態様によれば、可動体4620Aの移動位置に応じて赤色レンズ4643及び白色レンズ4644に各々対応するLEDの色や個数を変化させ、前面レンズ4642を通して視認し得る発光態様を点灯制御することなく変化させることができるので、簡単な移動の仕組みだけで役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。なお、本実施形態では、複数のLED又は複数のレンズともに互いに異なる色で構成しているが、LEDとレンズのうちいずれか一方を同色で構成してもよい。例えば、2個のLEDをともに白色で、2個のレンズを赤色と白色で構成したり、2個のLEDを赤色と白色で、2個のレンズをともに赤色で構成してもよい。

10

【0471】

[駆動伝達機構の動作]

次に、駆動伝達機構4610Aの動作について、図197～図205を参照して説明する。なお、図197～図205は、可動体4620Aと一緒にラック部材4614が待機位置にある状態を示している。

20

【0472】

まず、図197～図199に示すように、ラック部材4614が待機位置にあり、回転体4613の押出片4613bの突出部4613baがラック部材4614の凹部4614baに進入する直前の姿勢にあり、ロック片4613cの湾曲部4613caがラック部材4614の窪み部4614caに対してちょうど添う姿勢にある場合について考察する。この場合、ピニオン4613aがラック4614aと噛み合った状態にないものの、湾曲部4613caが窪み部4614caに添って接した状態にあるため、可動体4620Aと共にラック部材4614を左右方向に揺らすような外力などが生じても、ラック部材4614が左右方向に動くことはない。

30

【0473】

次に、図200～図202に示すように、ラック部材4614が待機位置にある状態において、このラック部材4614を右方向に移動させるように回転体4613が回転し始めた回転開始直後の場合について考察する。この場合、ラック部材4614が依然として待機位置に留まる一方、回転体4613の押出片4613bの突出部4613baがラック部材4614の凹部4614baに進入した姿勢となり、ロック片4613cの湾曲部4613caがラック部材4614の窪み部4614caから脱出する姿勢となる。また、この段階においても、ピニオン4613aがラック4614aと噛み合った状態なく、湾曲部4613caの一部が窪み部4614caに添って接した状態にあるため、ラック部材4614が左右方向に動くことはない。

40

【0474】

さらに進んで、図203～図205に示すように、回転体4613が回転し始めてから概ね45度程度まで回転した場合について考察する。押出片4613bの突出部4613baが凹部4614baの右側壁に当接して押し出す状態となり、ロック片4613cの湾曲部4613caがラック部材4614の窪み部4614caから完全に離脱した姿勢となる。これにより、ピニオン4613aがラック4614aと噛み合った状態となり、ラック部材4614が右方向に移動し、待機位置から少し移動した待機位置直前の位置となる。なお、可動体4620Aと共にラック部材4614が待機位置へと戻るように左方向に移動する際には、上述した流れとは逆の流れで駆動伝達機構4610Aが動作することとなる。

50

【0475】

このような駆動伝達機構 4610A を備えた第1演出ユニット 4000 は、その前面に導光板ユニット 700' が設けられ、導光板ユニット 700' を容易に取り外すことができないので、遊技機の移送に際してがたつき防止用に可動部品の周囲に緩衝材を詰め込んだり、駆動伝達機構 4610A に対して直接がたつき防止用のピン等を差し込んだりすることができない。一方、本実施形態の駆動伝達機構 4610A によれば、可動体 4620A と共にラック部材 4614 を待機位置に移動させておくだけで、ラック部材 4614 を左右方向にがたつかせることなく定位置に留めておくことができるので、遊技機の移送中にあっては、第1演出ユニット 4000 に含まれる可動部品を外力等による衝撃で想定外の位置へと移動させることなく、可動部品やその周辺部材の破損を確実に防ぐことができる。

10

【0476】**[導光板ユニットの発光動作]**

次に、導光板ユニット 700' の発光動作について、図 220 及び図 222 を参照して説明する。

【0477】

図 220 に示す導光板ユニット 700' の場合、中央の LED751 を点灯させると、中央の発光領域 741 が LED751 からの光を受けて最も強く発光する一方、左右の発光領域 742, 743 が LED751 からの光を受けるものの入射角度が斜めになっているため、中央の発光領域 741 よりも弱く発光する。

20

【0478】

また、図 220 に示す導光板ユニット 700' の場合、例えば左側の LED752 を点灯させると、左の発光領域 742 が LED752 からの光を効率よく受けて最も強く発光する。左側の LED752 は、傾斜レンズ 760 によって光の指向性が強められているので、中央の発光領域 741 には左側の LED752 からの光がほとんど入射せず、中央の発光領域 741 がほとんど発光しない。右側の LED753 を点灯させた場合も同様に、右の発光領域 743 が最も強く発光する一方、中央の発光領域 741 がほとんど発光しないこととなる。

【0479】

図 222 に示す導光板ユニット 700' の変形例の場合、中央の LED751 を点灯させると、下側の発光領域 741 が LED751 からの光を受けて強く発光する一方、左右上側左右の発光領域 742, 743 が LED751 からの光を受けるものの入射角度が斜めになっているため、若干弱く発光する。

30

【0480】

また、図 222 に示す導光板ユニット 700' の変形例の場合、例えば左側の LED752 を点灯させると、上側左の発光領域 742 が LED752 からの光を効率よく受けて最も強く発光する。左側の LED752 からの光は、下側左の発光領域 741 にも入射するが、下側左の発光領域 741 に対する入射角度が斜めになっており、また、上側左の発光領域 742 よりも遠い位置にあるため、下側左の発光領域 741 は、上側左の発光領域 742 よりも弱く発光するか、あるいはほとんど発光しない状態となる。右側の LED753 を点灯させた場合も同様に、上側右の発光領域 743 が最も強く発光する一方、下側左の発光領域 741 が弱く発光するか、あるいはほとんど発光しない状態となる。なお、本実施形態では、それぞれの LED から近い発光領域が一番強く発光するように表面加工を施しているが、LED から近い場所に弱く発光する発光領域を設けてもよい。また、LED の発光タイミングを、例えば左側から右側に順番に点灯、消灯を繰り返すことにより、発光領域が左側から右側に流れるような発光演出を行うことも可能である。また、本実施形態では、透明パネル 740 の上端部 740A を直線的に形成しているが、例えば透明パネル 740 の左端部のように、一定の角度をつけて形成したり、曲線にて形成してもよい。

40

【0481】

このような導光板ユニット 700' によれば、透明パネル 740 の一端部となる上端部 740A に複数の LED751, 752, 753 や傾斜レンズ 760, 770 を配置し、中

50

央のLED751から照射した光によって一部の発光領域741を発光させる態様と、左右のLED752, 753から照射した光によって他の発光領域742, 743を発光させる態様とで発光態様を変化させることができるので、LEDの配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

【0482】

上述した第1～第5実施形態の各構成にあっては、それぞれ他の実施形態において本発明の範囲内で適宜援用したり変更したりして、任意の構成での組合せが可能である。

【0483】

なお、本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。上記実施形態では、遊技機としてパチンコ遊技機を例に挙げ説明したが、本発明はこれに限定されない。上述した本発明の各種技術は、他の遊技機にも適用可能であり、例えば、弾球遊技機や封入式遊技機にも適用することができる。また、汎用的な技術については、上記に挙げた遊技機のほか、例えばゲーミングマシン、スロットマシン、あるいはパチスロ遊技機等といった各種遊技機にも適用することができる。

10

【0484】

また、上記実施形態で示した数値や情報、構成要素などは、あくまでも一例にすぎず、本発明の範囲内において適宜変更することができるるのはいうまでもない。

【0485】

以上の実施形態に基づき、本発明の概要を以下に列挙する。

【0486】

20

(付記1)

[背景技術]

この種の遊技機には、可動体を動作させるための駆動手段として、ラック及び回転体を備え、この回転体に設けられたピンを作動アームの連結部に当接させることで回転体の動きを阻止し、ひいては可動体の動作をロックさせるように構成されたものが提案されている（例えば、特開2001-340557号公報参照）。

【0487】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動体のロック時にあって作動アームの連結部にピンが当接した状態にあっては、外力などによって無理にロックが解除させられると、作動アームやこれを駆動するソレノイドの軸部が曲がってしまう可能性があり、可動体の動作に支障をきたすおそれがあった。

30

【0488】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、可動体のロック状態を無理に解除しようとしても、可動体を動作させる機構に支障をきたすことがないようにすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0489】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のようないくつかの遊技機を提供する。

40

【0490】

本発明に係る遊技機は、

可動体(例えば、可動体4620A)と、前記可動体を駆動するための駆動手段(モータ4611)と、前記駆動手段の駆動力を前記可動体に伝達する伝達機構(例えば、駆動伝達機構4610A)と、を備え、

前記可動体は、第1の位置(例えば、待機位置)から第2の位置(例えば、出現位置)へと移動可能であり、

前記伝達機構は、前記駆動手段の駆動力により回転可能な歯車(例えば、ピニオン4613a)を有する回転体(例えば、回転体4613)と、前記歯車と噛合可能なラック(例えば、ラック4614a)を有するラック部材(例えば、ラック部材4614)と、を

50

有し、

前記可動体は、前記ラック部材が一体的に設けられ、前記歯車と前記ラックとが噛合した状態において、前記第1の位置から前記第2の位置に至るまでの移動経路上にある第3の位置（例えば、待機位置直前の位置）から前記第2の位置へと移動可能であり、

前記ラック部材は、前記ラックの一端側に凹部（例えば、凹部4614ba）及び窪み部（例えば、窪み部4614ca）を有し、

前記回転体は、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記凹部に入り込むことで前記可動体を前記第3の位置から前記第1の位置へと押し出し可能な押出片（例えば、押出片4613b）と、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記窪み部に摺接することで前記可動体を前記第1の位置に留止可能なロック片（例えば、ロック片4613c）と、を有し、

前記可動体が前記第1の位置にあるとき、前記歯車と前記ラックとが噛合しない状態で前記回転体が回転するのに応じて、前記ロック片が前記窪み部に対して摺接する留止状態と、前記ロック片が前記窪み部に対して摺接しない非留止状態とに切替可能であることを特徴とする。

【0491】

このような構成によれば、ラック部材の窪み部に回転体のロック片が摺接した状態で可動体が第1の位置において留止状態にある場合は、その留止状態を無理に解除しようとしても、窪み部に対してロック片が摺接するだけで回転体やラック部材に無理な力が作用しないので、可動体を動作させるための回転体やラック部材に支障をきたすことがないようになることができる。

【0492】

[発明の効果]

本発明によれば、可動体のロック状態を無理に解除しようとしても、可動体を動作させる機構に支障をきたすことがないようにすることができる。

【0493】

(付記1-1)

[背景技術]

この種の遊技機には、可動体を動作させるための駆動手段として、ラック及び回転体を備え、この回転体に設けられたピンを作動アームの連結部に当接させることで回転体の動きを阻止し、ひいては可動体の動作をロックさせるように構成されたものが提案されている（例えば、特開2001-340557号公報参照）。

【0494】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動体のロック時にあって作動アームの連結部にピンが当接した状態にあっては、外力などによって無理にロックが解除させられると、作動アームやこれを駆動するソレノイドの軸部が曲がってしまう可能性があり、可動体の動作に支障をきたすおそれがあった。

【0495】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、可動体のロック状態を無理に解除しようとしても、可動体を動作させる機構に支障をきたすことがないようにすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0496】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0497】

本発明に係る遊技機は、

可動体（例えば、可動体4620A）と、前記可動体を駆動するための駆動手段（モータ4611）と、前記駆動手段の駆動力を前記可動体に伝達する伝達機構（例えば、駆動伝

10

20

30

40

50

達機構 4 6 1 0 A) と、を備え、

前記可動体は、第 1 の位置（例えば、待機位置）から第 2 の位置（例えば、出現位置）へと移動可能であり、

前記伝達機構は、前記駆動手段の駆動力により回転可能な歯車（例えば、ピニオン 4 6 1 3 a ）を有する回転体（例えば、回転体 4 6 1 3 ）と、前記歯車と噛合可能なラック（例えば、ラック 4 6 1 4 a ）を有するラック部材（例えば、ラック部材 4 6 1 4 ）と、を有し、

前記可動体は、前記ラック部材が一体的に設けられ、前記歯車と前記ラックとが噛合した状態において、前記第 1 の位置から前記第 2 の位置に至るまでの移動経路上にある第 3 の位置（例えば、待機位置直前の位置）から前記第 2 の位置へと移動可能であり、

前記ラック部材は、前記ラックの一端側に凹部（例えば、凹部 4 6 1 4 b a ）及び窪み部（例えば、窪み部 4 6 1 4 c a ）を有し、

前記回転体は、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記凹部に入り込むことで前記可動体を前記第 3 の位置から前記第 1 の位置へと押し出し可能な押出片（例えば、押出片 4 6 1 3 b ）と、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記窪み部に摺接することで前記可動体を前記第 1 の位置に留止可能なロック片（例えば、ロック片 4 6 1 3 c ）と、を有し、

前記可動体が前記第 1 の位置にあるとき、前記歯車と前記ラックとが噛合しない状態で前記回転体が回転するのに応じて、前記ロック片が前記窪み部に摺接しつつも前記押出片が前記凹部に入り込まない状態から、前記押出片が前記凹部に入り込んで前記ロック片が前記窪み部に摺接しない状態になると、前記可動体が前記第 1 の位置から前記第 3 の位置へと押し出されることを特徴とする。

【 0 4 9 8 】

このような構成によれば、ラック部材の窪み部に回転体のロック片が摺接した状態で可動体が第 1 の位置において留止状態にある場合は、回転体の押出片もラック部材の凹部に入り込まずにラック部材を留止させた状態となり、その留止状態を無理に解除しようとしても、窪み部に対してロック片が摺接するだけで回転体やラック部材に無理な力が作用しないので、可動体を動作させるための回転体やラック部材に支障をきたすことがないようになることができる。

【 0 4 9 9 】

[発明の効果]

本発明によれば、可動体のロック状態を無理に解除しようとしても、可動体を動作させる機構に支障をきたすことがないようにすることができる。

【 0 5 0 0 】

(付記 1 - 2)

[背景技術]

この種の遊技機には、可動体を動作させるための駆動手段として、ラック及び回転体を備え、この回転体に設けられたピンを作動アームの連結部に当接させてることで回転体の動きを阻止し、ひいては可動体の動作をロックさせるように構成されたものが提案されている（例えば、特開 2 0 0 1 - 3 4 0 5 5 7 号公報参照）。

【 0 5 0 1 】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動体のロック時にあって作動アームの連結部にピンが当接した状態にあっては、外力などによって無理にロックが解除させられると、作動アームやこれを駆動するソレノイドの軸部が曲がってしまう可能性があり、可動体の動作に支障をきたすおそれがあった。

【 0 5 0 2 】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、可動体のロック状態を無理に解除しようとしても、可動体を動作させる機構に支障をきたすことがないようにすることができ

10

20

30

40

50

る遊技機を提供することを目的とする。

【0503】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0504】

本発明に係る遊技機は、

可動体(例えば、可動体4620A)と、前記可動体を駆動するための駆動手段(モータ4611)と、前記駆動手段の駆動力を前記可動体に伝達する伝達機構(例えば、駆動伝達機構4610A)と、を備え、

前記可動体は、第1の位置(例えば、待機位置)から第2の位置(例えば、出現位置)へと移動可能であり、

前記伝達機構は、前記駆動手段の駆動力により回転可能な歯車(例えば、ピニオン4613a)を有する回転体(例えば、回転体4613)と、前記歯車と噛合可能なラック(例えば、ラック4614a)を有するラック部材(例えば、ラック部材4614)と、を有し、

前記可動体は、前記ラック部材が一体的に設けられ、前記歯車と前記ラックとが噛合した状態において、前記第1の位置から前記第2の位置に至るまでの移動経路上にある第3の位置(例えば、待機位置直前の位置)から前記第2の位置へと移動可能であり、

前記ラック部材は、前記ラックの一端側に凹部(例えば、凹部4614b a)及び窪み部(例えば、窪み部4614c a)を有し、

前記回転体は、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記凹部に入り込むことで前記可動体を前記第3の位置から前記第1の位置へと押し出し可能な押出片(例えば、押出片4613b)と、前記歯車とともに回転しつつ前記ラック部材の前記窪み部に摺接することで前記可動体を前記第1の位置に留止可能なロック片(例えば、ロック片4613c)と、を有し、

前記可動体が前記第1の位置にあるとき、前記歯車と前記ラックとが噛合しない状態で前記回転体が回転し、前記ロック片が前記窪み部に摺接しつつも前記押出片が前記凹部に入り込まない回転角度から、前記押出片が前記凹部に入り込んで前記ロック片が前記窪み部に摺接しない回転角度に回転可能であることを特徴とする。

【0505】

このような構成によれば、ラック部材の窪み部に回転体のロック片が摺接した状態で可動体が第1の位置において留止状態にある場合は、回転体の押出片もラック部材の凹部に入り込まない回転角度を保ってラック部材を留止させた状態となり、その留止状態を無理に解除しようとしても、窪み部に対してロック片が摺接するだけで回転体やラック部材に無理な力が作用しないので、可動体を動作させるための回転体やラック部材に支障をきたすことがないようにすることができます。

【0506】

[発明の効果]

本発明によれば、可動体のロック状態を無理に解除しようとしても、可動体を動作させる機構に支障をきたすことがないようにすることができます。

【0507】

(付記2)

[背景技術]

この種の遊技機には、駆動源によって所定方向に移動可能なスライドバーに支持された前面可動演出役物と、前面可動演出役物の移動に連動して所定角度回転可能な複数の可動演出役物を備えたものが提案されている(例えば、特開2015-47429号公報参照)。

【0508】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

10

20

30

40

50

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動演出役物の移動に連動して複数の可動演出役物が一方に向に回転するのみであり、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けるという難点があった。

【0509】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0510】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0511】

10

本発明に係る遊技機は、

可動体（例えば、4620A）と、前記可動体を駆動するための駆動手段（例えば、モータ4611）と、を備え、

前記可動体は、

前記駆動手段の駆動力により所定の移動方向（例えば、左右方向）に沿って第1の位置（例えば、待機位置）から第2の位置（例えば、中間位置）を経て第3の位置（例えば、出現位置）へと移動可能であり、

前記所定の移動方向に沿う移動に連動して動作する複数の動作部（例えば、上可動部4640、中可動部4650、下可動部4660）を有し、

前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部（例えば、下可動部4660）は、

前記可動体の前記第1の位置から前記第2の位置までの移動に連動し、前記所定の移動方向とは異なる第1の方向（例えば、支点Zを中心とした時計回りの方向）に動作するための第1の動作機構（例えば、第3案内溝4630D）と、

前記可動体の前記第2の位置から前記第3の位置までの移動に連動し、前記所定の移動方向及び前記第1の方向とは異なる第2の方向（例えば、支点Yを中心とした反時計回りの方向）に動作するための第2の動作機構（例えば、揺動部材4680）と、に連結されていることを特徴とする。

【0512】

このような構成によれば、動作部について、可動体が第1の位置から第2の位置まで移動するまでは第1の方向に動作する一方、可動体が第2の位置から第3の位置まで移動するまでは第1の方向から切り替わって第2の方向に動作するので、動作部の多彩な動きを実現することができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

30

【0513】

本発明の好ましい実施の形態は、

前記第1の動作機構は、前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部と前記可動体とは別に設けられた突出部（例えば、突出部4530A）とが当接した状態で、前記可動体が前記第1の位置から前記第2の位置まで移動することにより、前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部が前記第1の方向に動作することを特徴とする。

【0514】

このような構成によれば、可動体が第1の位置から第2の位置まで移動する際に一の動作部を突出部に当接させるだけで第1の方向に動作させることができる。

40

【0515】

[発明の効果]

本発明によれば、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

【0516】

(付記2-1)

[背景技術]

この種の遊技機には、駆動源によって所定方向に移動可能なスライドバーに支持された前面可動演出役物と、前面可動演出役物の移動に連動して所定角度回転可能な複数の可動演出役物を備えたものが提案されている（例えば、特開2015-47429号公報参照）

50

)。

【0517】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動演出役物の移動に連動して複数の可動演出役物が一方向に回転するのみであり、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けるという難点があった。

【0518】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

10

【0519】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0520】

本発明に係る遊技機は、

可動体（例えば、4620A）と、前記可動体を駆動するための駆動手段（例えば、モータ4611）と、を備え、

前記可動体は、

前記駆動手段の駆動力により所定の移動方向（例えば、左右方向）に沿って第1の位置（例えば、待機位置）から第2の位置（例えば、中間位置）を経て第3の位置（例えば、出現位置）へと直線的に移動可能であり、

20

前記所定の移動方向に沿う移動に連動して動作する複数の動作部（例えば、上可動部4640、中可動部4650、下可動部4660）を有し、

前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部（例えば、下可動部4660）は、

前記可動体の前記第1の位置から前記第2の位置までの移動に伴って第1の支点（例えば、支点Z）を中心で回転し、

前記可動体の前記第2の位置から前記第3の位置までの移動に伴って前記第1の支点とは異なる第2の支点（例えば、支点Y）を中心で回転するように軸支されていることを特徴とする。

【0521】

30

このような構成によれば、動作部について、可動体が第1の位置から第2の位置まで直線的に移動するまでは第1の支点を中心で回転する一方、可動体が第2の位置から第3の位置まで直線的に移動するまでは第1の支点から切り替わって第2の支点を中心で回転するので、動作部の多彩な動きを実現することができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

【0522】

本発明の好ましい実施の形態は、

前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部は、前記可動体とは別に設けられた突出部（例えば、突出部4530A）に当接した状態で、前記可動体が前記第1の位置から前記第2の位置まで移動することにより、前記第1の支点を中心で回転することを特徴とする。

40

【0523】

このような構成によれば、可動体が第1の位置から第2の位置まで移動する際に一の動作部を突出部に当接させるだけで第1の支点を中心で回転させることができる。

【0524】

[発明の効果]

本発明によれば、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

【0525】

(付記2-2)

[背景技術]

50

この種の遊技機には、駆動源によって所定方向に移動可能なスライドバーに支持された前面可動演出役物と、前面可動演出役物の移動に連動して所定角度回転可能な複数の可動演出役物を備えたものが提案されている（例えば、特開2015-47429号公報参照）。

【0526】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動演出役物の移動に連動して複数の可動演出役物が一方向に回転するのみであり、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けるという難点があった。

10

【0527】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0528】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0529】

本発明に係る遊技機は、

可動体（例えば、4620A）と、前記可動体を駆動するための駆動手段（例えば、モータ4611）と、を備え、

20

前記可動体は、

前記駆動手段の駆動力により所定の移動方向（例えば、左右方向）に沿って第1の位置（例えば、出現位置）から第2の位置（例えば、中間位置）を経て第3の位置（例えば、待機位置）へと直線的に移動可能であり、

前記所定の移動方向に沿う移動に連動して動作する複数の動作部（例えば、上可動部4640、中可動部4650、下可動部4660）と、

前記所定の移動方向に沿う移動に連動して揺動する揺動部材（例えば、揺動部材4680）と、を有し、

前記揺動部材は、前記可動体の前記第1の位置から前記第2の位置までの移動に従って第1の支点（例えば、支点Y）を中心に揺動するように軸支されており、

30

前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部（例えば、下可動部4660）は、

前記可動体が前記第1の位置から前記第2の位置まで移動する際に前記揺動部材と一体になって前記第1の支点を中心に揺動し、

前記可動体が前記第2の位置から前記第3の位置まで移動する際に前記第1の支点とは異なる第2の支点（例えば、支点Z）を中心に揺動するように前記揺動部材に軸支されていることを特徴とする。

【0530】

このような構成によれば、動作部について、可動体が第1の位置から第2の位置まで直線的に移動するまでは揺動部材と一緒に第1の支点を中心に揺動する一方、可動体が第2の位置から第3の位置まで直線的に移動するまでは第1の支点から切り替わって揺動部材に軸支された第2の支点を中心に揺動するので、動作部の多彩な動きを実現することができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

40

【0531】

本発明の好ましい実施の形態は、

前記複数の動作部のうち少なくとも一の動作部は、前記可動体とは別に設けられた突出部（例えば、突出部4530A）に当接した状態で、前記可動体が前記第2の位置から前記第3の位置まで移動することにより、前記第2の支点を中心に揺動することを特徴とする。

【0532】

このような構成によれば、可動体が第2の位置から第3の位置まで移動する際に一の動

50

作部を突出部に当接させるだけで第2の支点を中心に揺動させることができる。

【0533】

[発明の効果]

本発明によれば、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

【0534】

(付記3)

[背景技術]

この種の遊技機には、可動演出役物の内部に発光基板を備え、可動演出役物の前面として装飾カバーで発光基板を覆うように構成されたものが提案されている（例えば、特開2010-259550号公報参照）。

10

【0535】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動演出役物が変動するものの、装飾カバーを通じて視認し得る発光態様に変化がないので、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けるという難点があった。

【0536】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0537】

20

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0538】

本発明に係る遊技機は、

基板（例えば、発光基板4647）上に設けられた発光手段（例えば、LED4647a、赤色LED4647b、白色LED4647c）と、前記発光手段から照射された光が透過可能なレンズ部材（例えば、赤色レンズ4643、白色レンズ4644）と、前記レンズ部材を変位させるための変位手段（例えば、上可動部4640、連接部材4670）と、を備えた遊技機であって、

前記発光手段は、前記基板上の所定の位置に固定され、

30

前記変位手段は、前記レンズ部材について、前記発光手段から照射された光が前記レンズ部材を透過して第1の明度で発光する第1の位置（例えば、待機位置）と、前記発光手段から照射された光が前記レンズ部材を透過して前記第1の明度より明るい第2の明度で発光する第2の位置（例えば、出現位置）と、に変位可能であることを特徴とする。

【0539】

このような構成によれば、レンズ部材を第1の位置に変位させると、レンズ部材を通じて第1の明度で発光するような発光態様となる一方、レンズ部材を第1の位置から第2の位置に変位させると、レンズ部材を通じて第2の明度で発光するような発光態様となるので、レンズ部材の変位に応じて発光態様を変化させることができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

40

【0540】

[発明の効果]

本発明によれば、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

【0541】

(付記3-1)

[背景技術]

この種の遊技機には、可動演出役物の内部に発光基板を備え、可動演出役物の前面として装飾カバーで発光基板を覆うように構成されたものが提案されている（例えば、特開2010-259550号公報参照）。

【0542】

50

[発明の概要]**[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動演出役物が変動するものの、装飾カバーを通じて視認し得る発光態様に変化がないので、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けるという難点があった。

【0543】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0544】**[課題を解決するための手段]**

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

10

【0545】

本発明に係る遊技機は、

基板（例えば、発光基板4647）上に設けられた複数の発光手段（例えば、LED4647a、赤色LED4647b、白色LED4647c）と、前記複数の発光手段から照射された光が透過可能なレンズ部材（例えば、赤色レンズ4643、白色レンズ4644）と、前記レンズ部材を変位させるための変位手段（例えば、上可動部4640、連接部材4670）と、を備えた遊技機であって、

前記複数の発光手段は、第1の発光手段（例えば、白色LED4647c）と、前記第1の発光手段の周囲に配列された第2の発光手段（例えば、赤色LED4647b）と、を含み、

20

前記レンズ部材は、第1のレンズ部材（例えば、白色レンズ4644）と、前記第1のレンズ部材の周囲に配置された第2のレンズ部材（例えば、赤色レンズ4643）と、を含み、

前記第1の発光手段が照射する光の色と前記第2の発光手段が照射する光の色との組み合わせ、及び前記第1のレンズ部材に着色された色と前記第2のレンズ部材に着色された色との組み合わせのうち、少なくともいずれか一方の色の組み合わせが異なるように構成され、

前記変位手段は、前記第1の発光手段から照射された光が前記第2のレンズ部材を透過するとともに前記第2の発光手段から照射された光が前記第1のレンズ部材を透過することで発光する第1の位置（例えば、待機位置）と、前記第1の発光手段から照射された光が前記第1のレンズ部材を透過するとともに前記第2の発光手段から照射された光が前記第2のレンズ部材を透過することで発光する第2の位置（例えば、出現位置）と、に移動可能であることを特徴とする。

30

【0546】

このような構成によれば、第1のレンズ部材及び第2のレンズ部材を第1の位置に変位させると、第1の発光手段からの光が第2のレンズ部材を通じて発光しつつ第2の発光手段からの光が第1のレンズ部材を通じて発光するような発光態様となる一方、第1のレンズ部材及び第2のレンズ部材を第1の位置から第2の位置に変位させると、第1の発光手段からの光が第1のレンズ部材を通じて発光しつつ第2の発光手段からの光が第2のレンズ部材を通じて発光するような発光態様となるので、レンズ部材の変位に応じて発光態様を多様に変化させることができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

40

【0547】**[発明の効果]**

本発明によれば、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。

【0548】**(付記3-2)****[背景技術]**

この種の遊技機には、可動演出役物の内部に発光基板を備え、可動演出役物の前面とし

50

て装飾カバーで発光基板を覆うように構成されたものが提案されている（例えば、特開2010-259550号公報参照）。

【0549】

[発明の概要]

[発明が解決しようとする課題]

しかしながら、上記従来の遊技機では、可動演出役物が変動するものの、装飾カバーを通じて視認し得る発光態様に変化がないので、役物の演出効果として面白味や興趣に欠けるという難点があった。

【0550】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。 10

【0551】

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0552】

本発明に係る遊技機は、

基板（例えば、発光基板4647）上に設けられた複数の発光手段（例えば、LED4647a、赤色LED4647b、白色LED4647c）と、前記複数の発光手段から照射された光が透過可能なレンズ部材（例えば、赤色レンズ4643、白色レンズ4644）と、前記レンズ部材を変位させるための変位手段（例えば、上可動部4640、連接部材4670）と、を備えた遊技機であって、 20

前記複数の発光手段は、

第1の発光手段（例えば、白色LED4647c）と、

前記第1の発光手段の周囲に配列された複数の第2の発光手段（例えば、赤色LED4647b）と、を含み、

前記レンズ部材は、

第1のレンズ部材（例えば、白色レンズ4644）と、

前記第1のレンズ部材の周囲に配置された第2のレンズ部材（例えば、赤色レンズ4643）と、を有し、

前記変位手段は、前記第1の発光手段が前記第2のレンズ部材に対応するとともに前記第2の発光手段が前記第1のレンズ部材に対応する第1の位置（例えば、待機位置）と、前記第1の発光手段が前記第1のレンズ部材に対応するとともに前記第2の発光手段が前記第2のレンズ部材に対応する第2の位置（例えば、出現位置）と、に移動可能であり、 30

前記第1の位置よりも前記第2の位置の方が前記レンズ部材に対応する前記複数の発光手段の個数が多くなることを特徴とする。

【0553】

このような構成によれば、第1のレンズ部材及び第2のレンズ部材を第1の位置に変位させると、第1の発光手段からの光が第2のレンズ部材を通じて発光しつつ第2の発光手段からの光が第1のレンズ部材を通じて発光するような発光態様となる一方、第1のレンズ部材及び第2のレンズ部材を第1の位置から第2の位置に変位させると、第1の発光手段からの光が第1のレンズ部材を通じて発光しつつ第2の発光手段からの光が第2のレンズ部材を通じて発光し、レンズ部材に対応する発光手段の個数も多くなるような発光態様となるので、レンズ部材の変位に応じて発光態様を多様に変化させることができ、役物の演出効果として面白味や興趣を高めることができる。 40

【0554】

[発明の効果]

本発明によれば、多彩な演出効果として面白味や興趣を高めることができる遊技機を提供することができる。

【0555】

(付記4)

10

20

30

40

50

[背景技術]

この種の遊技機に適用可能な配線接続構造としては、フレキシブルケーブルの先端部をコネクタ接続部の開口に挿入し、アクチュエータを開状態から閉状態へと回転させることにより、フレキシブルケーブルの先端部をコネクタ接続部に固定するように構成されたものが提案されている（例えば、特開2002-124330号公報参照）。

【0556】**[発明の概要]****[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の配線接続構造では、遊技機の組立作業に際してアクチュエータを閉状態とすることを忘れたまま気付かないことがあり、そうした場合にフレキシブルケーブルの先端部がコネクタ接続部から抜けた状態で組み立てられてしまうおそれがあった。

10

【0557】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、配線接続部に対して配線を確実に接続した状態で組み立てることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0558】**[課題を解決するための手段]**

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0559】

本発明に係る遊技機は、

20

配線（例えば、FFC）が接続される配線接続部（例えば、接続端子部4543）と、前記配線が前記配線接続部に接続された状態で、前記配線を固定可能な配線固定手段（例えば、開閉蓋4545）と、

前記配線接続部及び前記配線固定手段を覆う保護カバー（例えば、保護カバー4541）と、

前記保護カバーを取付可能なベース部（例えば、ベース部4542）と、を有し、

前記配線固定手段は、前記配線接続部に対して前記配線の挿入が容易となる開放状態と、前記配線接続部に挿入された配線を固定する閉鎖状態と、に動作可能であり、

前記保護カバーは、前記ベース部に取り付けられた状態において、前記配線接続部及び前記配線固定手段を内側に収容可能であり、

30

前記保護カバーの内面には、前記配線固定手段が開放状態の場合、当該配線固定手段に当接可能で前記ベース部への取り付けを妨げるための取付阻止部（例えば、凸部4541b）が設けられていることを特徴とする。

【0560】

このような構成によれば、ベース部に対して保護カバーを取り付ける際には、配線接続部に配線を挿入して配線固定手段を閉鎖状態として固定しておかなければ、取付阻止部が配線固定手段に当接することで保護カバーを取り付けることができないので、配線接続部に対して配線を確実に接続・固定した状態でベース部に保護カバーを取り付けることができる。

【0561】

40

[発明の効果]

本発明によれば、配線接続部に対して配線を確実に接続した状態で組み立てができる。

【0562】

（付記5）

[背景技術]

この種の遊技機には、枠体（機構板）の取付ベース部に断面略L字状の配線カバーを設け、この配線カバーの内側に複数の配線を束ねた状態で収容可能な配線収容部を形成したものが提案されている（例えば、特開2007-282853号公報参照）。

【0563】

50

[発明の概要]**[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の遊技機では、配線収容部が枠体の一面側に形成されるのみであり、反対側の面に配線束を案内することができないので、電子部品が収容された枠体の内側から外側へと配線束を纏めて引き回すことができないという難点があった。

【0564】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、電子部品が収容された内側から外側へと配線束を容易に纏めて引き回すことができる遊技機を提供することを目的とする。

【0565】**[課題を解決するための手段]**

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供することを目的とする。

10

【0566】

本発明に係る遊技機は、

電子部品を収容するための収容部材（例えば、本体ケース441）を備え、前記収容部材は、

第1の壁部（例えば、背面部441A）と、

前記第1の壁部から立設するように形成される第2の壁部（例えば、左側部441B）と、を有し、

前記第1の壁部には、配線束を挿通するための第1の開口領域（例えば、第1の開口領域443A）が形成され、

前記第2の壁部には、前記配線束を挿通するための第2の開口領域（例えば、第2の開口領域443B）が形成され、

前記第2の開口領域は、

前記第1の開口領域より広い挿通部（例えば、挿通部443Ba）と、

前記挿通部に連続し、当該挿通部に挿通された前記配線束を前記第1の開口領域まで導引可能な連通部（例えば、連通部443Bb）と、を有し、

前記第1の開口領域の周囲には、前記配線束を纏めるための配線収容部（例えば、配線収容部443）が形成されていることを特徴とする。

【0567】

このような構成によれば、第2の開口領域の挿通部に配線束の先端を挿入して収容部材の一面側から反対面側へと配線束を案内した後、当該配線束を連通部に押し込んだ状態とし、さらに配線束を第1の開口領域から配線収容部へと纏めて収容しておくことができるので、電子部品が収容された収容部材の内側から外側へと配線束を容易に纏めて引き回すことができる。

30

【0568】**[発明の効果]**

本発明によれば、電子部品が収容された内側から外側へと配線束を容易に纏めて引き回すことができる。

【0569】**(付記5-1)**

40

[背景技術]

この種の遊技機には、枠体（機構板）の取付ベース部に断面略L字状の配線カバーを設け、この配線カバーの内側に複数の配線を束ねた状態で収容可能な配線収容部を形成したものが提案されている（例えば、特開2007-282853号公報参照）。

【0570】**[発明の概要]****[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の遊技機では、配線収容部が枠体の一面側に形成されるのみであり、反対側の面に配線束を案内することができないので、電子部品が収容された枠体の内側から外側へと配線束を纏めて引き回すことができないという難点があった。

50

【 0 5 7 1 】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、電子部品が収容された内側から外側へと配線束を容易に纏めて引き回すことができる遊技機を提供することを目的とする。

【 0 5 7 2 】**[課題を解決するための手段]**

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【 0 5 7 3 】

本発明に係る遊技機は、

電子部品を収容するための収容部材（例えば、本体ケース 4 4 1）を備え、

前記収容部材は、

第1の壁部（例えば、背面部 4 4 1 A）と、

前記第1の壁部から連続して立設する第2の壁部（例えば、第2壁部 4 4 1 B b）と、

前記第2の壁部から連続して屈曲する第3の壁部（例えば、第1壁部 4 4 1 B a）と、
を有し、

前記第1の壁部には、配線束を挿通するための第1の開口領域（例えば、第1の開口領域 4 4 3 A）が形成され、

前記第3の壁部には、前記配線束を挿通するための第2の開口領域（例えば、挿通部 4 4 3 B a）が形成され、

前記第2の壁部には、前記第1の開口領域及び前記第2の開口領域に連続し、当該第2の開口領域に挿通された前記配線束を前記第1の開口領域まで導引可能な連通部（例えば、連通部 4 4 3 B b）が形成され、

前記連通部は、前記第1の開口領域及び前記第2の開口領域よりも狭幅に形成されていることを特徴とする。

【 0 5 7 4 】

このような構成によれば、第2の開口領域の挿通部に配線束の先端を挿入して収容部材の一面側から反対面側へと配線束を案内した後、当該配線束を連通部に押し込んだ状態とし、さらに配線束を連通部から第1の開口領域へと纏めて導引しておくことができるので、電子部品が収容された収容部材の内側から外側へと配線束を容易に纏めて引き回すことができる。

【 0 5 7 5 】**[発明の効果]**

本発明によれば、電子部品が収容された内側から外側へと配線束を容易に纏めて引き回すことができる。

【 0 5 7 6 】**(付記 6)****[背景技術]**

この種の遊技機には、遊技盤の前方に導光板を配置し、この導光板の左端面と上端面とに光を入光可能な複数の発光手段（LED）を設け、左端面から入光した光と上端面から入光した光とで異なる発光態様の画像を表示するように構成されたものが提案されている（例えば、特開 2016 - 59483 号公報参照）。

【 0 5 7 7 】**[発明の概要]****[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の遊技機では、発光手段の配置箇所が導光板の左端面及び上端面といった広範囲に及ぶので、発光手段の配置スペースや個数に応じてコストが増大してしまう難点があった。

【 0 5 7 8 】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

10

20

30

40

50

【 0 5 7 9 】**[課題を解決するための手段]**

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【 0 5 8 0 】

本発明に係る遊技機は、

発光手段（例えば、LED 751，752，753）と、

複数の反射領域（例えば、発光領域 741，742，743）を有する導光板（例えば、透明パネル 740）と、を備え、

前記発光手段は、前記導光板の周縁部（例えば、上端部 740A）から前記導光板の内部に光を入光可能な位置に配置され、

前記周縁部の所定の辺に対して第1の方向（例えば、直角方向）から光を入光させる第1の発光手段（例えば、LED 751）と、

前記周縁部の前記所定の辺に対して前記第1の方向とは異なる第2の方向（例えば、斜め方向）から光を入光させる第2の発光手段（例えば、LED 752，753）と、を含み、

前記複数の反射領域は、前記周縁部から入光された光を遊技者が視認可能な正面側に反射可能に設けられ、

前記第2の発光手段から照射された光よりも前記第1の発光手段から照射された光を強く反射可能な第1の反射領域（例えば、発光領域 741）と、

前記第1の発光手段から照射された光よりも前記第2の発光手段から照射された光を強く反射可能な第2の反射領域（例えば、発光領域 742，743）と、を含むことを特徴とする。

【 0 5 8 1 】

このような構成によれば、導光板の周縁部に複数の発光手段を配置し、第1の発光手段から照射した光によって第1の反射領域を発光させる態様と第2の発光手段から照射した光によって第2の反射領域を発光させる態様とで発光態様を変化させることができるので、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

【 0 5 8 2 】**[発明の効果]**

本発明によれば、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

【 0 5 8 3 】**(付記 6 - 1)****[背景技術]**

この種の遊技機には、遊技盤の前方に導光板を配置し、この導光板の左端面と上端面とに光を入光可能な複数の発光手段（LED）を設け、左端面から入光した光と上端面から入光した光とで異なる発光態様の画像を表示するように構成されたものが提案されている（例えば、特開 2016-59483 号公報参照）。

【 0 5 8 4 】**[発明の概要]****[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の遊技機では、発光手段の配置箇所が導光板の左端面及び上端面といった広範囲に及ぶので、発光手段の配置スペースや個数に応じてコストが増大してしまう難点があった。

【 0 5 8 5 】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【 0 5 8 6 】

10

20

30

40

50

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0587】

本発明に係る遊技機は、

複数の発光手段（例えば、LED751, 752, 753）と、

前記複数の発光手段からの光を正面側に向けて反射可能な複数の反射領域（例えば、発光領域741, 742, 743）を有する導光板（例えば、透明パネル740）と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記導光板の周縁部（例えば、上端部740A）から前記導光板の内部に光を入光可能な位置に配置され、

前記周縁部の所定の辺に対して第1の方向（例えば、直角方向）から光を入光させる第1の発光手段（例えば、LED751）と、

前記周縁部の前記所定の辺に対して前記第1の方向とは異なる第2の方向（例えば、斜め方向）に光を透過可能なレンズ部材（例えば、傾斜レンズ760, 770）と、

前記レンズ部材を通して前記周縁部に対して光を入光させる第2の発光手段（例えば、LED752, 753）と、を含み、

前記複数の反射領域は、

前記第2の発光手段から前記レンズ部材を透過して照射された光よりも前記第1の発光手段から照射された光を強く反射可能な第1の反射領域（例えば、発光領域741）と、

前記第1の発光手段から照射された光よりも前記第2の発光手段から前記レンズ部材を透過して照射された光を強く反射可能な第2の反射領域（例えば、発光領域742, 743）と、を含むことを特徴とする。

【0588】

このような構成によれば、導光板の周縁部に複数の発光手段を配置し、第1の発光手段から照射した光によって第1の反射領域を発光させる態様と第2の発光手段からレンズ部材を透過して照射した光によって第2の反射領域を発光させる態様とで発光態様を変化させることができるので、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

【0589】**[発明の効果]**

本発明によれば、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

【0590】

(付記6-2)

[背景技術]

この種の遊技機には、遊技盤の前方に導光板を配置し、この導光板の左端面と上端面とに光を入光可能な複数の発光手段（LED）を設け、左端面から入光した光と上端面から入光した光とで異なる発光態様の画像を表示するように構成されたものが提案されている（例えば、特開2016-59483号公報参照）。

【0591】**[発明の概要]****[発明が解決しようとする課題]**

しかしながら、上記従来の遊技機では、発光手段の配置箇所が導光板の左端面及び上端面といった広範囲に及ぶので、発光手段の配置スペースや個数に応じてコストが増大してしまう難点があった。

【0592】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【0593】

10

20

30

40

50

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

【0594】

本発明に係る遊技機は、

複数の発光手段（例えば、LED751, 752, 753）と、

前記複数の発光手段からの光を正面側に向けて反射可能な複数の反射領域（例えば、発光領域741, 742, 743）を有する導光板（例えば、透明パネル740）と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記導光板の周縁部（例えば、上端部740A）から前記導光板の内部に光を入光可能な位置に配置され、

前記周縁部の所定の辺に対して第1の方向（例えば、直角方向）から光を入光させる第1の発光手段（例えば、LED751）と、

前記周縁部の前記所定の辺に対して前記第1の方向とは異なる第2の方向（例えば、右斜め下向き）から光を入光させる第2の発光手段（例えば、LED752）と、

前記周縁部の前記所定の辺に対して前記第1の方向及び前記第2の方向とは異なる第3の方向（例えば、左斜め下向き）から光を入光させる第3の発光手段（例えば、LED753）と、を含み、

前記複数の反射領域は、

前記第2の発光手段及び前記第3の発光手段から照射された光よりも前記第1の発光手段から照射された光を強く反射可能な第1の反射領域（例えば、発光領域741）と、

前記第1の発光手段及び前記第3の発光手段から照射された光よりも前記第2の発光手段から照射された光を強く反射可能な第2の反射領域（例えば、発光領域742）と、

前記第1の発光手段及び前記第2の発光手段から照射された光よりも前記第3の発光手段から照射された光を強く反射可能な第3の反射領域（例えば、発光領域743）と、を含むことを特徴とする。

【0595】

このような構成によれば、導光板の周縁部に複数の発光手段を配置し、第1の発光手段から照射した光によって第1の反射領域を発光させる態様と第2の発光手段から照射した光によって第2の反射領域を発光させる態様と第3の発光手段から照射した光によって第3の反射領域を発光させる態様とで発光態様を変化させることができるので、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

【0596】

[発明の効果]

本発明によれば、発光手段の配置スペースや個数を抑えてコストを抑制しつつも多彩な発光演出を行うことができる。

[符号の説明]

【0597】

X, Y, Z 支点

441 本体ケース

441A 背面部

441B 左側部

441Ba 第1壁部

441Bb 第2壁部

443 配線収容部

443A 第1の開口領域

443B 第2の開口領域

443Ba 挿通部

443Bb 連通部

740 透明パネル

740A 上端部

10

20

30

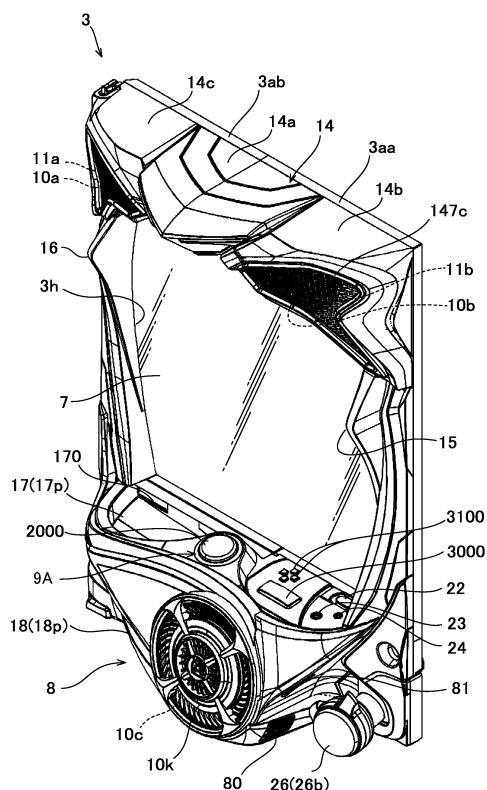
40

50

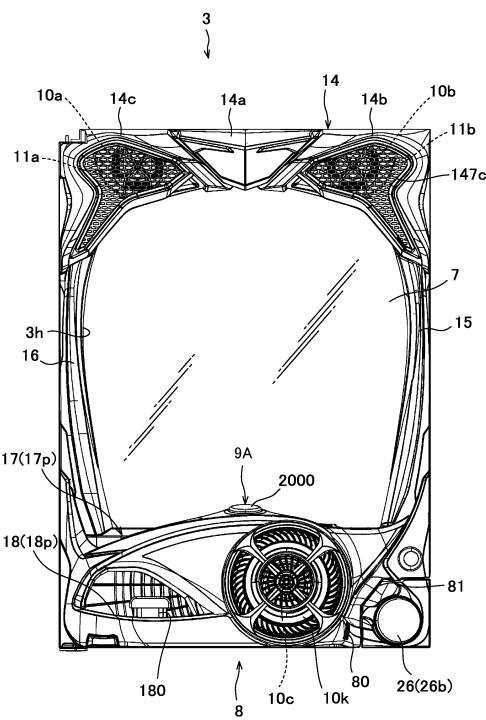
7 4 1 , 7 4 2 , 7 4 3 発光領域	
7 5 1 , 7 5 2 , 7 5 3 L E D	
7 6 0 , 7 7 0 傾斜レンズ	
4 5 4 1 保護カバー	
4 5 4 1 b 凸部	
4 5 4 2 ベース部	
4 5 4 3 接続端子部	
4 5 4 5 開閉蓋	
4 6 1 0 A 駆動伝達機構	
4 6 1 1 モータ	10
4 6 1 3 回転体	
4 6 1 3 a ピニオン	
4 6 1 3 b 押出片	
4 6 1 3 c ロック片	
4 6 1 4 ラック部材	
4 6 1 4 a ラック	
4 6 1 4 b a 凹部	
4 6 1 4 c a 窪み部	
4 6 2 0 A , 4 6 2 0 B 可動体	
4 6 3 0 D 第3案内溝	20
4 6 4 0 上可動部	
4 6 4 3 赤色レンズ	
4 6 4 4 白色レンズ	
4 6 4 7 発光基板	
4 6 4 7 a L E D	
4 6 4 7 b 赤色L E D	
4 6 4 7 c 白色L E D	
4 6 5 0 中可動部	
4 6 6 0 下可動部	
4 6 7 0 連接部材	30
4 6 8 0 握動部材	

【図面】

【図1】



【図2】



10

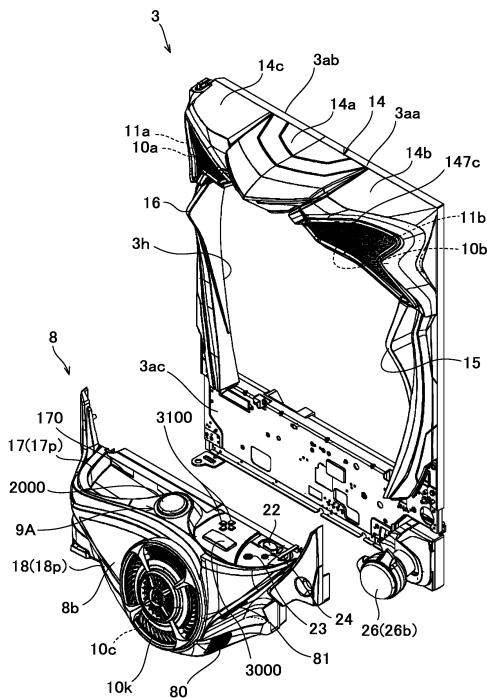
20

30

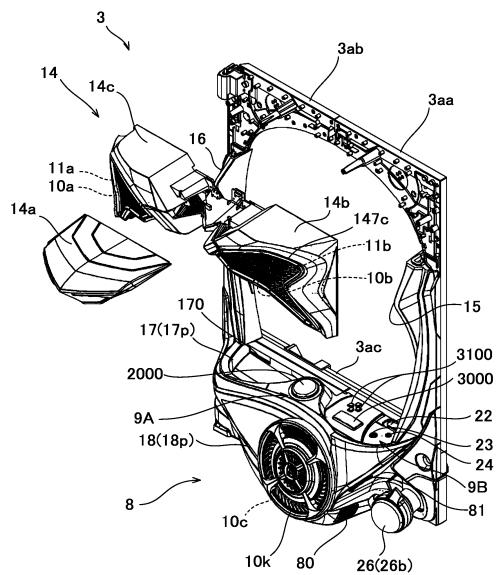
40

50

【図3】



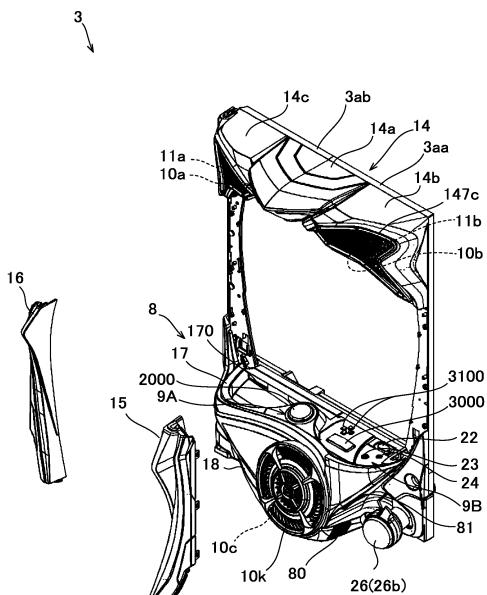
【 四 4 】



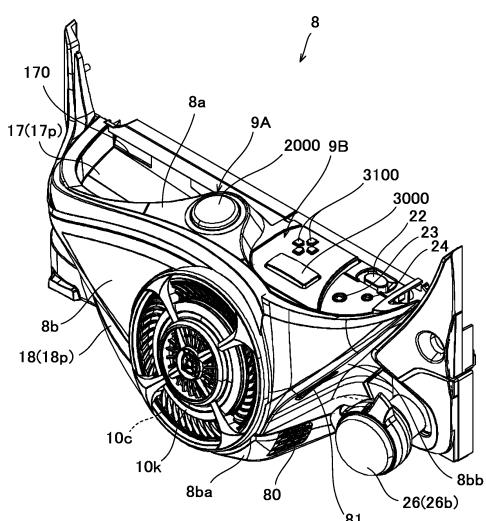
10

20

【 5 】



【 6 】

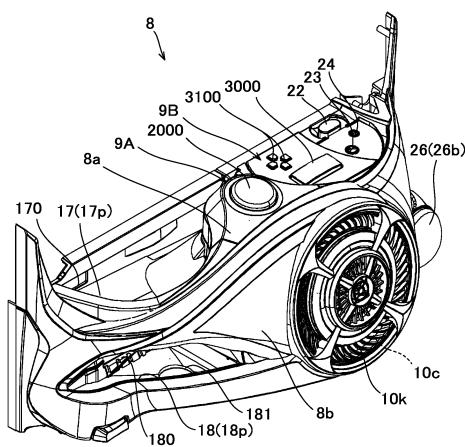


30

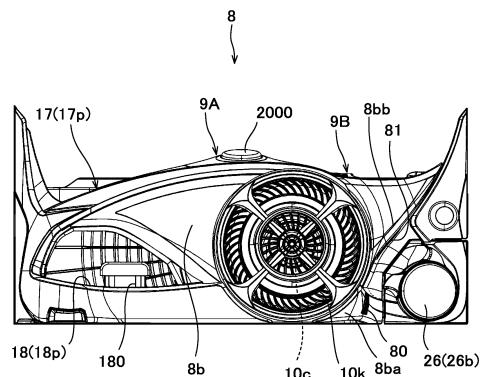
40

50

【図7】



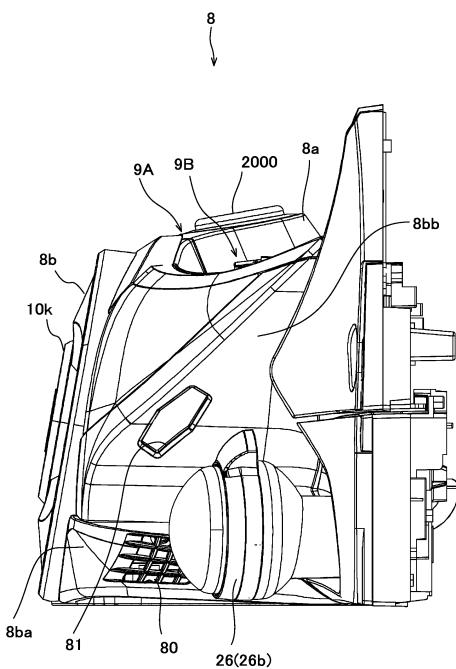
【図8】



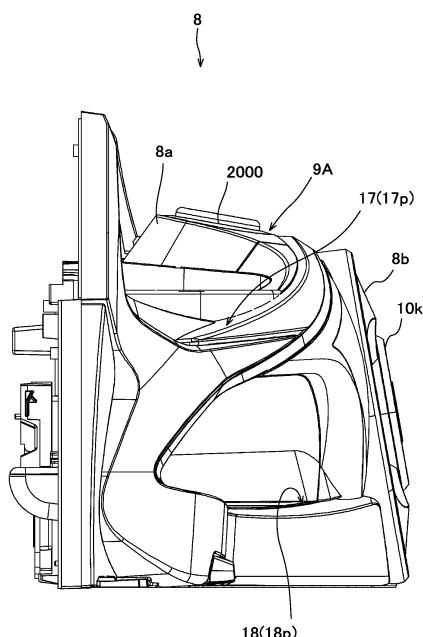
10

20

【図9】



【図10】

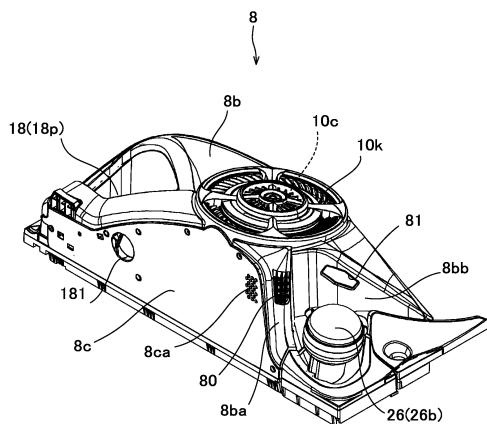


30

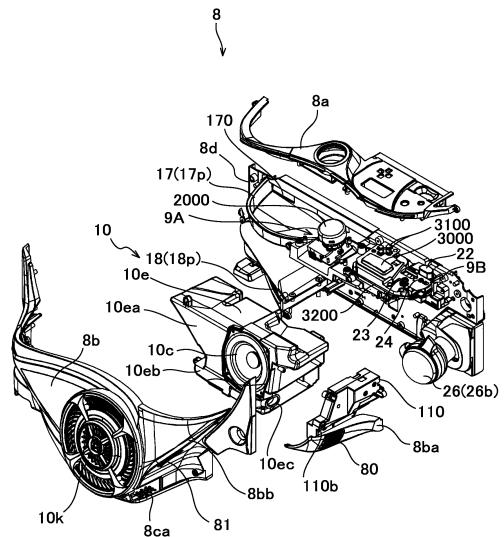
40

50

【図11】



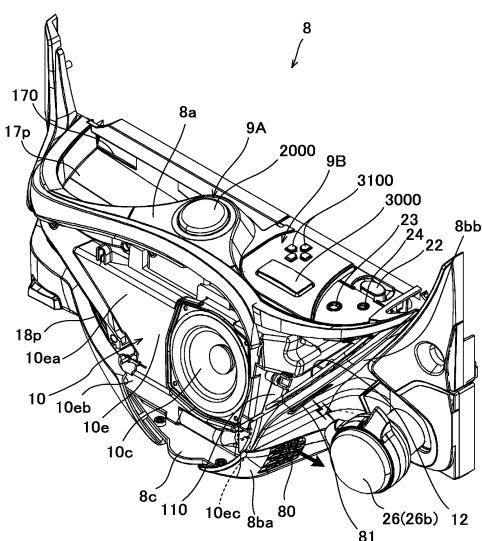
【図12】



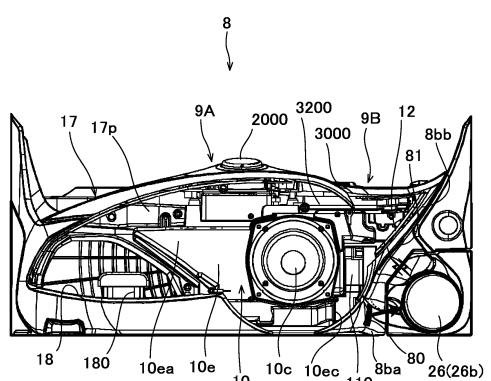
10

20

【図13】



【図14】

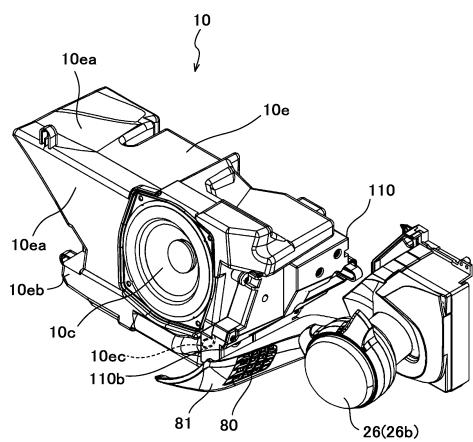


30

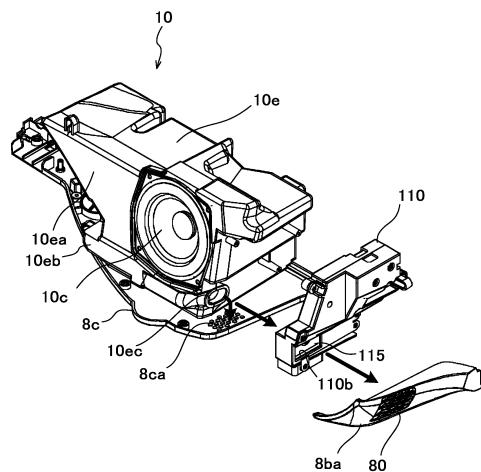
40

50

【図15】



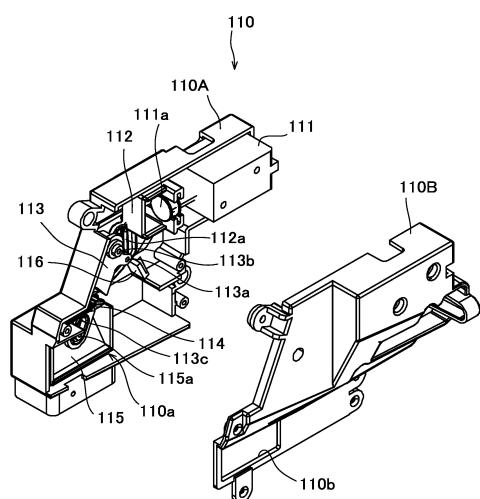
【図16】



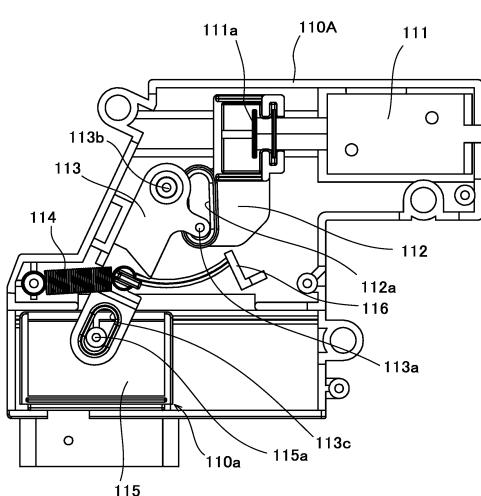
10

20

【図17】



【図18】

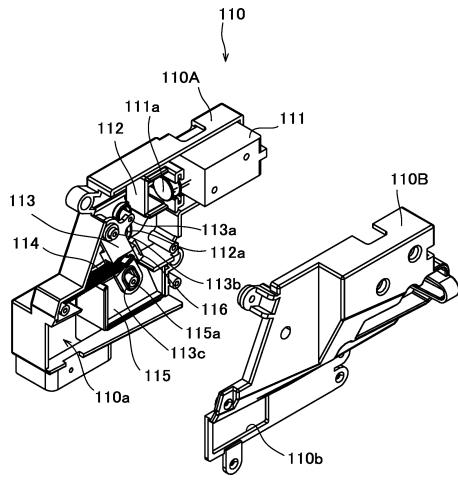


30

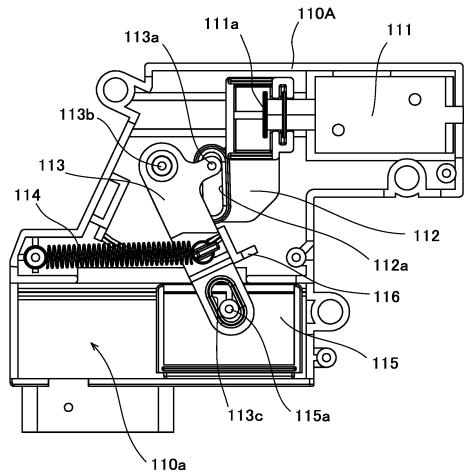
40

50

【図19】



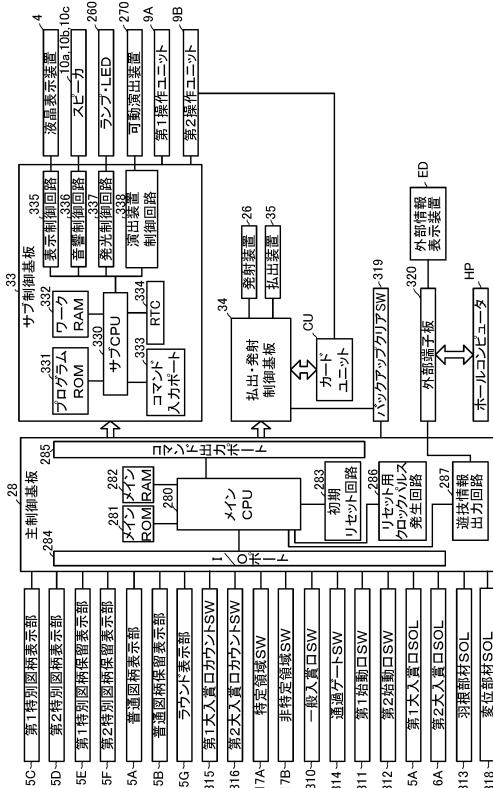
【図20】



10

20

【図21】



【図22】

大当り抽選テーブル	
ハズレ	0~254 当選 255
4R通常回数	0~35

図柄抽選テーブル	
特図1	特図2
4R通常回数	0~35
16R通常回数	36~65
4R確変回数	66~85 0~33
16R確変回数	86~99 34~99

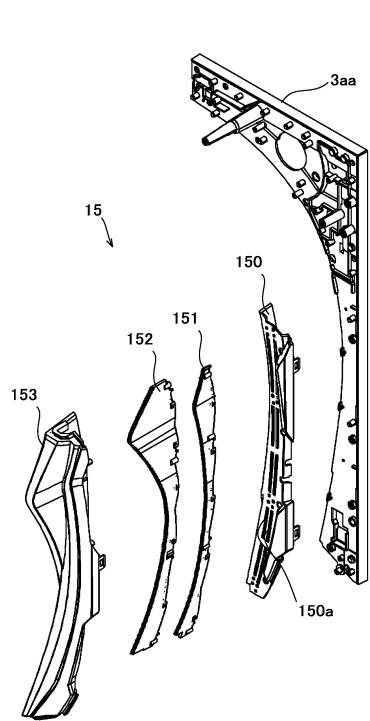
演出抽選テーブル		操作演出	
		送風演出	光照射演出
		演出なし 演出あり	演出なし 演出あり
		演出なし 演出あり	演出なし 演出あり
ハズレ	0~99	0~90 91~99	0~95 96~99 0~99
4R通常大当り	0~30	31~99 0~90	91~99 0~50 51~99 0~97 98~99
16R通常大当り	0~95	96~99 -	0~99 0~50 51~99 0~98 -
4R確変大当り	0~50	51~99 0~90	91~99 0~85 86~99 0~90 91~99
16R確変大当り	0~50	51~99 -	0~99 0~95 96~99 0~60 61~99

30

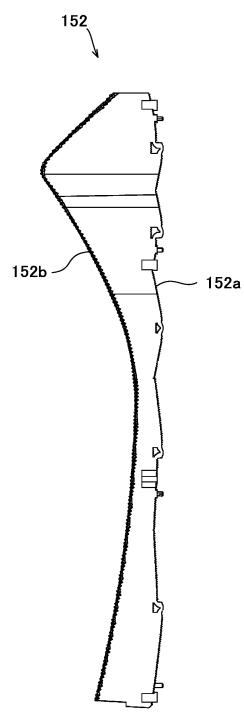
40

50

【図23】



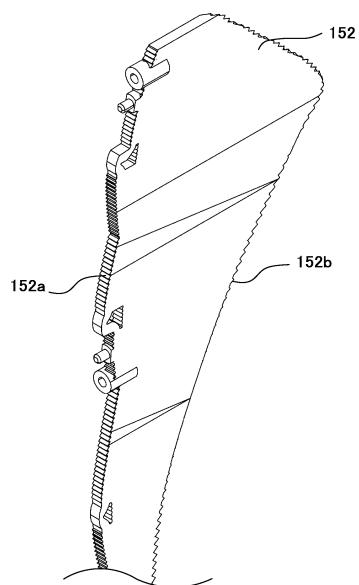
【図24】



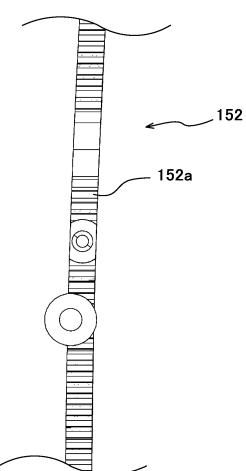
10

20

【図25】



【図26】

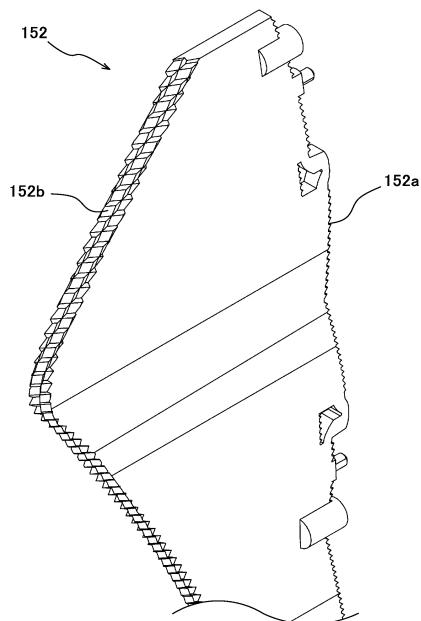


30

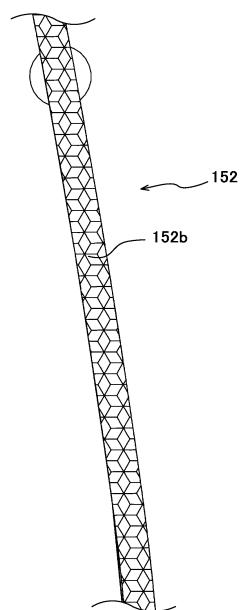
40

50

【図27】



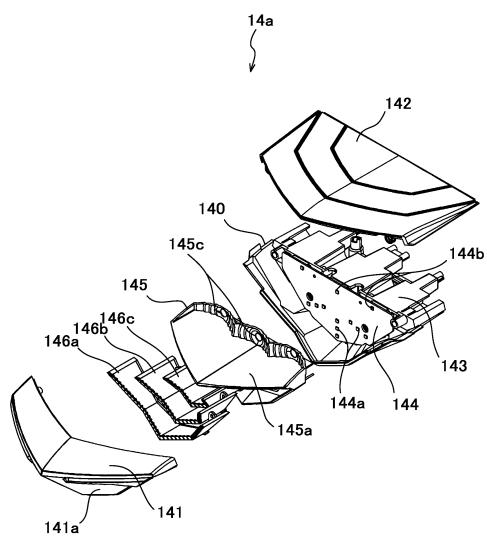
【図28】



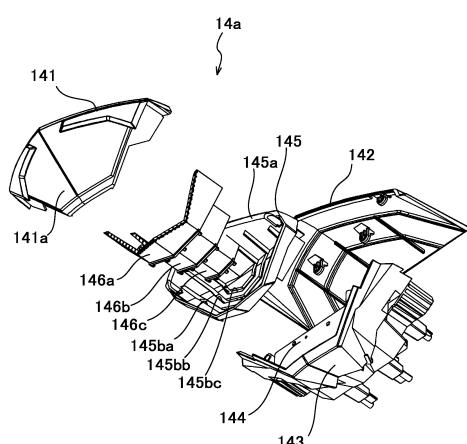
10

20

【図29】



【図30】

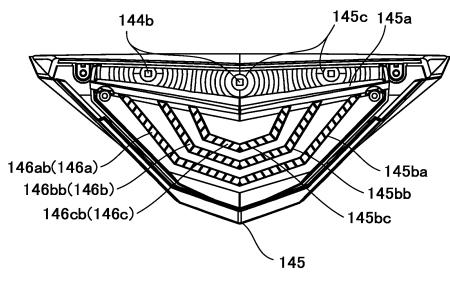


30

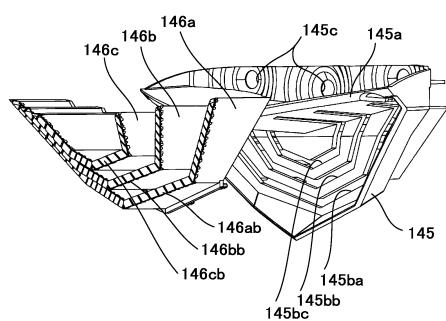
40

50

【図31】

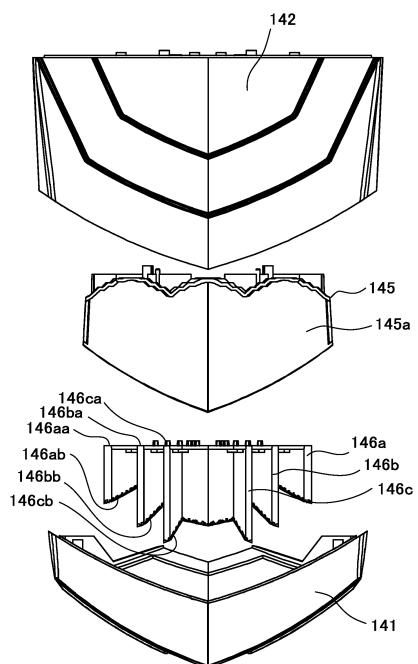


【図32】

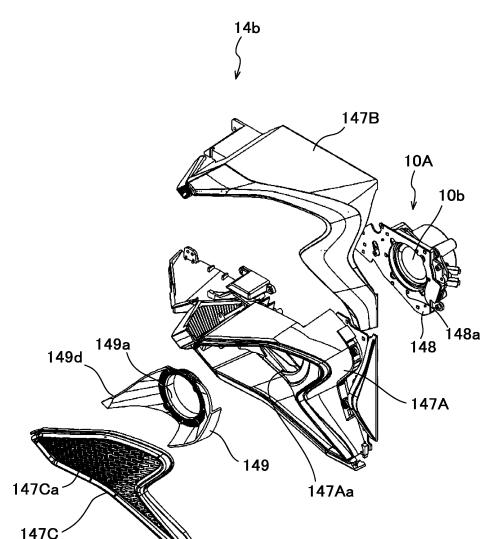


10

【図33】



【図34】

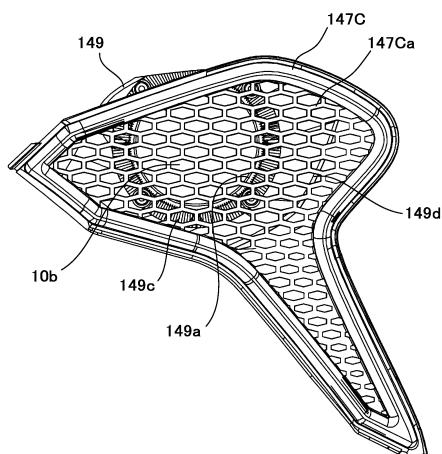


30

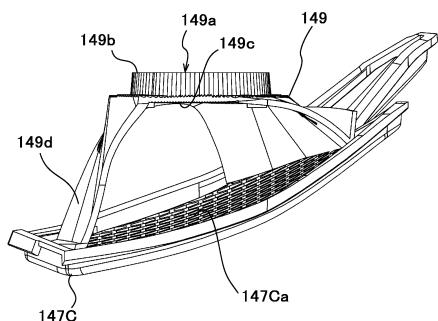
40

50

【図35】

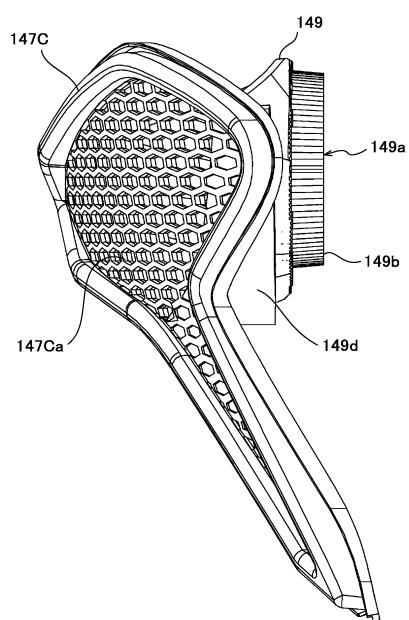


【図36】

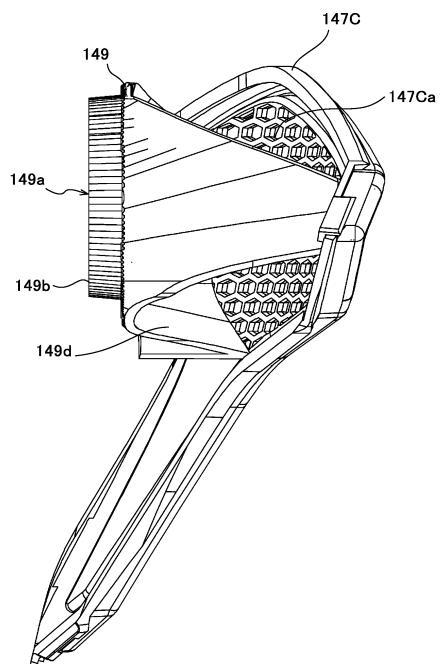


10

【図37】



【図38】

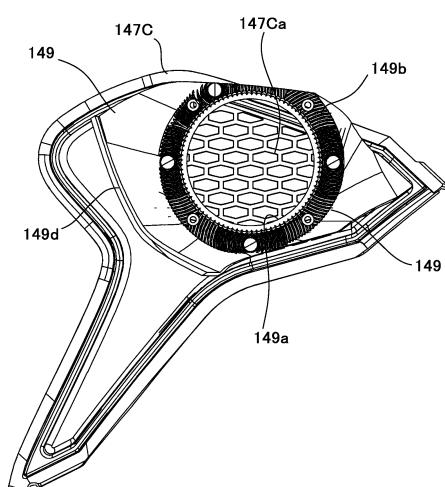


30

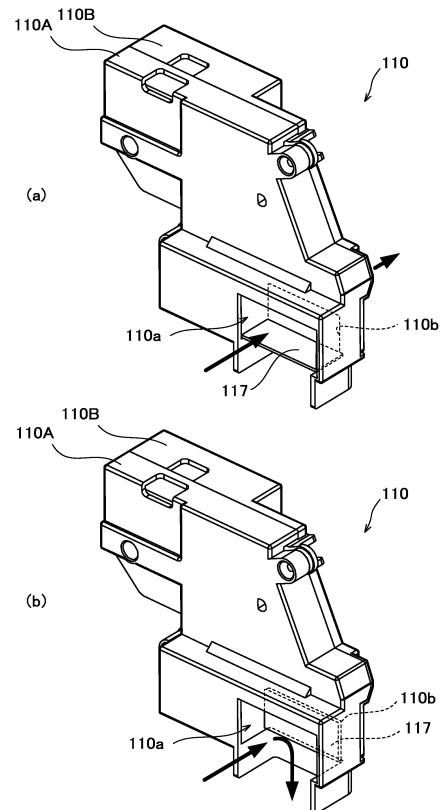
40

50

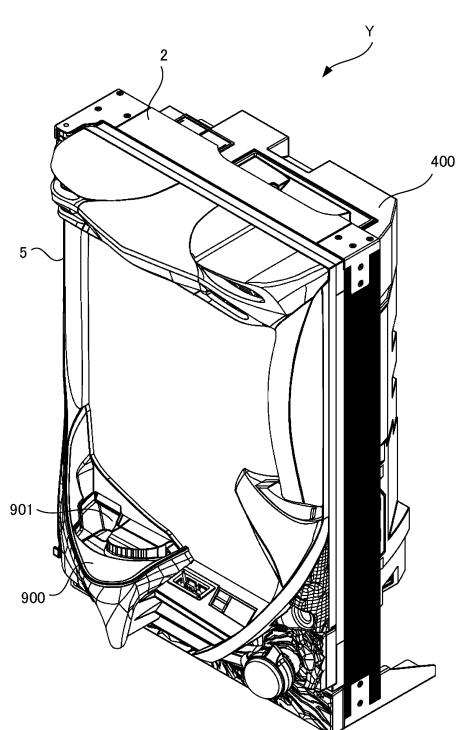
【図39】



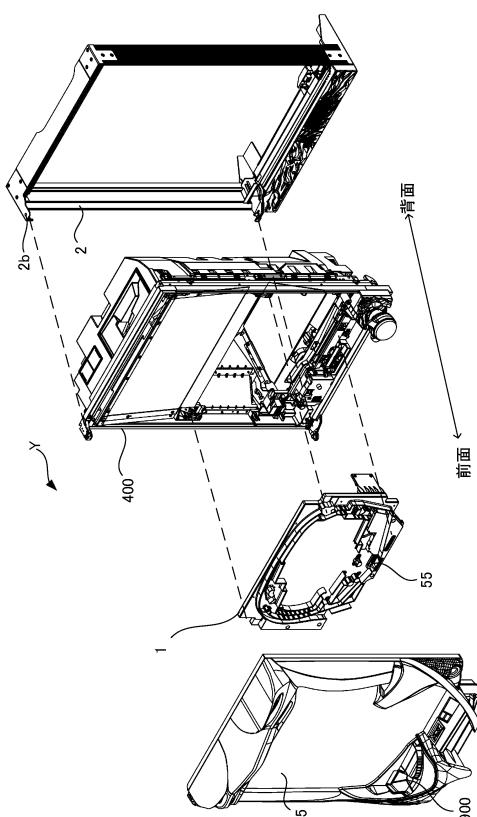
【図40】



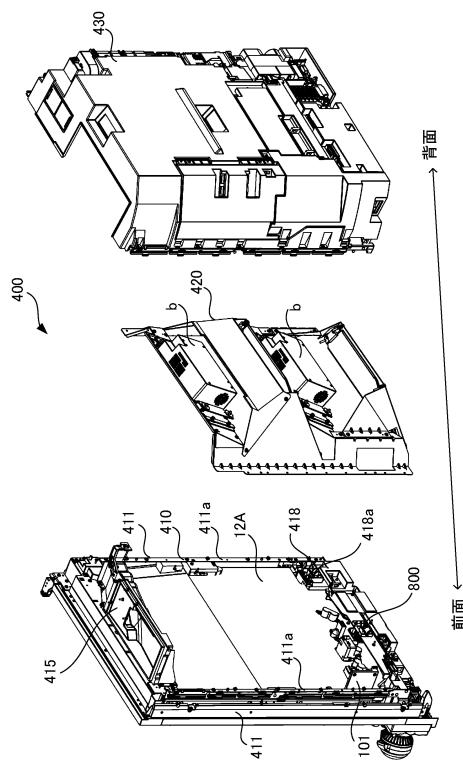
【図41】



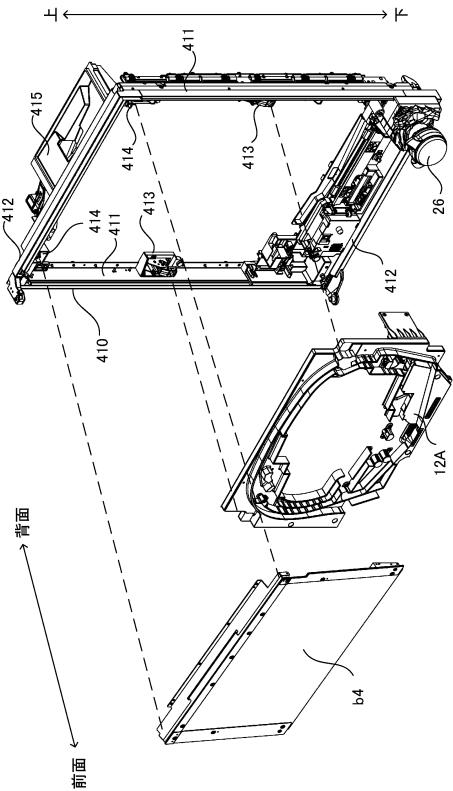
【図42】



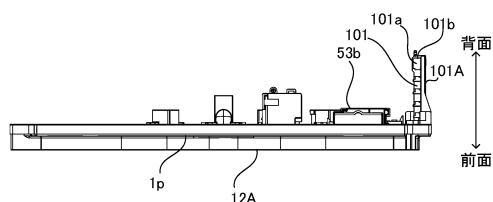
【図43】



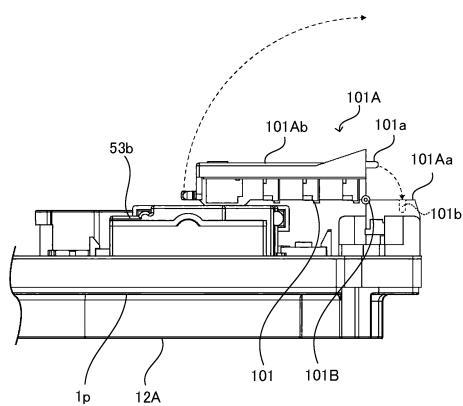
【図44】



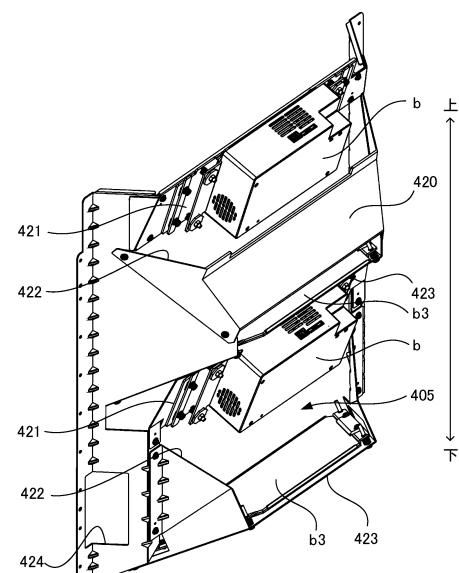
【図45】



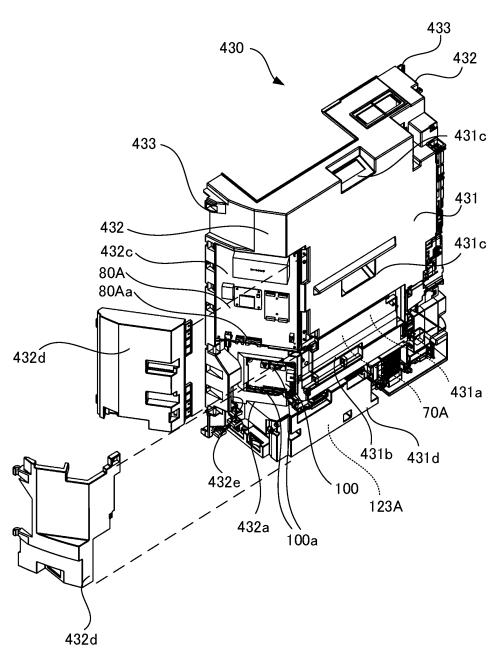
【図46】



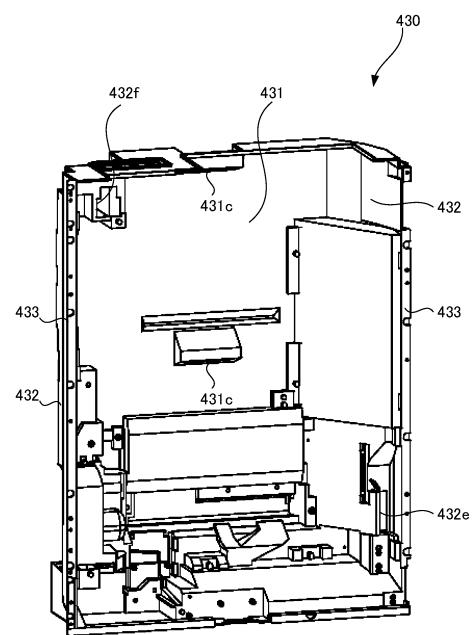
【図47】



【図 5 1】



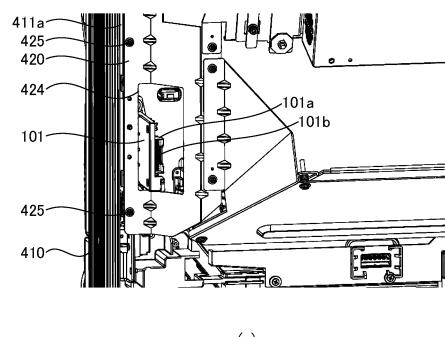
【図 5 2】



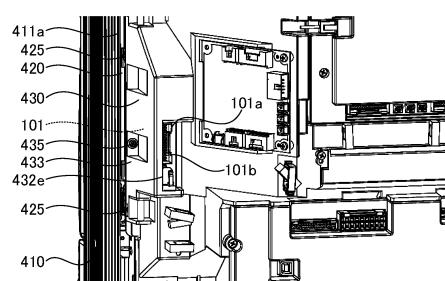
10

20

【図 5 3】

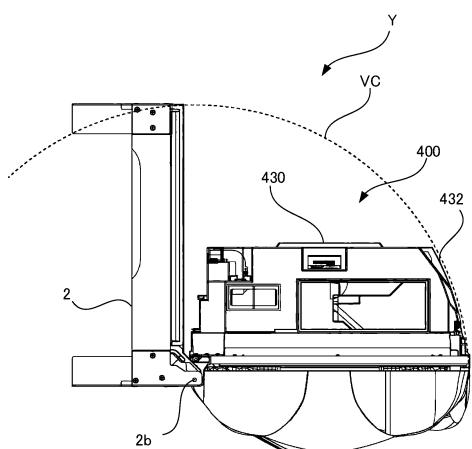


(a)



(b)

【図 5 4】

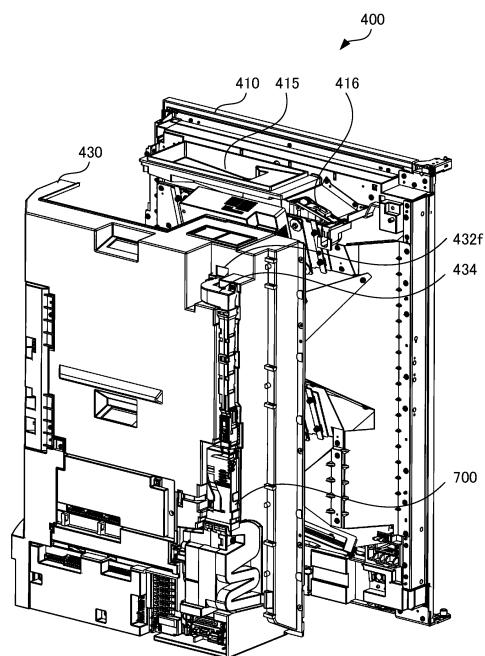


30

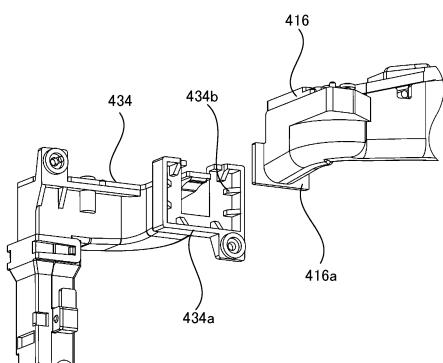
40

50

【図 5 5】



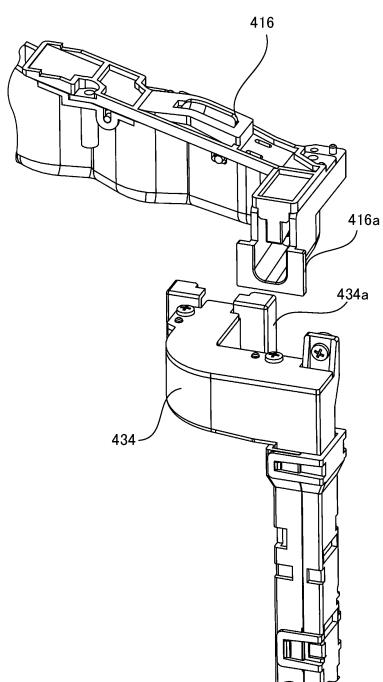
【図 5 6】



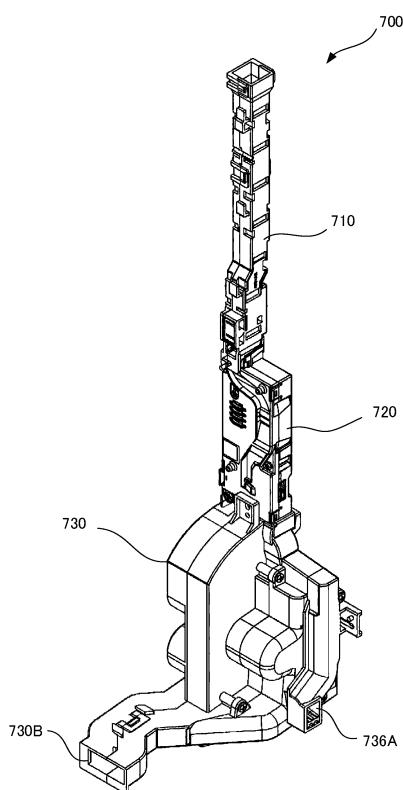
10

20

【図 5 7】



【図 5 8】

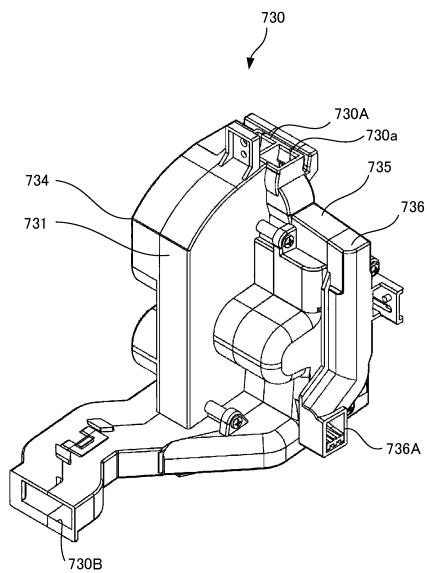


30

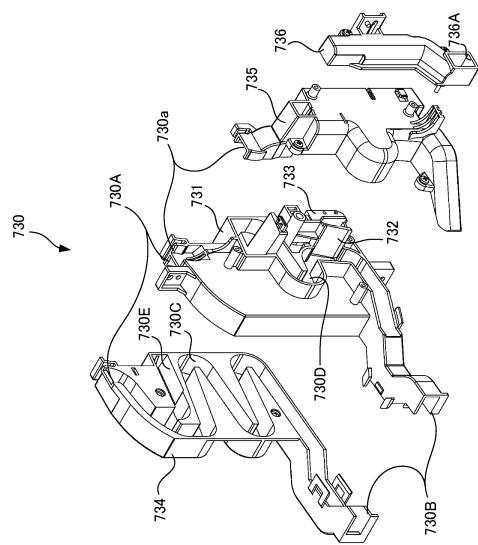
40

50

【図 5 9】



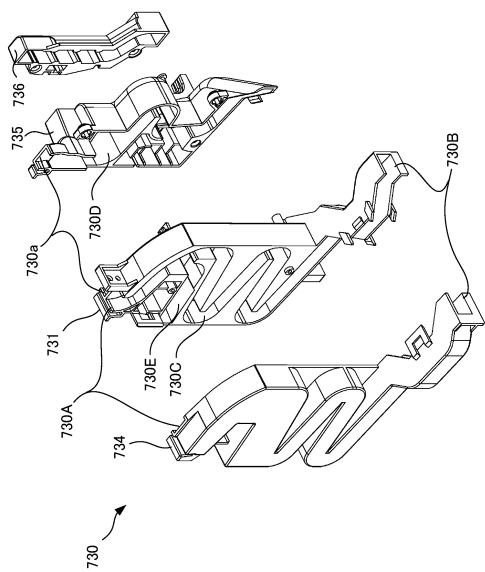
【図 6 0】



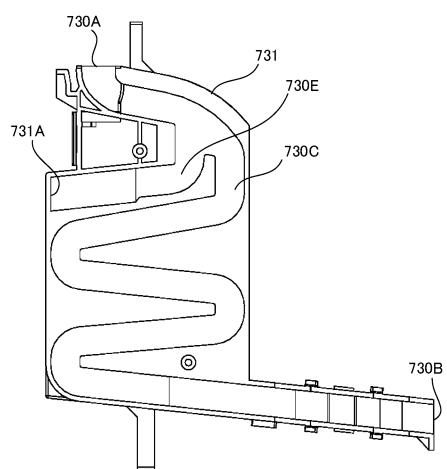
10

20

【図 6 1】



【図 6 2】

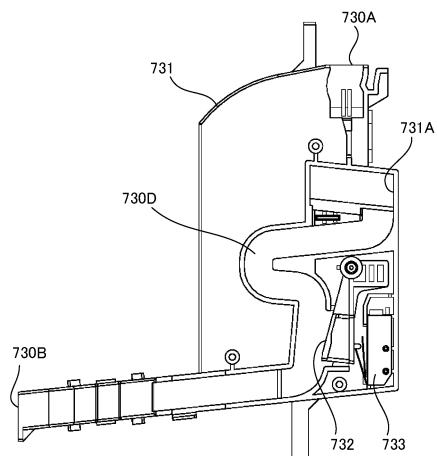


30

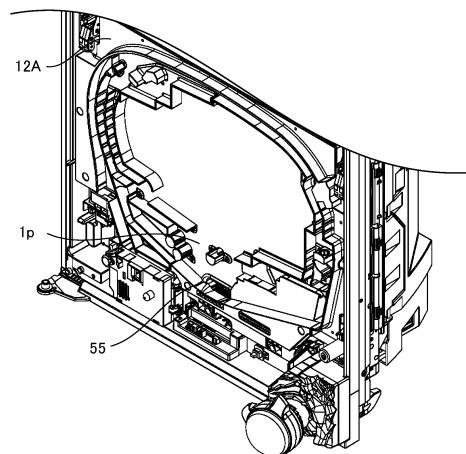
40

50

【図 6 3】



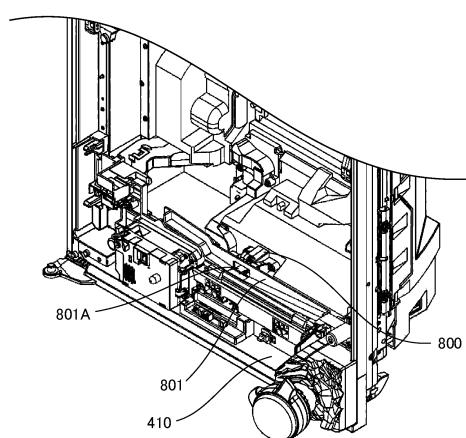
【図 6 4】



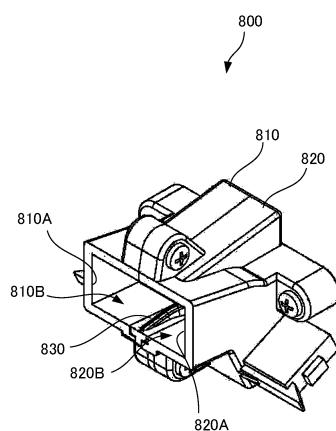
10

20

【図 6 5】



【図 6 6】

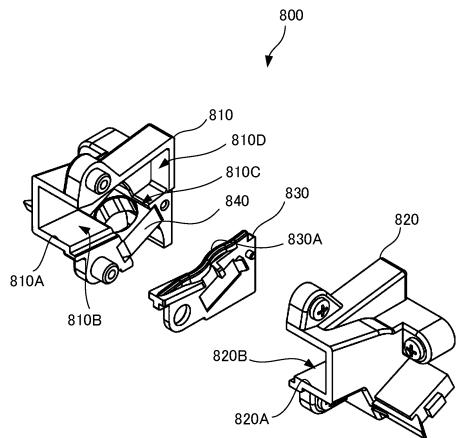


30

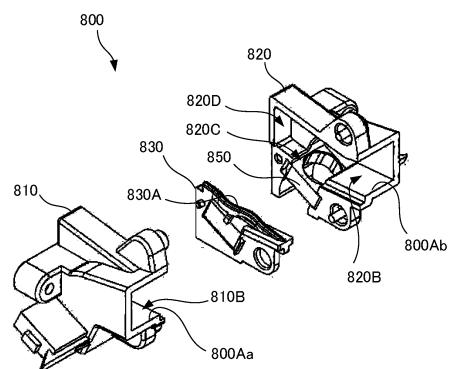
40

50

【図 6 7】



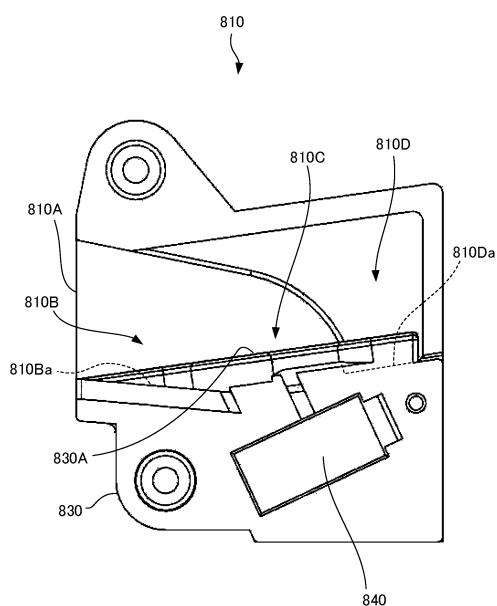
【図 6 8】



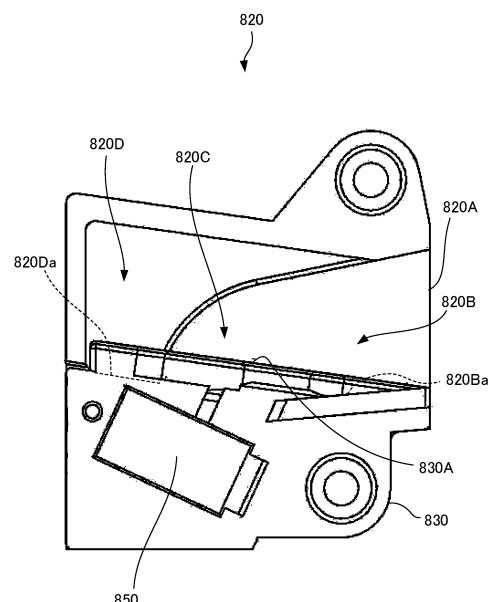
10

20

【図 6 9】



【図 7 0】

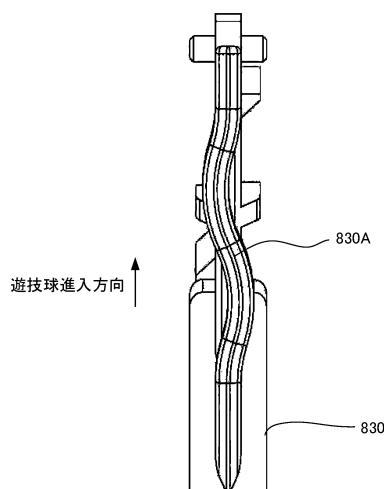


30

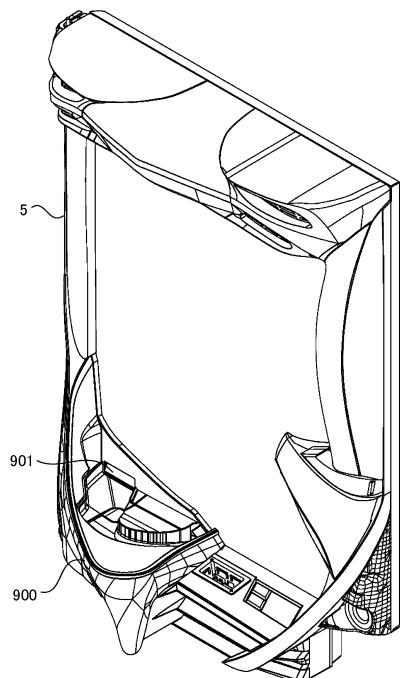
40

50

【図 7 1】



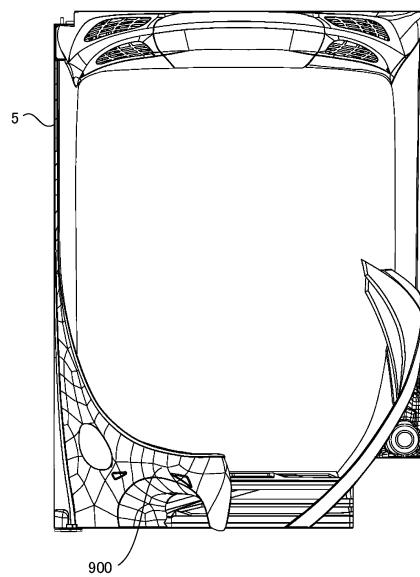
【図 7 2】



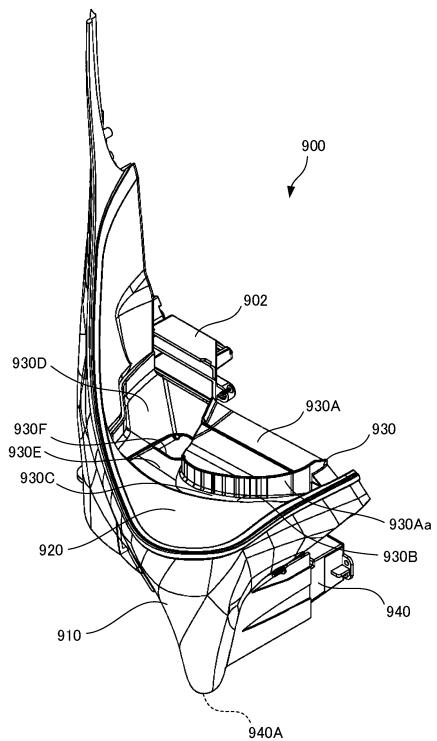
10

20

【図 7 3】



【図 7 4】

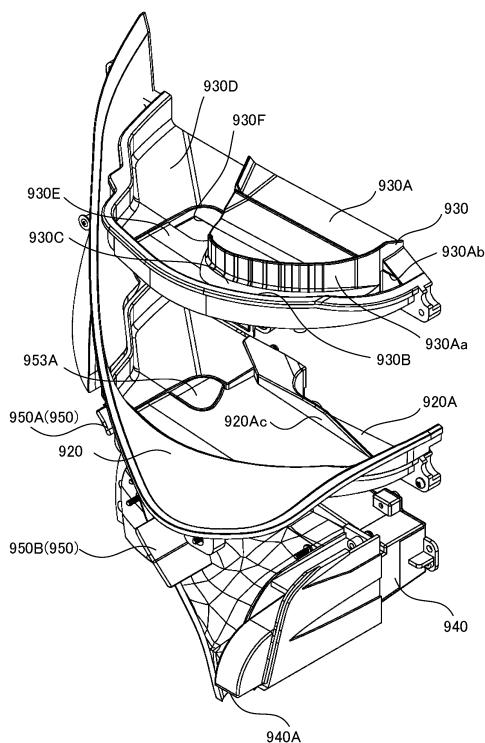


30

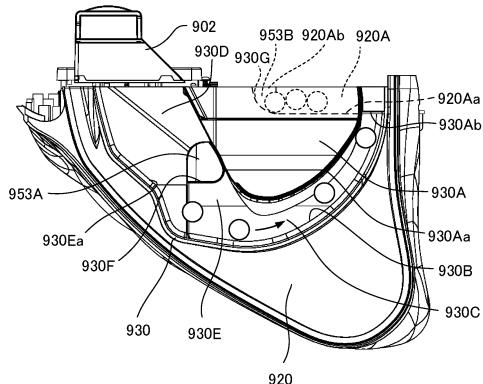
40

50

【図 7 5】



【図 7 6】

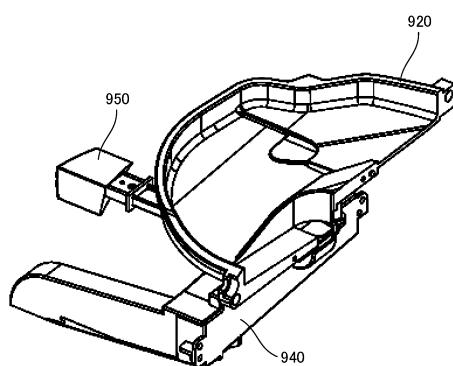
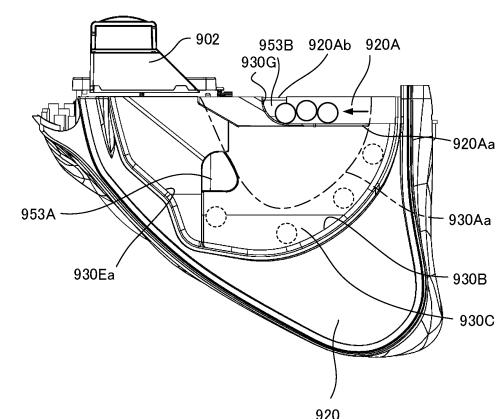


10

20

【図 7 7】

【図 7 8】

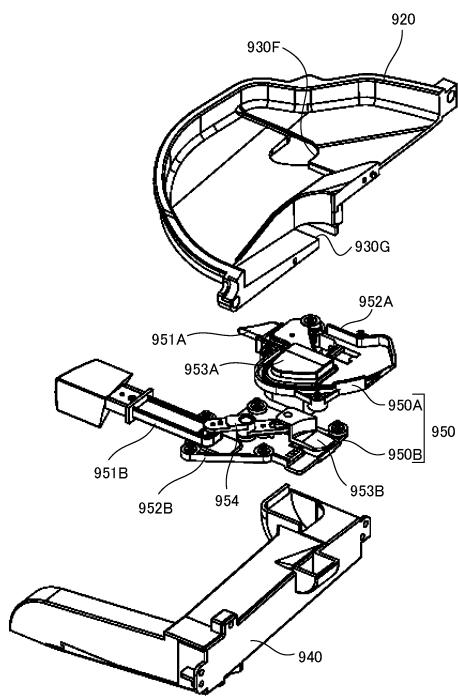


30

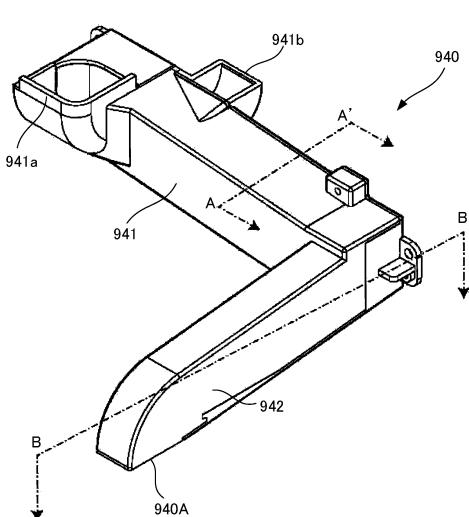
40

50

【図 7 9】



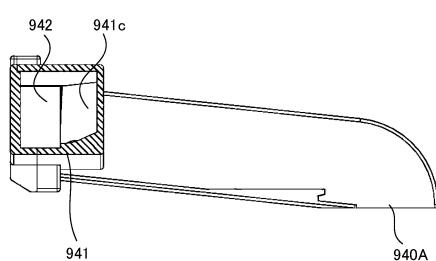
【図 8 0】



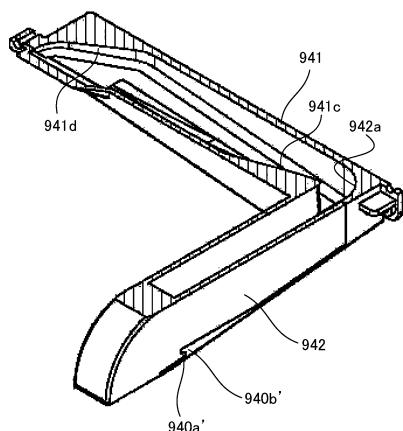
10

20

【図 8 1】



【図 8 2】

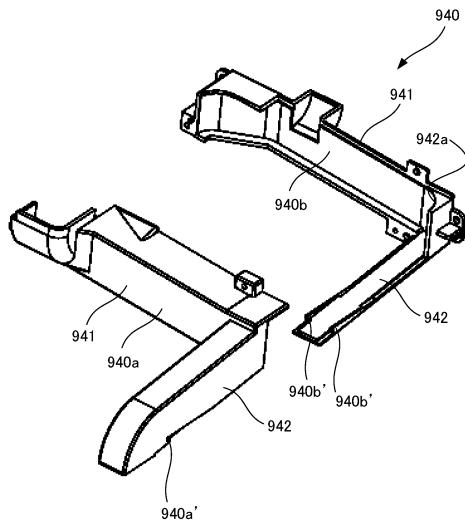


30

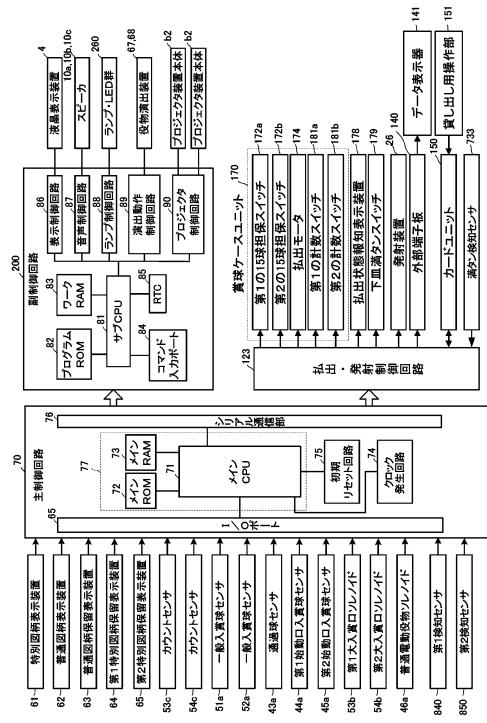
40

50

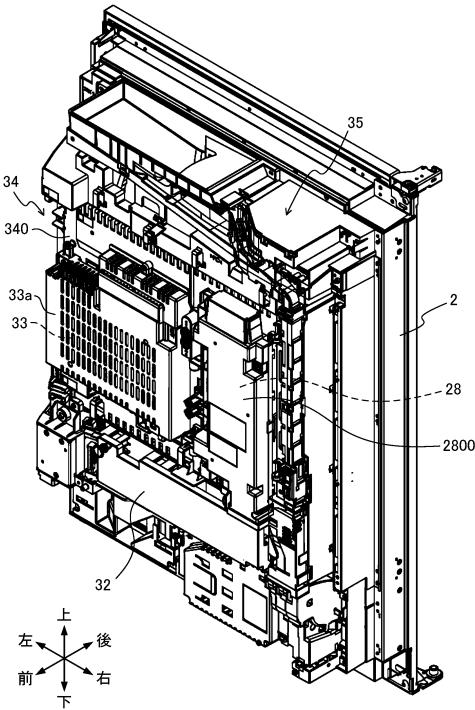
【図 8 3】



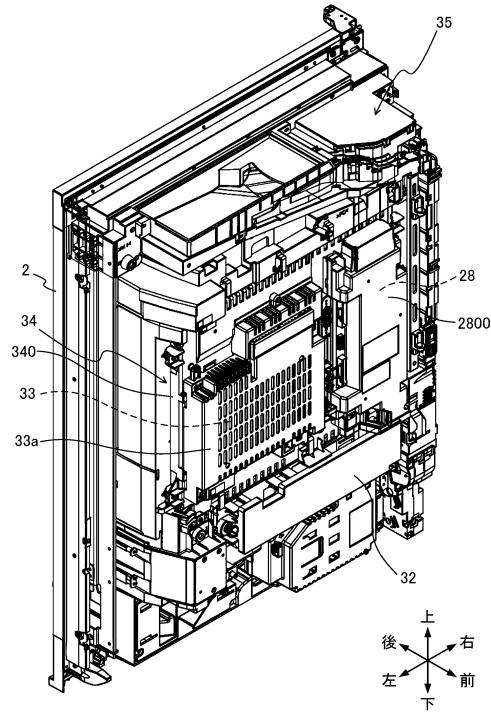
【図 8 4】



【図 8 5】



【図 8 6】



10

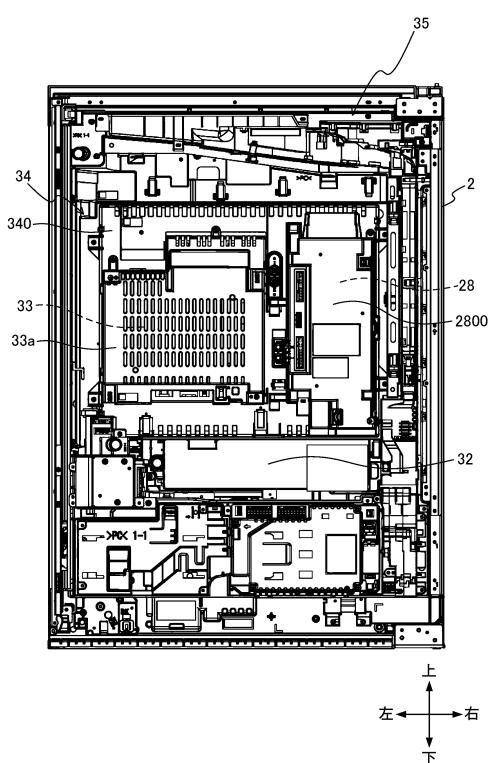
20

30

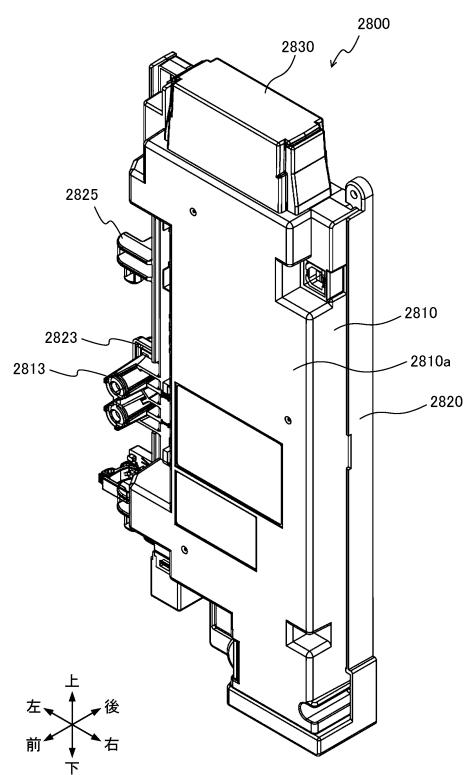
40

50

【図 8 7】



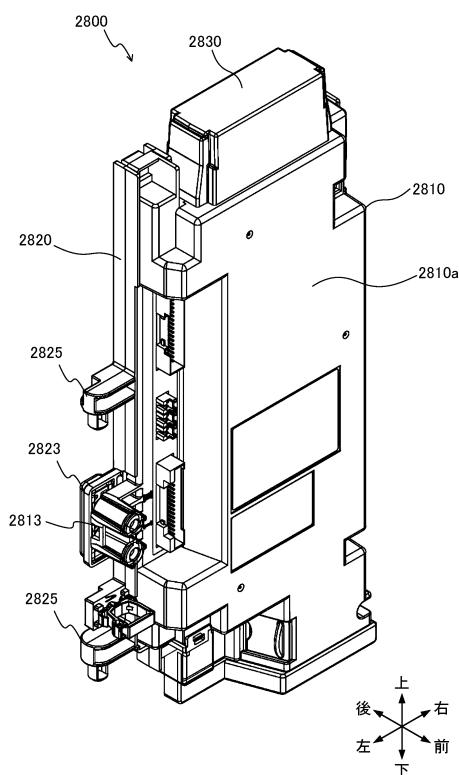
【図 8 8】



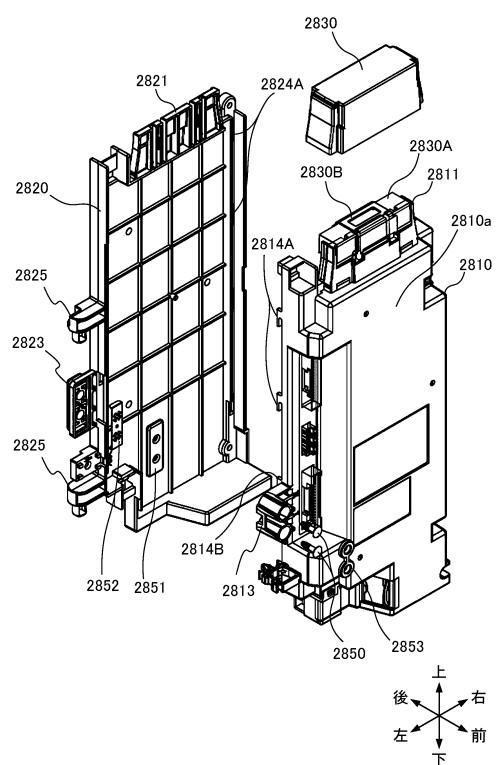
10

20

【図 8 9】



【図 9 0】

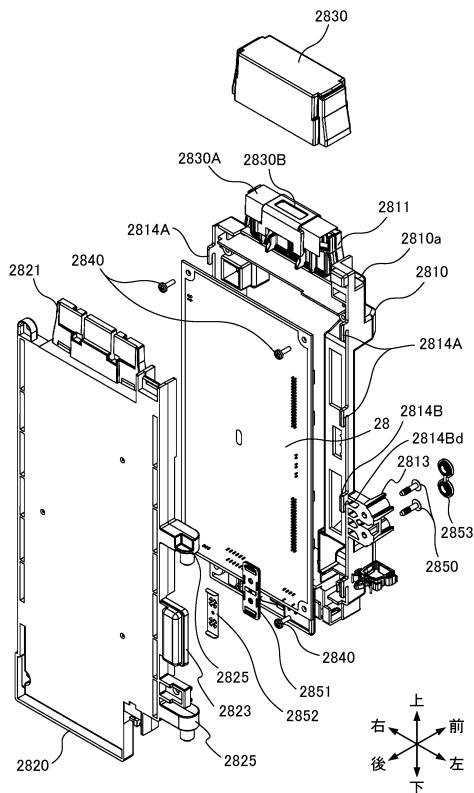


30

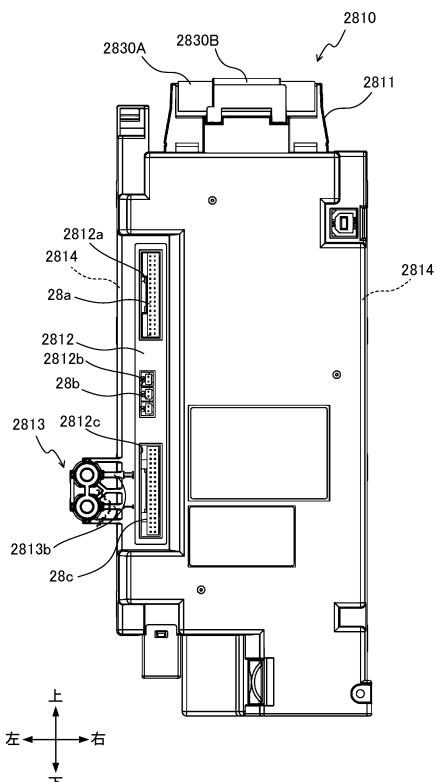
40

50

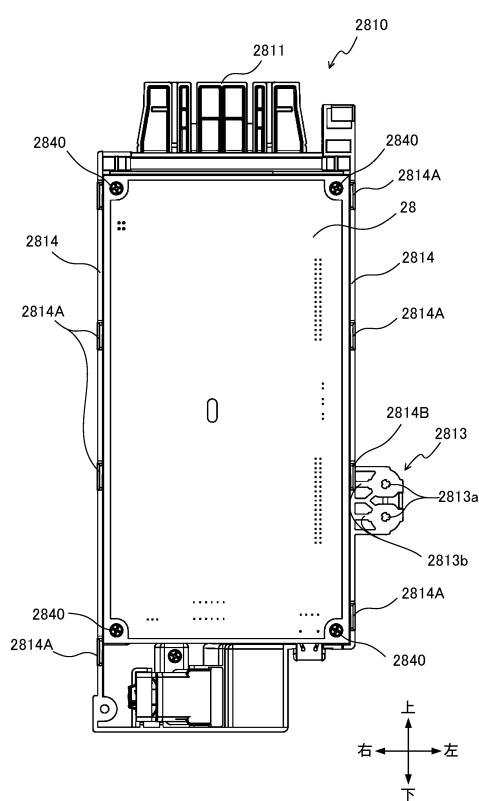
【図91】



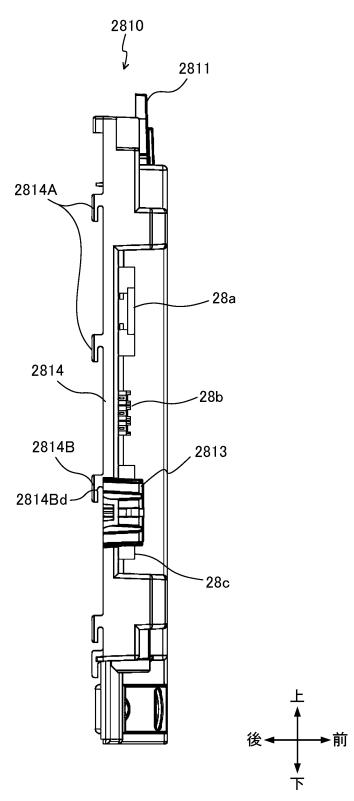
【図92】



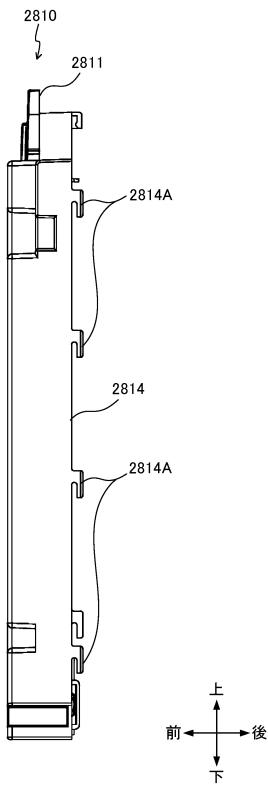
【図93】



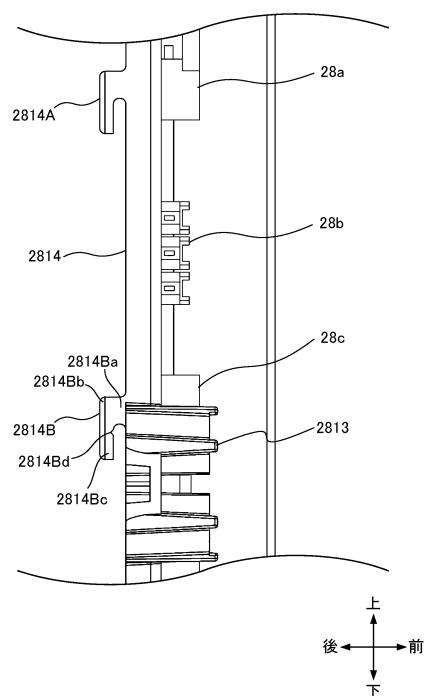
【図94】



【図95】



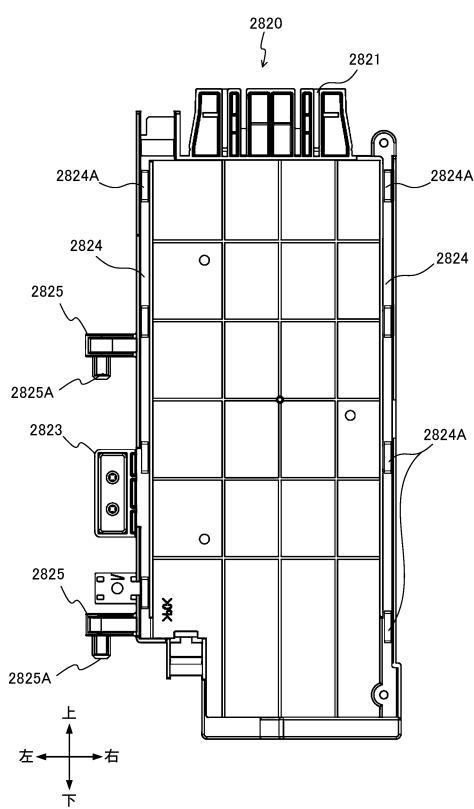
【図96】



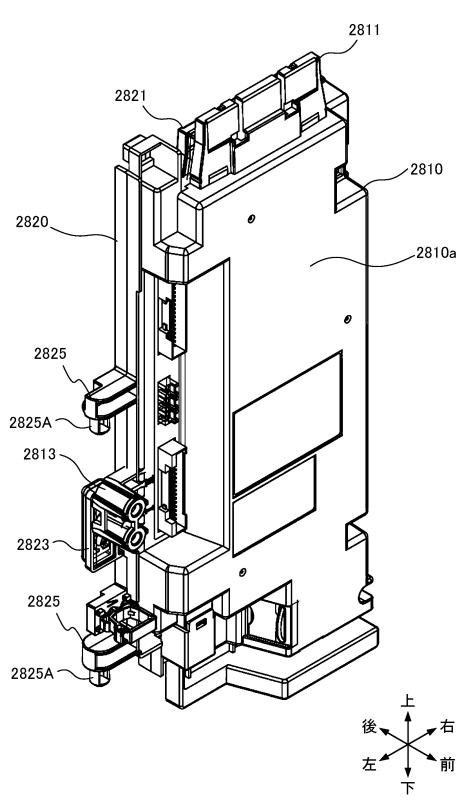
10

20

【図97】



【図98】

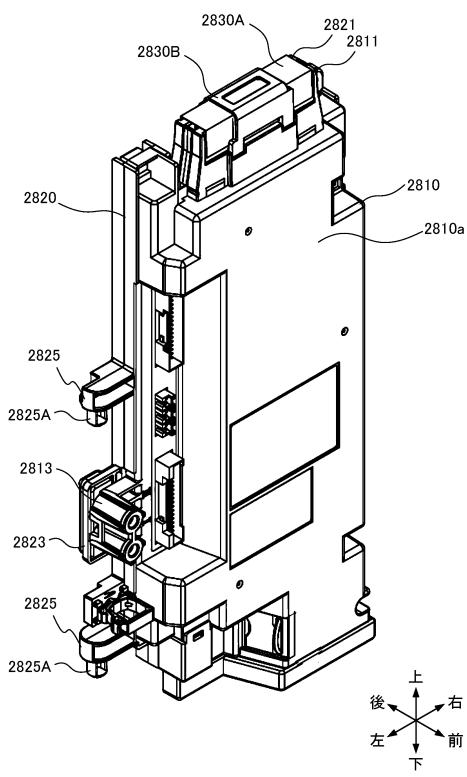


30

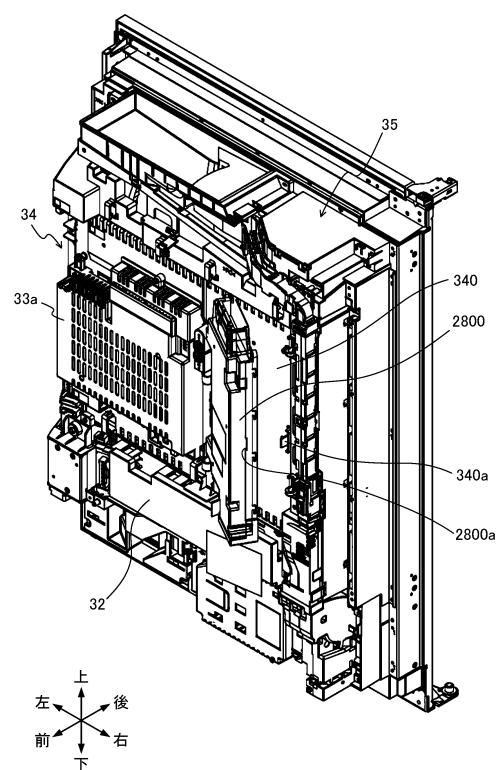
40

50

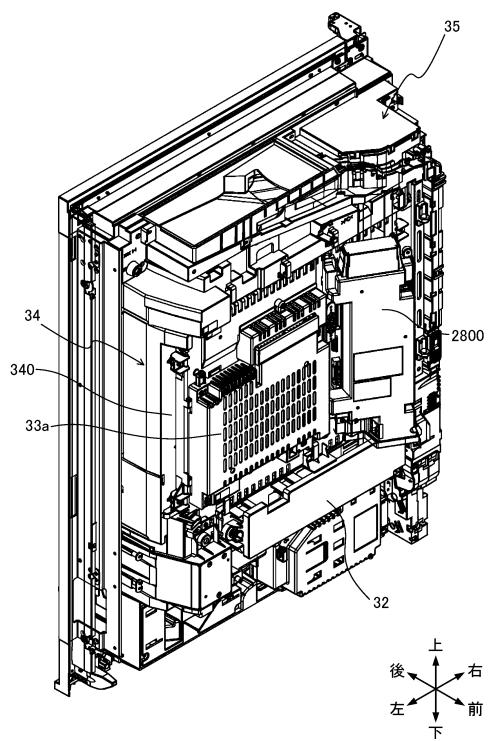
【図99】



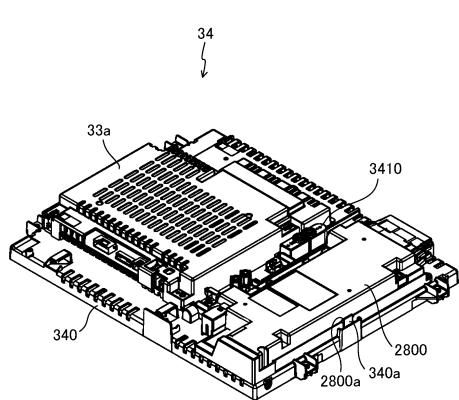
【図100】



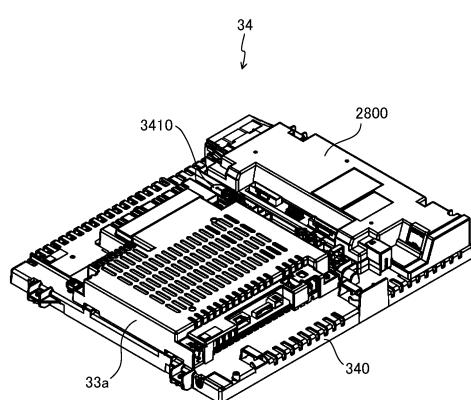
【図101】



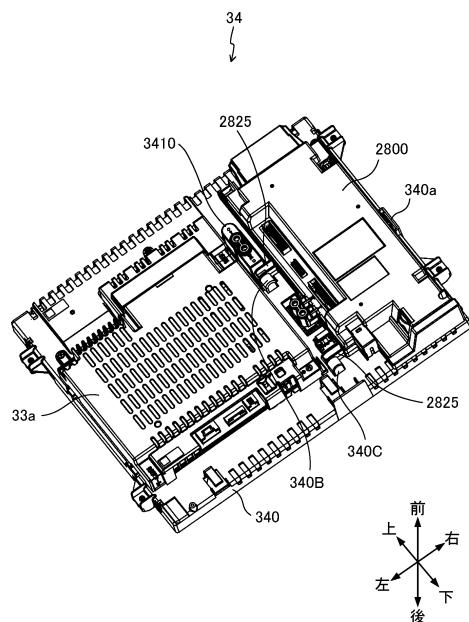
【図102】



【図103】



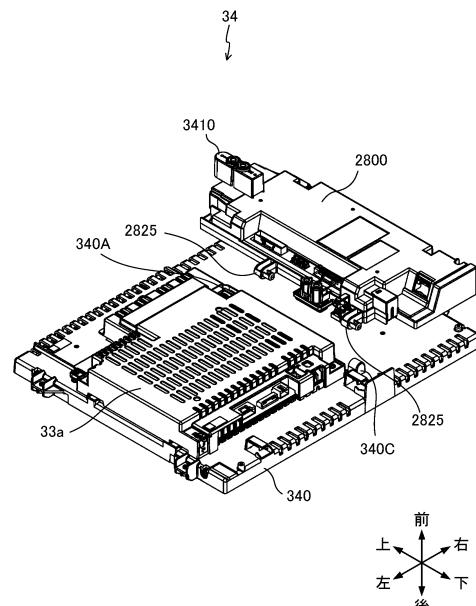
【図104】



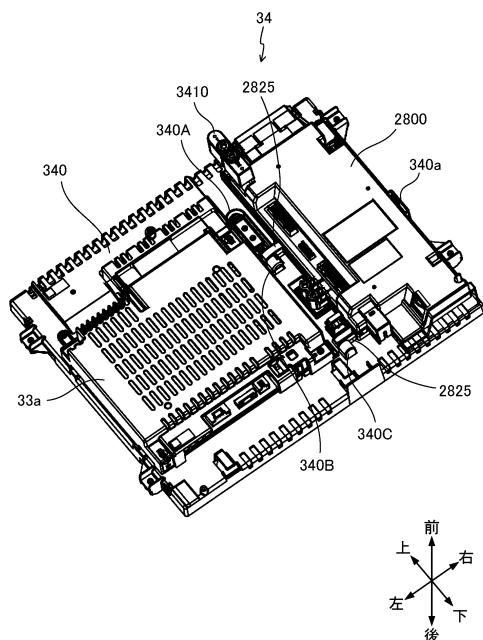
10

20

【図105】



【図106】

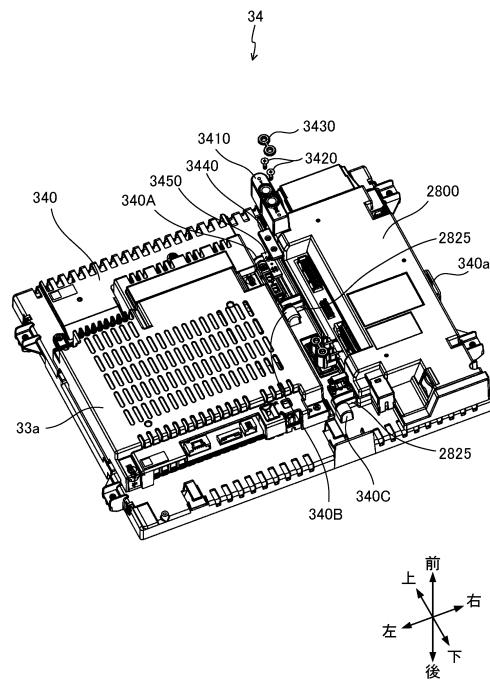


30

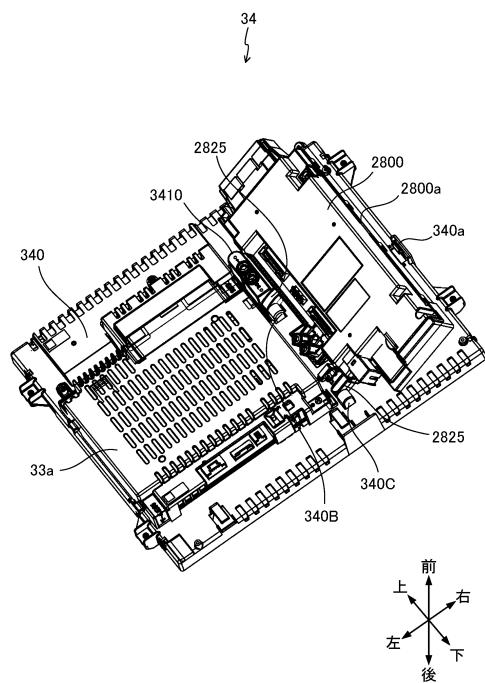
40

50

【図107】



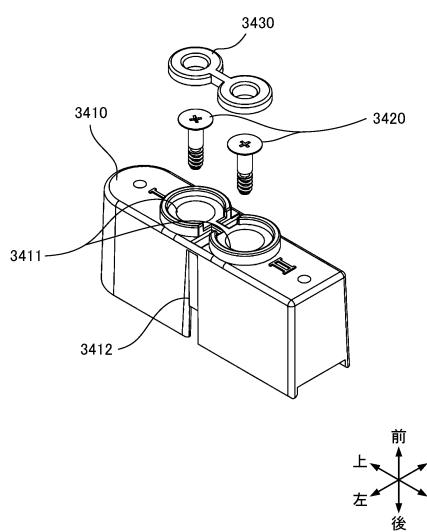
【図108】



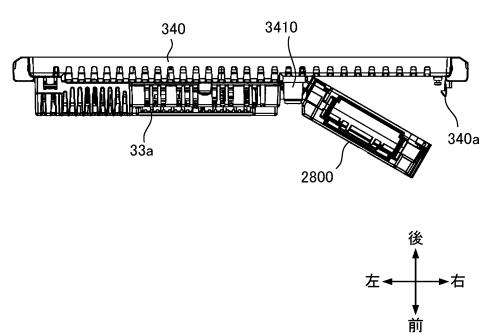
10

20

【図109】



【図110】

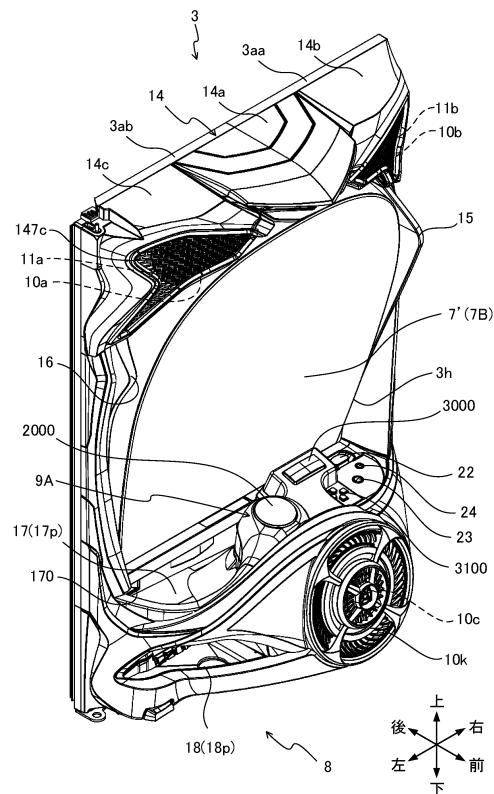


30

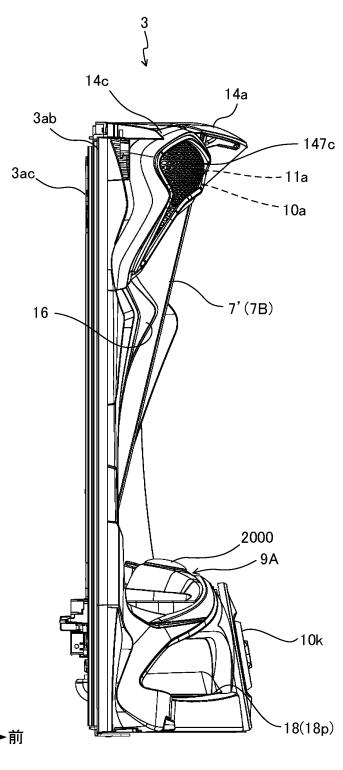
40

50

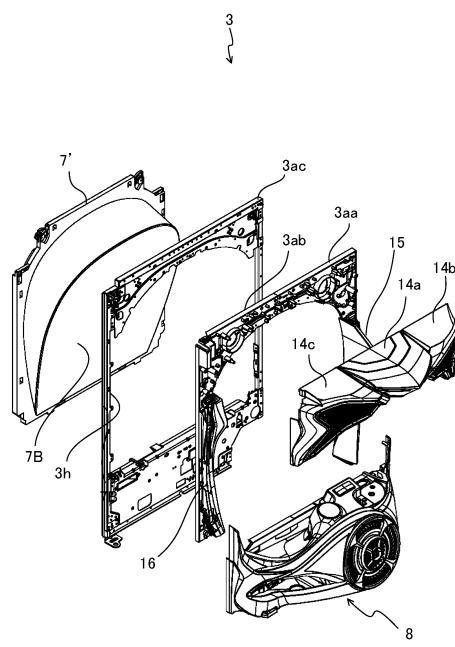
【図 1 1 1】



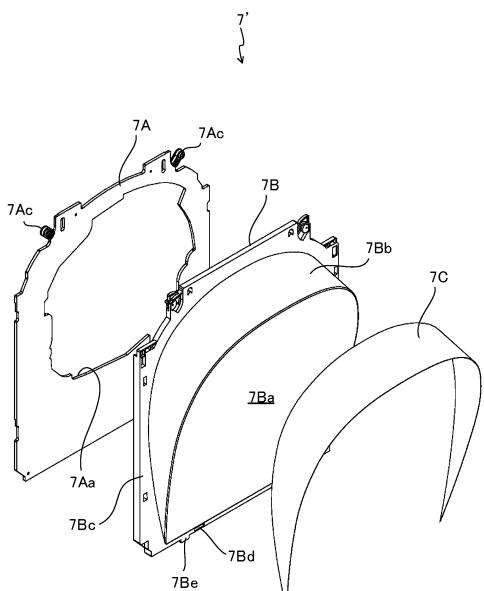
【図 1 1 2】



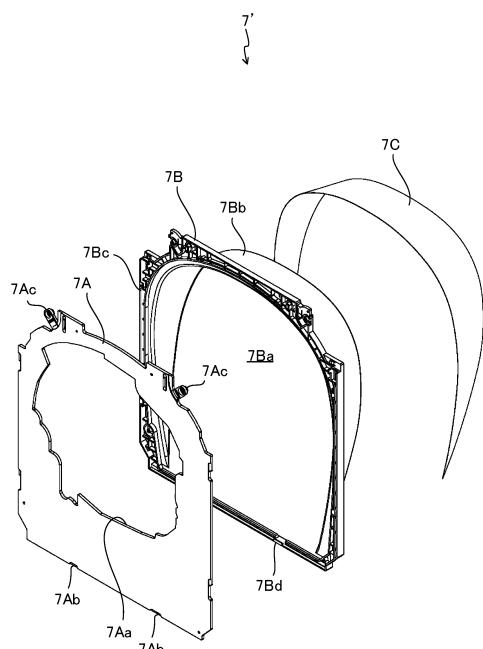
【図 1 1 3】



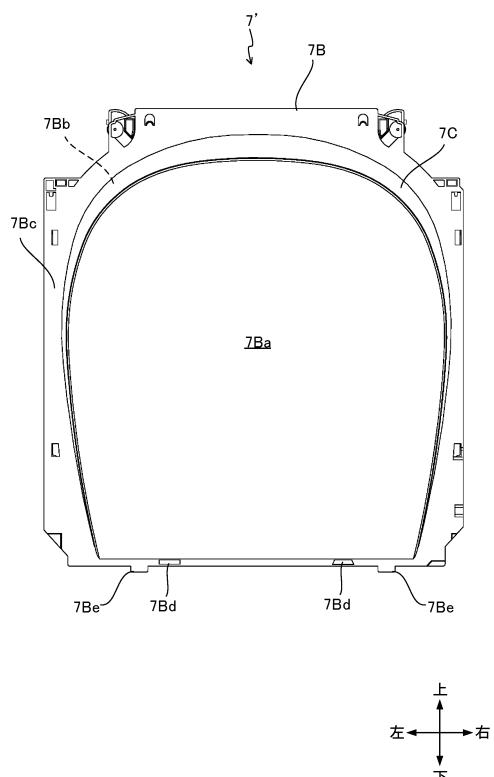
【図 1 1 4】



【図 115】



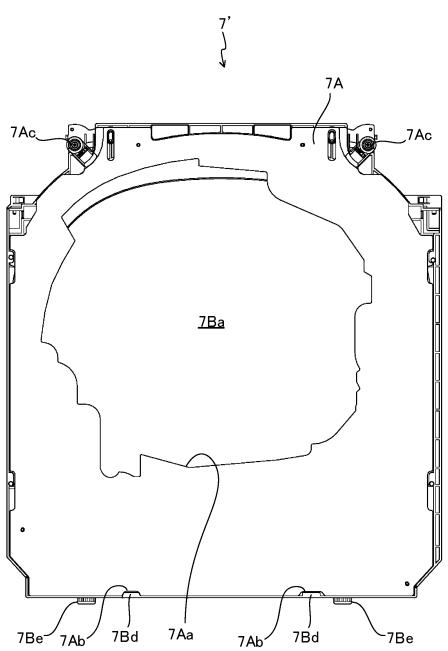
【図 116】



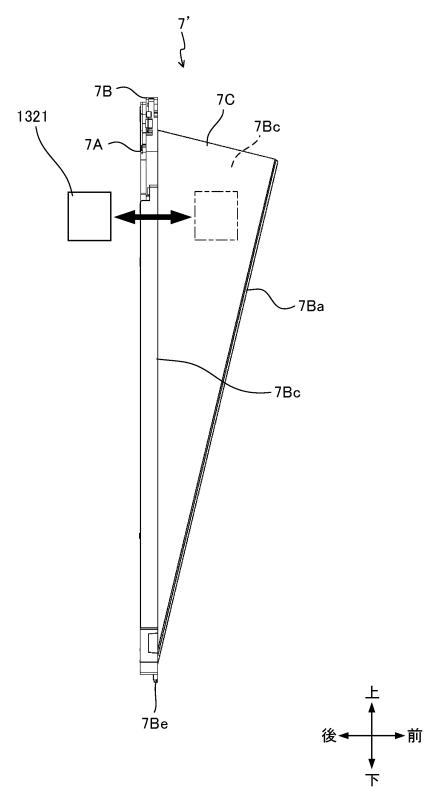
10

20

【図 117】



【図 118】

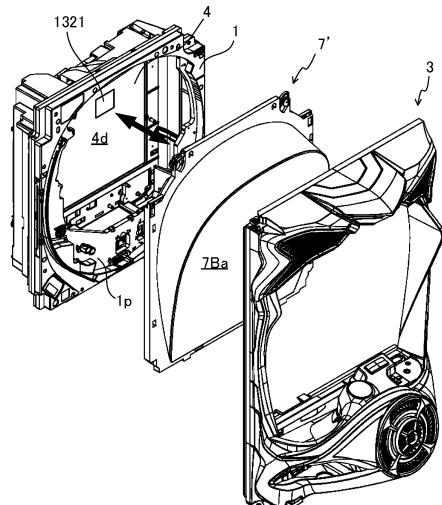


30

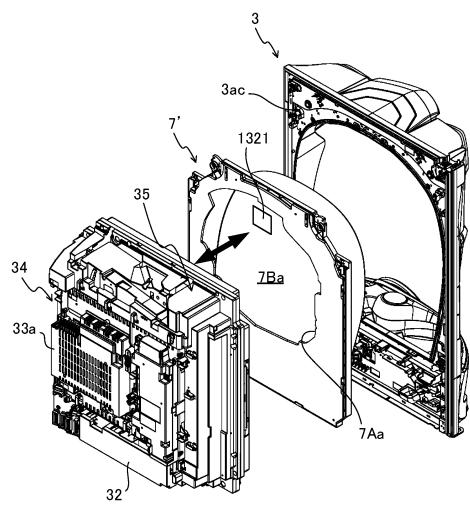
40

50

【図 119】

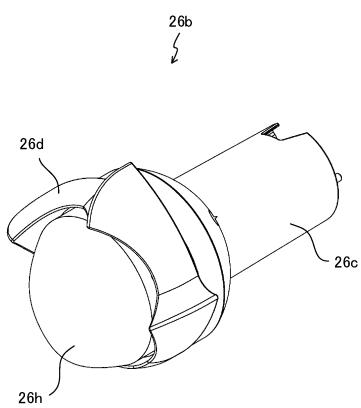


【図 120】

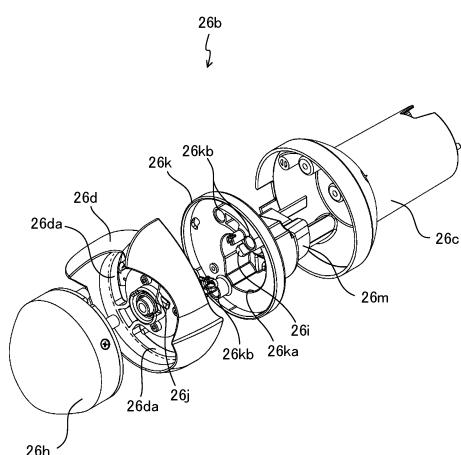


10

【図 121】



【図 122】

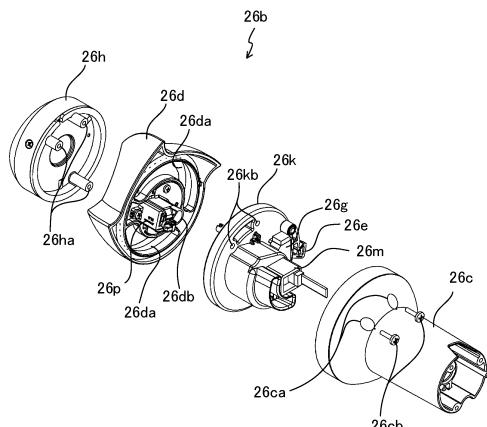


30

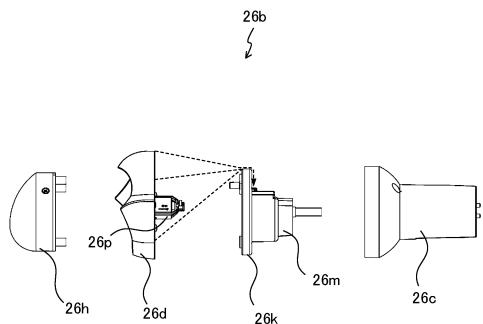
40

50

【図 1 2 3】



【図 1 2 4】



10

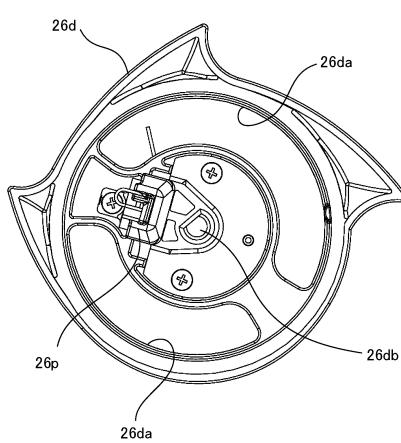
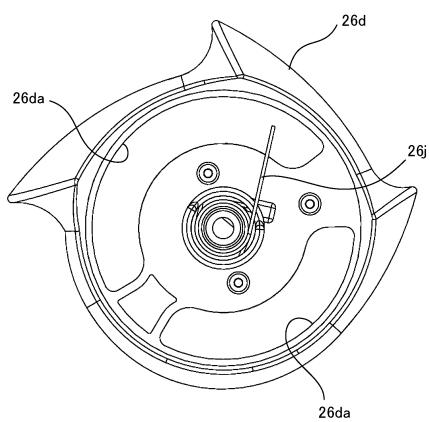


20

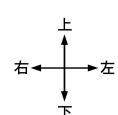
【図 1 2 5】

【図 1 2 6】

30

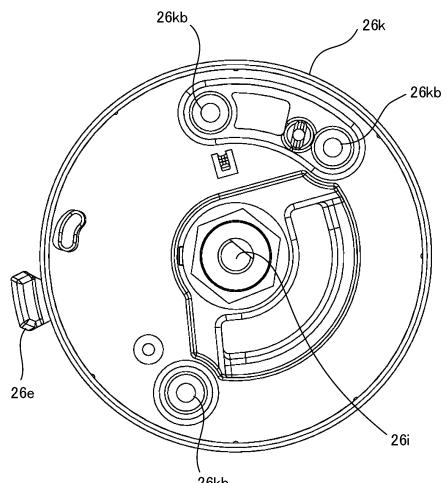


40



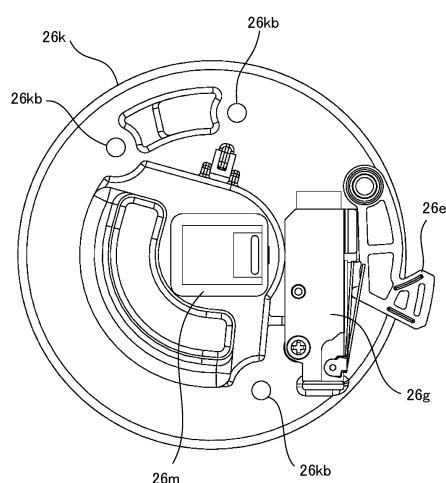
50

【図 1 2 7】



上
左 ← → 右
下

【図 1 2 8】

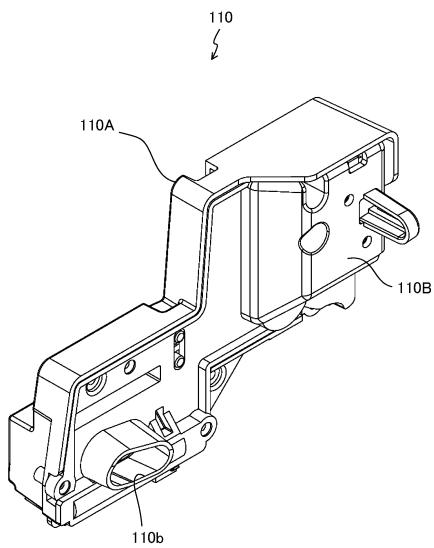


上
右 ← → 左
下

10

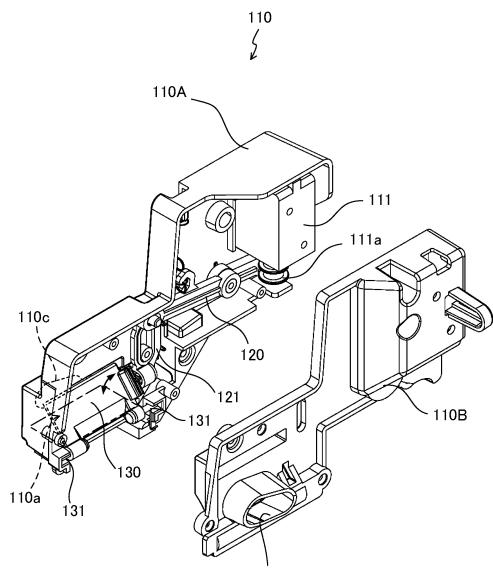
20

【図 1 2 9】



上
左 ← → 右
前 ↓ 後
下

【図 1 3 0】



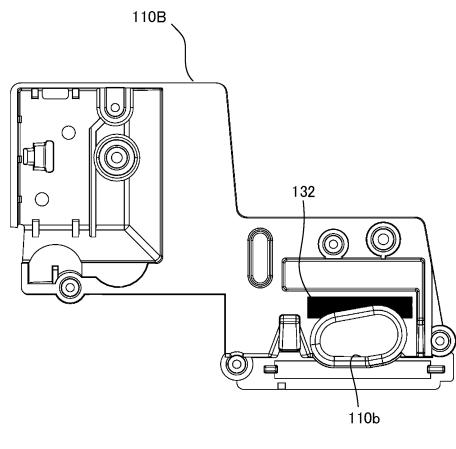
上
左 ← → 右
前 ↓ 後
下

30

40

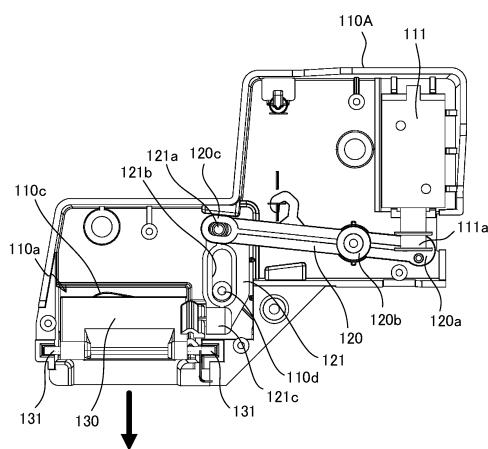
50

【図 1 3 1】



上
後 ← → 前
下

【図 1 3 2】

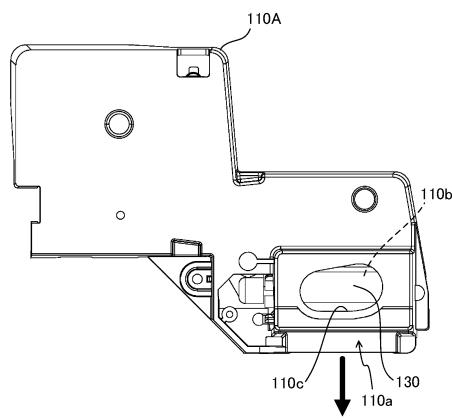


上
前 ← → 後
下

10

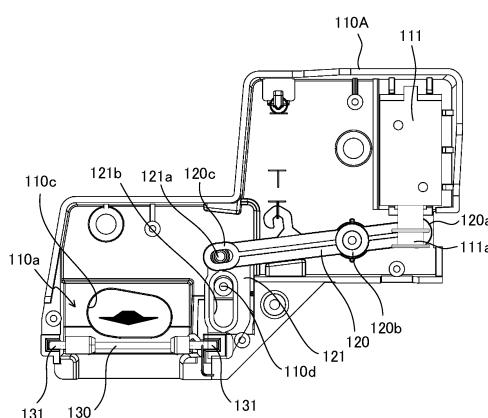
20

【図 1 3 3】



上
後 ← → 前
下

【図 1 3 4】



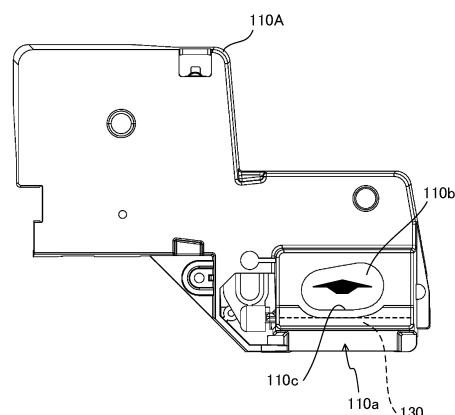
上
前 ← → 後
下

30

40

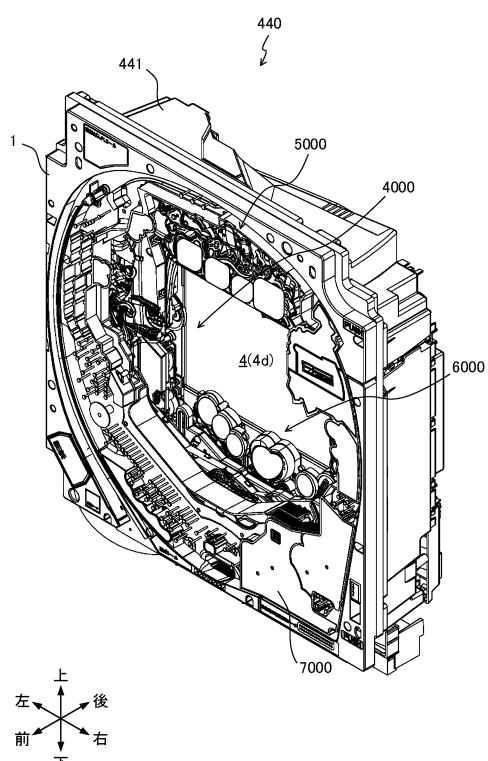
50

【図 1 3 5】



上
後 ← → 前
下

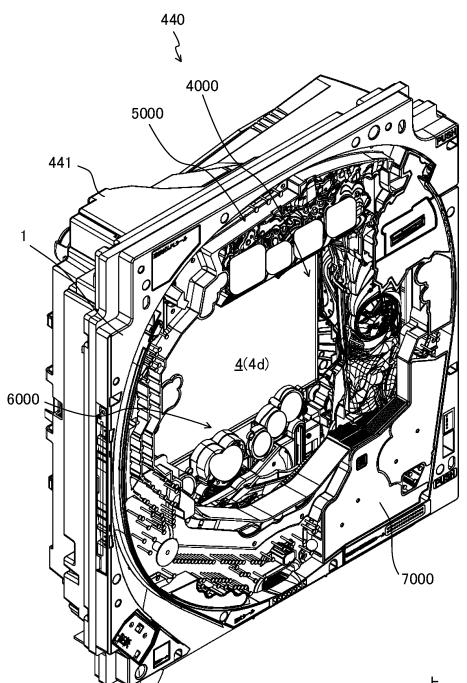
【図 1 3 6】



10

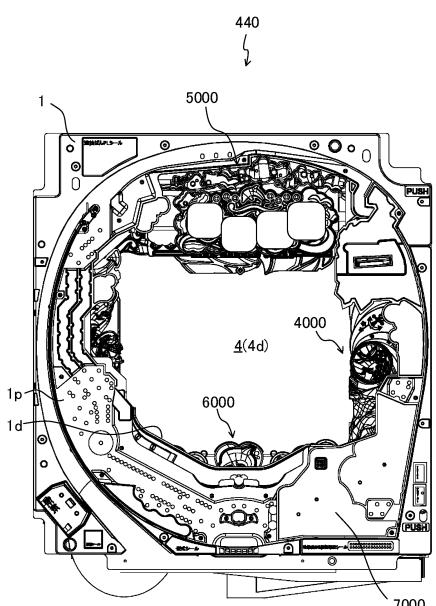
上
左 ← → 右
前 ← → 後
下

【図 1 3 7】



上
後 ← → 前
左 ← → 右
下

【図 1 3 8】



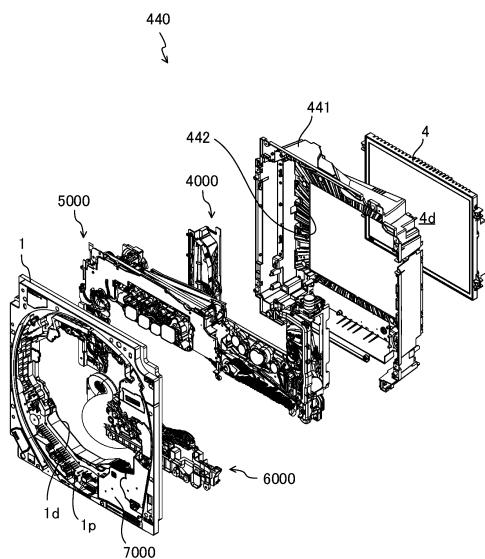
30

40

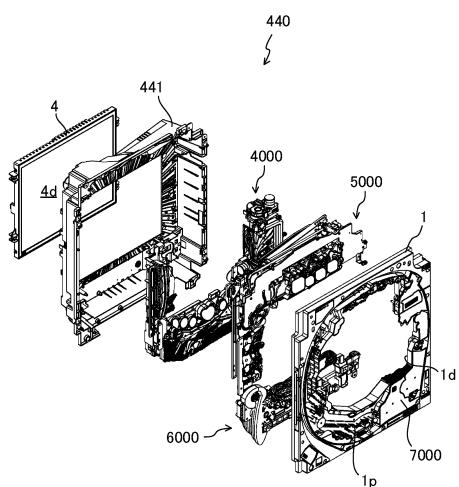
上
左 ← → 右
前 ← → 後
下

50

【図139】



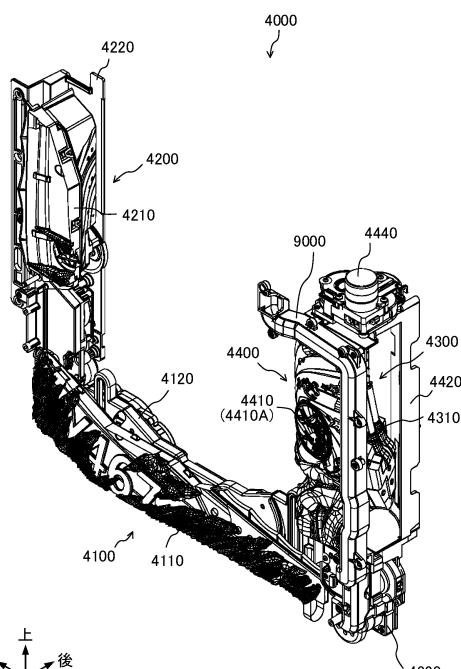
【図140】



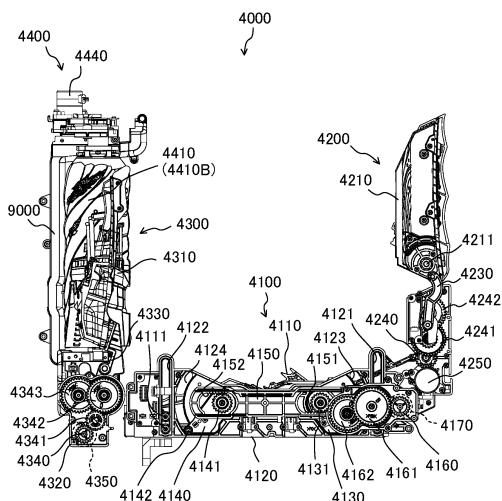
10

20

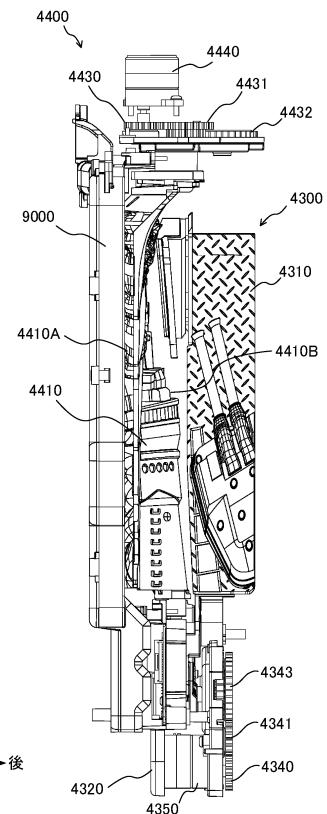
【図141】



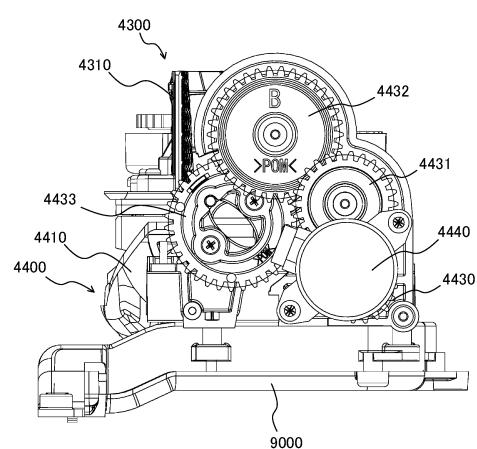
【図 1 4 3】



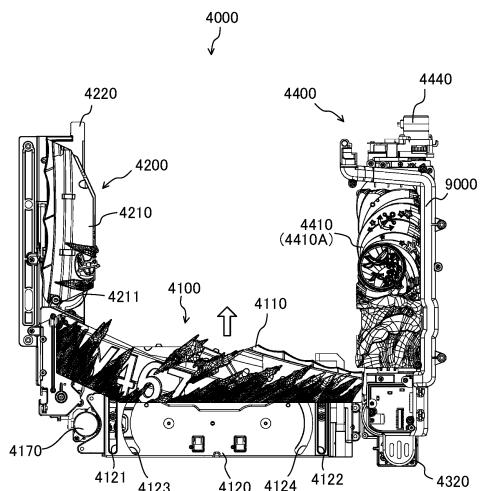
【 図 1 4 4 】



【図 1 4 5】



【図146】



10

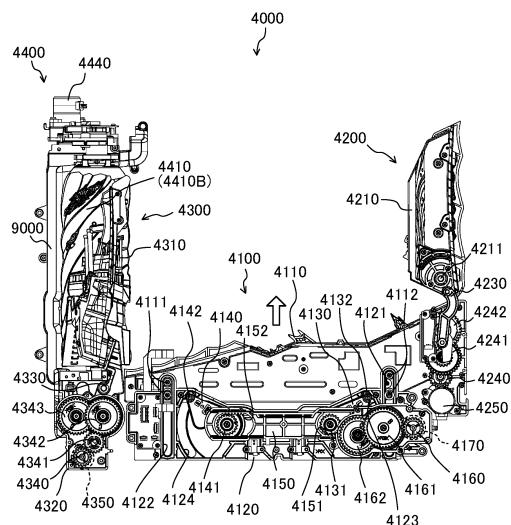
20

30

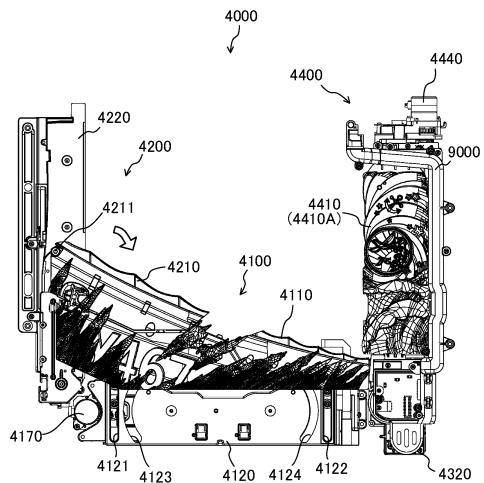
40

50

【図 1 4 7】

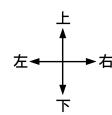
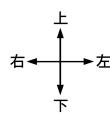


【図 1 4 8】

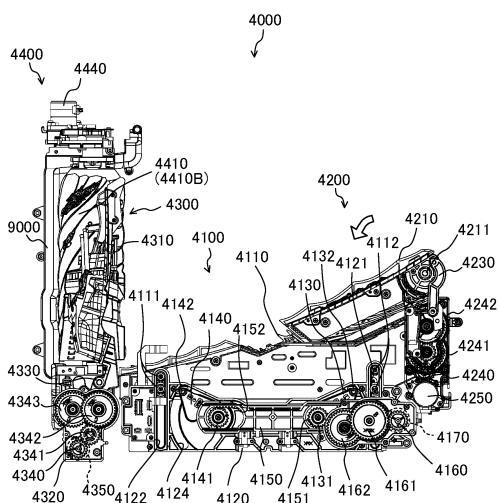


10

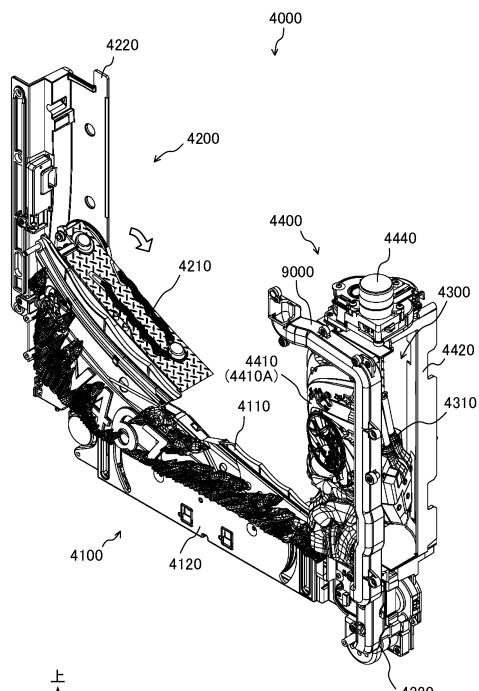
20



【図 1 4 9】

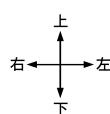


【図 1 5 0】



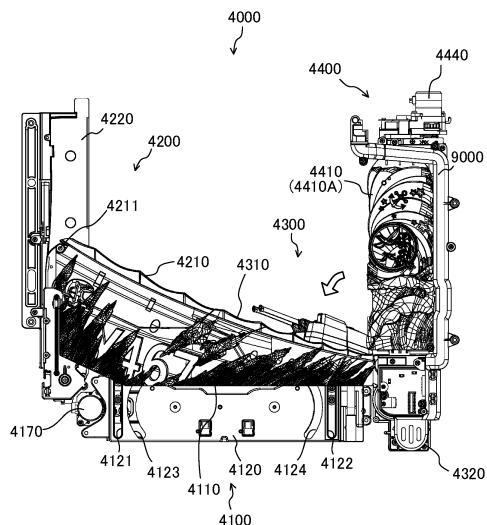
30

40



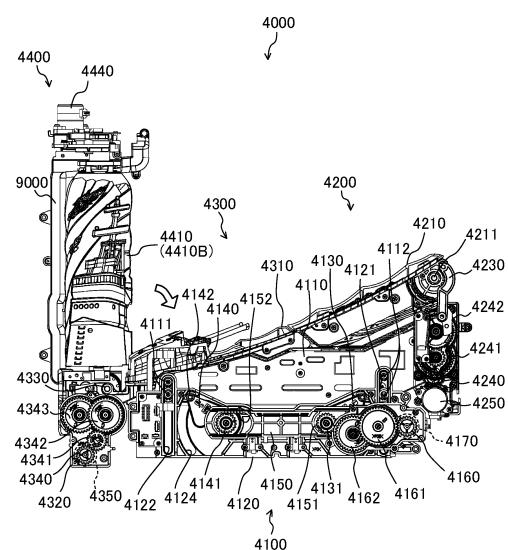
50

【図151】



上
左 ← → 右
下

【図152】

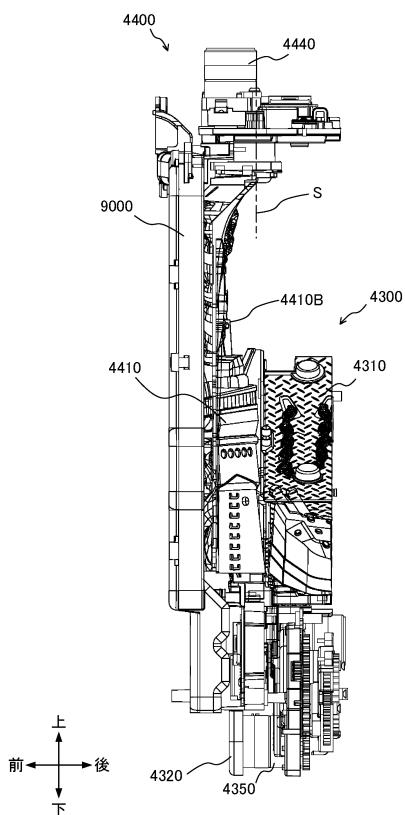


上
右 ← → 左
下

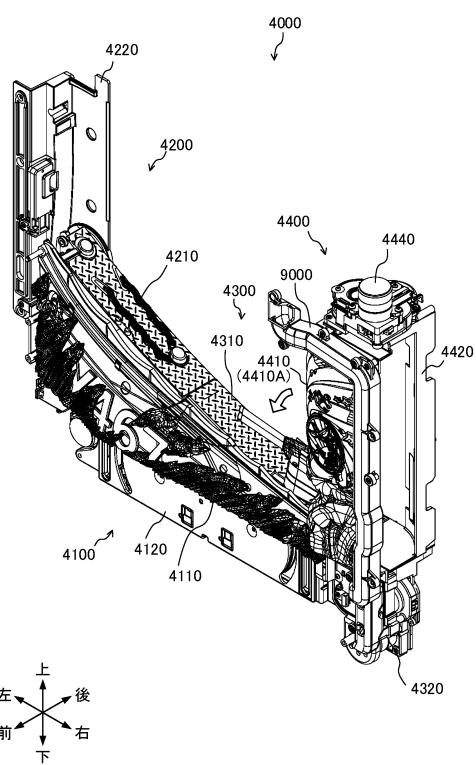
10

20

【図153】



【図154】

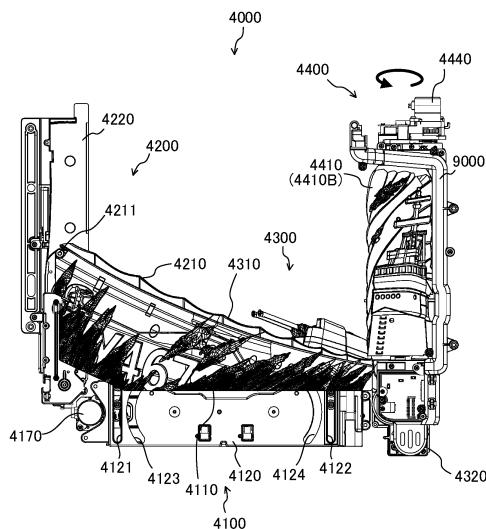


30

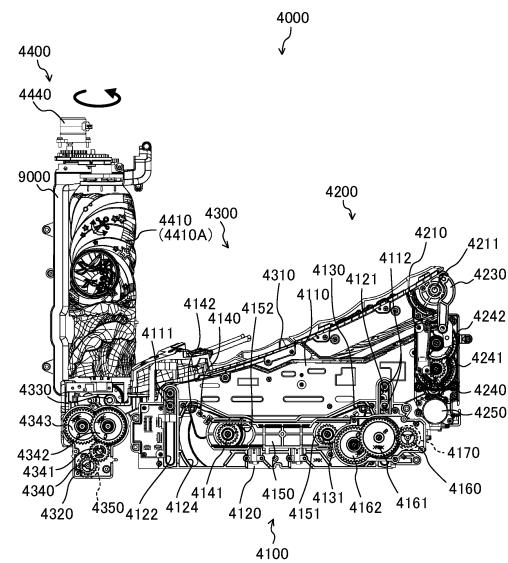
40

50

【図155】



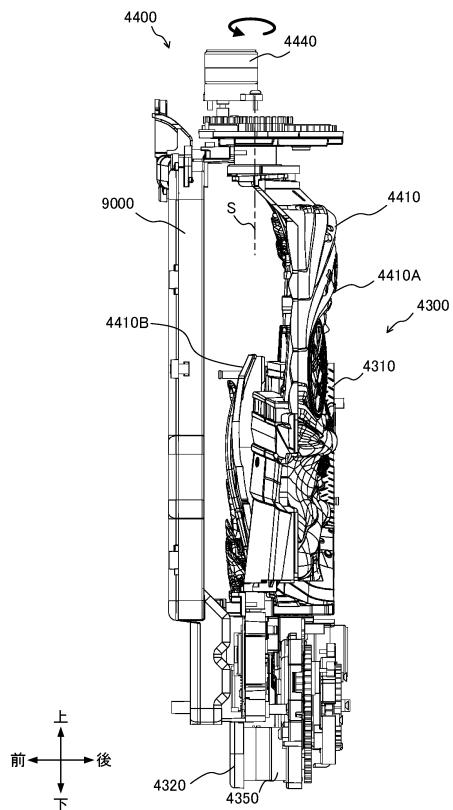
【図156】



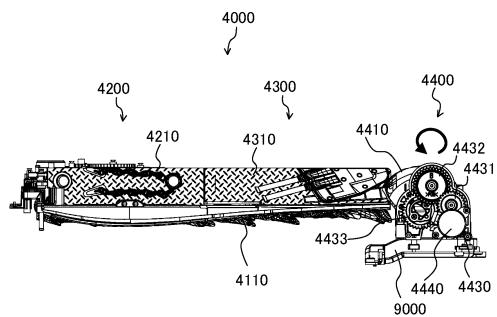
10

20

【図157】



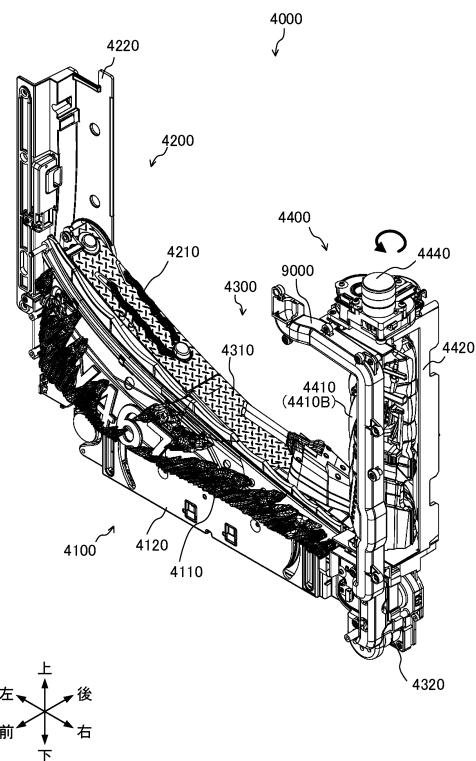
【図158】



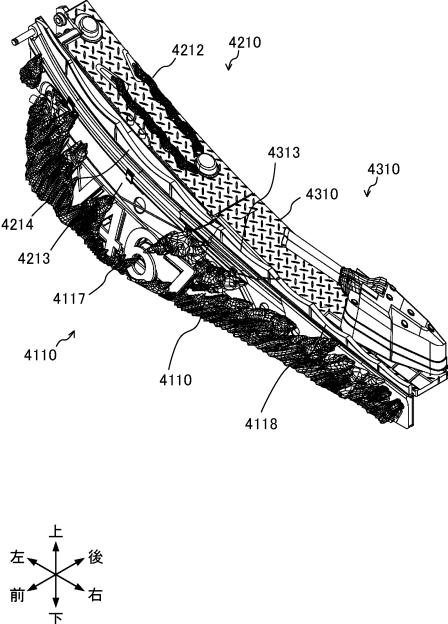
30

40

【図159】



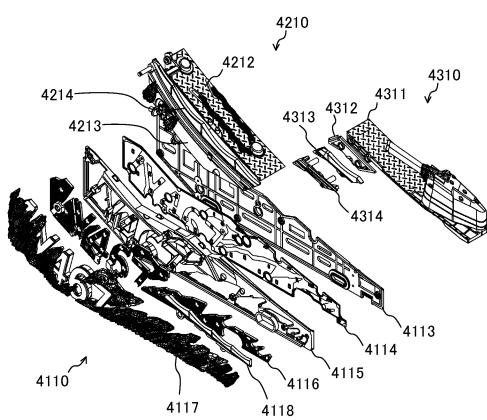
【図160】



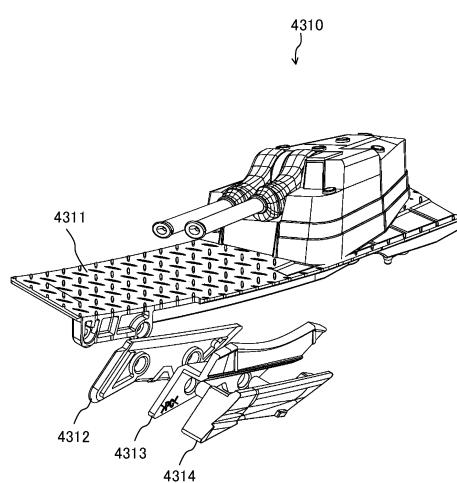
10

20

【図161】



【図162】



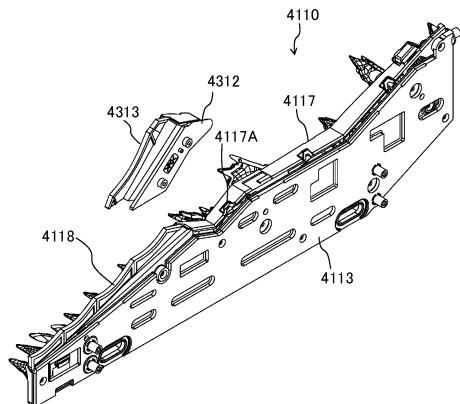
30

40

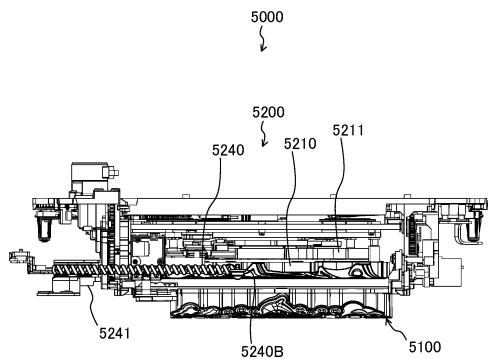


50

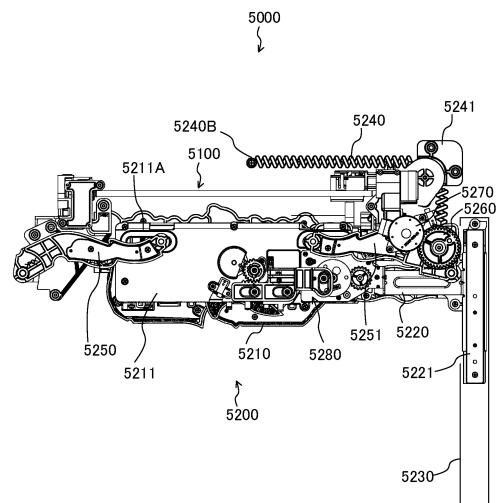
【図163】



【図167】

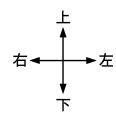


【図168】

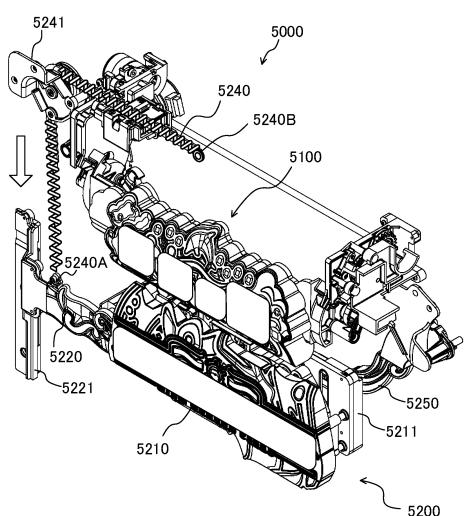


10

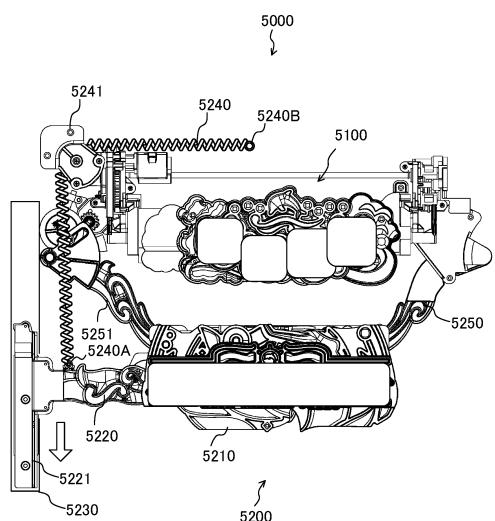
20



【図169】

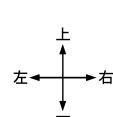


【図170】



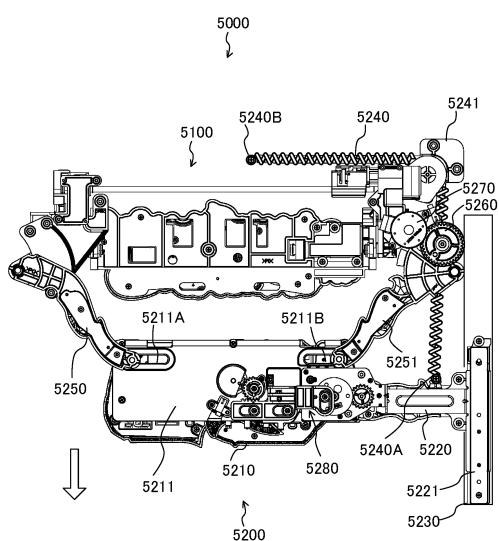
30

40

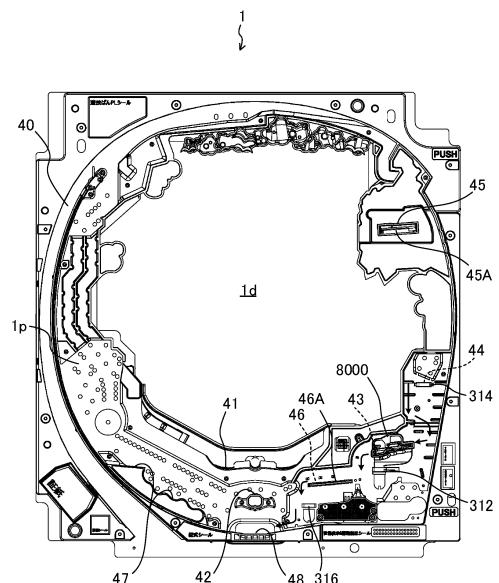


50

【図 171】



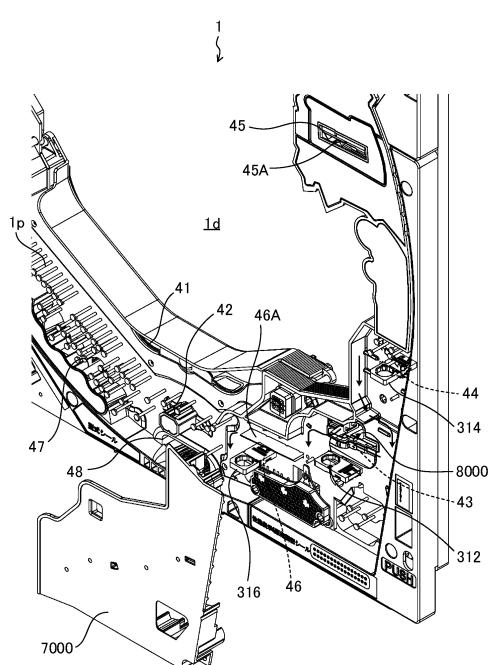
【図 172】



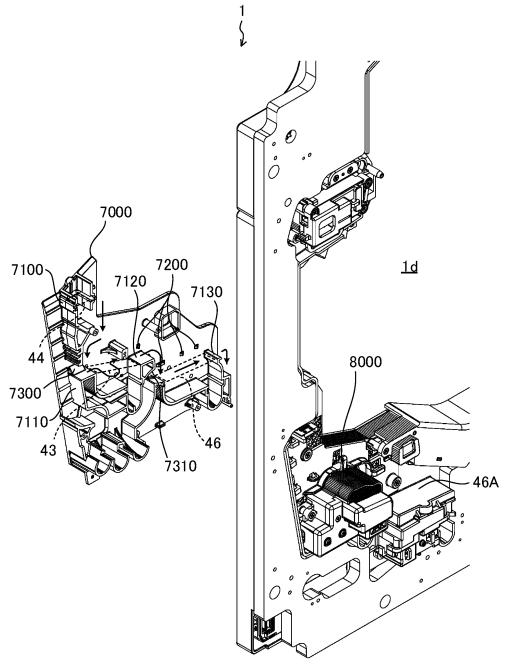
10

20

【図 173】



【図 174】



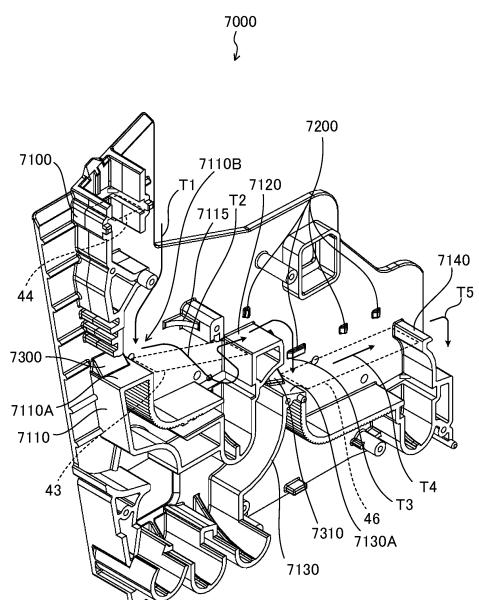
30

40



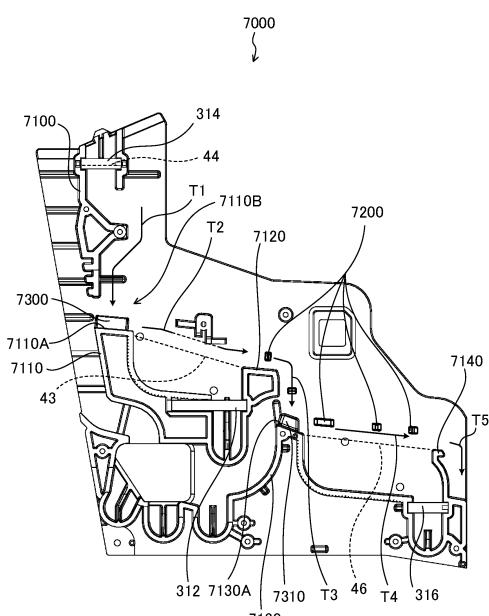
50

【図 175】



上
前
右
後
下

【図 176】

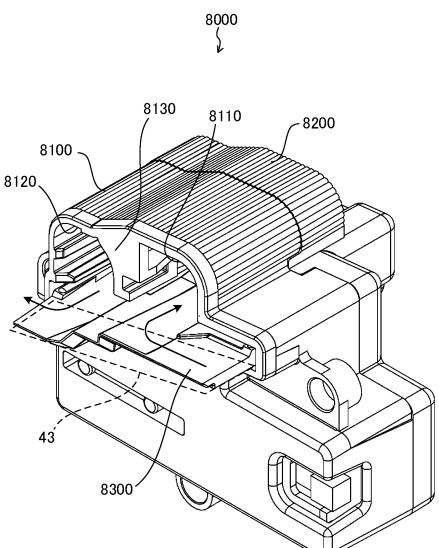


上
右
左
下

10

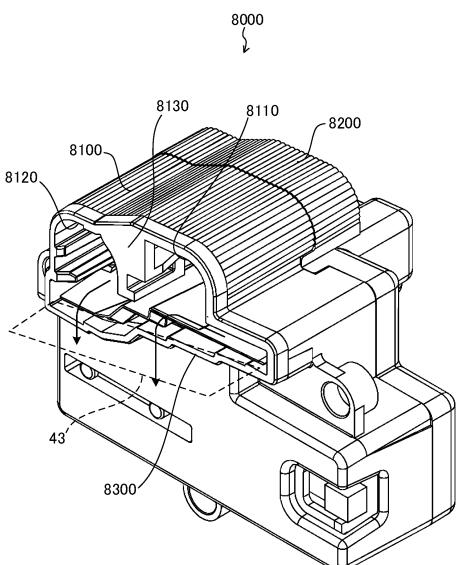
20

【図 177】



上
左
前
右
後
下

【図 178】



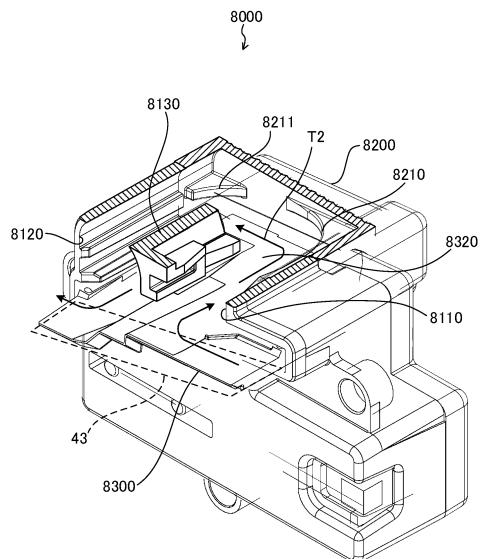
上
左
前
右
後
下

30

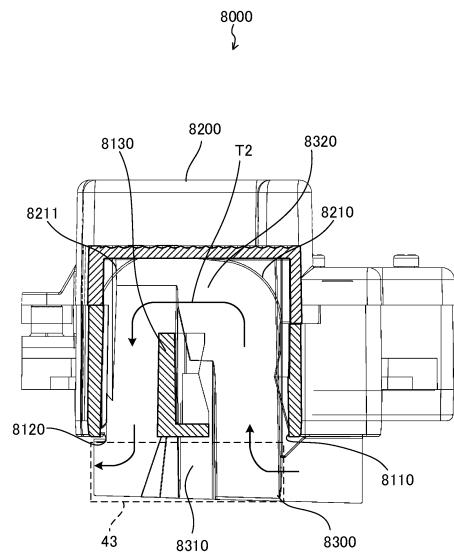
40

50

【図179】



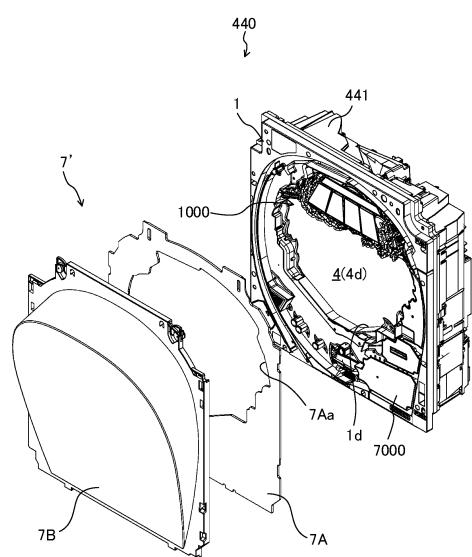
【図180】



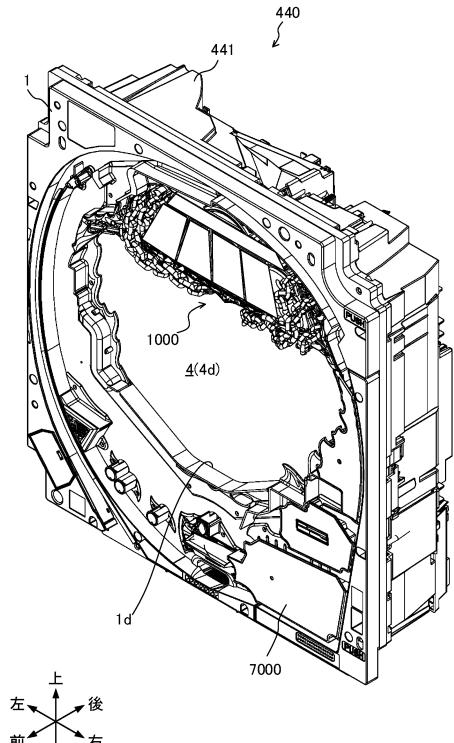
10



【図181】



【図182】



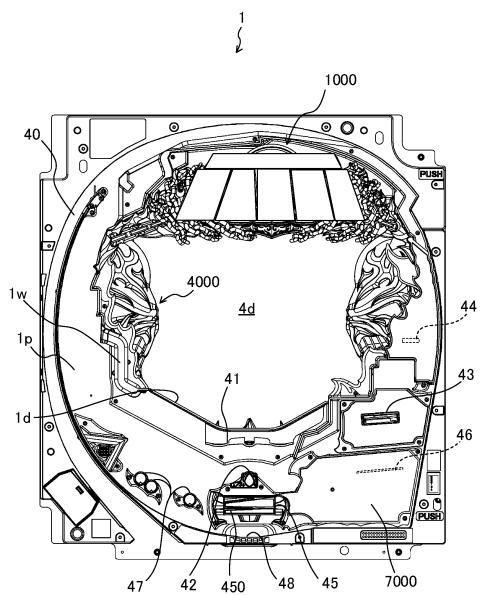
20



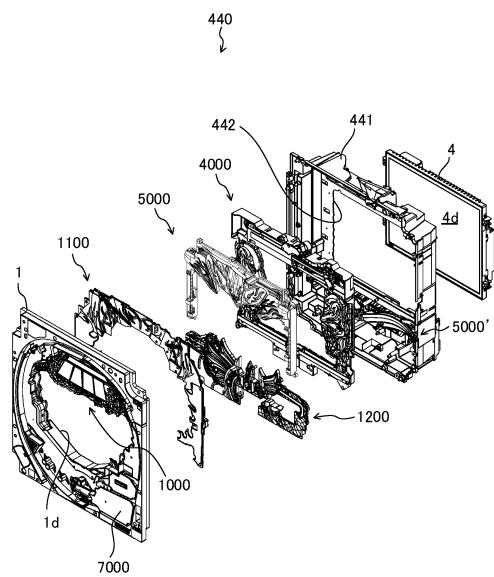
40

50

【図183】

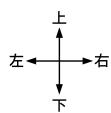


【図184】

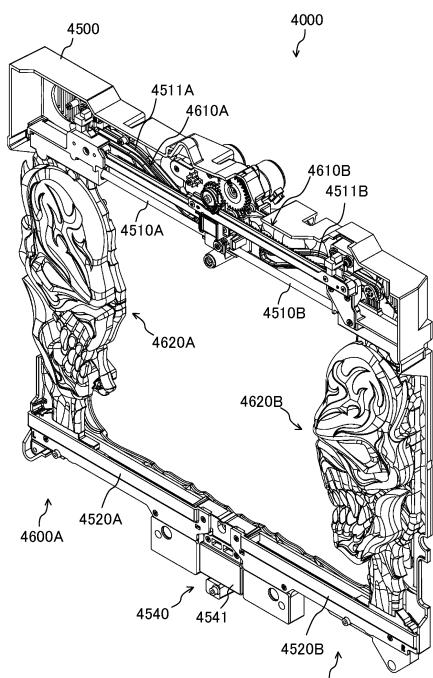


10

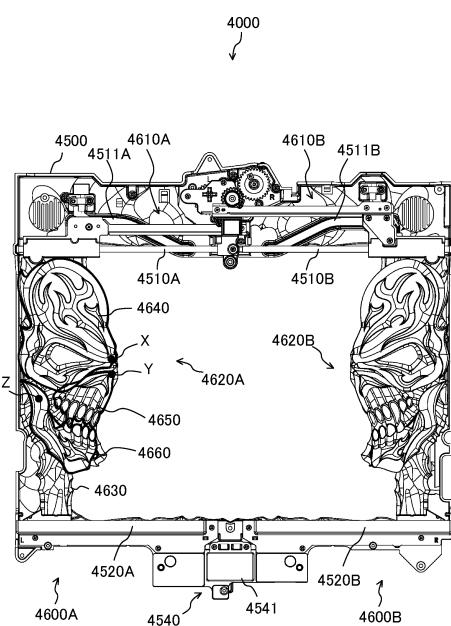
20



【図185】

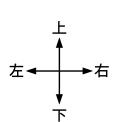


【図186】



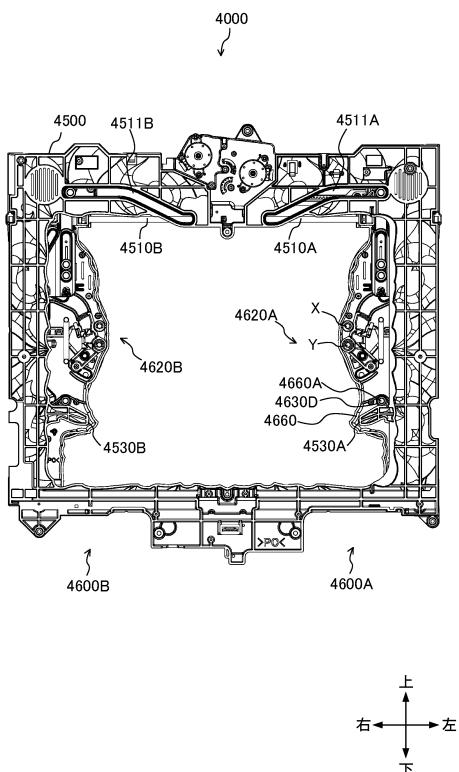
30

40

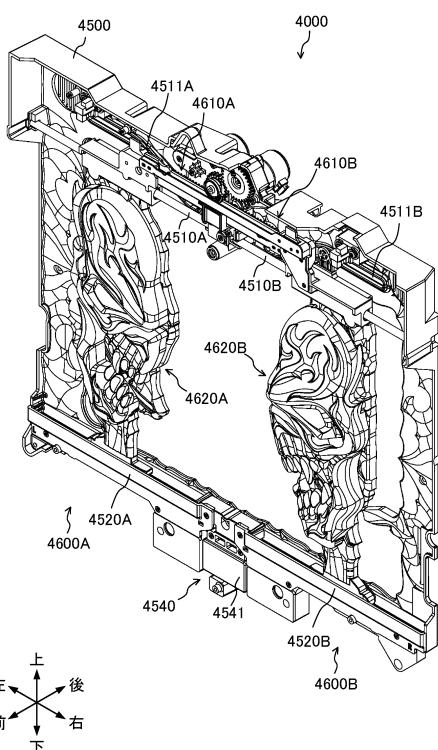


50

【図187】



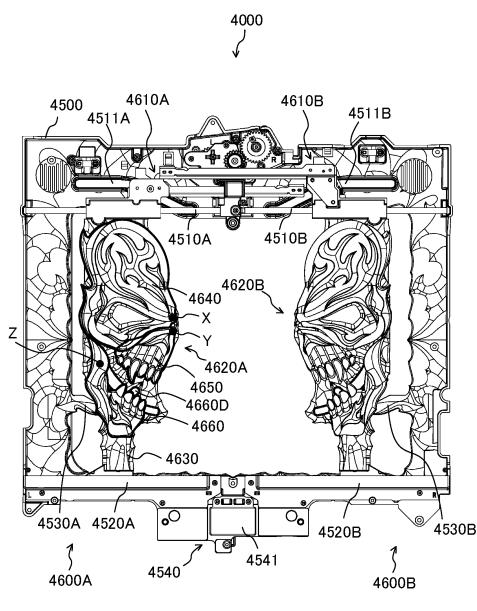
【図188】



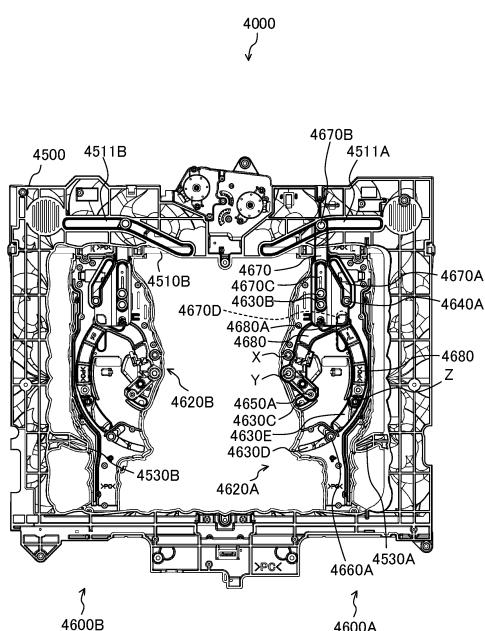
10

20

(义 1 8 9)



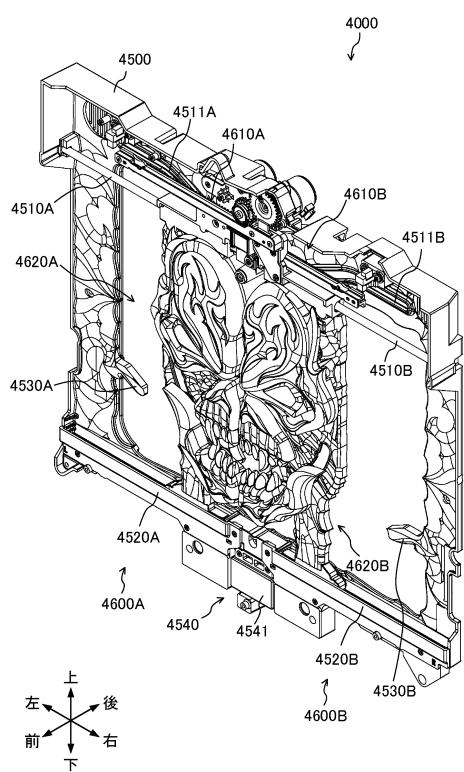
【四 190】



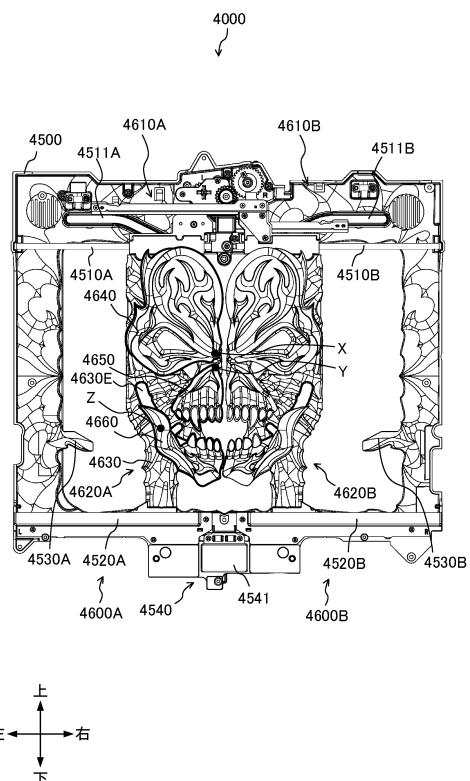
30

40

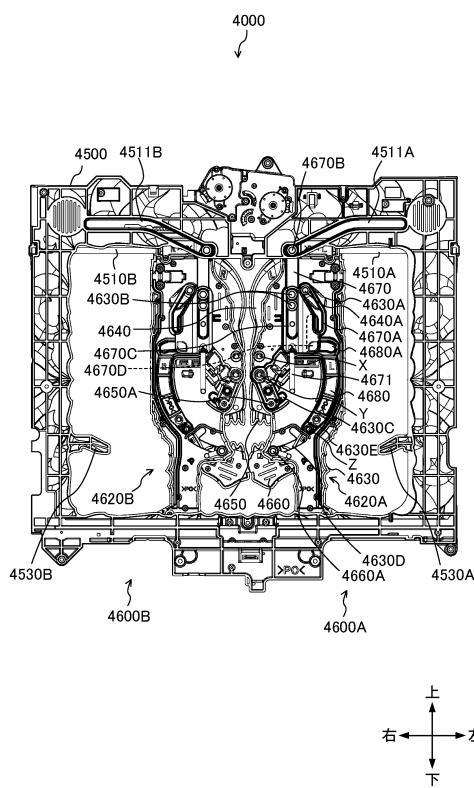
【図191】



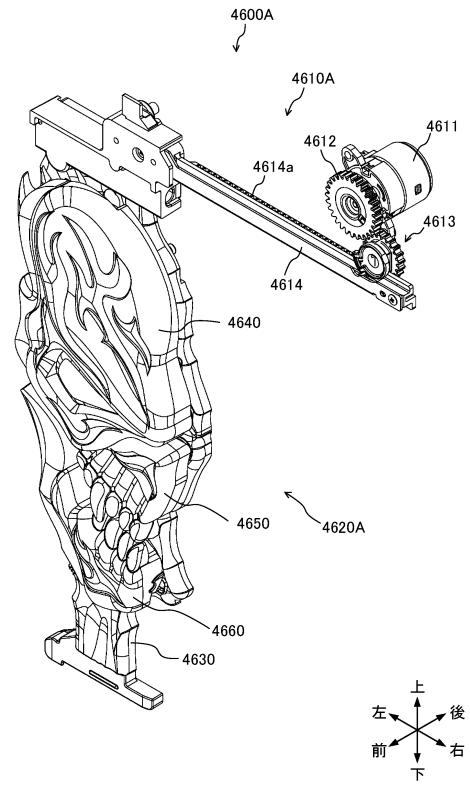
【図192】



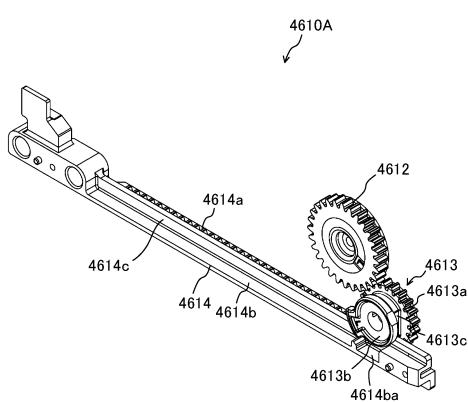
【図193】



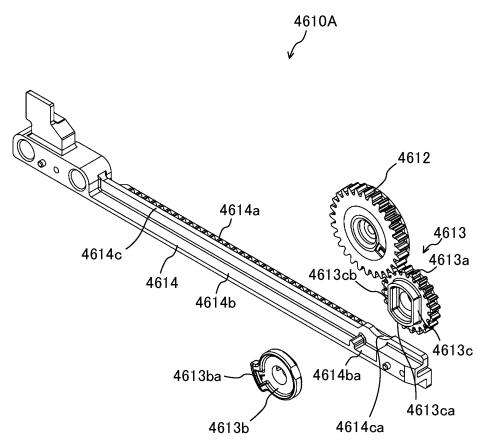
【図194】



【図195】



【図196】



10

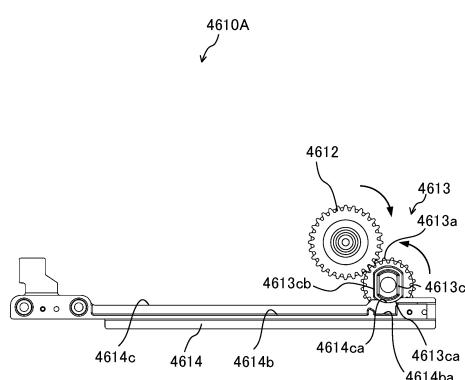
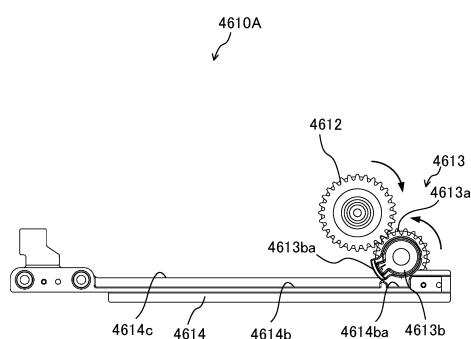
【図197】



【図198】



20



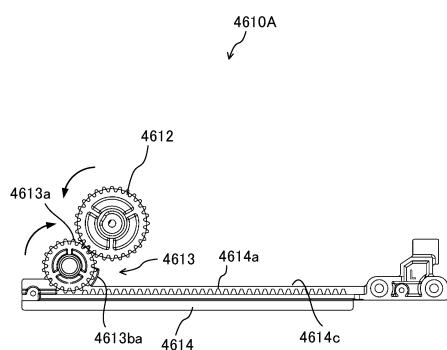
30



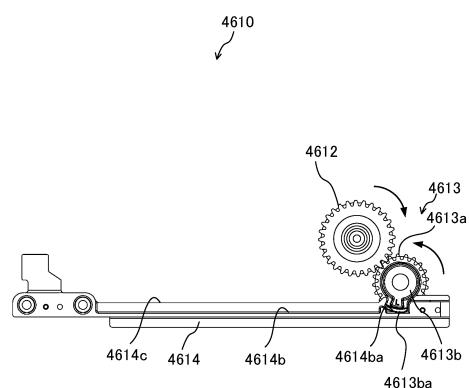
40

50

【図199】

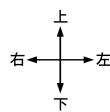


【図200】

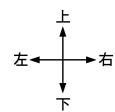


10

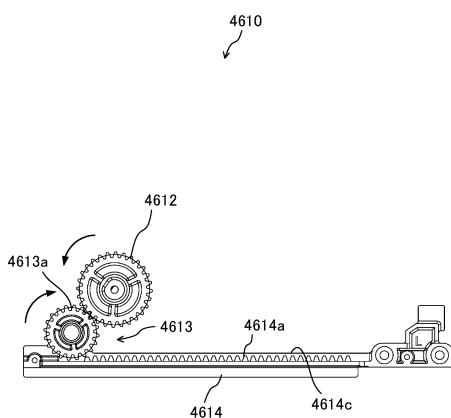
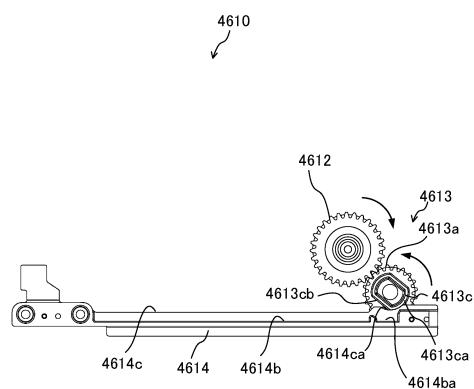
【図201】



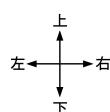
【図202】



20



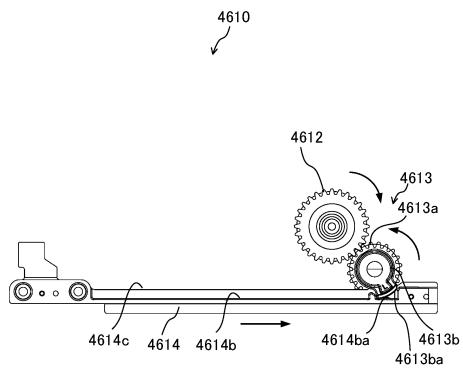
30



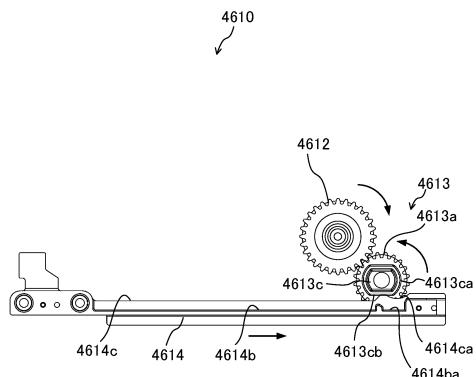
40

50

【図203】



【図204】



10

20

【 図 2 0 5 】



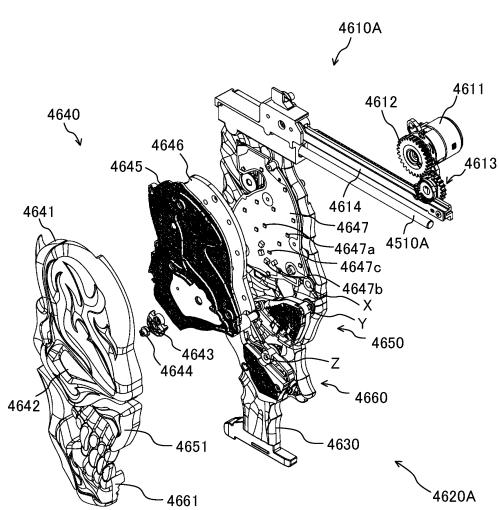
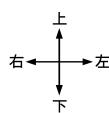
【图206】



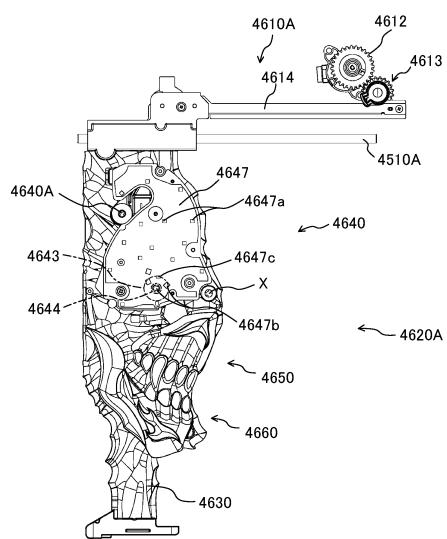
30

40

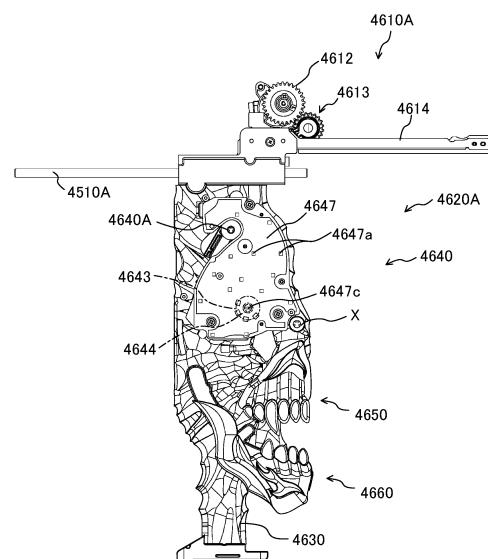
The diagram illustrates a mechanical assembly involving several gears. A large gear labeled 4610 is at the top, with a curved arrow indicating its clockwise rotation. Below it, a gear labeled 4612 is attached to a shaft. A gear labeled 4613 is positioned below 4612, and another gear labeled 4613a is shown meshing with 4613. To the right, a long horizontal gear labeled 4614 is supported by two bearings. A smaller gear labeled 4614a is attached to the left end of 4614, and a gear labeled 4614c is attached to the right end. A curved arrow at the bottom indicates the rotation of 4614.



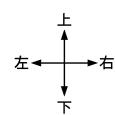
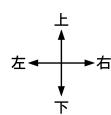
【図207】



【図208】

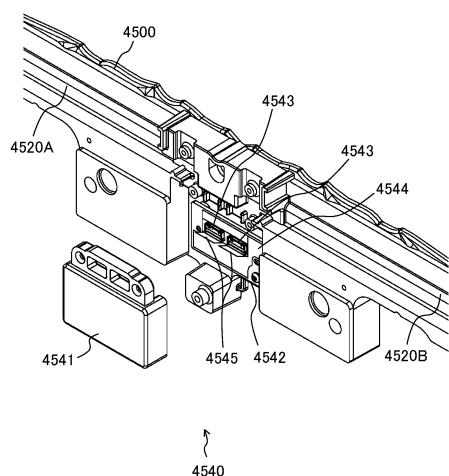


10

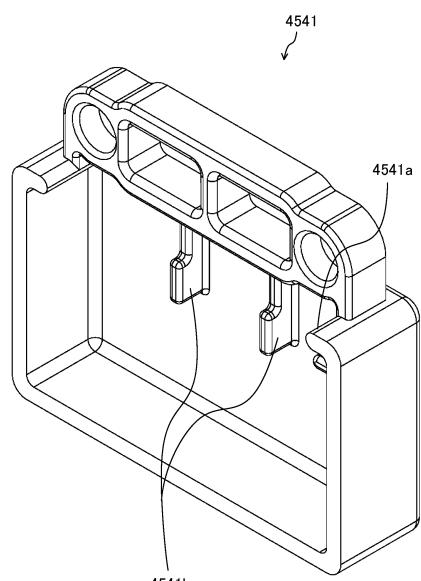


20

【図209】



【図210】



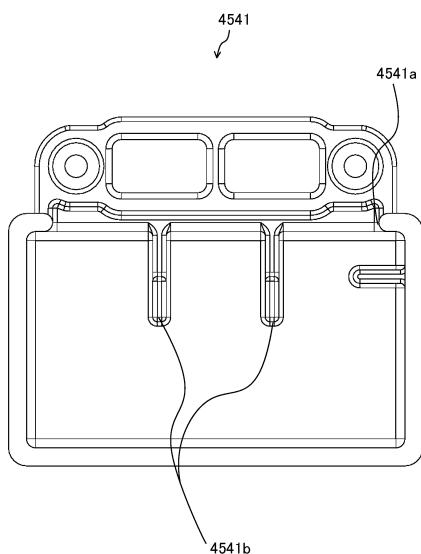
30

40

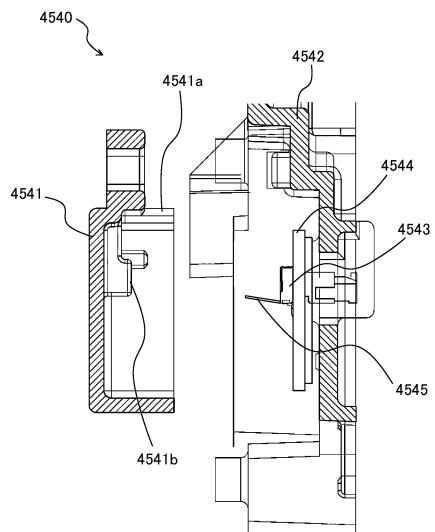


50

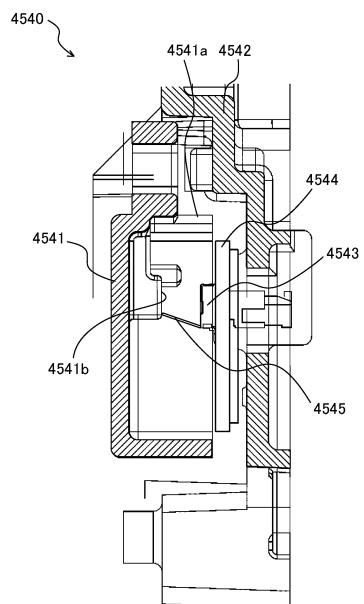
【図 2 1 1】



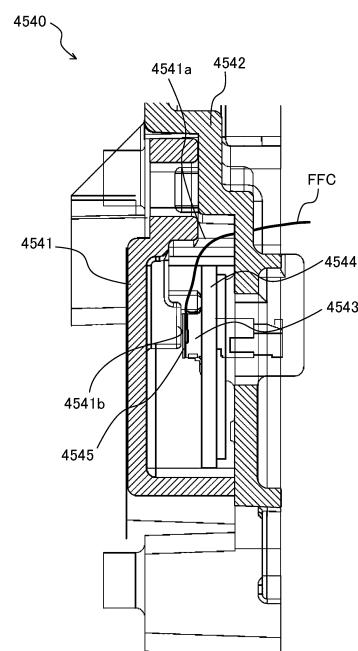
【図 2 1 2】



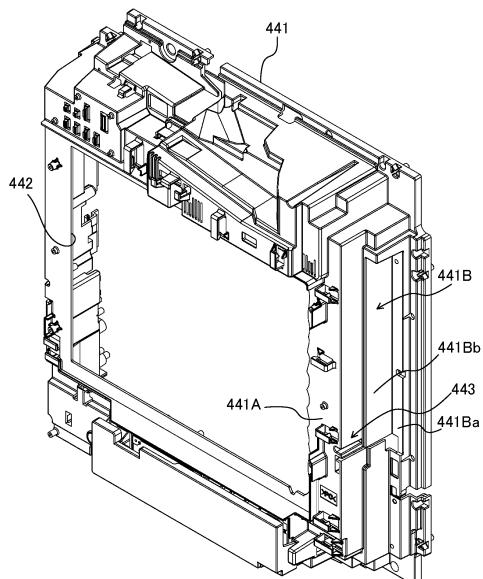
【図 2 1 3】



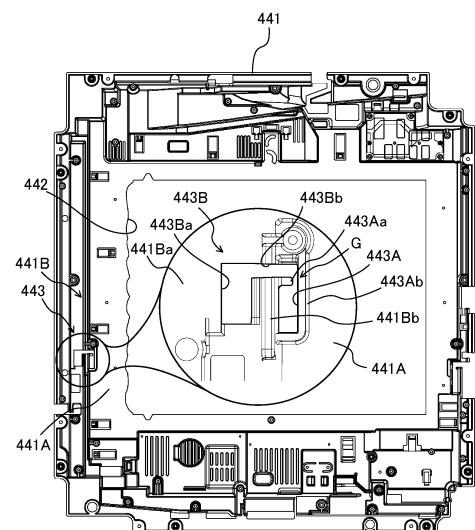
【図 2 1 4】



【図 215】



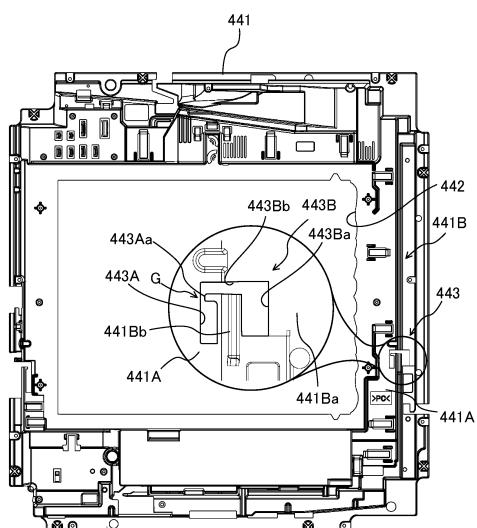
【図 216】



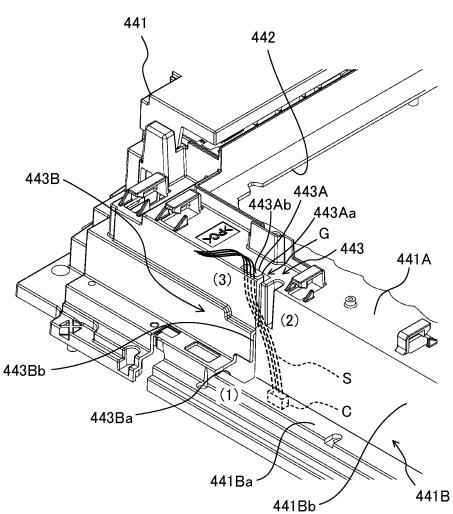
10

20

【図 217】



【図 218】



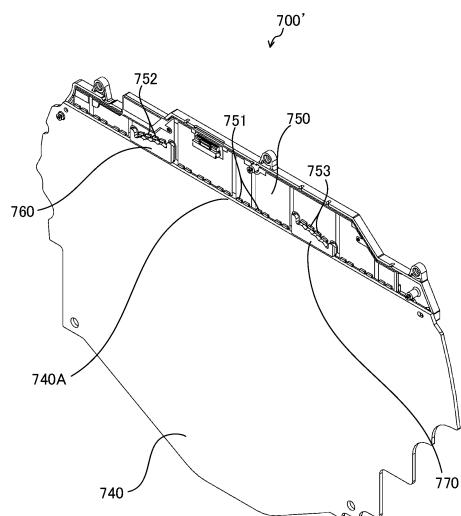
30

40

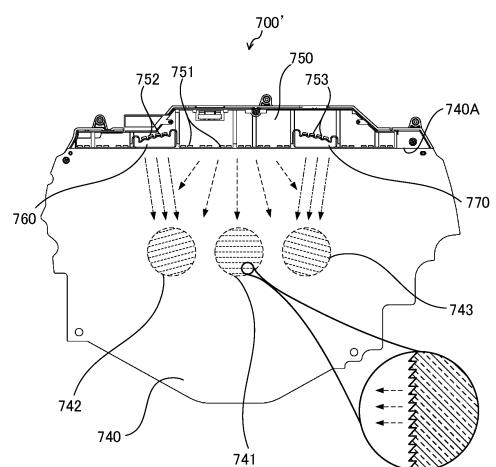


50

【図 2 1 9】

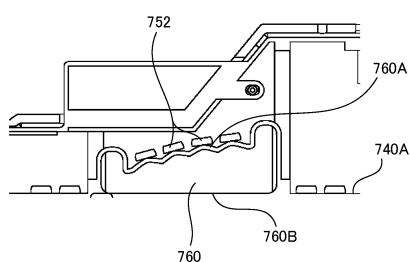


【図 2 2 0】

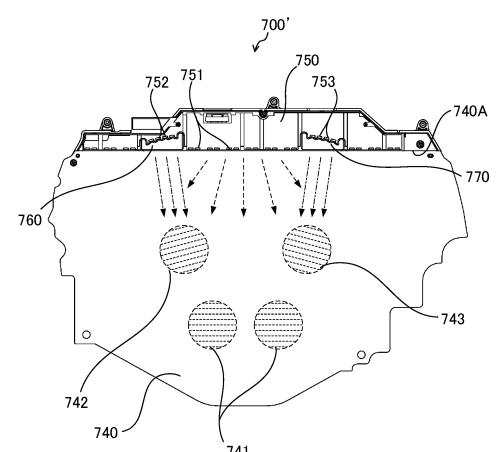


10

【図 2 2 1】



【図 2 2 2】



20

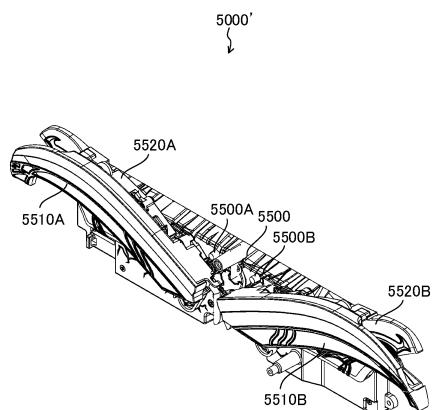


40

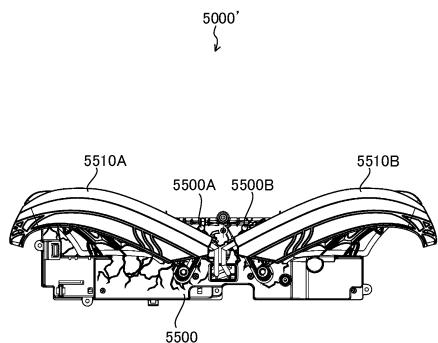
30

50

【図 2 2 3】



【図 2 2 4】

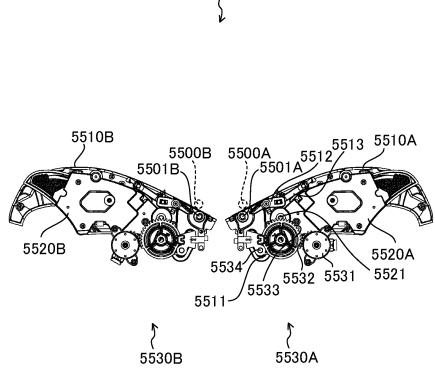


10

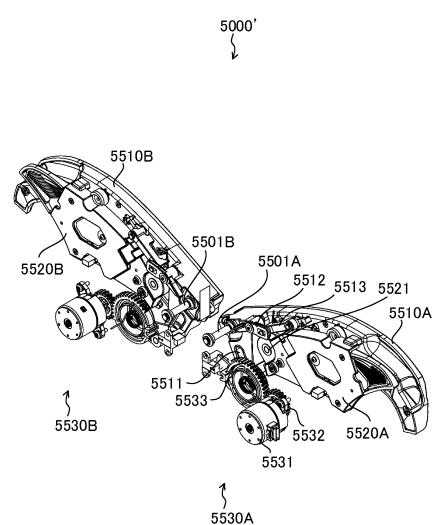


20

【図 2 2 5】



【図 2 2 6】



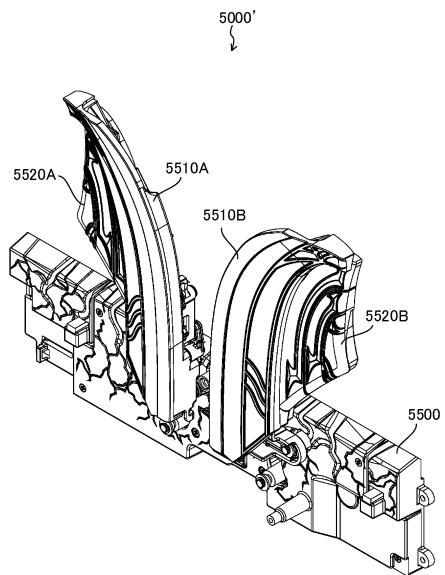
30

40

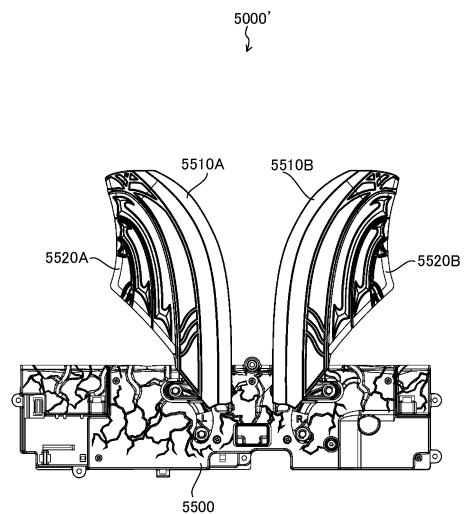


50

【図 2 2 7】



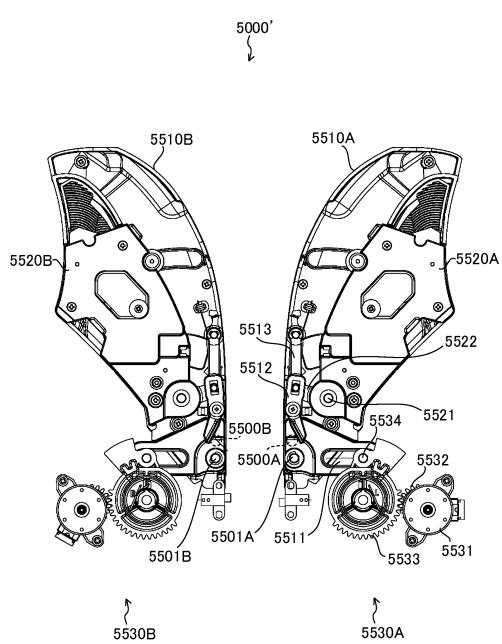
【図 2 2 8】



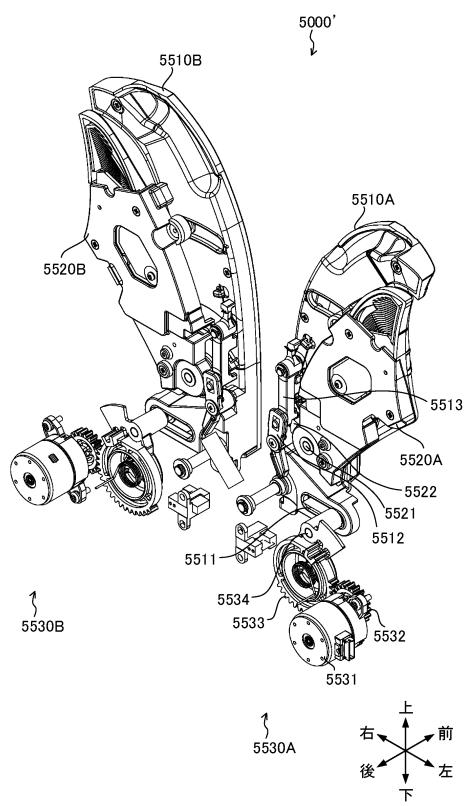
10

20

【図 2 2 9】



【図 2 3 0】

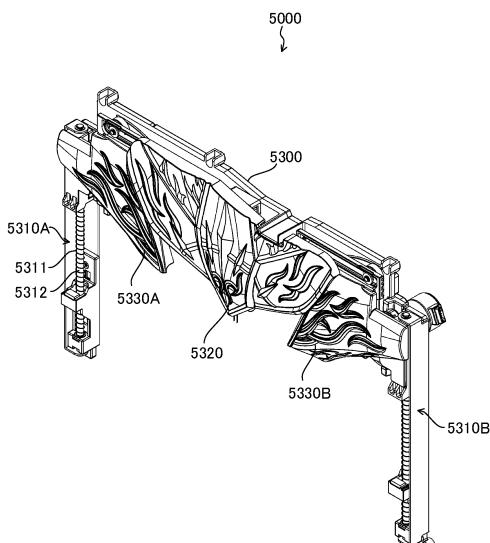


30

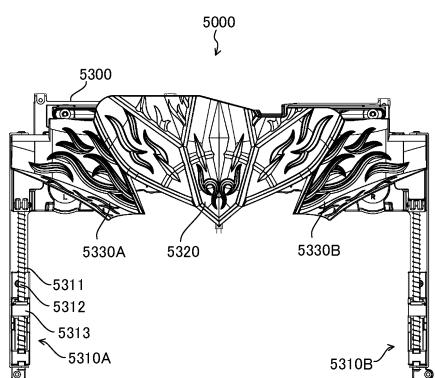
40

50

【図 2 3 1】



【図 2 3 2】

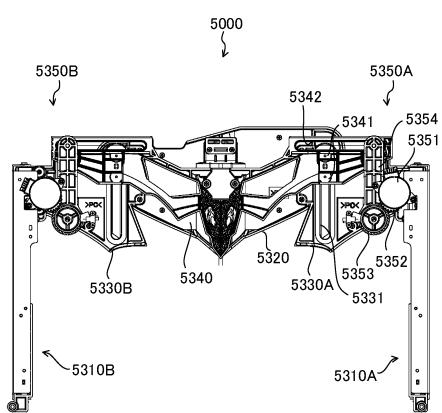


10

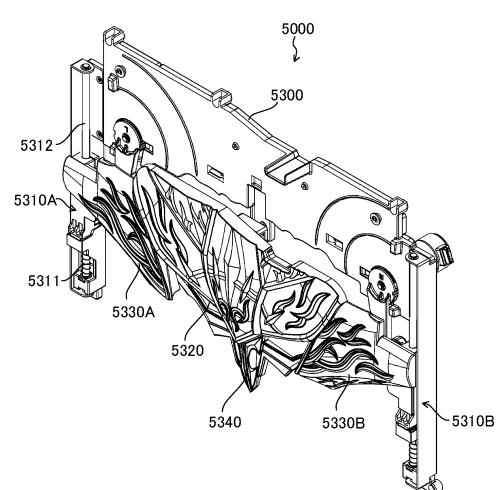


20

【図 2 3 3】

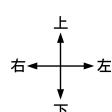


【図 2 3 4】



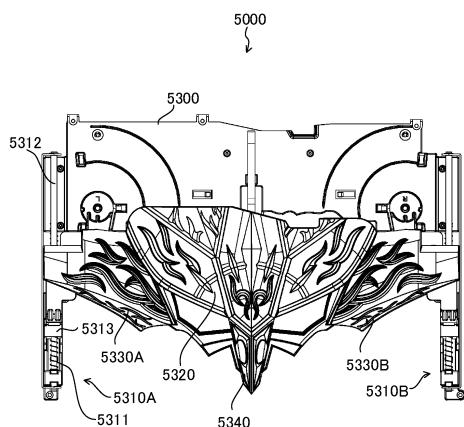
30

40

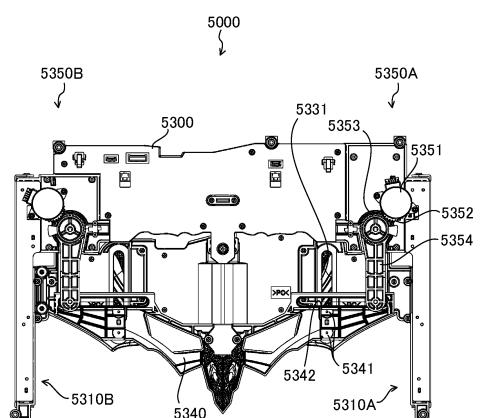


50

【図235】

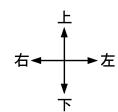
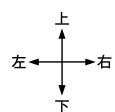


【図236】

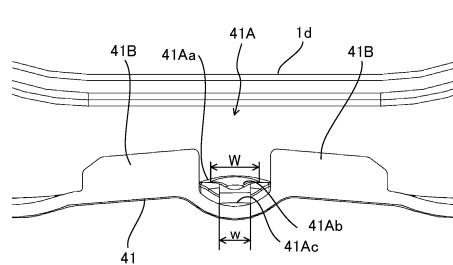


10

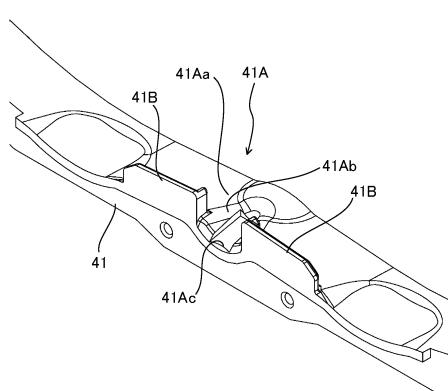
20



【図237】



【図238】



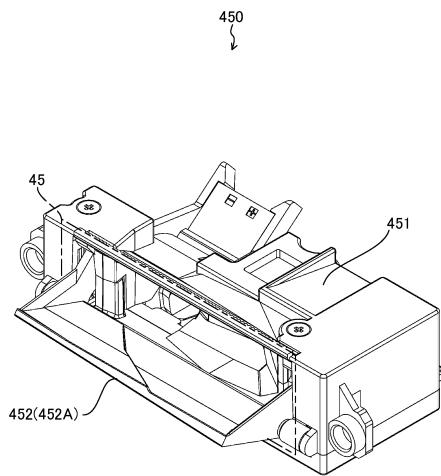
30

40

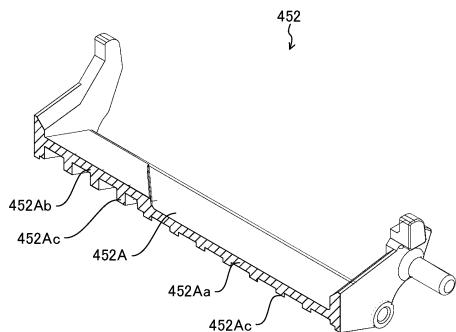


50

【図239】



【図240】

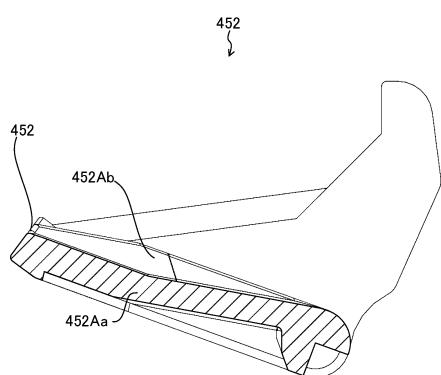


10



20

【図241】



30



40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2016-077692(JP,A)
 特開2014-212947(JP,A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
 A63F 7/02